

ふじみ野市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

平成29年3月

ふじみ野市

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	3
4. 調査結果	3
5. 標本誤差	4
6. 調査結果を見る上での注意事項	4
第 2 章 調査結果の詳細	5
1. 基本属性	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 結婚の有無	7
(4) 家族構成	8
(5) 子どもの有無	8
(6) 一番下の子どもの状況	8
(7) 介護に必要な家族の有無	9
(8) 子育て経験の有無	9
(9) 職業	9
2. 男女共同参画全般について	10
(1) 男女の地位について	10
(2) 男女共同参画に関する社会の動きやことばについて	36
3. 家庭生活・子育て・介護について	49
(1) 家庭生活での優先項目	49
(2) 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識について	51
(3) 男女の役割分担のあるべき状態	53
(4) 家庭での役割	56
(5) 家事の実施状況	59
(6) 配偶者・パートナーの家事の実施状況	71
(7) 子育てへのかかわりについて	77
(8) 子育てに十分かかわることができない原因	78
(9) 配偶者・パートナーの子育てへのかかわりについて	79
(10) 配偶者・パートナーの子育てへのかかわりについて	80
(11) 家庭での子育てや、学校での教育に関する考えについて	81
(12) 介護が必要な人の世話が女性の役割になりがちなことについて	87
(13) 男女が協力して介護を担うために必要なこと	90
4. 就業について	93
(1) 働いて収入を得ている主な理由	93

(2) 職場での女性への待遇について	97
(3) 非正規雇用で働いている主な理由	100
(4) 就労経験の有無	101
(5) 仕事をやめた主な理由	103
(6) 就労希望	106
(7) 働けない理由	107
(8) 女性の働き方の理想	108
(9) 女性の働き方について家庭での現状	110
(10) 働く場で「女性の活躍が推進されている」状態	112
(11) 女性が働き続けることのさまたげとなっていることの有無	114
(12) 女性が働き続けることのさまたげになっている要因	116
(13) 女性の就労継続、再就職のために必要なこと	119
(14) 職場の有給休暇・育児・介護休暇の取りやすさ	121
(15) 仕事と家庭の両立に必要なこと	124
5. 社会参加について	128
(1) 地方自治体への施策への女性の意見や考えの反映度	128
(2) 女性の意見や考えが反映されにくい理由	130
(3) 女性の参画が進むべき分野	134
(4) ポジティブ・アクションに対する考え	136
(5) 女性を積極的に活用することによる効果	139
6. 健康・人権について	143
(1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの実現に必要なこと	143
(2) 性的マイノリティの認知度	145
(3) 性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会をつくるために必要な取組み	147
7. DV（配偶者等からの暴力）について	149
(1) 夫婦・恋人間の暴力と認識される行為	149
(2) DVの被害発見や相談しやすい環境をつくるために必要なこと	155
(3) 配偶者等からの被害経験の有無	157
(4) 暴力に関する相談の有無	163
(5) 相談した相手	165
(6) 相談しなかった理由	167
(7) 暴力を防止するために必要なこと	169
8. 男女共同参画行政について	172
(1) 男女共同参画をすすめるために必要な取組み	172
9. 男女共同参画社会についての市の取組みに対する意見・要望	176

資料編

ふじみ野市男女共同参画に関する市民意識調査票	179
------------------------	-----

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

男女共同参画社会の実現のために策定した「ふじみ野市男女共同参画基本計画～ふじみ野男女共同計画プラン」が平成29年度で計画期間が終了します。新たに平成30年度から平成42年度を計画期間とする「ふじみ野市第2次男女共同参画基本計画」を策定するにあたり、今後の計画の内容に反映させることを目的に「ふじみ野市男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。

2. 調査項目

男女共同参画に関する市民意識調査は、以下のテーマについて調査しました。

＜調査テーマ＞	＜問番号＞
1. 回答者属性	問1～4、問7～8、15、21
2. 男女共同参画全般について	問5～6
3. 家庭生活について	問7、問9～14、問16～20
4. 就業について	問21～33
5. 社会参加について	問34～37
6. 健康・人権について	問38～40
7. DV（配偶者等からの暴力）について	問41～44
8. 男女共同参画行政について	問45

3. 調査設計

- (1) 調査地域 ふじみ野市全域
- (2) 調査対象 ふじみ野市に居住する満18歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 標本抽出 住民基本台帳から男女合計2,000人を無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配付－郵送回収・督促状1回配布）
- (6) 調査期間 平成29年1月28日（土）～2月17日（金）

4. 調査結果

- (1) 発送数 2,000
- (2) 有効回収数 807
- (3) 有効回収率 40.4%
- (4) 年代別回収率

年代	対象件数	有効回収数	有効回収率
18・19歳	48	8	16.7%
20歳代	233	50	21.5%
30歳代	309	98	31.7%
40歳代	429	158	36.8%
50歳代	273	117	42.9%
60歳代	293	142	48.5%
70歳以上	415	231	55.7%
無回答		3	
合計	2,000	807	40.4%

5. 標本誤差

この調査の標本誤差（サンプリング誤差）は、概ね下表のとおりである。

この表は、ある設問回答数が n : 807であり、その設問中の選択肢の回答比率が p : 10%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は±2.11%以内ということを表す。

回答比率p 回答者数	10% (又は90%)	20% (又は80%)	30% (又は70%)	40% (又は60%)	50%
2,000	±1.34%	±1.79%	±2.05%	±2.19%	±2.24%
807	±2.11%	±2.82%	±3.23%	±3.45%	±3.52%
700	±2.27%	±3.02%	±3.46%	±3.70%	±3.78%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
300	±3.46%	±4.62%	±5.29%	±5.66%	±5.77%

注) 標本誤差の計算は、次の式による。

○信頼度95%の場合のサンプリング誤差

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-1}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

(N : 母集団(ふじみ野市の18歳以上人口)
n : 比率算出の基数 (回答者数)
p : 回答の比率)

6. 調査結果を見る上での注意事項

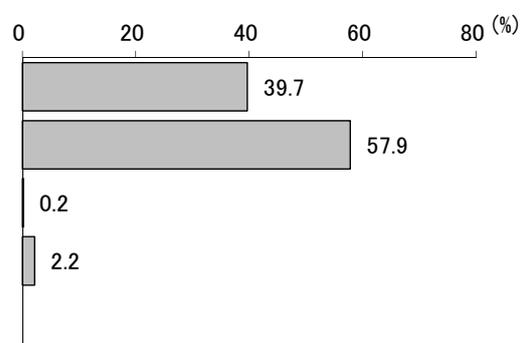
- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

1. 基本属性

(1) 性別

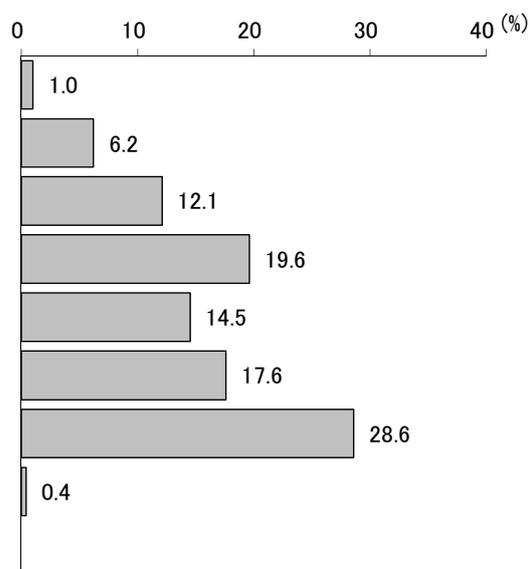
	基数	構成比
男性	320	39.7%
女性	467	57.9%
その他	2	0.2%
無回答	18	2.2%
全体	807	100.0%



※この調査では、男女共同参画に関する意識や生活の実態を把握・分析するために、性別欄を設けていますが、性別は多様であるという観点から「その他」を選択肢に加えています。

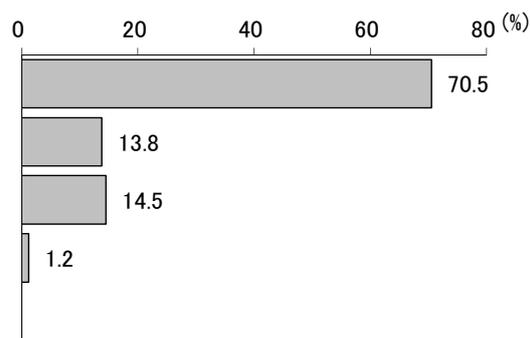
(2) 年齢

	基数	構成比
18・19歳	8	1.0%
20歳代	50	6.2%
30歳代	98	12.1%
40歳代	158	19.6%
50歳代	117	14.5%
60歳代	142	17.6%
70歳以上	231	28.6%
無回答	3	0.4%
全体	807	100.0%



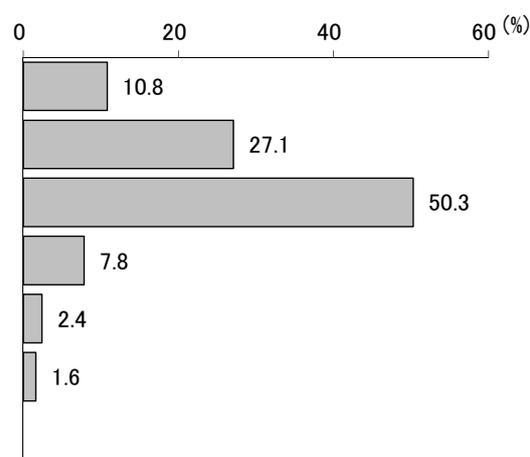
(3) 結婚の有無

	基数	構成比
現在結婚している(事実婚を含む)	569	70.5%
結婚していたが離別・死別した	111	13.8%
未婚	117	14.5%
無回答	10	1.2%
全体	807	100.0%



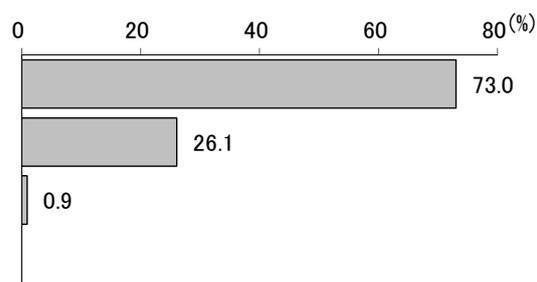
(4) 家族構成

	基数	構成比
ひとり暮らし	87	10.8%
夫婦のみ	219	27.1%
親と子(2世代世帯)	406	50.3%
親と子と孫(3世代世帯)	63	7.8%
その他	19	2.4%
無回答	13	1.6%
全 体	807	100.0%



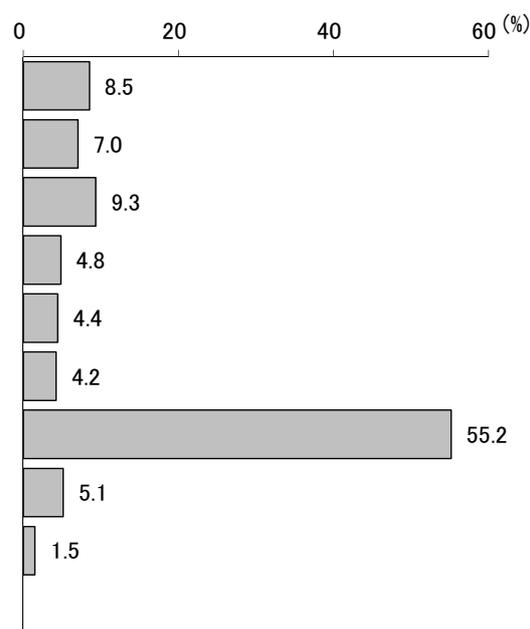
(5) 子どもの有無

	基数	構成比
いる	589	73.0%
いない	211	26.1%
無回答	7	0.9%
全 体	807	100.0%



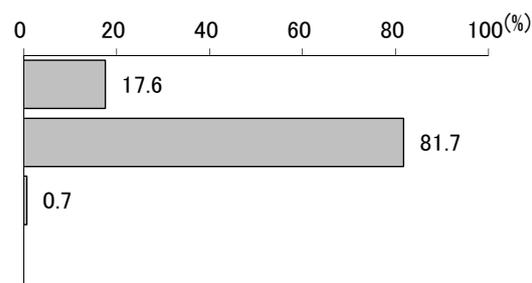
(6) 一番下の子どもの状況

	基数	構成比
3歳未満	50	8.5%
3歳以上小学校入学前	41	7.0%
小学生	55	9.3%
中学生	28	4.8%
高校生	26	4.4%
大学生・大学院生(高専・短大・専門学校を含む)	25	4.2%
社会人	325	55.2%
その他	30	5.1%
無回答	9	1.5%
全 体	589	100.0%



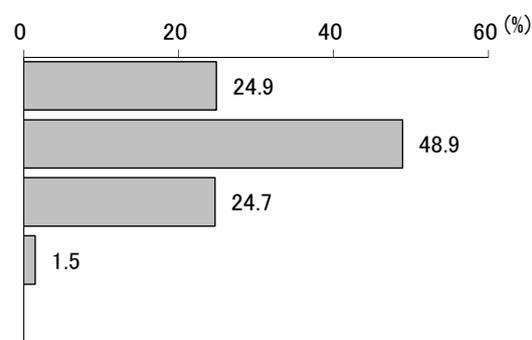
(7) 介護の必要な家族の有無

	基数	構成比
いる	142	17.6%
いない	659	81.7%
無回答	6	0.7%
全体	807	100.0%



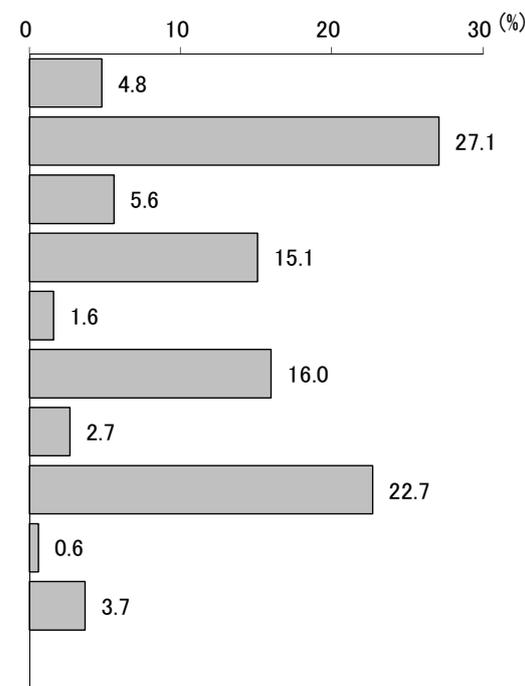
(8) 子育て経験の有無

	基数	構成比
現在子育て中である	201	24.9%
子育て経験がある(現在はしていない)	395	48.9%
子育て経験はない	199	24.7%
無回答	12	1.5%
全体	807	100.0%



(9) 職業

	基数	構成比
自営業・自由業	39	4.8%
正社員・正職員	219	27.1%
契約社員・派遣社員	45	5.6%
アルバイト・パート	122	15.1%
非常勤・嘱託	13	1.6%
家事専業	129	16.0%
学生	22	2.7%
無職	183	22.7%
その他	5	0.6%
無回答	30	3.7%
全体	807	100.0%



2. 男女共同参画全般について

(1) 男女の地位について

問5 あなたは、次のような項目で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(それぞれの項目について1つに○)

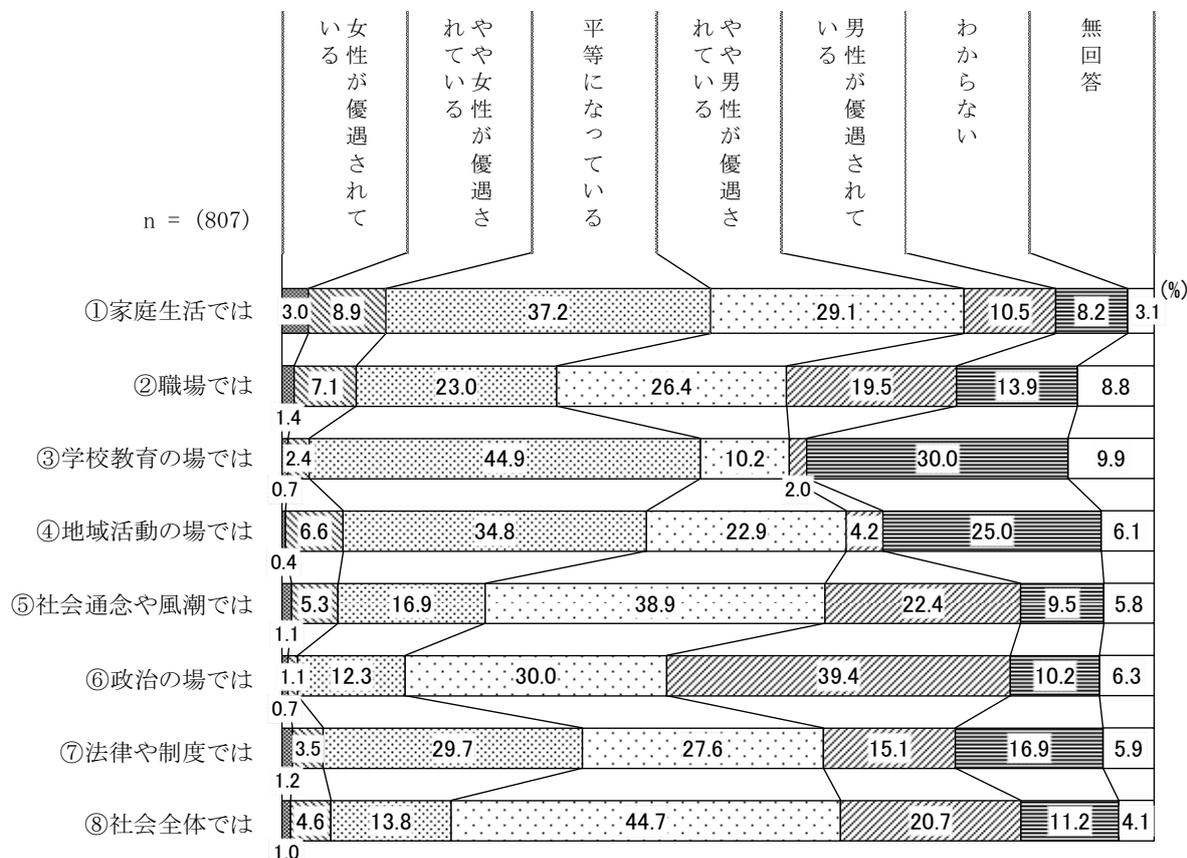
男女の地位が平等になっているかについて、『家庭生活では』は、「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた＜男性が優遇されている＞が39.6%、「平等になっている」が37.2%となっている。

『職場では』は、＜男性が優遇されている＞が45.9%、「平等になっている」が23.0%となっている。

『学校教育の場では』は、「平等になっている」が44.9%で8つの項目の中で最も多くなっている。＜男性が優遇されている＞が12.2%となっており、8つの項目の中では最も低くなっている。

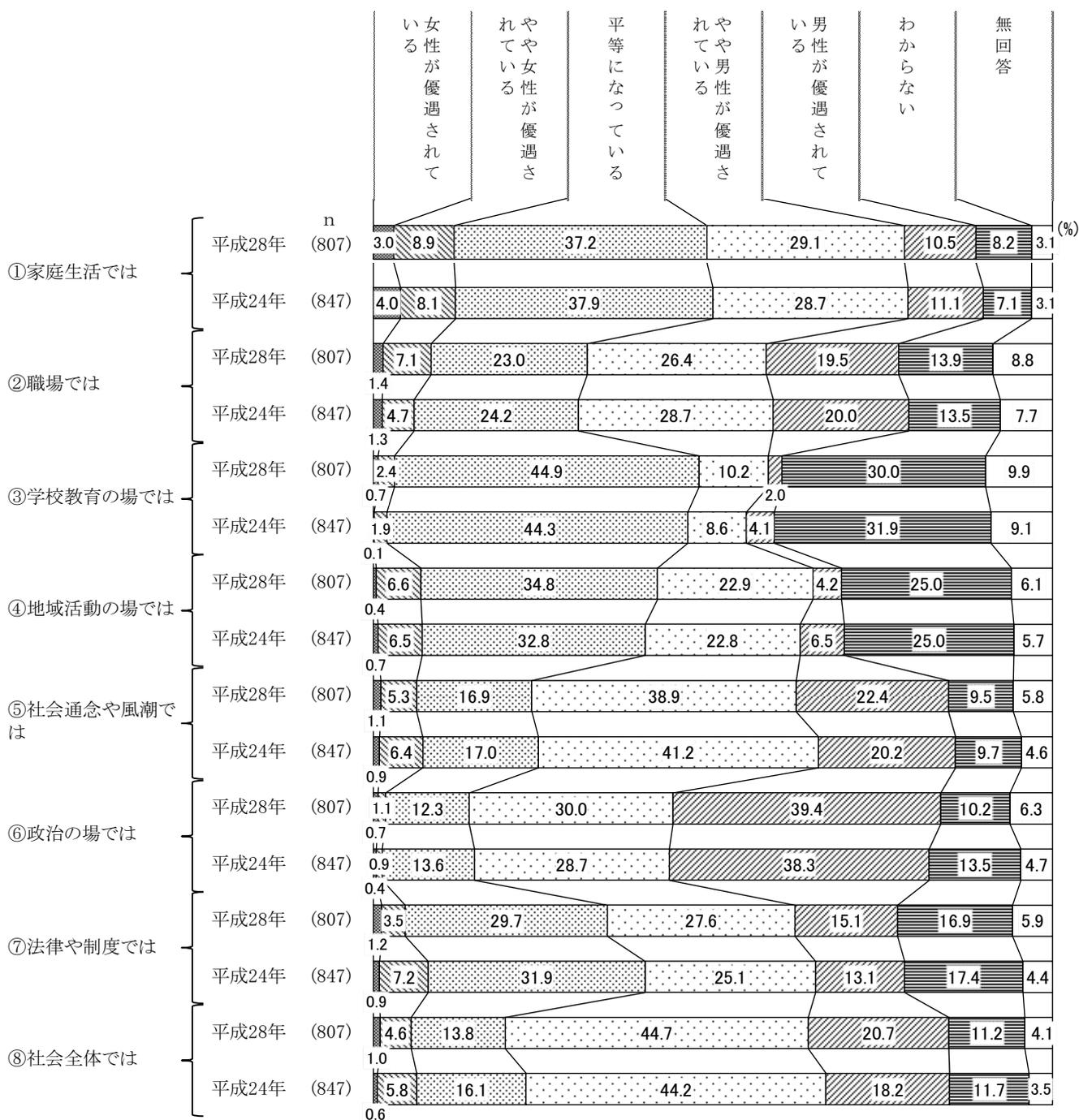
『地域活動の場では』は、「平等になっている」が34.8%、＜男性が優遇されている＞が27.1%となっている。『社会通念や風潮では』は、＜男性が優遇されている＞が61.3%、「平等になっている」が16.9%となっている。『政治の場では』は、＜男性が優遇されている＞が69.4%で8つの項目の中では最も多くなっている。「平等になっている」が12.3%となっている。『法律や制度では』は、＜男性が優遇されている＞が42.7%、「平等になっている」が29.7%となっている。

『社会全体では』は、＜男性が優遇されている＞が65.4%、「平等になっている」が13.8%となっている。



【経年変化】

経年変化をみると、＜女性が優遇されている＞は『職場では』で2.5ポイント増加している。「平等になっている」は『地域活動の場では』で2.0ポイント増加しているが、『社会全体では』で2.3ポイント減少し、『法律や制度では』で2.2ポイント減少している。＜男性が優遇されている＞は『法律や制度では』で4.5ポイント、『社会全体では』で3.0ポイント増加している。

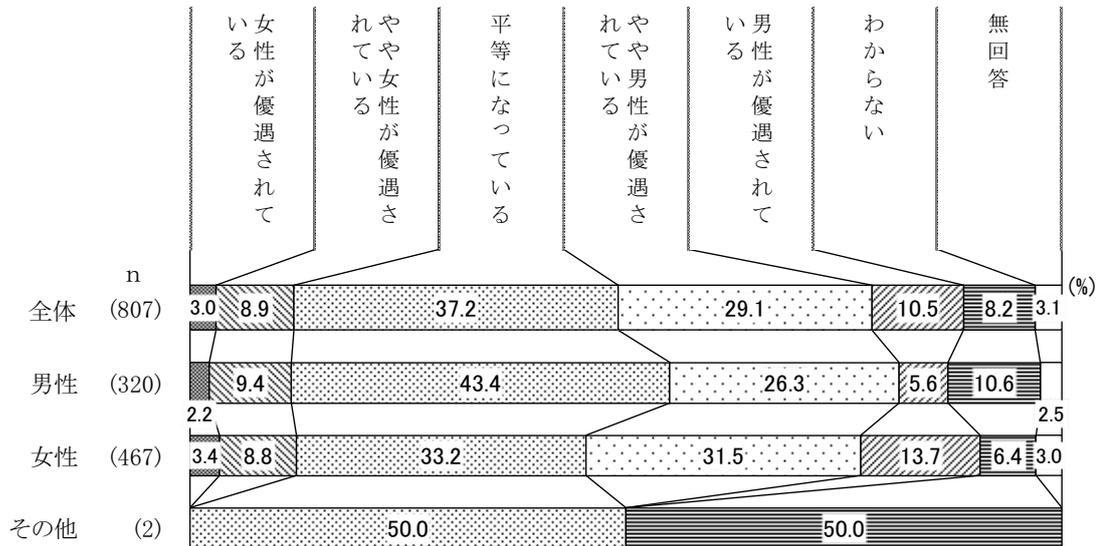


第2章 調査結果の詳細

(1-1) 家庭生活

【性別】

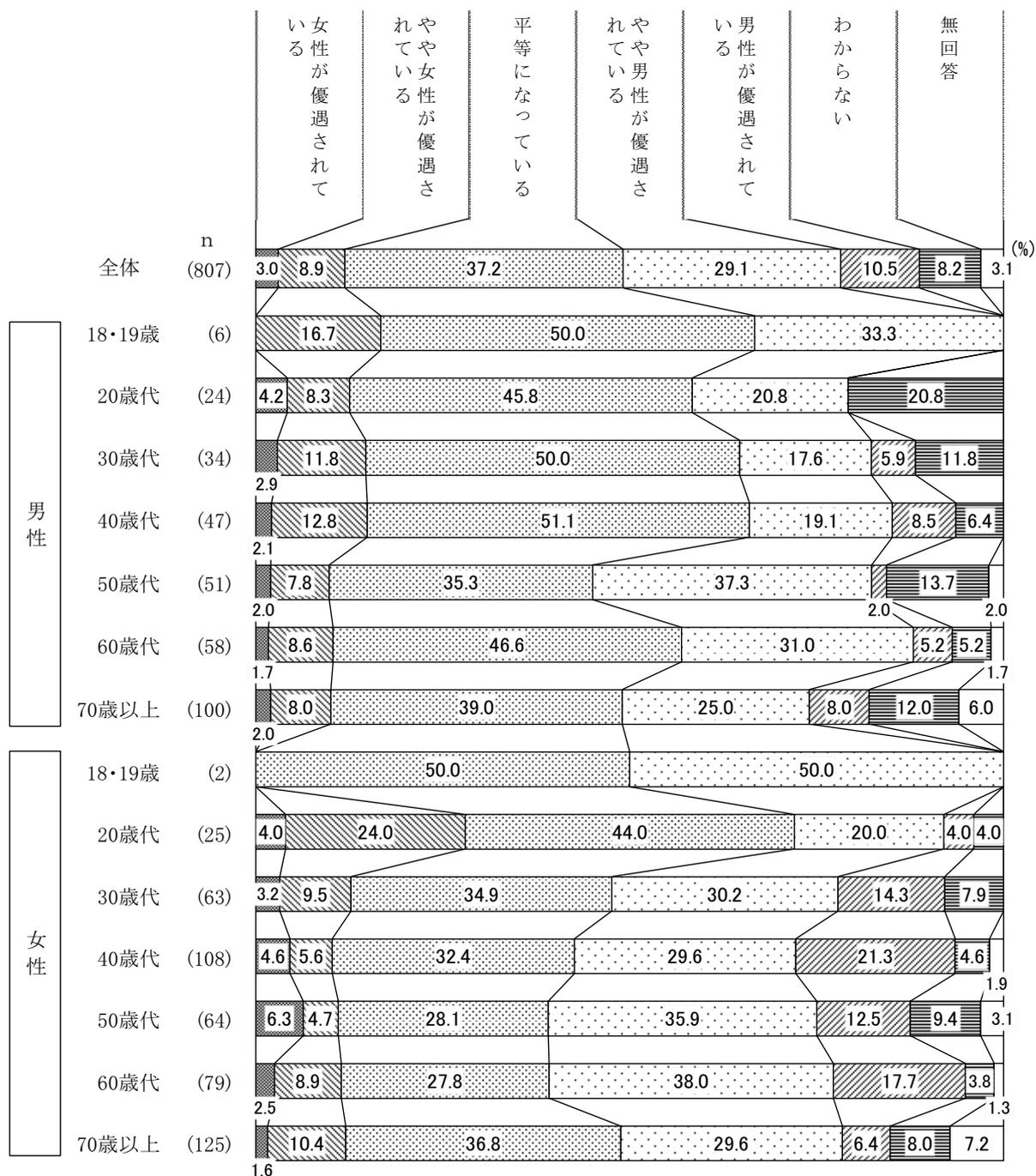
性別でみると、「平等になっている」は男性が43.4%、女性は33.2%で男性の方が10.2ポイント多くなっている。「やや男性が優遇されている」は女性が31.5%、男性は26.3%で女性の方が5.2ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性が13.7%、男性5.6%で女性の方が8.1ポイント多くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「平等になっている」は男性の30歳代と40歳代で5割を超えている。女性では70歳代と30歳代で3割台半ばとなっている。「やや男性が優遇されている」は女性の60歳代と男性の50歳代で4割弱となっており、「男性が優遇されている」は、女性の40歳代で2割強となっている。

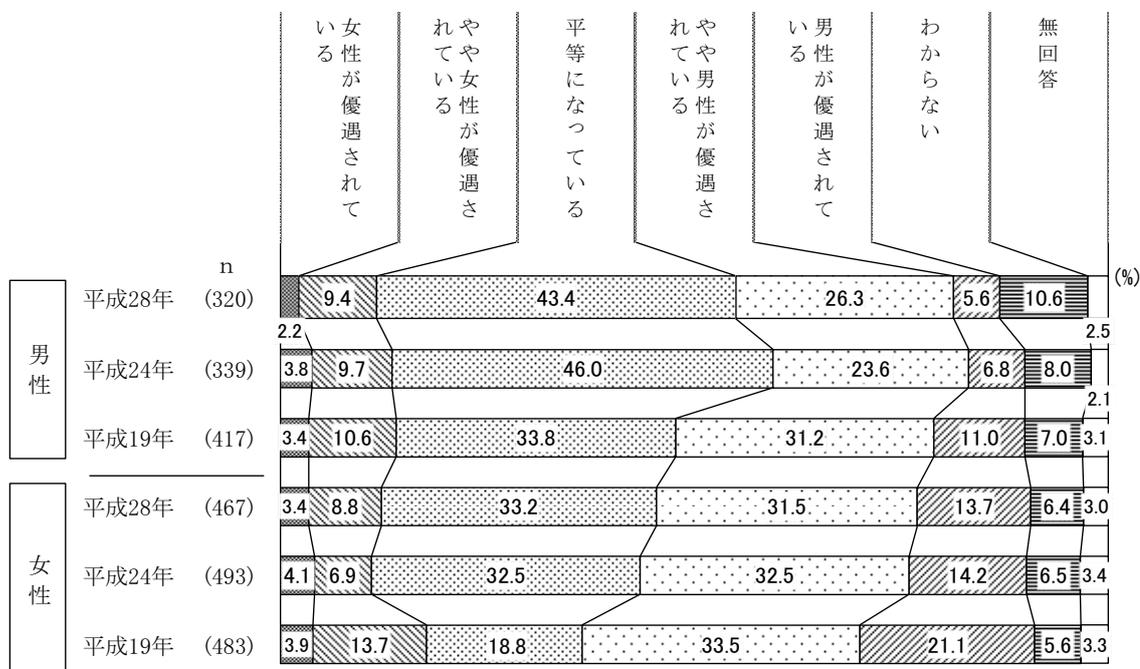
【性・年齢別】



第2章 調査結果の詳細

【経年変化・性別】

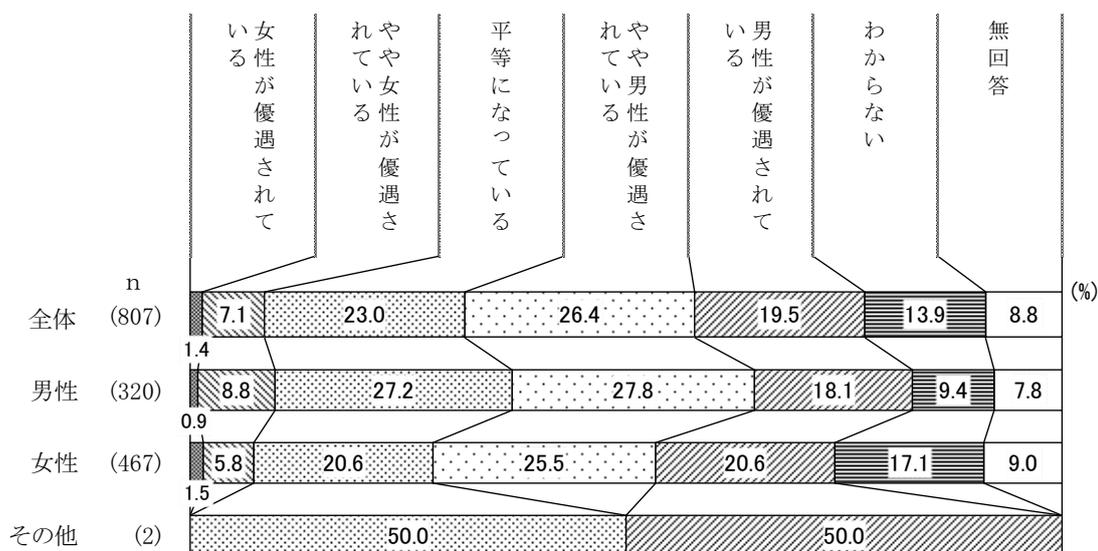
経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は男性では前回調査より2.6ポイント減少し、女性では大きな変化はみられない。「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた<男性優遇>は、平成19年調査以降男女とも減少している。



(1-2) 職場

【性別】

性別でみると、「平等になっている」は男性が27.2%、女性は20.6%で男性の方が6.6ポイント多くなっている。「やや男性が優遇されている」は男性が27.8%、女性は25.5%で女性の方が2.3ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性が20.6%、男性18.1%で女性の方が2.5ポイント多くなっている。

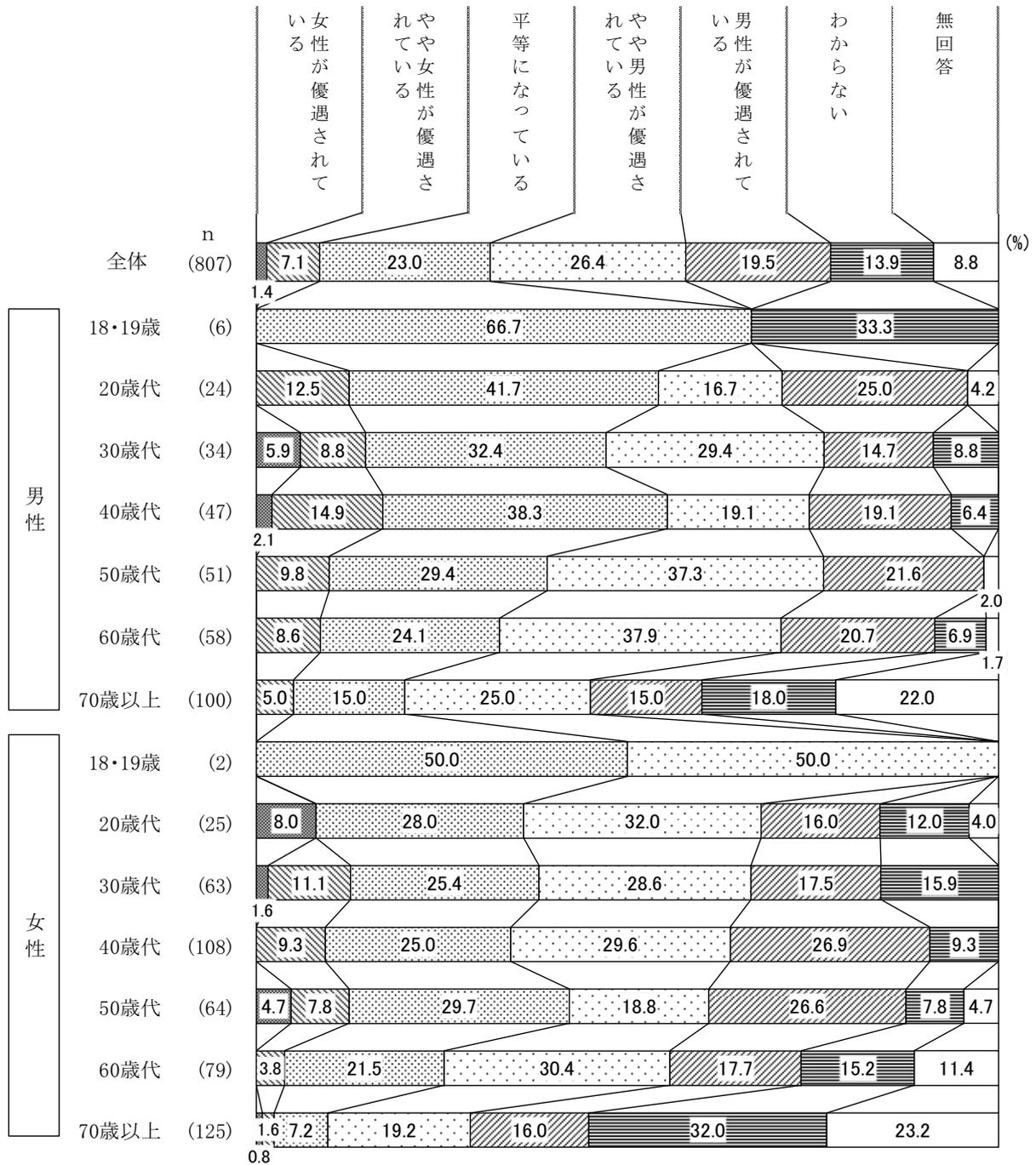


【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「平等になっている」は男性40歳代の約4割が最も多く、女性では50歳代の約3割が最も多くなっている。「やや男性が優遇されている」は男性の50歳代と60歳代で4割弱と多く、女性の60歳代で約3割となっており、「男性が優遇されている」は、女性の40歳代と50歳代で2割台半ばとなっている。

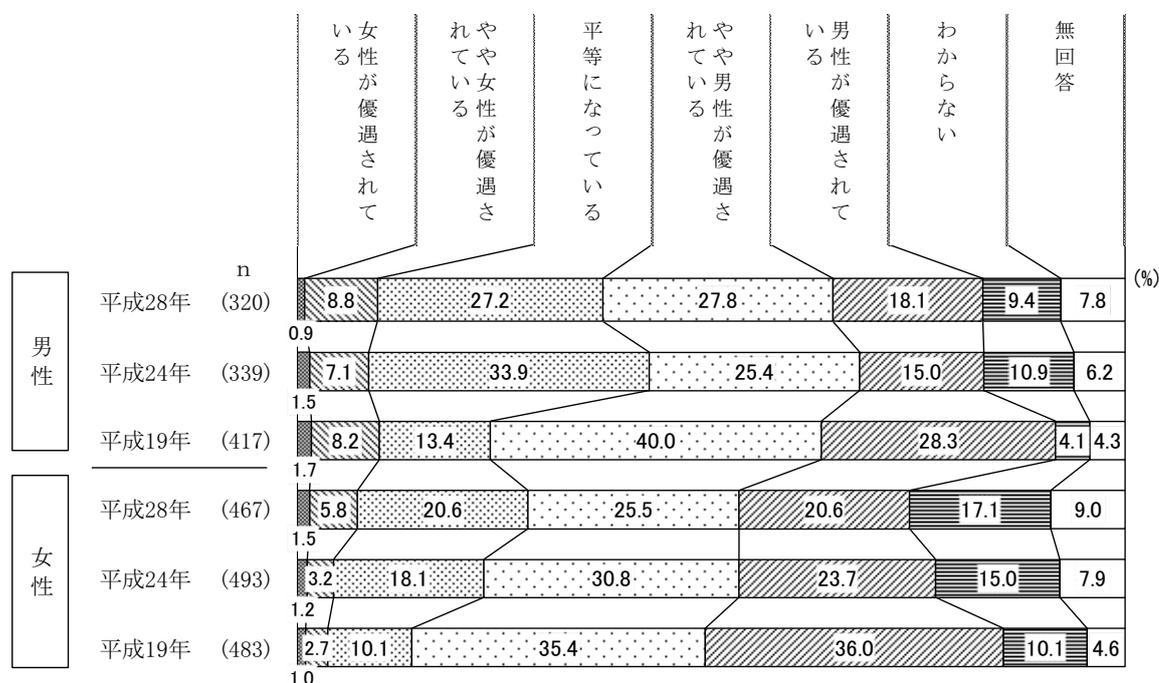
第2章 調査結果の詳細

【性・年齢別】



【経年変化・性別】

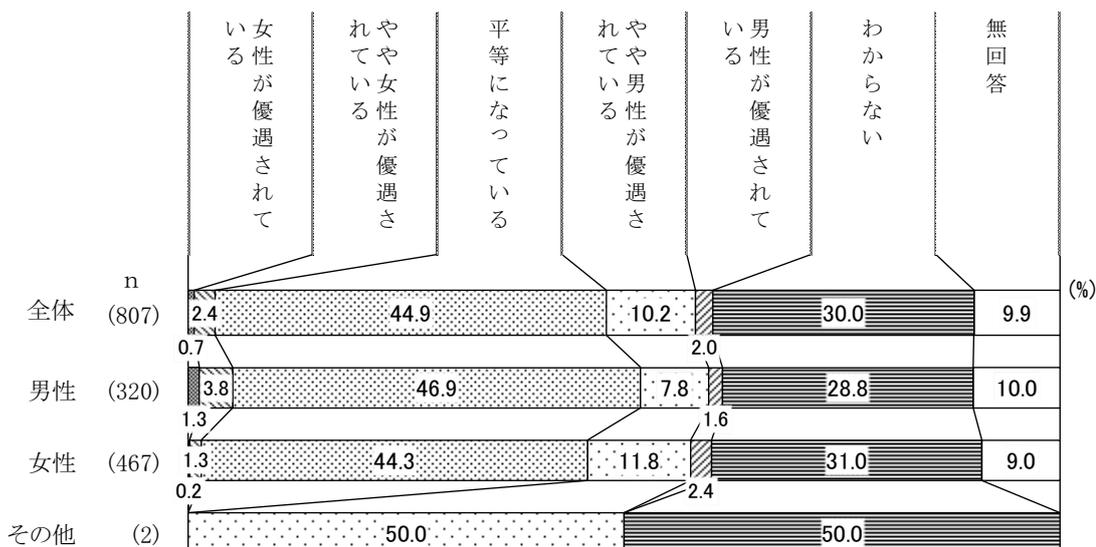
経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は男性では前回調査より6.7ポイント、女性では2.5ポイント減少している。＜男性優遇＞は、前回調査より男性では5.5ポイント増加し、女性では8.4ポイント減少している。



(1-3) 学校教育の場

【性別】

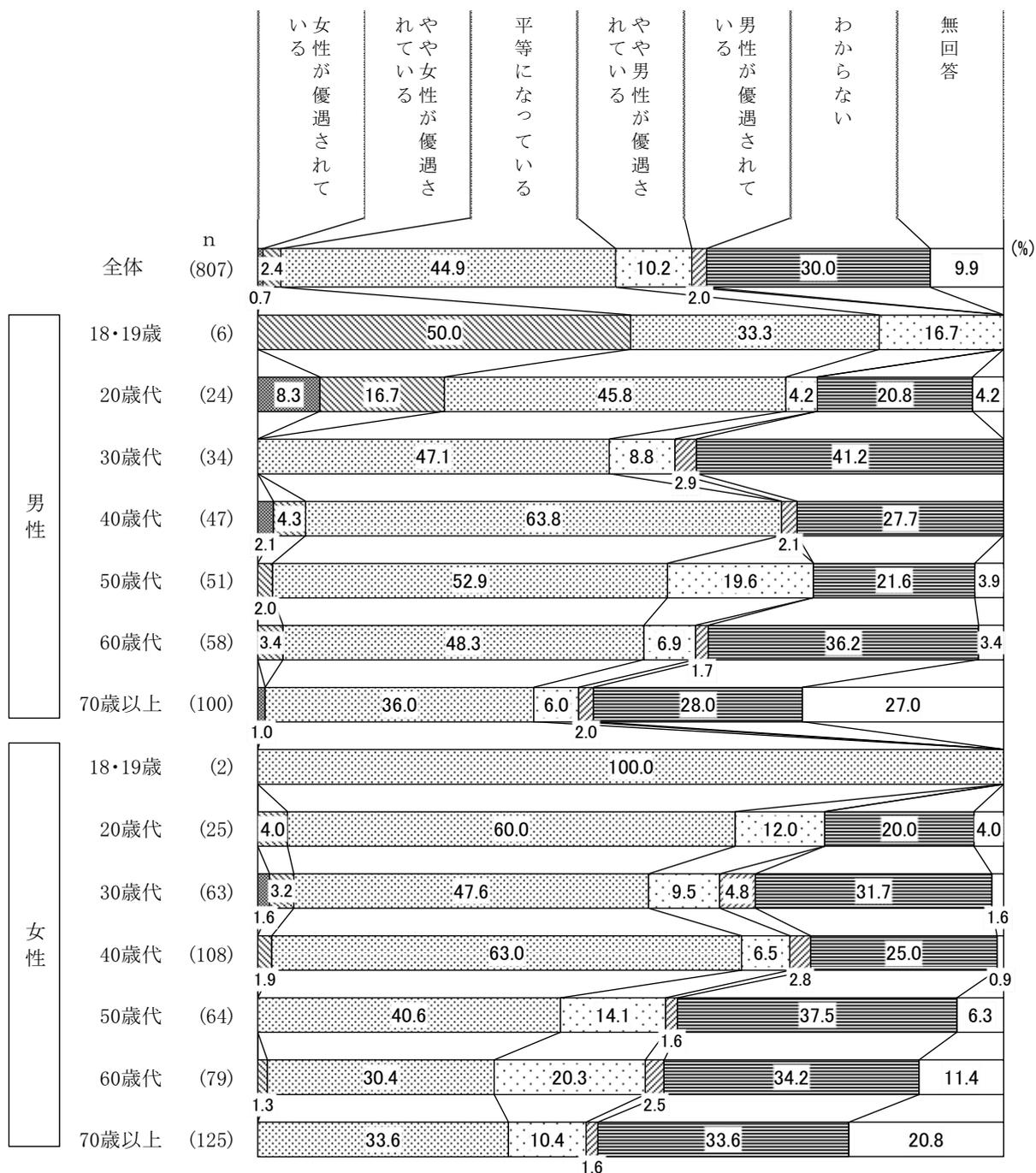
性別でみると、「平等になっている」は男性が46.9%、女性は44.3%でともに4割台半ばとなっている。「やや男性が優遇されている」は女性が11.8%、男性は7.8%で女性の方が4.0ポイント多くなっている。また、「わからない」は女性が31.0%、男性は28.8%でともに3割前後となっている。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「平等になっている」は男性の40歳代と女性の40歳代で6割強と多くなっている。「やや男性が優遇されている」は男性の50歳代と女性の60歳代で約2割と多い。また、「わからない」は男性の30歳代が4割強と最も多く、男性の60歳代で3割台半ばとなっている。女性では60歳代で4割強となっている。

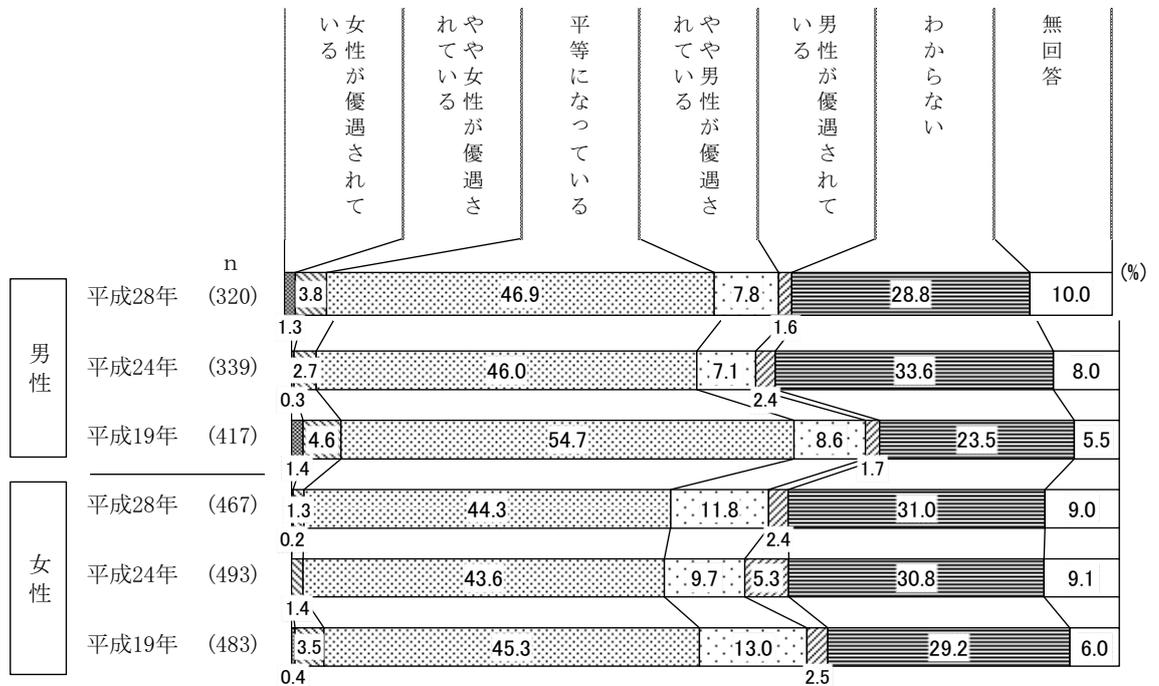
【性・年齢別】



第2章 調査結果の詳細

【経年変化・性別】

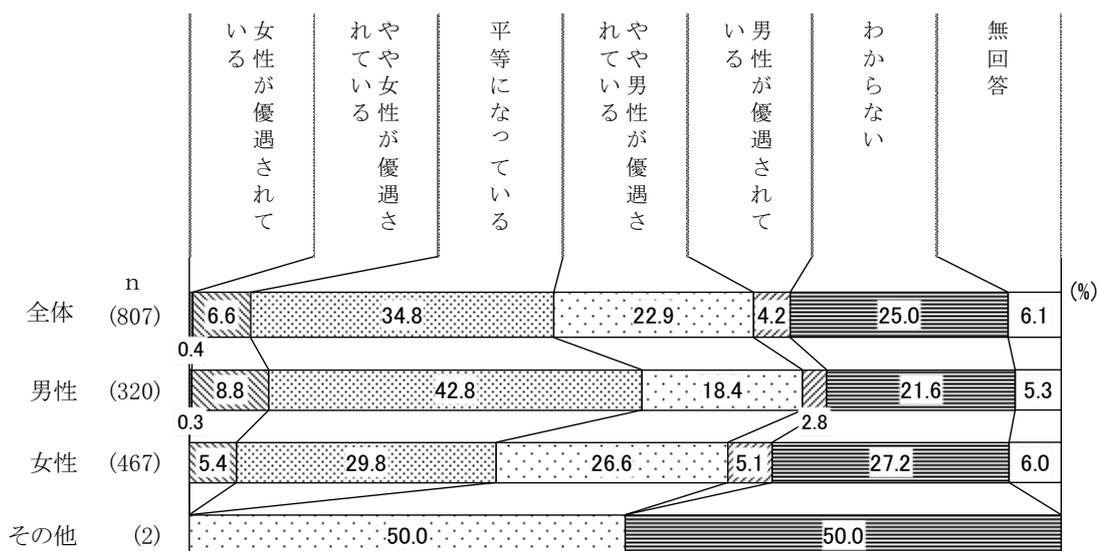
経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は前回調査と比較して男女とも大きな違いはみられない。



(1-4) 地域活動の場

【性別】

性別で見ると、「平等になっている」は男性が42.8%、女性は20.6%で男性の方が13.0ポイント多くなっている。「やや男性が優遇されている」は女性が26.6%、男性は18.4%で女性の方が8.2ポイント多くなっている。また、「わからない」は女性が27.2%、男性は21.6%で女性の方が5.6ポイント多くなっている。

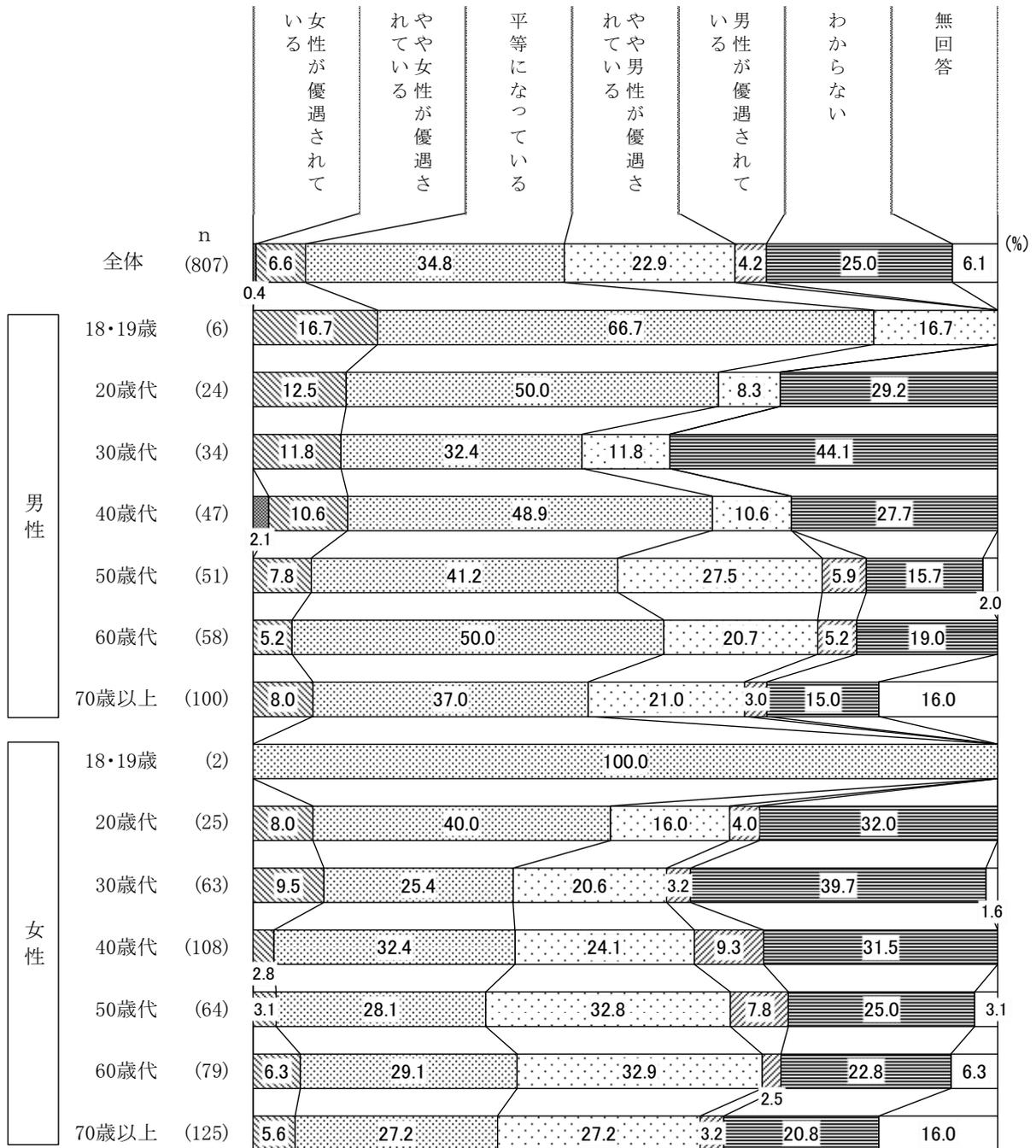


【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、「平等になっている」は男性の40歳代と60歳代が約5割と多く、すべての年代で女性より多くなっている。「やや男性が優遇されている」はすべての年代で女性の方が男性より多くなっており、女性の50歳代と60歳代では3割強となっている。また、「わからない」は男性の30歳代で4割台半ば、女性の30歳代で約3割となっている。

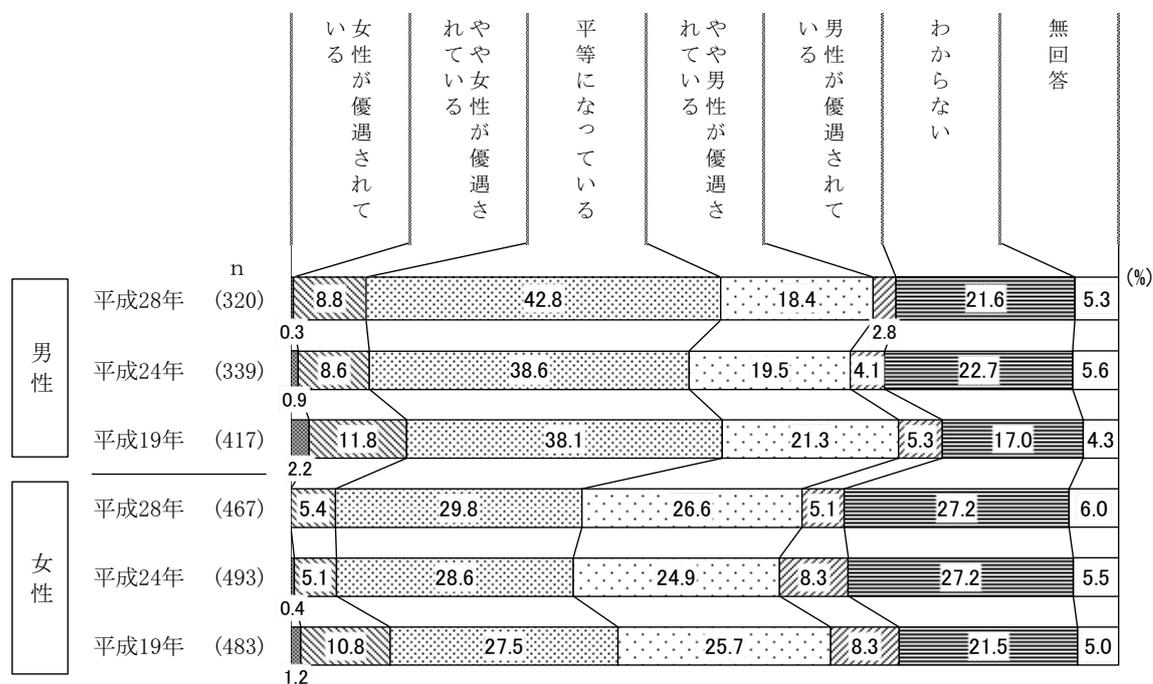
第2章 調査結果の詳細

【性・年齢別】



【経年変化・性別】

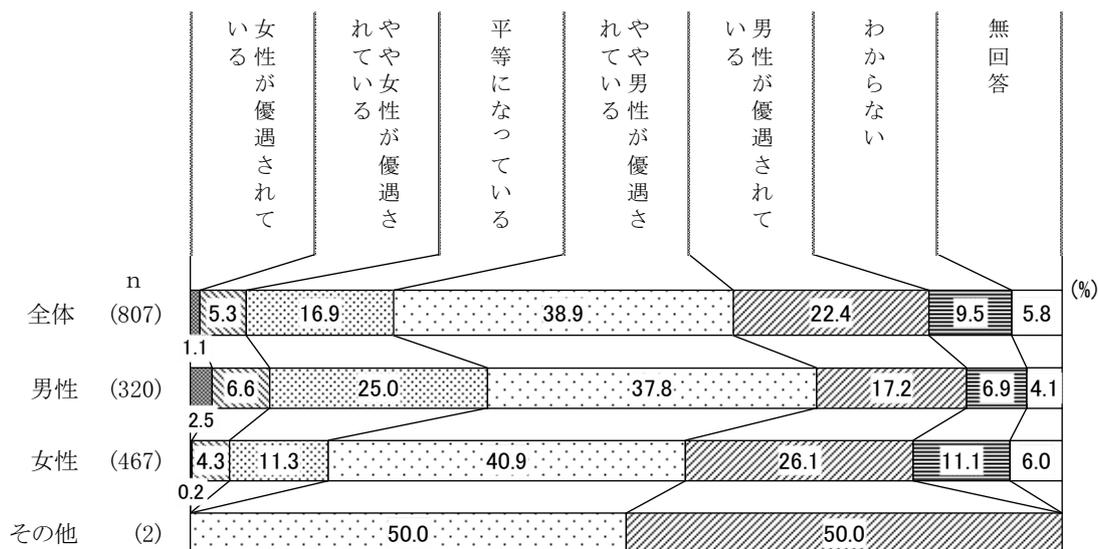
経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は男性では前回調査より4.2ポイント増加し、女性では大きな違いはみられない。＜男性優遇＞は、男女とも前回調査と比較しやや減少している。



(1-5) 社会通念や風潮

【性別】

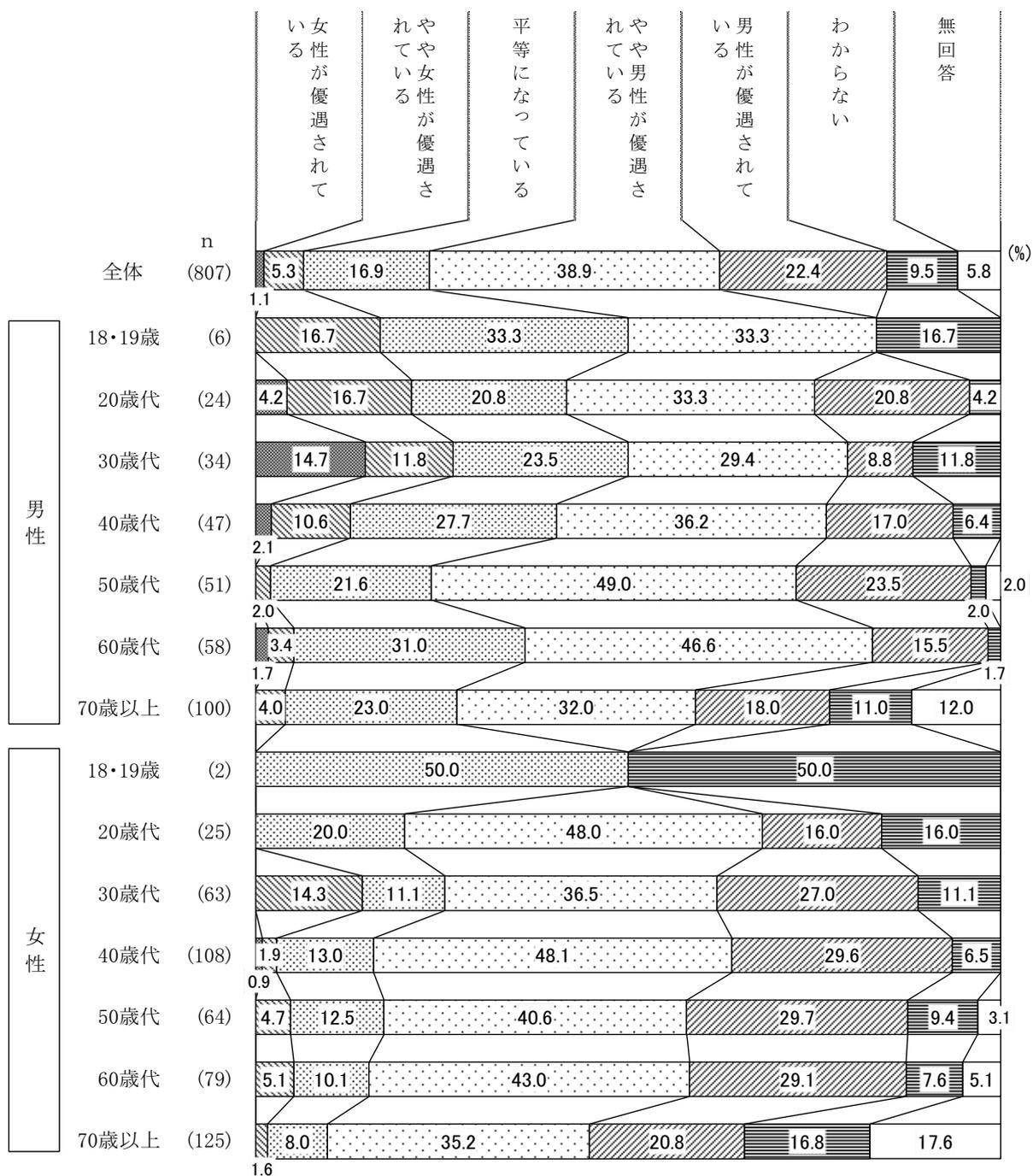
性別でみると、「平等になっている」は男性が25.0%、女性は11.3%で男性の方が13.7ポイント多くなっている。「やや男性が優遇されている」は女性が40.9%、男性は37.8%で女性の方が3.1ポイント多くなっている。「男性が優遇されている」は女性が26.1%、男性は17.2%で女性の方が8.9ポイント多くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「平等になっている」はすべての年代で男性の方が女性より多く、男性の60歳代では3割強となっている。「やや男性が優遇されている」は男性の50歳代と女性の40歳代で約5割と多くなっている。「男性が優遇されている」はすべての年代で女性の方が男性より多く、女性の40歳代から60歳代で約3割となっている。

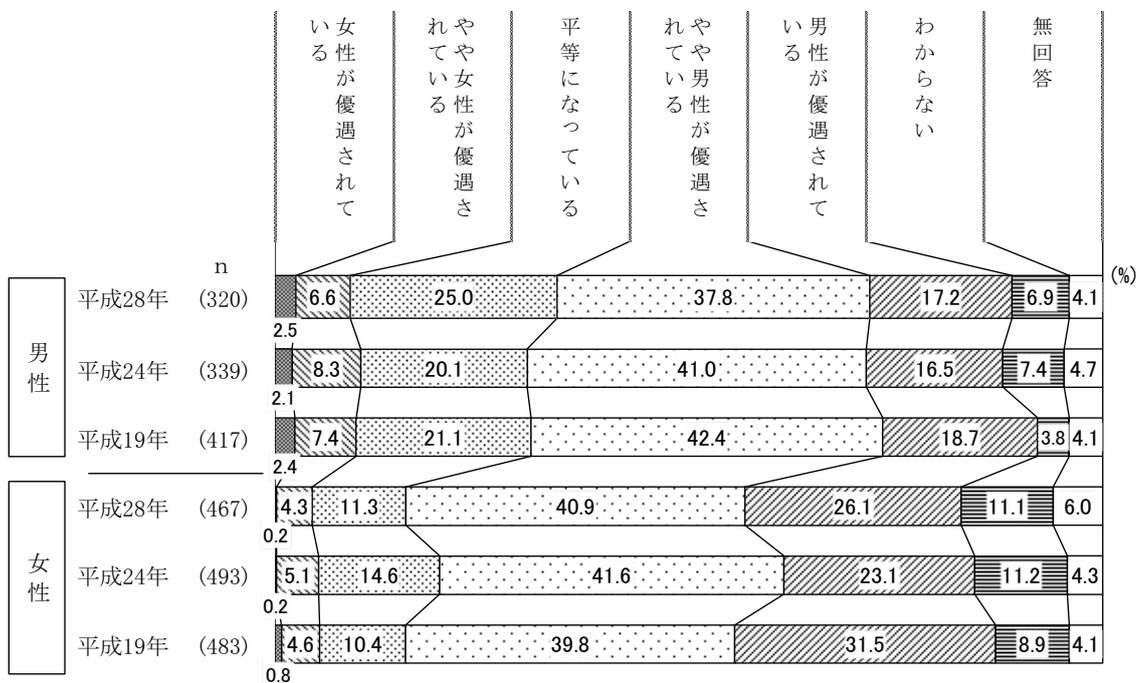
【性・年齢別】



第2章 調査結果の詳細

【経年変化・性別】

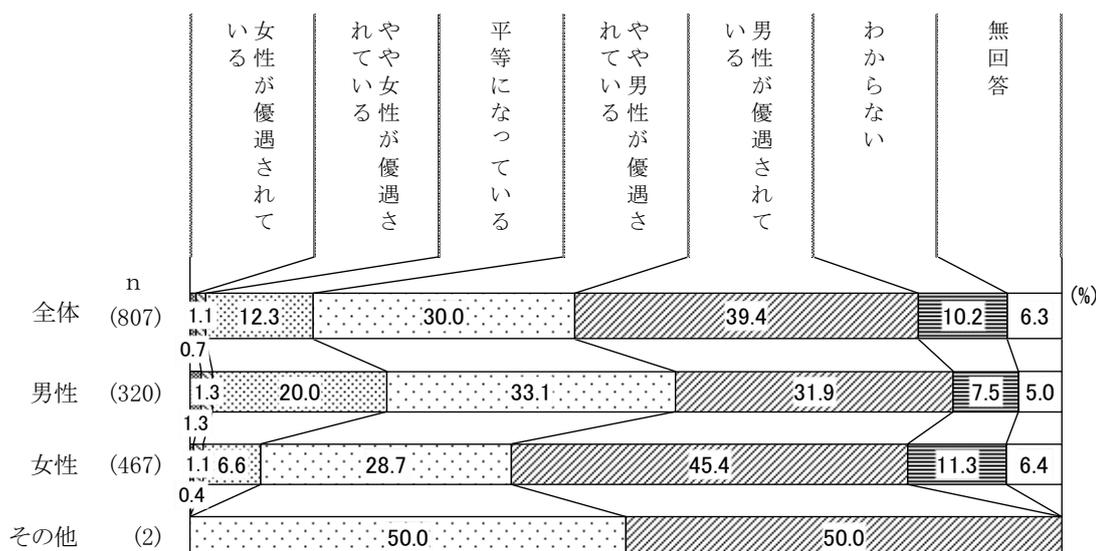
経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は男性では前回調査より4.9ポイント増加し、女性では3.3ポイント減少している。



(1-6) 政治の場

【性別】

性別で見ると、「平等になっている」は男性が20.0%、女性は6.6%で男性の方が13.4ポイント多くなっている。「やや男性が優遇されている」は男性が33.1%、女性は28.7%で男性の方が4.4ポイント多くなっている。「男性が優遇されている」は女性が45.4%、男性は31.9%で女性の方が13.5ポイント多くなっている。

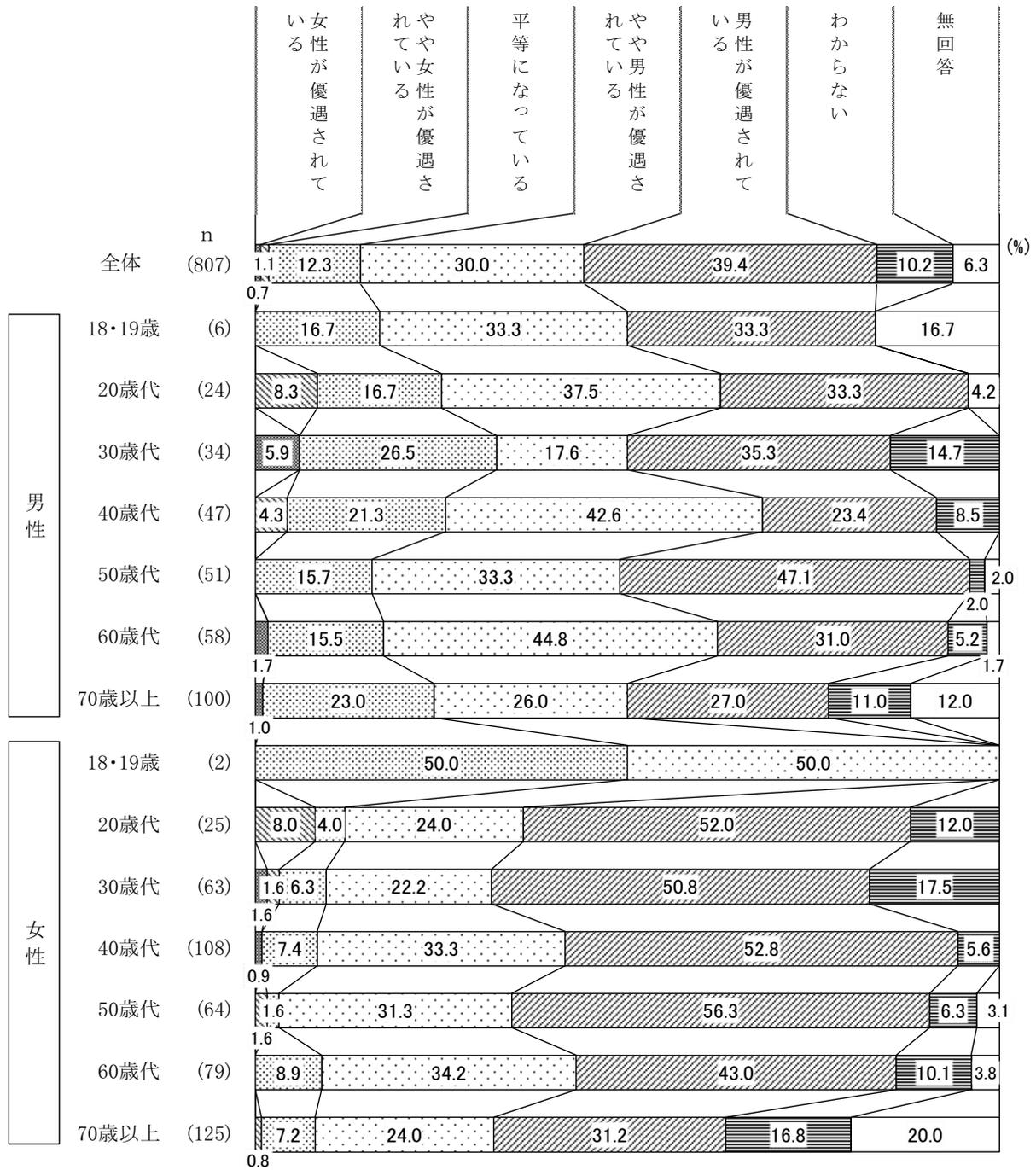


【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、「平等になっている」はすべての年代で男性の方が女性より多く、男性の30歳代では2割台半ばとなっている。「やや男性が優遇されている」は30歳代を除く年代で男性の方が女性より多く、男性の60歳代と40歳代では4割を超えている。「男性が優遇されている」はすべての年代で女性の方が男性より多く、女性の50歳代では5割台半ばとなっている。

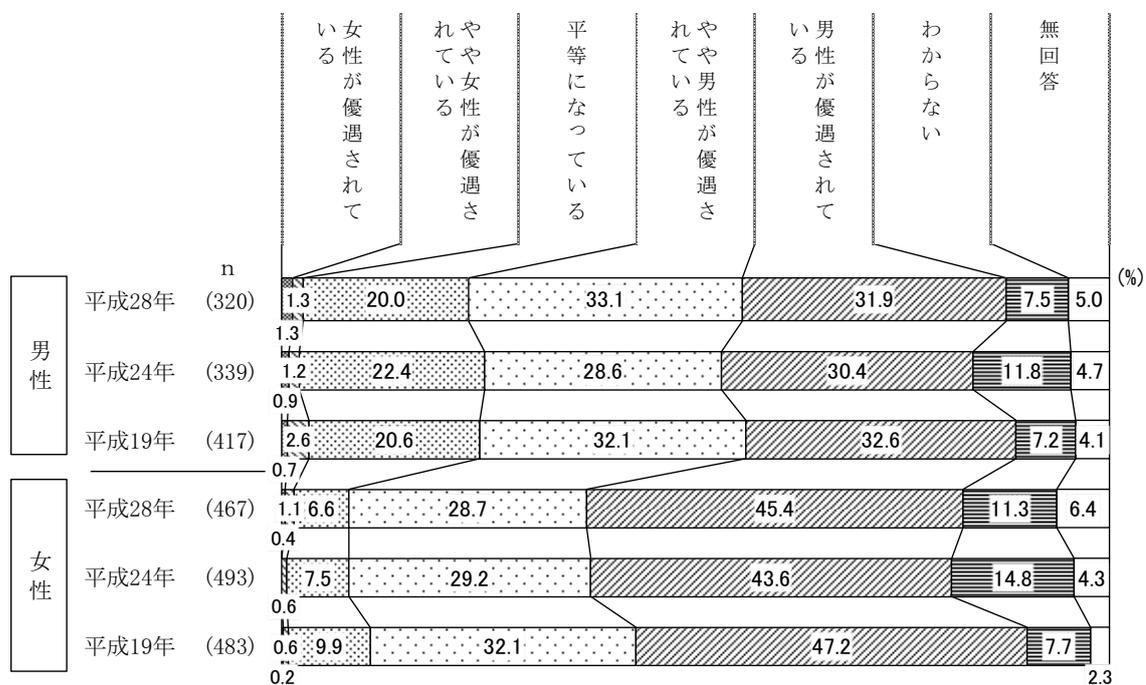
第2章 調査結果の詳細

【性・年齢別】



【経年変化・性別】

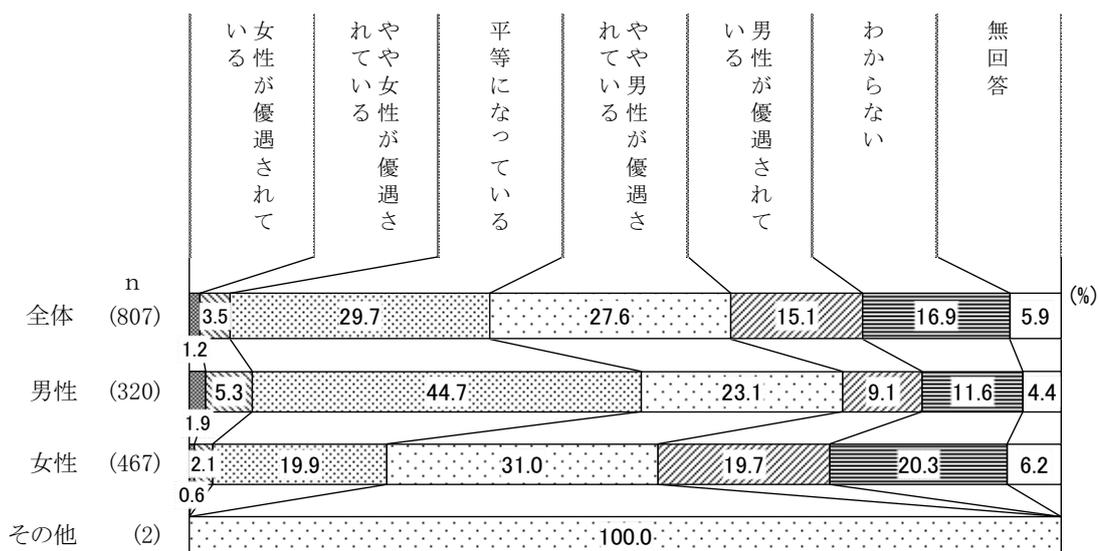
経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は男性では前回調査より2.4ポイント減少している。
 <男性優遇>は男性では6.0ポイント増加している。



(1-7) 法律や制度

【性別】

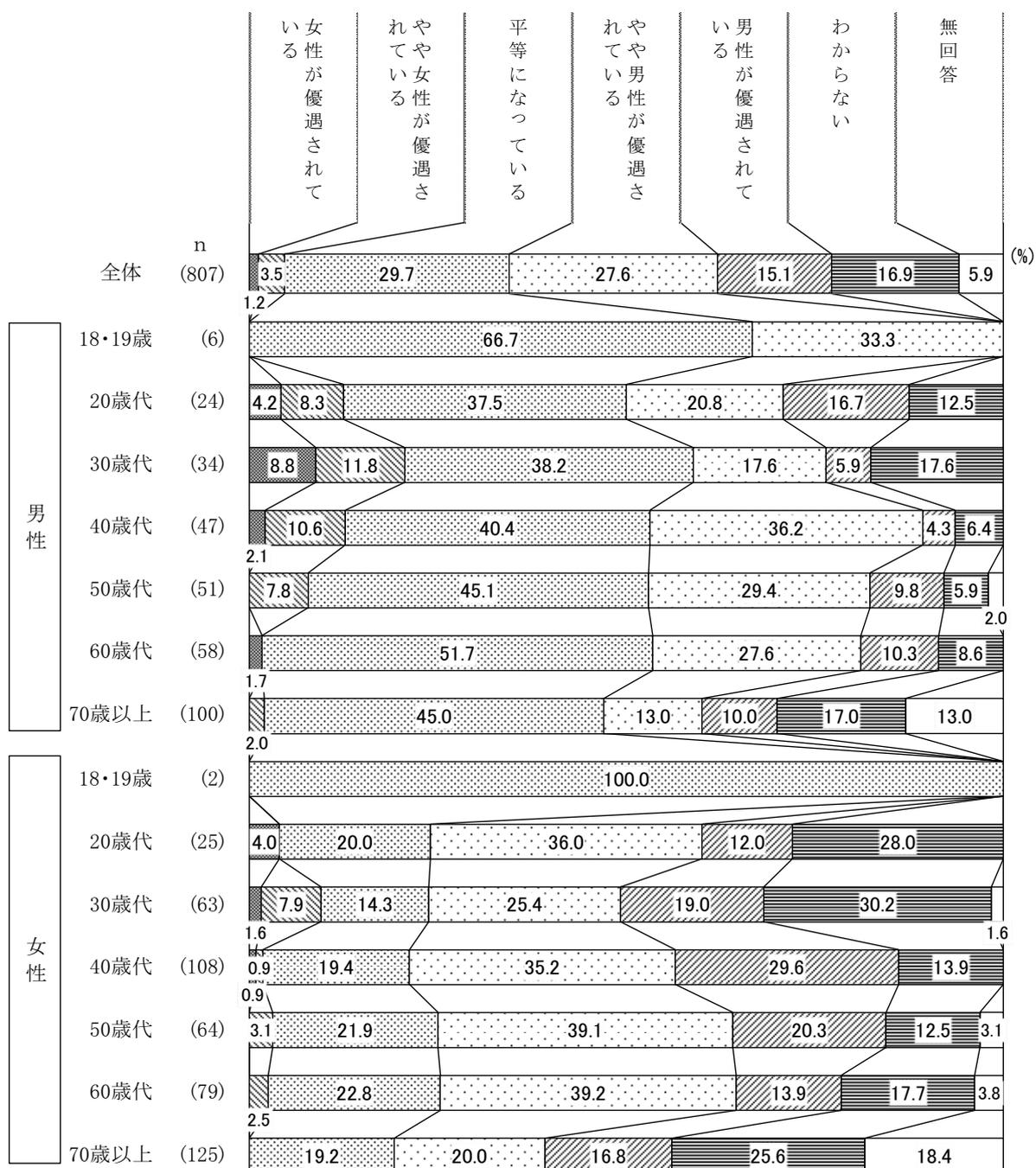
性別でみると、「平等になっている」は男性が44.7%、女性は19.9%で男性の方が24.8ポイント多くなっている。「やや男性が優遇されている」は女性が31.0%、男性は23.1%で女性の方が7.9ポイント多くなっている。「男性が優遇されている」は女性が19.7%、男性は9.1%で女性の方が10.6ポイント多くなっている。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「平等になっている」はすべての年代で男性の方が女性より多く、男性の60歳代では5割強となっている。「やや男性が優遇されている」は40歳代を除く年代で女性の方が男性より多く、女性の50歳代と60歳代では約4割となっている。「男性が優遇されている」は女性の40歳代で約3割と他の年代に比べて多くなっている。

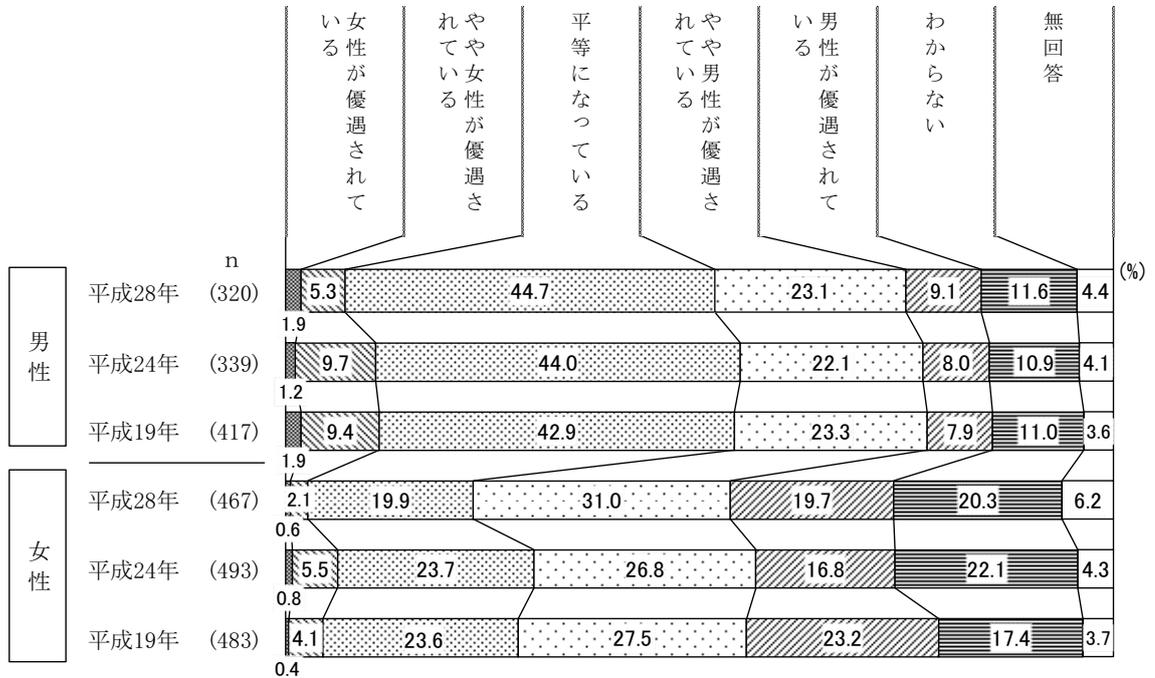
【性・年齢別】



第2章 調査結果の詳細

【経年変化・性別】

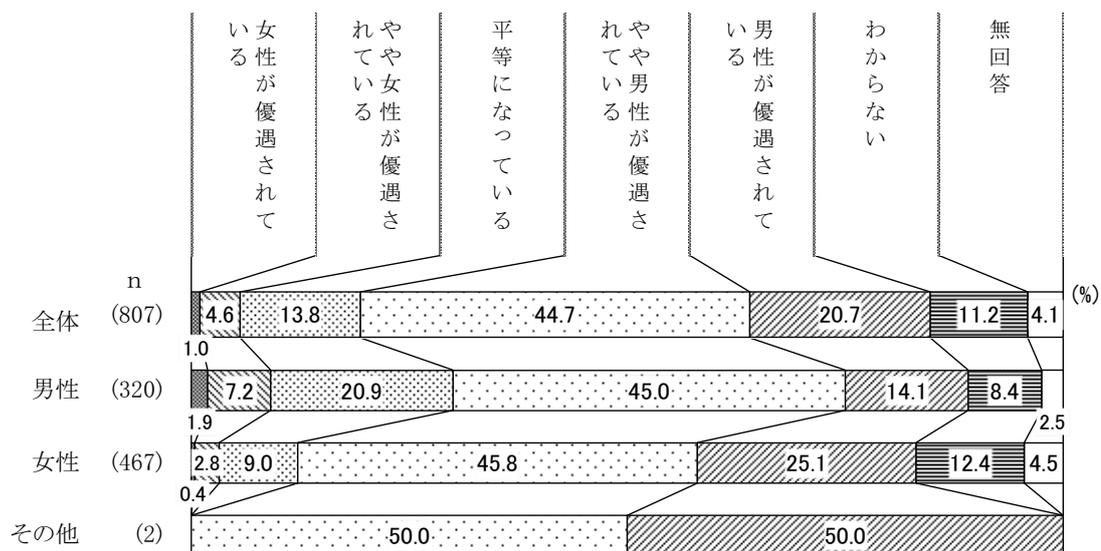
経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は女性では前回調査より3.8ポイント減少している。
 <男性優遇>は女性では7.1ポイント増加している。



(1-8) 社会全体

【性別】

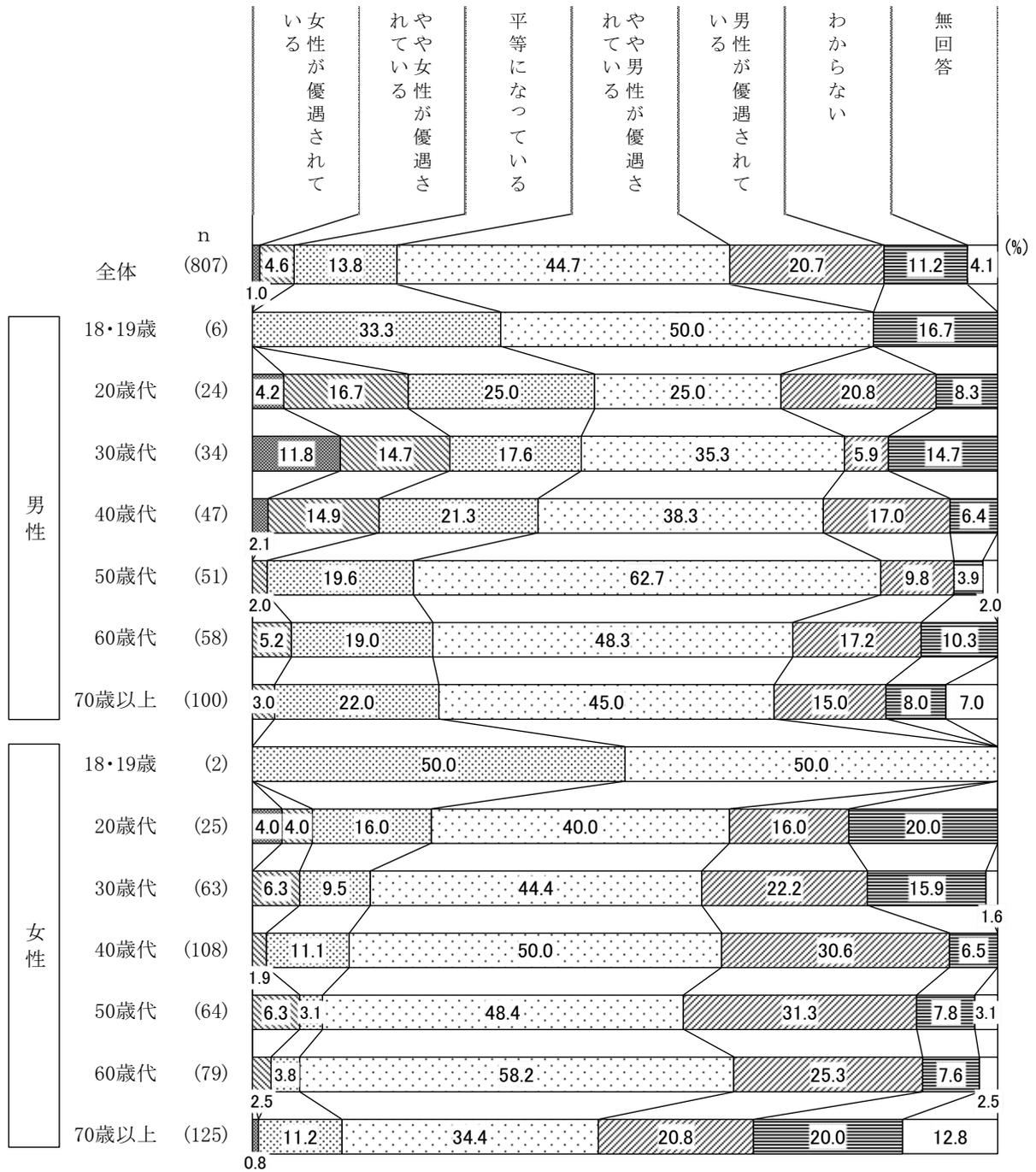
性別でみると、「平等になっている」は男性が20.9%、女性は9.0%で男性の方が11.9ポイント多くなっている。「やや男性が優遇されている」は男性、女性とも違いはみられない。「男性が優遇されている」は女性が25.1%、男性は14.1%で女性の方が11.0ポイント多くなっている。



【性・年齢別】

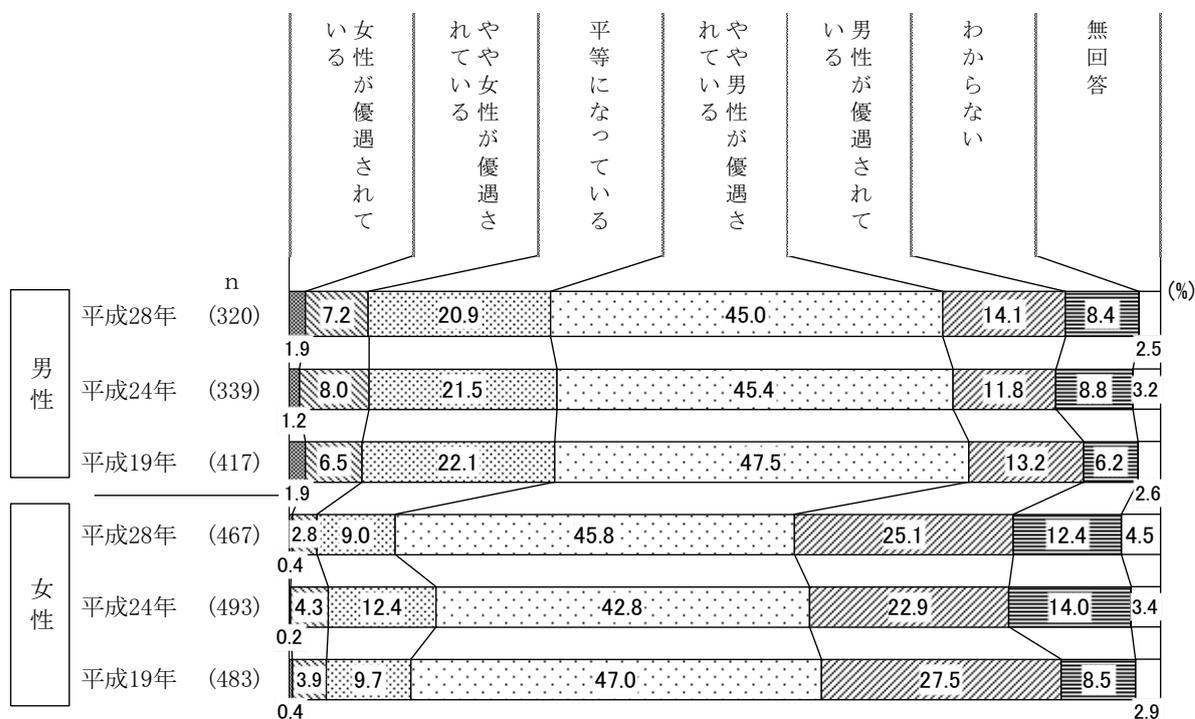
性・年齢別でみると、「平等になっている」はすべての年代で男性の方が女性より多く、男性の40歳代から70歳以上で2割前後となっている。「やや男性が優遇されている」は男性の50歳代で6割強と多く、女性の60歳代で約6割と多くなっている。「男性が優遇されている」はすべての年代で女性の方が男性より多く、女性の40歳代と50歳代で3割を超えている。

【性・年齢別】



【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は女性では前回調査より3.4ポイント減少し、男性はほぼ同じ割合となっている。＜男性優遇＞は女性では5.2ポイント増加、男性では1.9ポイントの増加となっている。

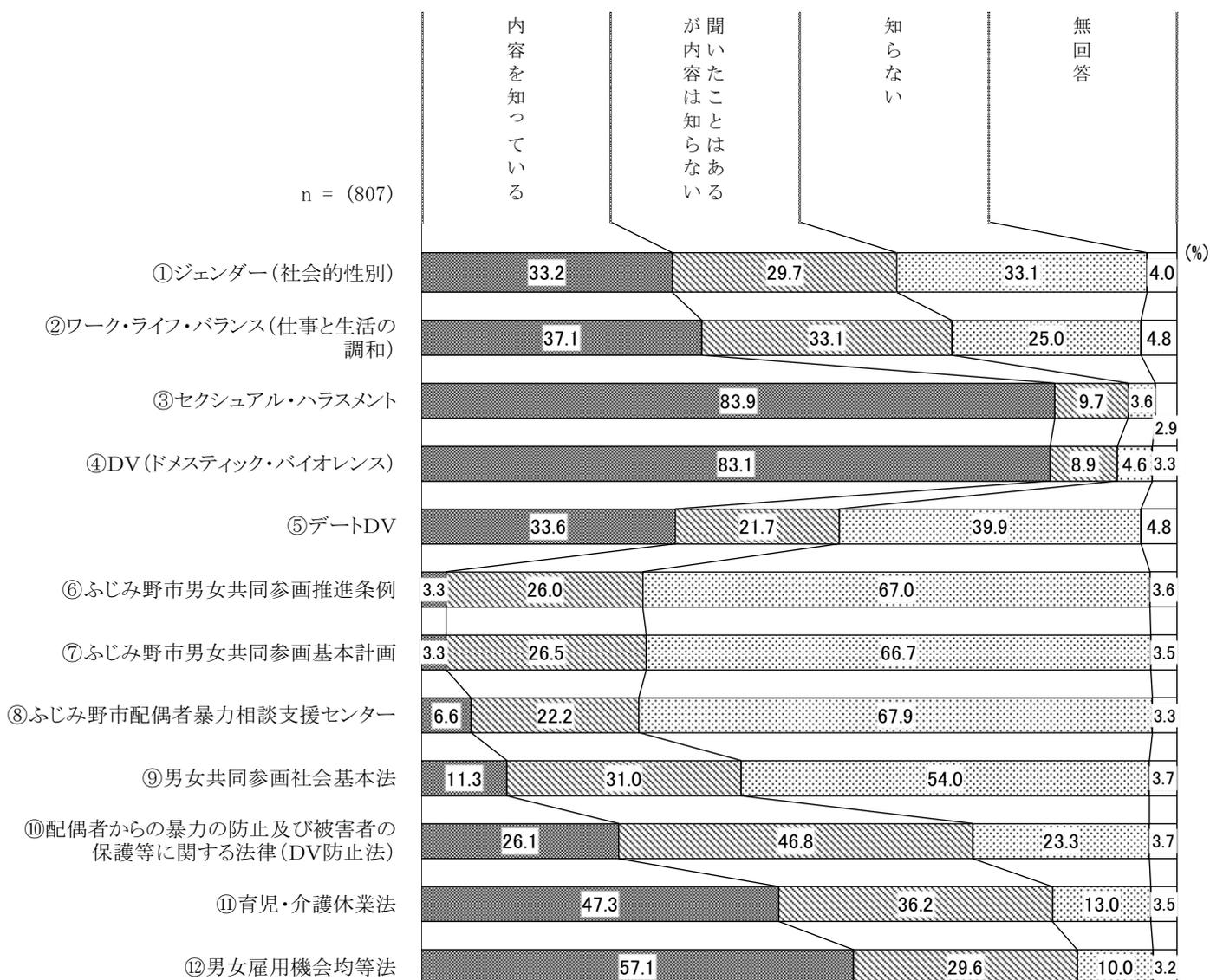


(2) 男女共同参画に関する社会の動きやことばについて

問6 次にあげる男女共同参画に関する社会の動きやことばについて、見たり聞いたりしたことがありますか。(それぞれの項目について1つに○)

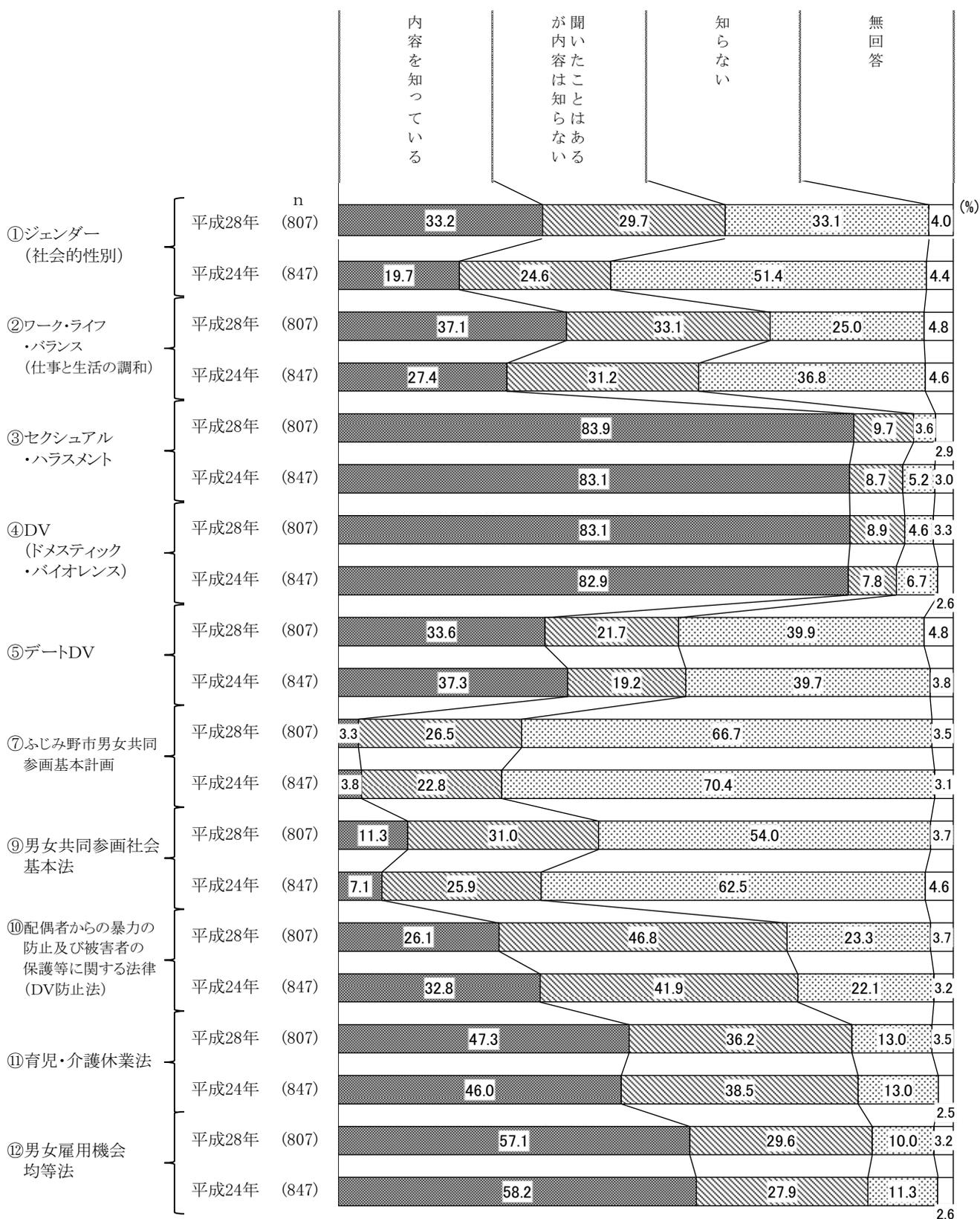
男女共同参画に関する社会の動きやことばの認知度は、「内容を知っている」が『セクシュアル・ハラスメント』(83.9%)と『DV(ドメスティック・バイオレンス)』(83.1%)で8割を超えて特になくなっている。次いで、『男女雇用機会均等法』(57.1%)、『育児・介護休業法』(47.3%)、『ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)』(37.1%)の順となっている。

市の施設・施策については、「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合が『ふじみ野市配偶者暴力相談支援センター』(28.8%)、『ふじみ野市男女共同参画推進条例』(29.3%)、『ふじみ野市男女共同参画基本計画』(29.8%)といずれも約3割となっている。



【経年変化】

経年変化をみると、「内容を知っている」は『ジェンダー（社会的性別）』が13.5ポイント増加し、『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』は9.7ポイント増加している。「聞いたことはあるが内容は知らない」は『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）』が4.9ポイント増加している。

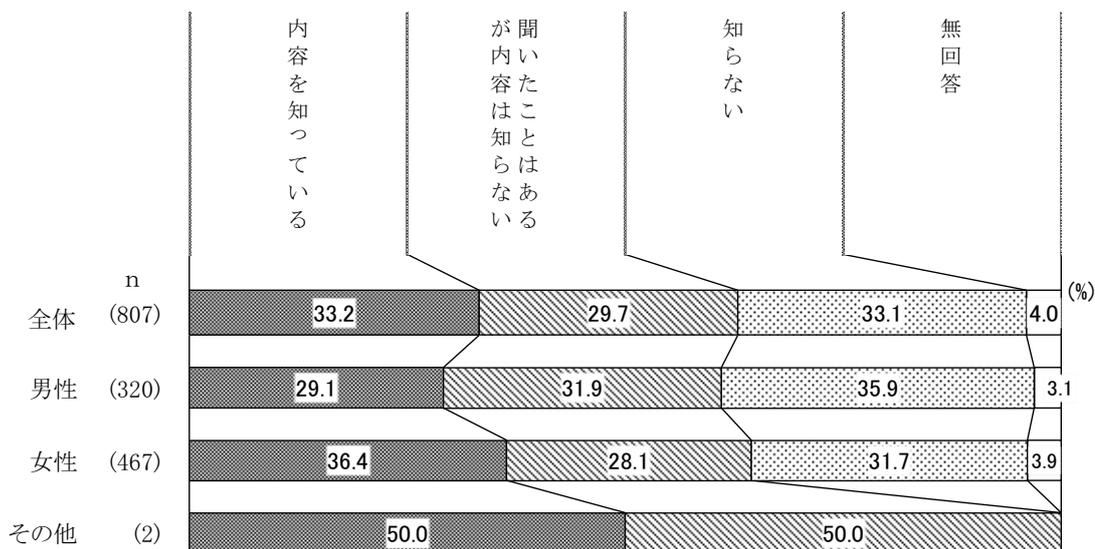


第2章 調査結果の詳細

(2-1) ジェンダー (社会的性別)

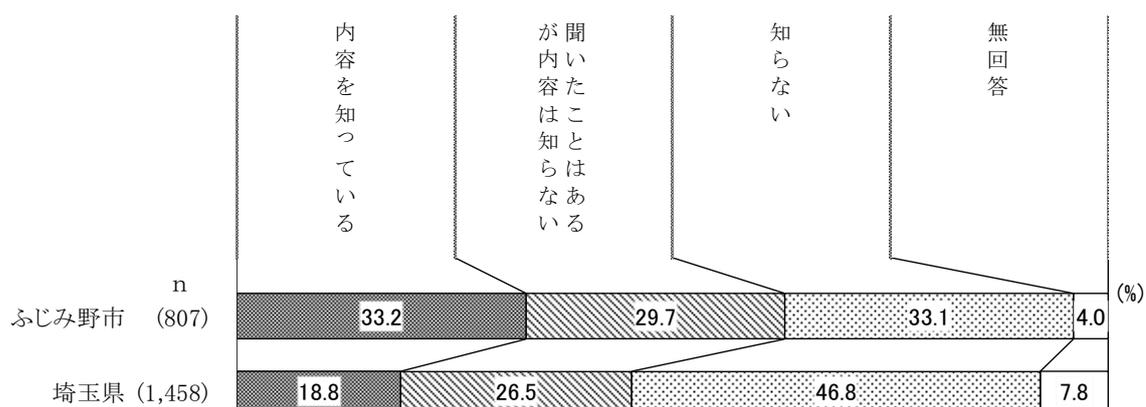
【性別】

性別で見ると、「内容を知っている」は女性が36.4%、男性は29.1%で女性の方が7.3ポイント多くなっている。一方、「知らない」は男性が35.9%、女性は31.7%で男性の方が4.2ポイント多くなっている。



【県との比較】

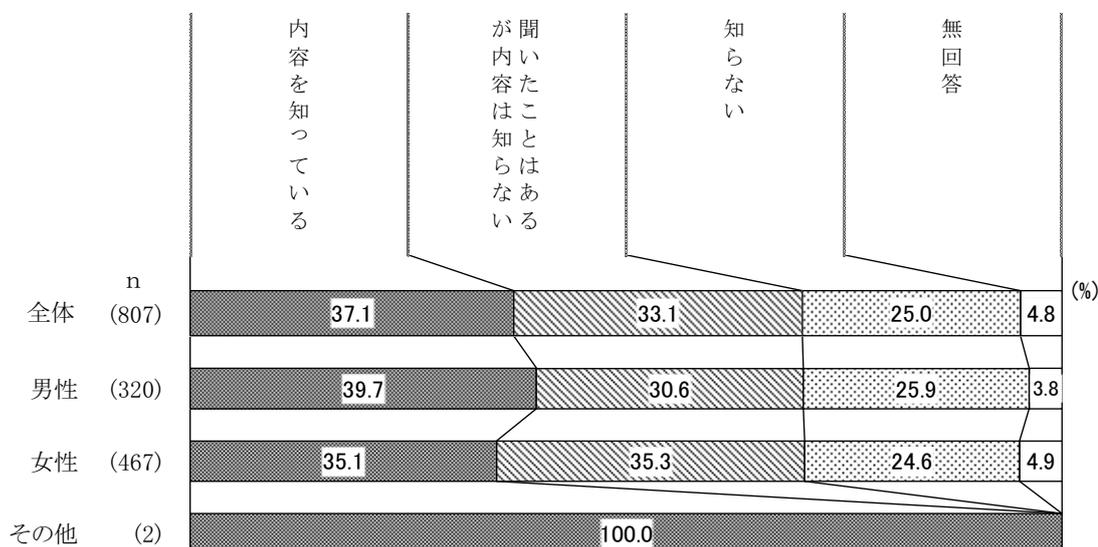
埼玉県調査 (平成27年度) と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が14.4ポイント高くなっている。



(2-2) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

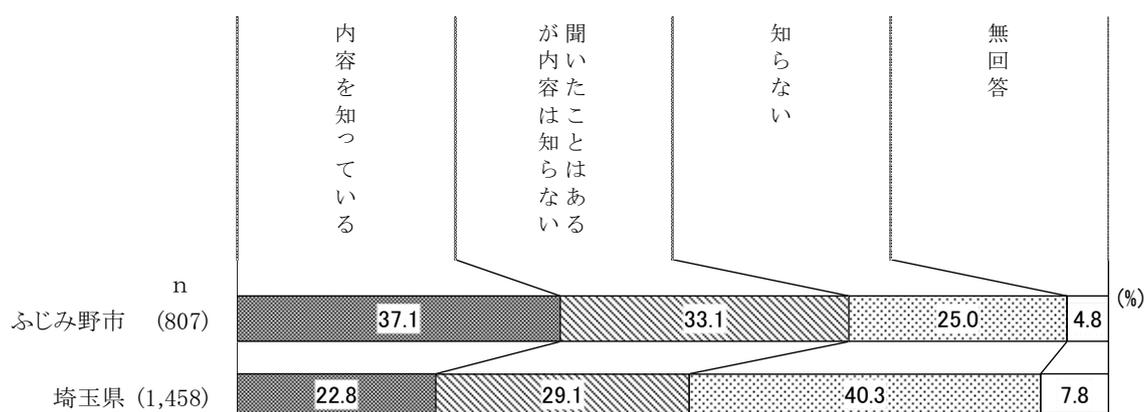
【性別】

性別でみると、「内容を知っている」は男性が39.7%、女性は35.1%で男性の方が4.6ポイント多くなっている。一方、「知らない」は男性が25.9%、女性は24.6%でともに2割台半ばとなっている。



【県との比較】

埼玉県との調査（平成27年度）と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が14.3ポイント高くなっている。

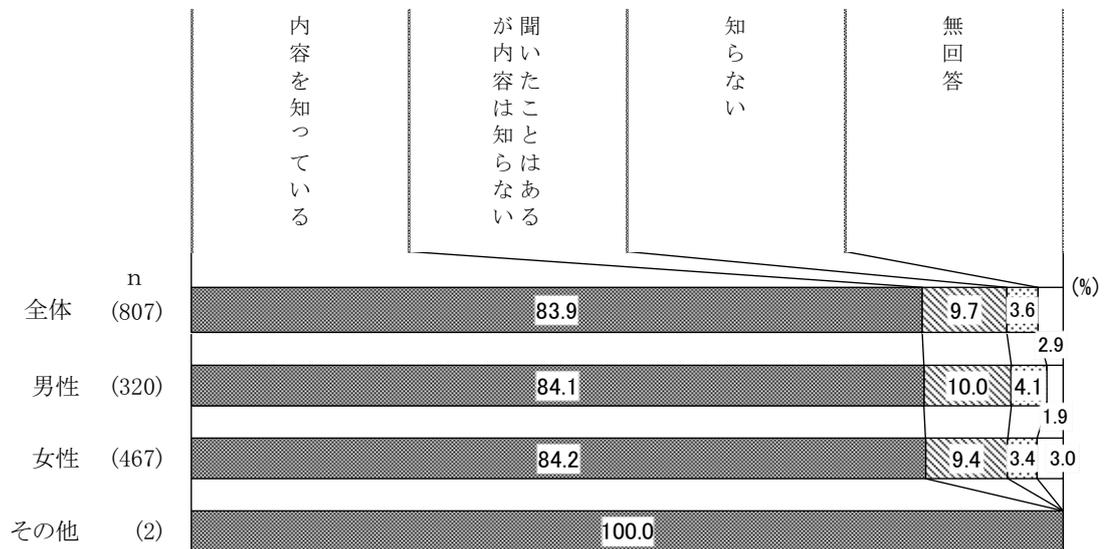


第2章 調査結果の詳細

(2-3) セクシュアル・ハラスメント

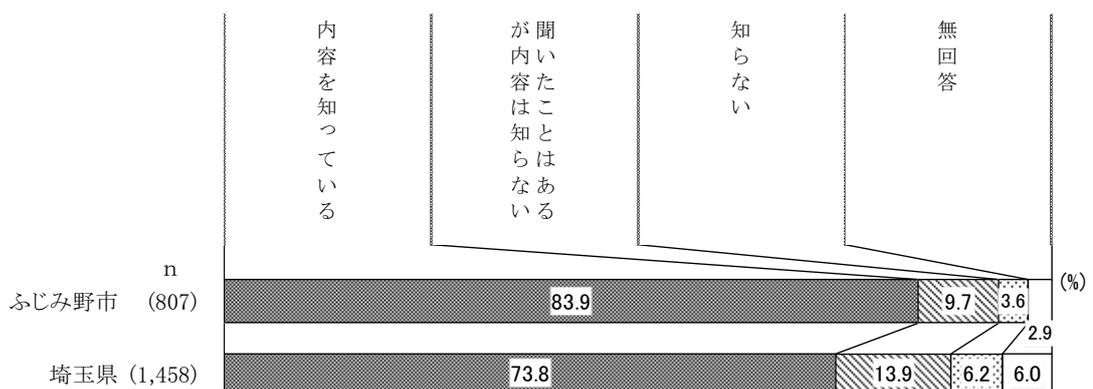
【性別】

性別でみると、「内容を知っている」は男性、女性とも違いはなく8割台半ばと多くなっている。



【県との比較】

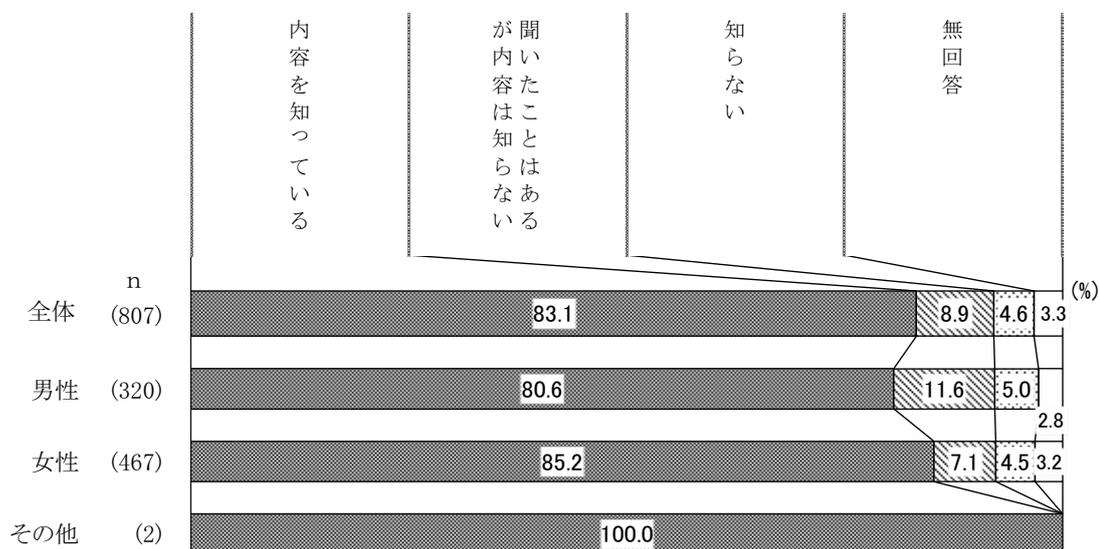
埼玉県の調査（平成27年度）と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が10.1ポイント高くなっている。



(2-4) DV (ドメスティック・バイオレンス)

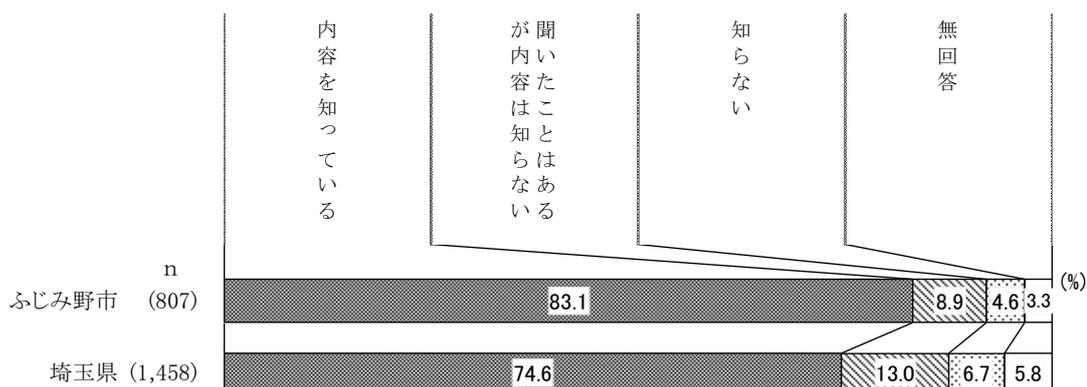
【性別】

性別でみると、「内容を知っている」は女性が85.2%、男性は80.6%で、女性の方が男性より4.6ポイント多くなっている。



【県との比較】

埼玉県との調査（平成27年度）と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が8.5ポイント高くなっている。

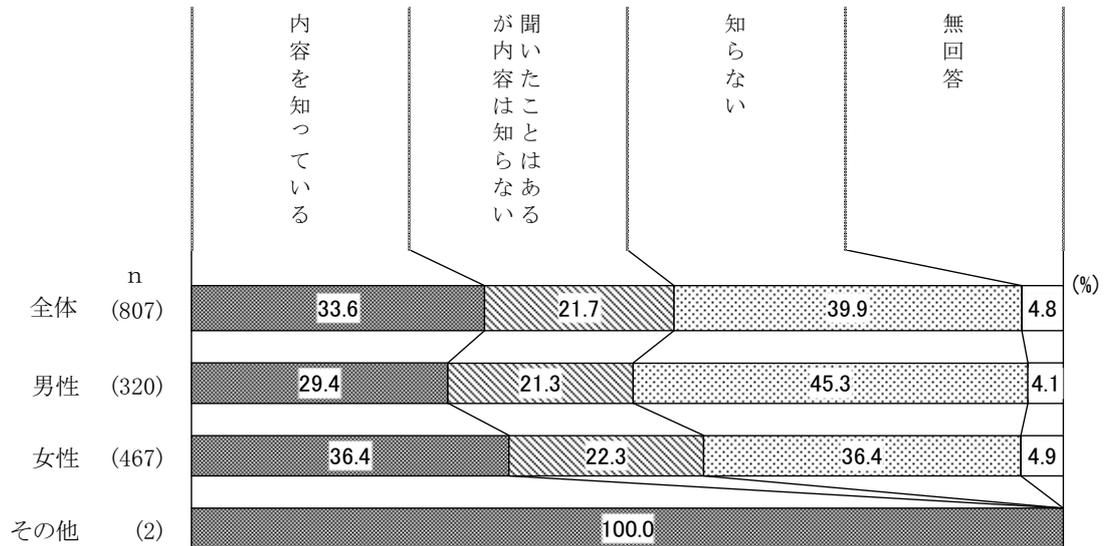


第2章 調査結果の詳細

(2-5) デートDV

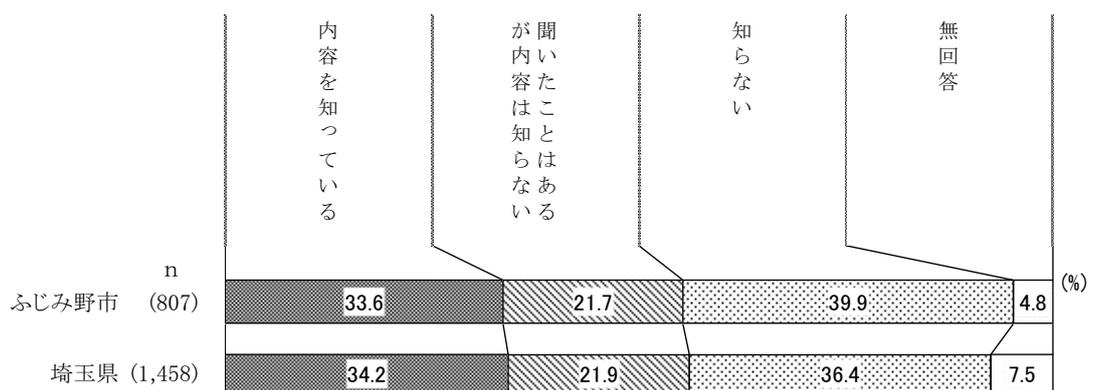
【性別】

性別でみると、「内容を知っている」は女性が36.4%、男性は29.4%で女性の方が7.0ポイント多くなっている。一方、「知らない」は男性が45.3%、女性は36.4%で男性の方が8.9ポイント多くなっている。



【県との比較】

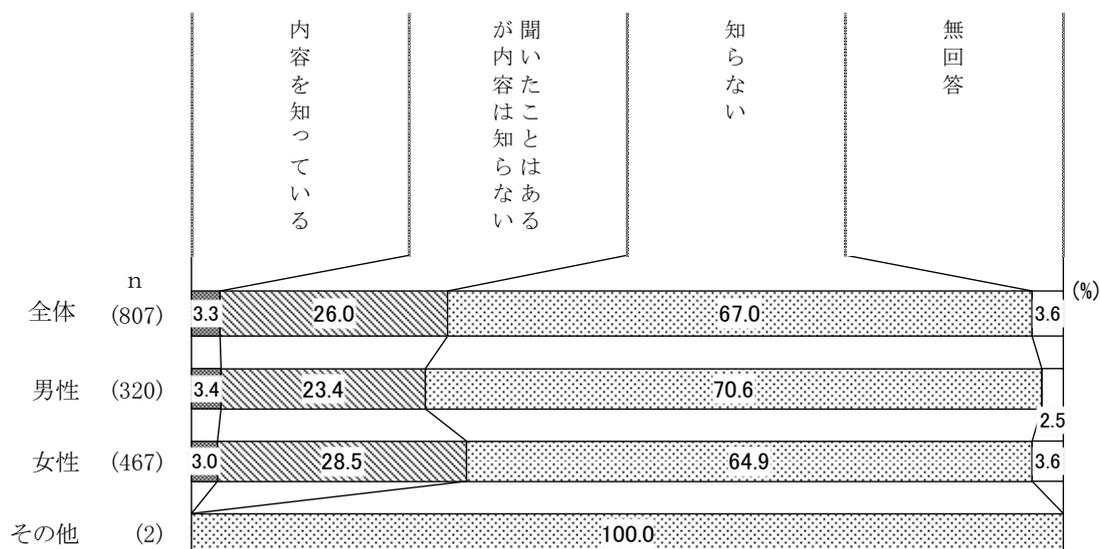
埼玉県の調査（平成27年度）と比較すると、「知らない」はふじみ野市の方が3.5ポイント高くなっている。



(2-6) ふじみ野市男女共同参画推進条例

【性別】

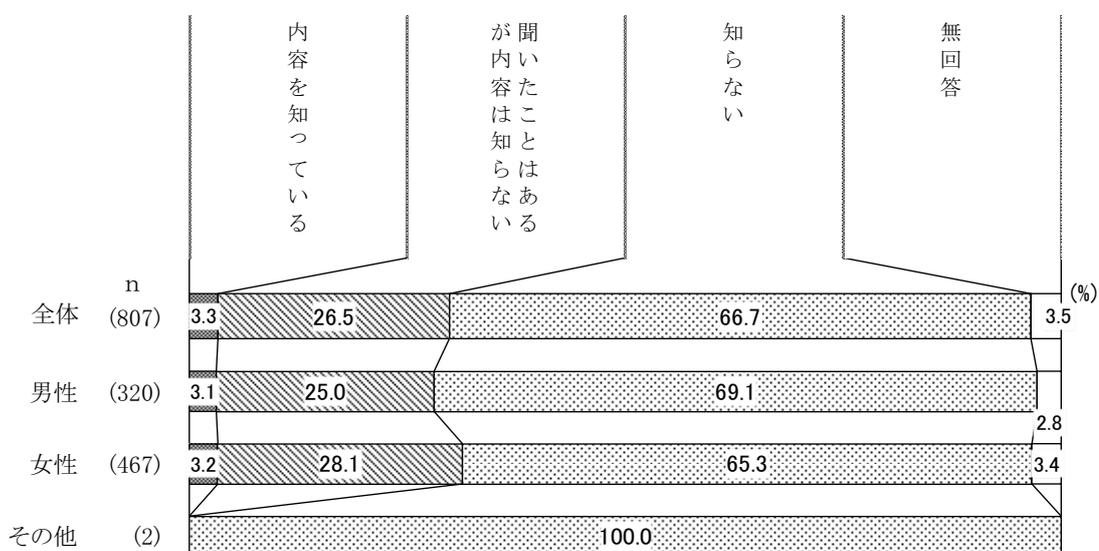
性別でみると、「聞いたことはあるが内容は知らない」は女性が28.5%、男性は23.4%で女性の方が5.1ポイント多くなっている。一方、「知らない」は男性が70.6%、女性は64.9%で男性の方が5.7ポイント多くなっている。



(2-7) ふじみ野市男女共同参画基本計画

【性別】

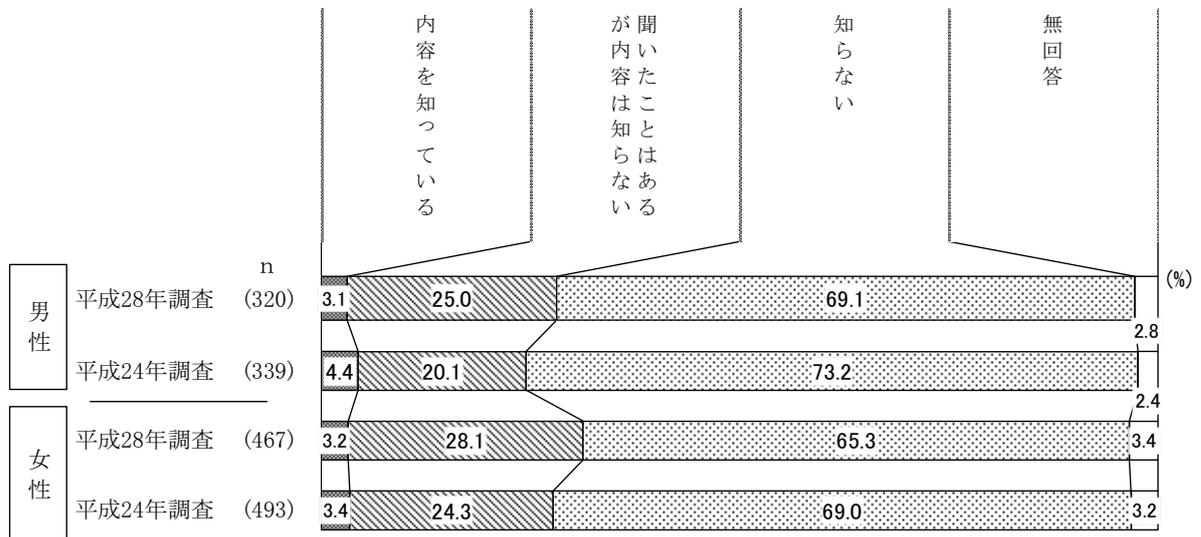
性別でみると、「聞いたことはあるが内容は知らない」は女性が28.1%、男性は25.0%で女性の方が3.1ポイント多くなっている。一方、「知らない」は男性が69.1%、女性は65.3%で男性の方が3.8ポイント多くなっている。



第2章 調査結果の詳細

【経年変化・性別】

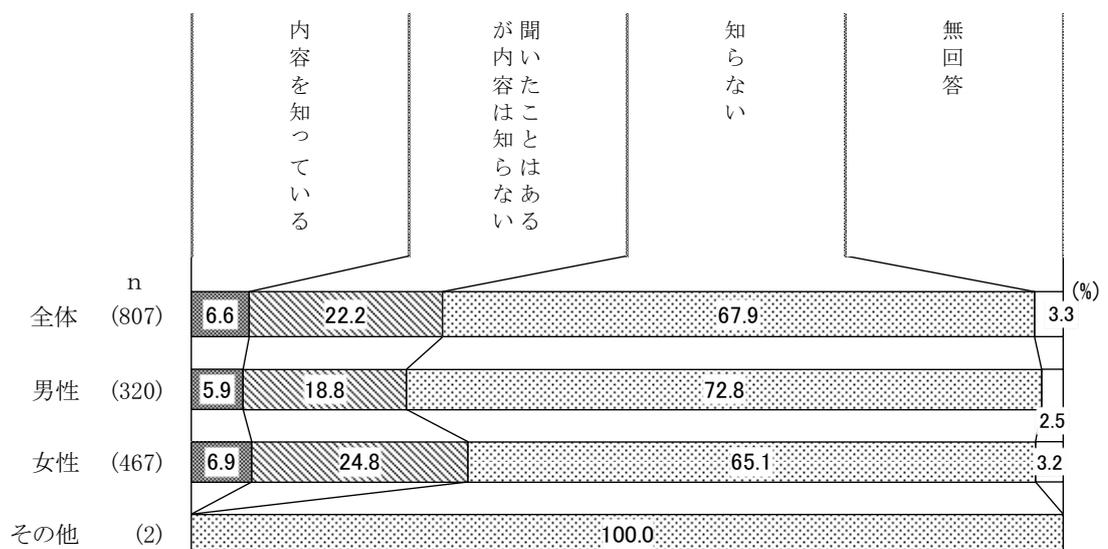
経年変化を性別でみると、「聞いたことはあるが内容は知らない」は前回調査より男性では4.9ポイント増加し、女性では3.8ポイント増加している。



(2-8) ふじみ野市配偶者暴力相談支援センター

【性別】

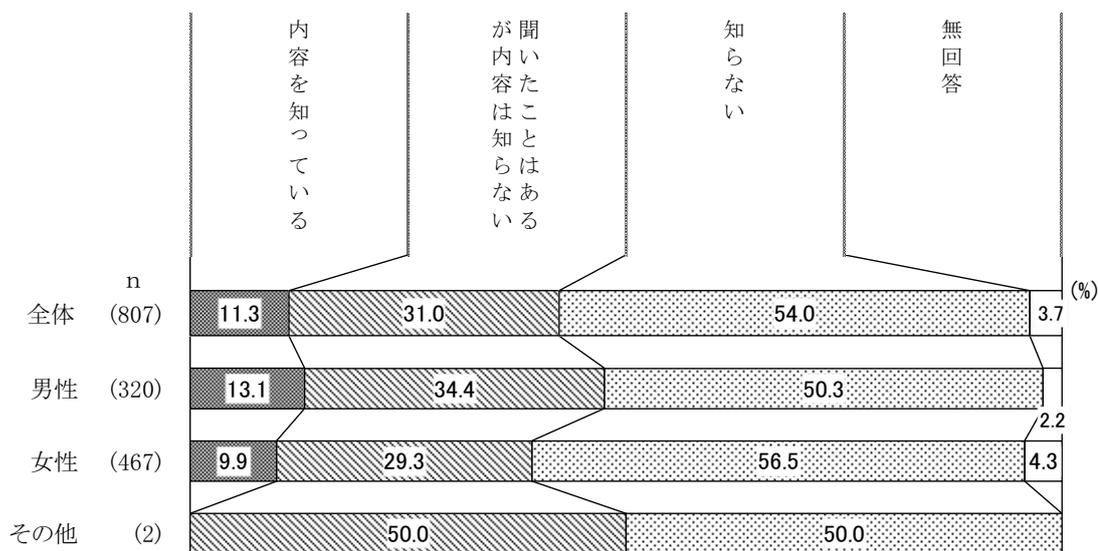
性別でみると、「聞いたことはあるが内容は知らない」は女性が24.8%、男性は18.8%で女性の方が6.0ポイント多くなっている。一方、「知らない」は男性が72.8%、女性は65.1%で男性の方が7.7ポイント多くなっている。



(2-9) 男女共同参画社会基本法

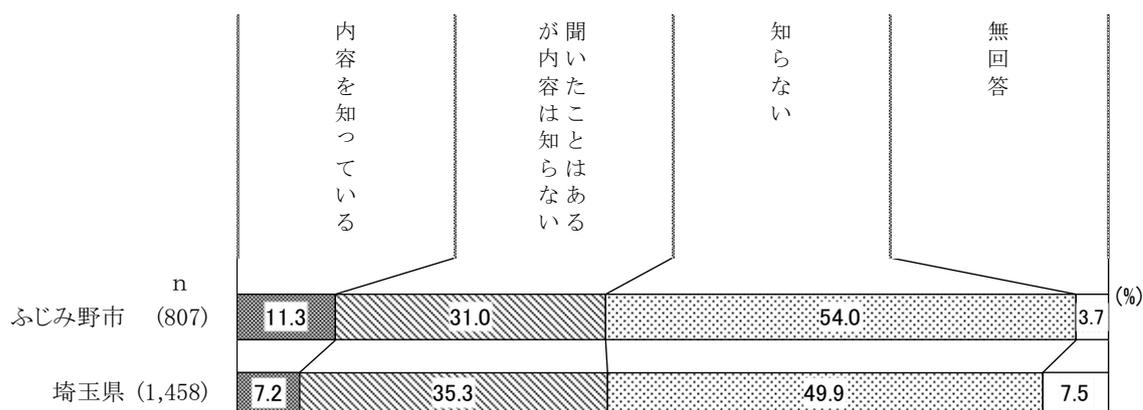
【性別】

性別でみると、「聞いたことはあるが内容は知らない」は男性が34.4%、女性は29.3%で男性の方が5.1ポイント多くなっている。一方、「知らない」は女性が56.5%、男性は50.3%で女性の方が6.2ポイント多くなっている。



【県との比較】

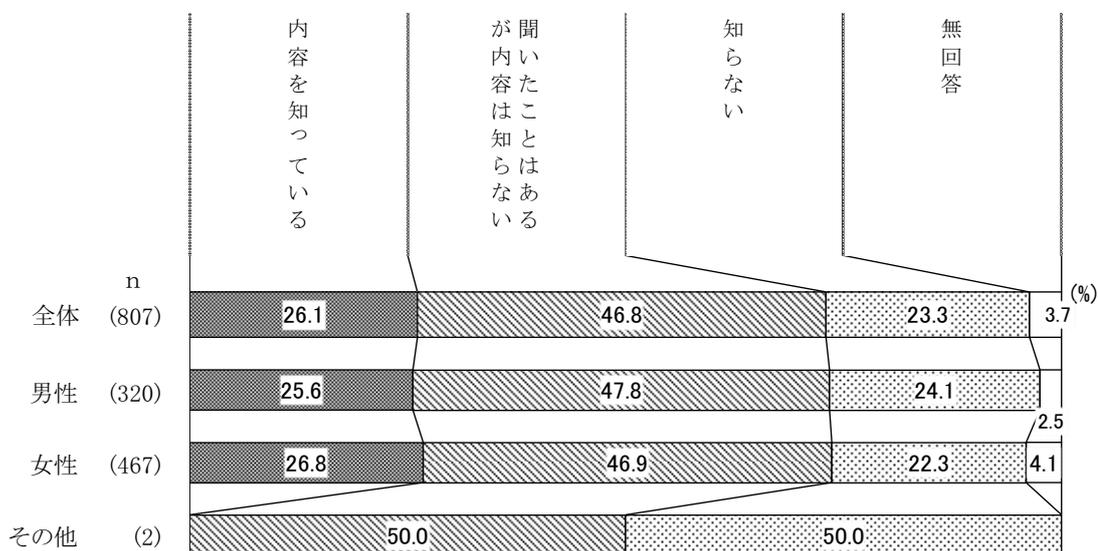
埼玉県との調査（平成27年度）と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が4.1ポイント高く、「知らない」はふじみ野市の方が4.1ポイント高くなっている。



(2-10) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

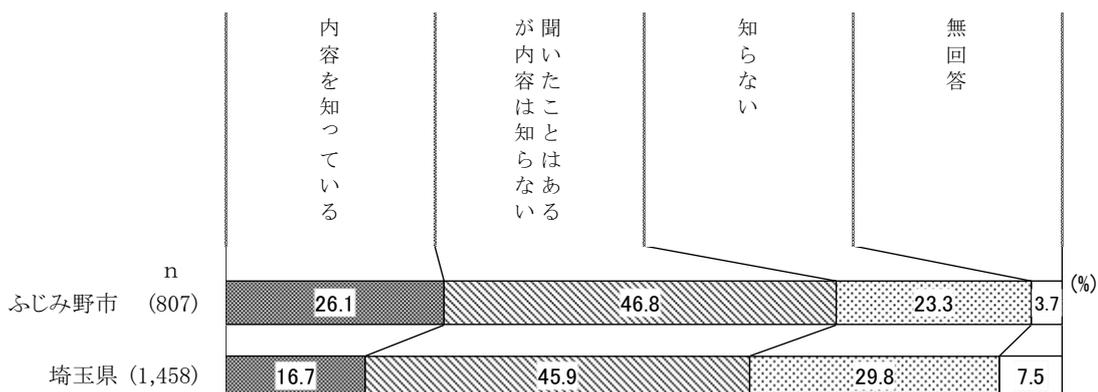
【性別】

性別でみると、「内容を知っている」は男性、女性2割台半ば、「聞いたことはあるが内容は知らない」は男性と女性で大きな違いはなく、4割台半ばから5割弱となっている



【県との比較】

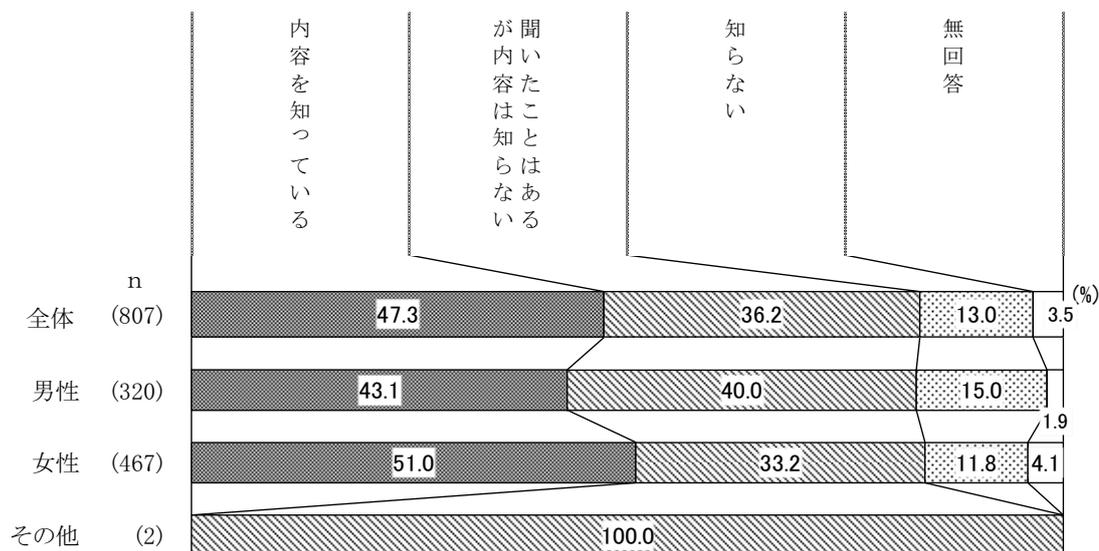
埼玉県の調査（平成27年度）と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が9.4ポイント高くなっている。



(2-11) 育児・介護休業法

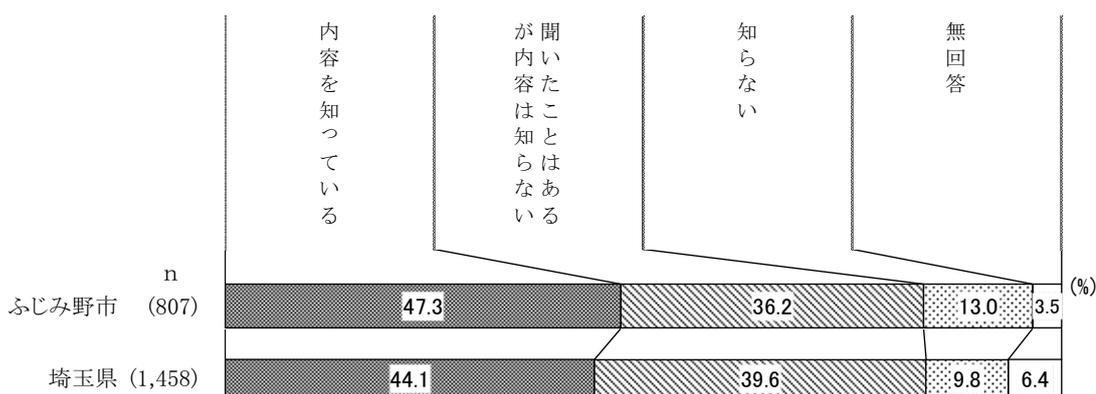
【性別】

性別でみると、「内容を知っている」は女性が51.0%、男性は43.1%で女性の方が7.9ポイント多くなっている。「聞いたことはあるが内容は知らない」は男性が40.0%、女性は33.2%で男性の方が6.8ポイント多くなっている。



【県との比較】

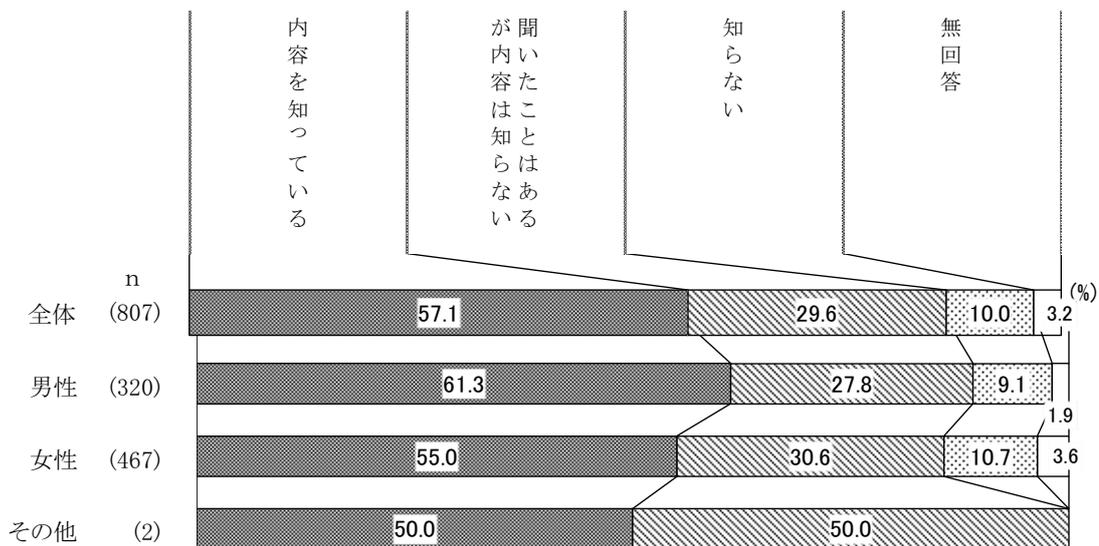
埼玉県との調査（平成27年度）と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が3.2ポイント高くなっている。



(2-12) 男女雇用機会均等法

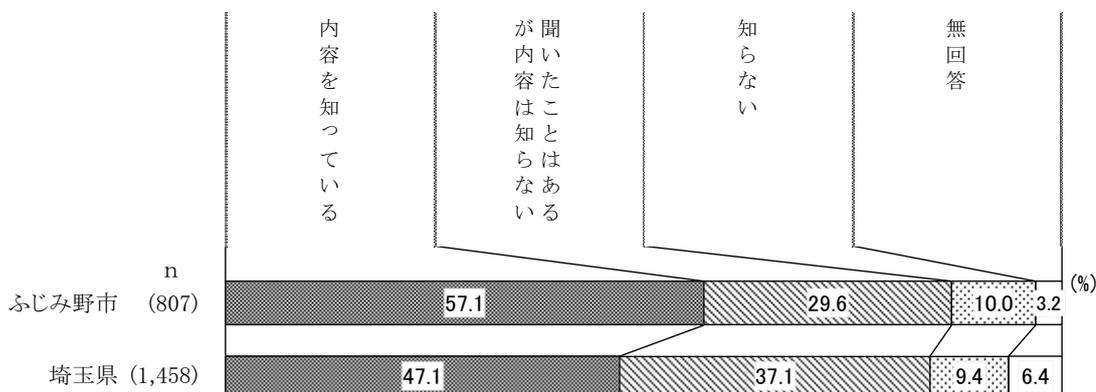
【性別】

性別でみると、「内容を知っている」は男性が61.3%、女性は55.0%で男性の方が6.3ポイント多くなっている。「聞いたことはあるが内容は知らない」は女性が30.6%、男性は27.8%で女性の方が2.8ポイント多くなっている。



【県との比較】

埼玉県の調査（平成27年度）と比較すると、「内容を知っている」はふじみ野市の方が10.0ポイント高くなっている。



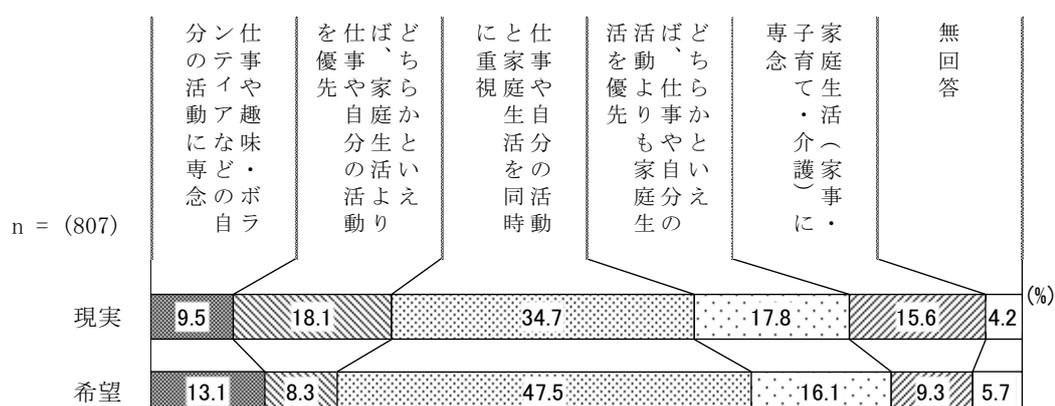
3. 家庭生活・子育て・介護について

(1) 家庭生活での優先項目

問9 家庭生活（家事・子育て・介護）について、あなたは「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。（それぞれの項目について1つに○）

家庭生活の優先項目について現実では、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」（34.7%）が最も高く、次いで、「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先」（18.1）、「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」（17.8）、「家庭生活（家事・子育て・介護）に専念」（15.6）の順となっている。

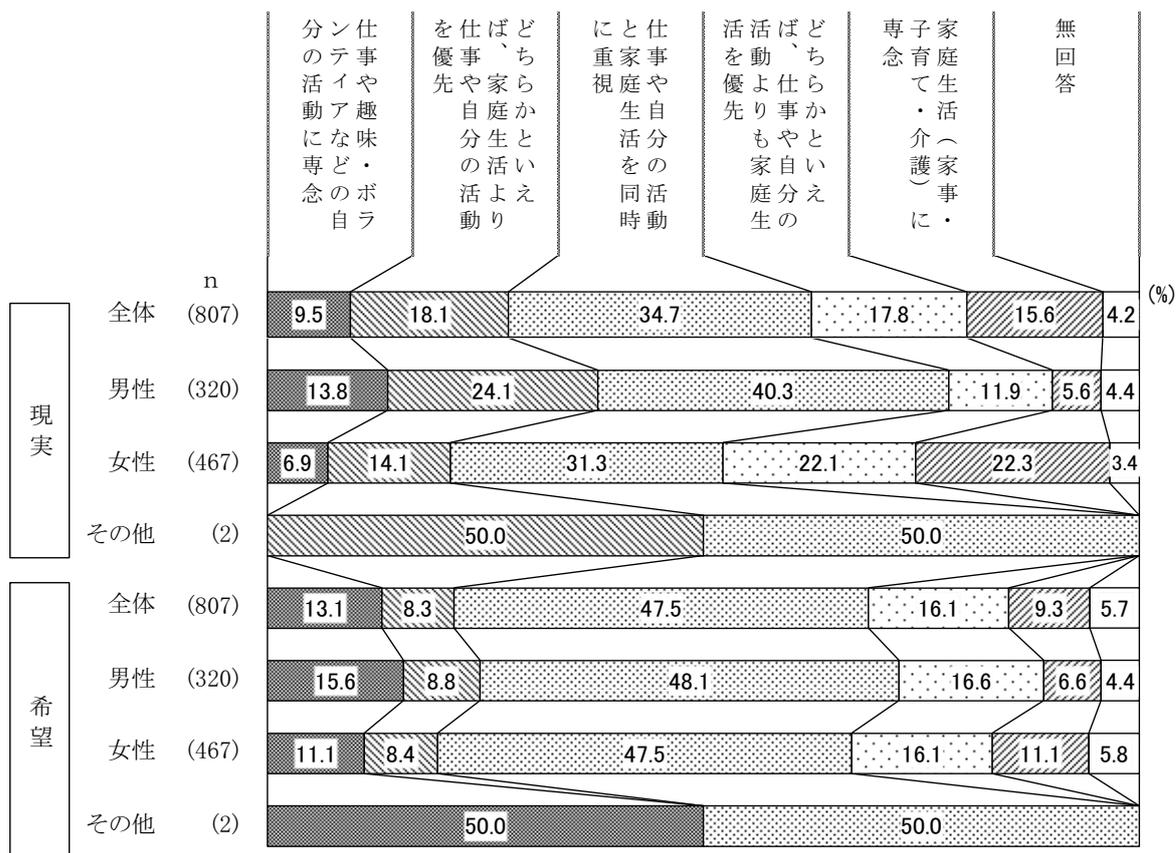
家庭生活の優先度について希望では、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」（47.5）が最も高く、現実で重視している割合よりも12.8ポイント高くなっている。一方、「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先」（8.3）や「家庭生活（家事・子育て・介護）に専念」（9.3）は現実の割合よりも低くなっている。



【性別】

性別でみると、現実では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」は男性が40.3%、女性では31.3%で、男性の方が9.0ポイント多く、「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先」は男性が24.1%、女性は14.1%で男性の方が10.0ポイント多くなっている。「家庭生活（家事・子育て・介護）に専念」は女性が22.1%、男性は11.9ポイントで女性の方が男性より10.2ポイント多い。

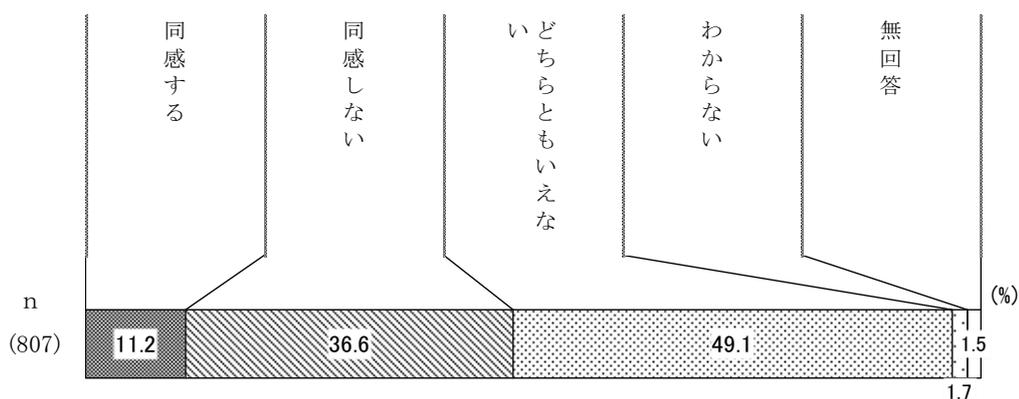
希望では、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が男性、女性とも5割弱と多くなっている。



(2) 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識について

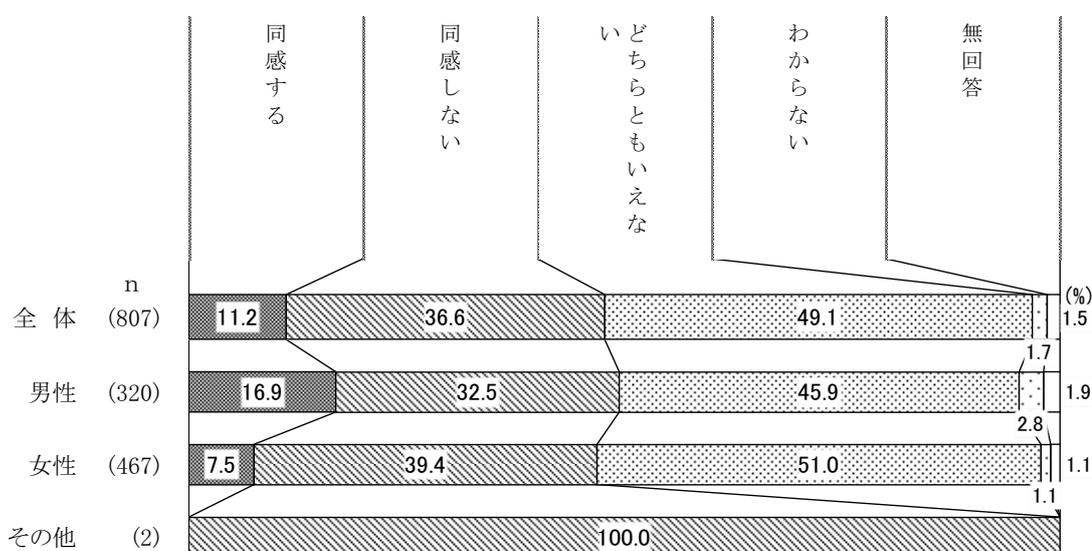
問10 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。
(1つに○)

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識について、「同感しない」(36.6%)が3割台半ば、「どちらともいえない」(49.1%)が約5割、「同感する」(11.2%)が1割強となっている。



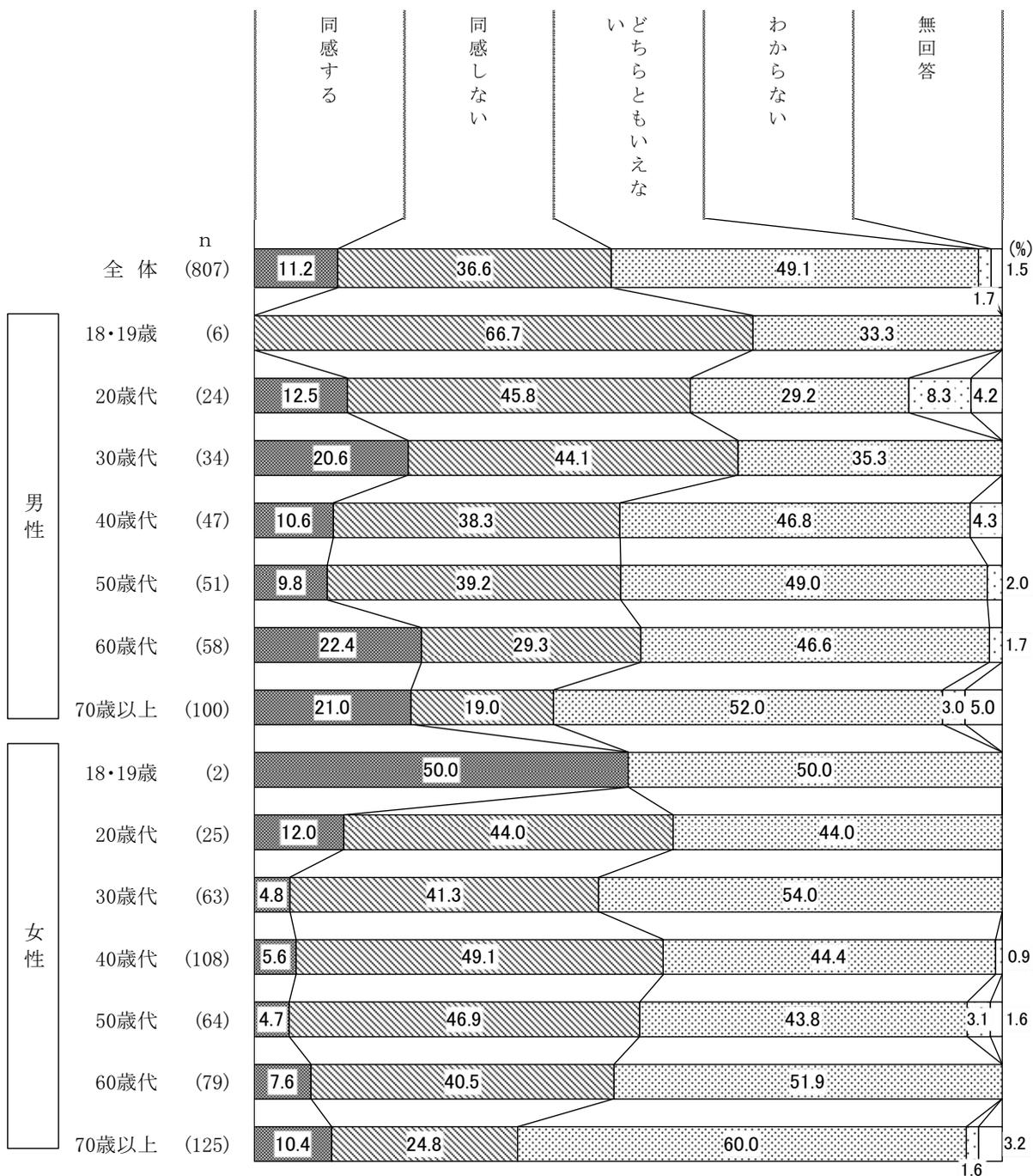
【性別】

性別でみると、「同感しない」は女性が39.4%、男性は32.5%で、女性の方が6.9ポイント多く、「どちらともいえない」は女性が51.0%、男性は45.9%で女性の方が5.1ポイント多くなっている。「同感する」は男性が16.9%、女性は7.5%となっている。



【性・年齢別】

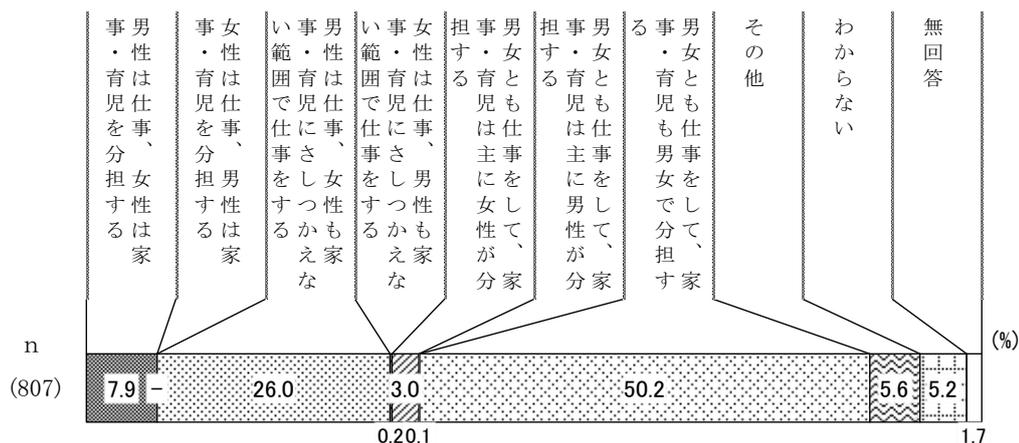
性・年齢別でみると、「同感しない」は男性の30歳代を除くすべての年代で女性の方が男性より多く、女性の40歳代で約5割と多くなっている。「どちらともいえない」は女性の70歳以上で6割、男性の70歳以上で5割強と多くなっている。「同感する」は男性の30歳代、60歳代、70歳以上で2割を超えている。



(3) 男女の役割分担のあるべき状態

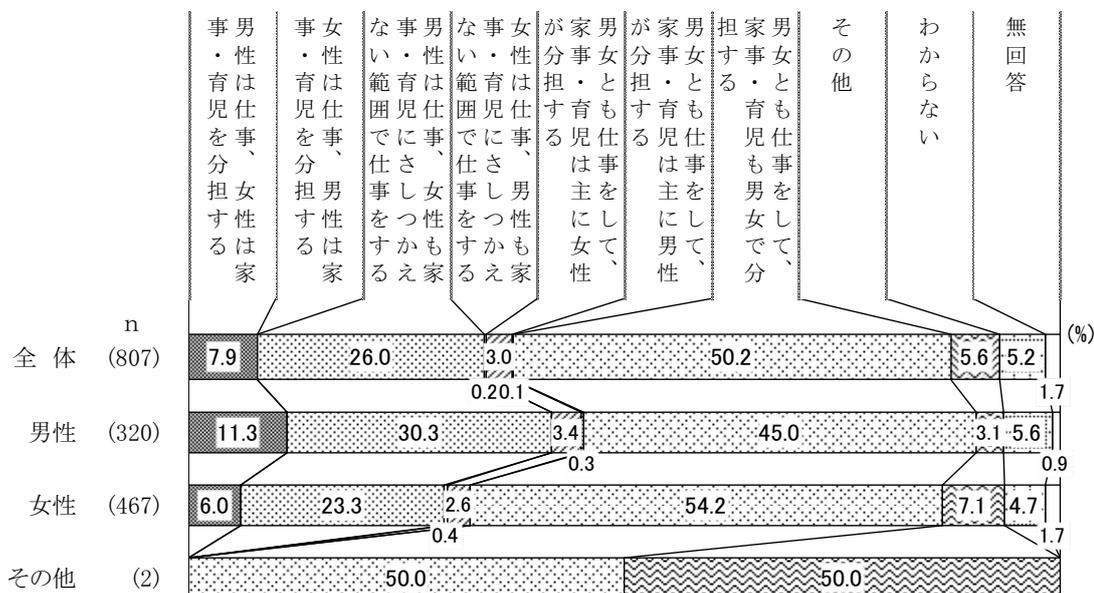
問11 男女の役割分担について、あなたは本来どうあるべきだと思いますか。(1つに○)

男女の役割分担のあるべき状態について、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」(50.2%)が5割、「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」(26.0%)が2割台半ば、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担する」(7.9%)は1割弱となっている。



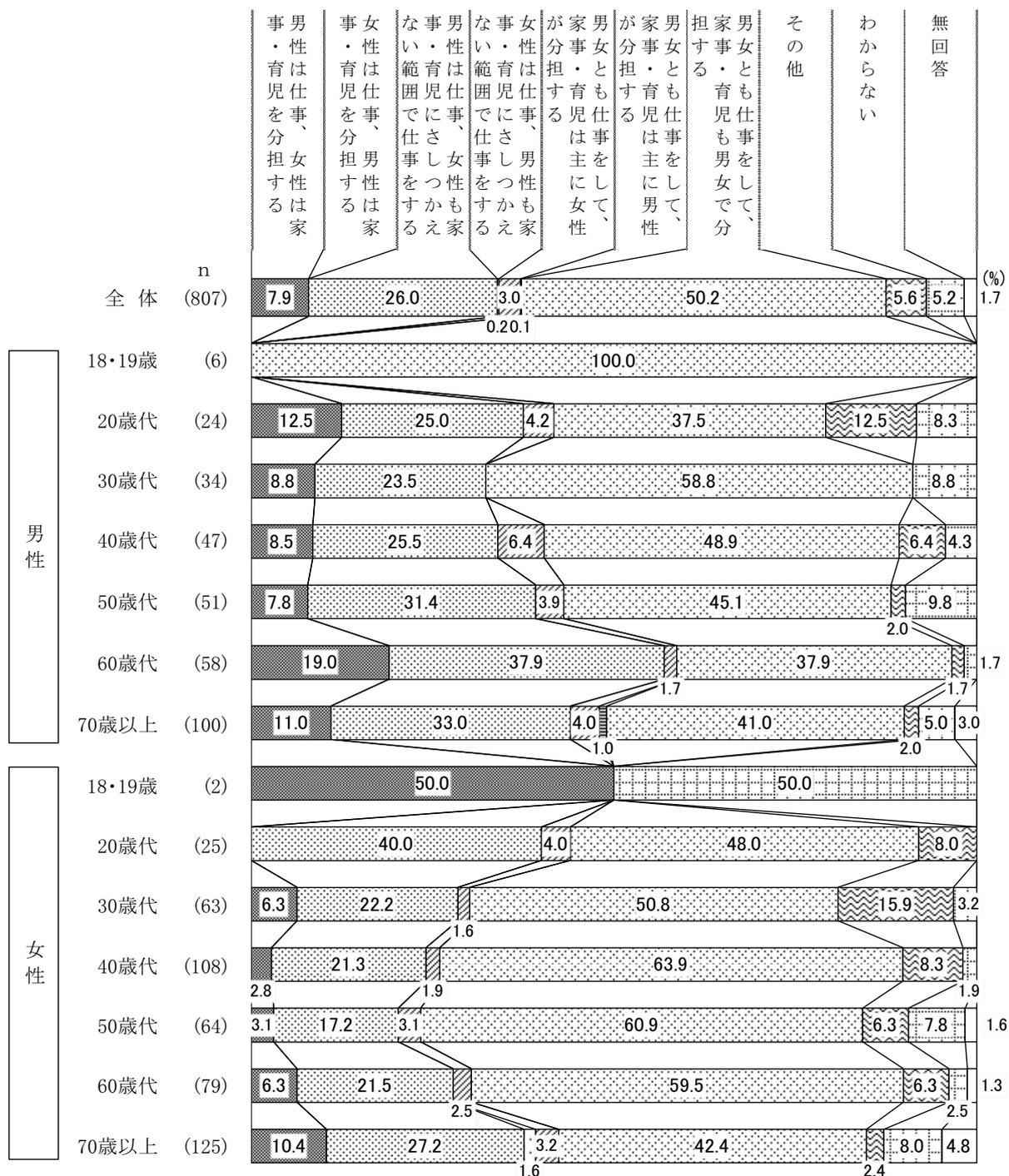
【性別】

性別でみると、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」は女性が54.2%、男性は45.0%で、女性の方が9.2ポイント多く、「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」は男性が30.3%、女性は23.3%で男性の方が7.0ポイント多くなっている。「男性は仕事、女性は家事・育児を分担する」は男性が11.3%、女性は6.0%となっている。



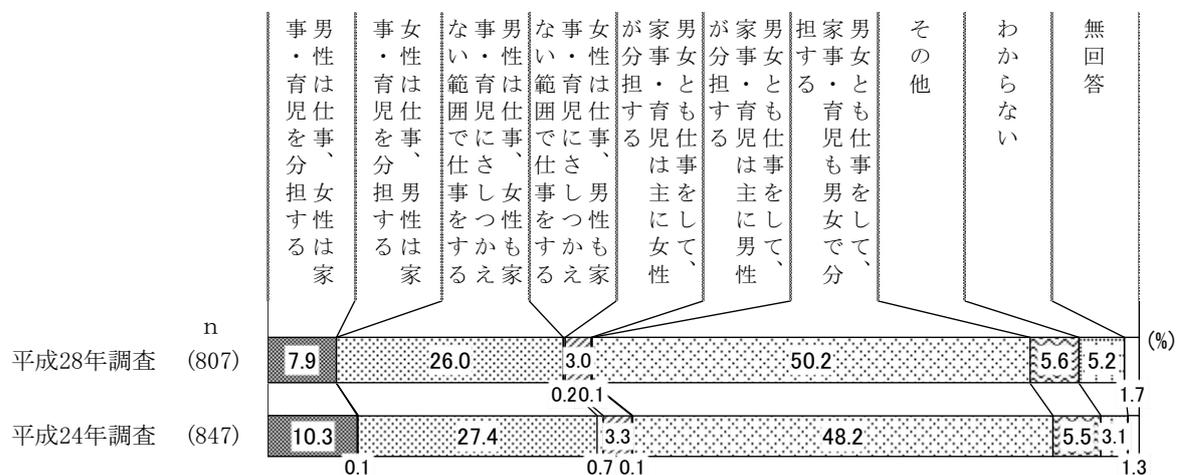
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」は男性の30歳代が約6割、女性の40歳代で6割強と多くなっている。「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」はすべての年代で男性が多く、男性の60歳代では4割弱となっている。「男性は仕事、女性は家事・育児を分担する」は男性の60歳代が約2割と多くなっている。



【経年変化】

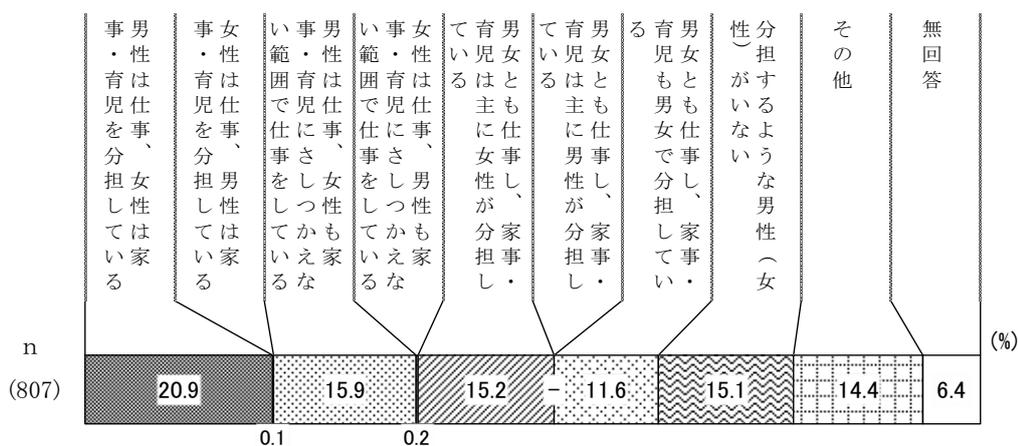
経年変化をみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担する」は2.4ポイント減少し、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」は2.0ポイント増加している。



(4) 家庭での役割

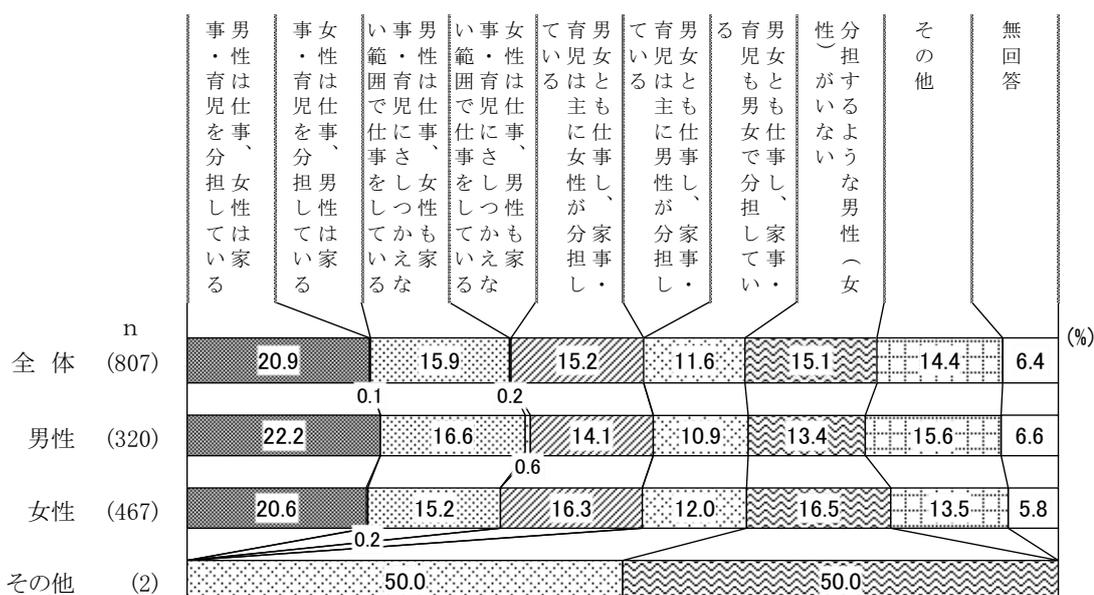
問12 あなたのご家庭での役割はどうなっていますか。(1つに〇)

家庭生活での役割分担は、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」(20.9%)、「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」(15.9%)、「男女とも仕事し、家事・育児は主に女性が分担している」(15.2%)、「男女とも仕事し、家事・育児も男女で分担している」(11.6%)、「男女とも仕事し、家事・育児も男女で分担している」(15.1%)、「男女とも仕事し、家事・育児も男女で分担している」(14.4%)、「その他」(6.4%)の順となっている。



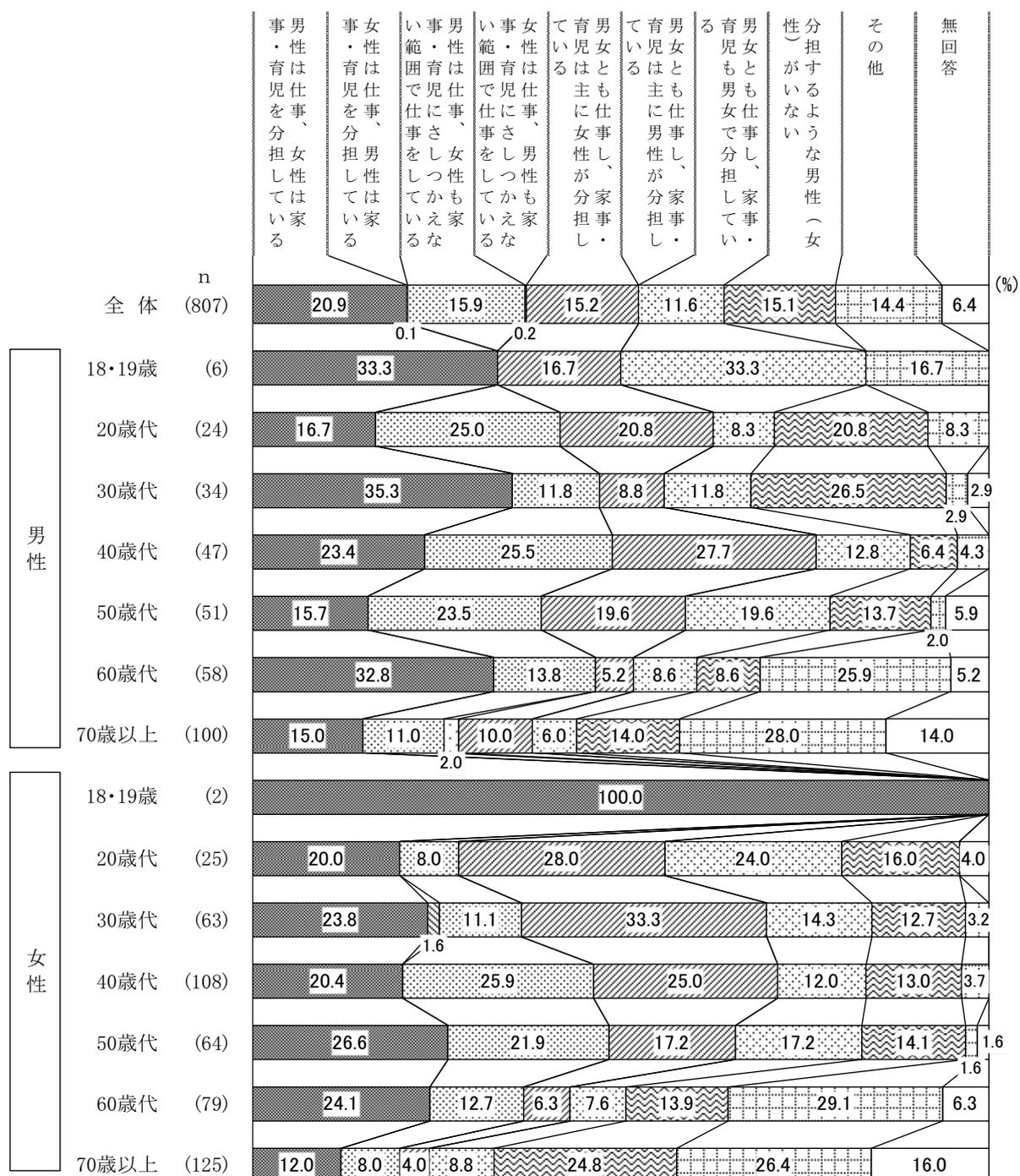
【性別】

性別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」は男性、女性とも2割台、「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」は男性、女性とも1割台半ば、「男女とも仕事し、家事・育児も男女で分担している」は、男性、女性とも1割強となっている。



【性・年齢別】

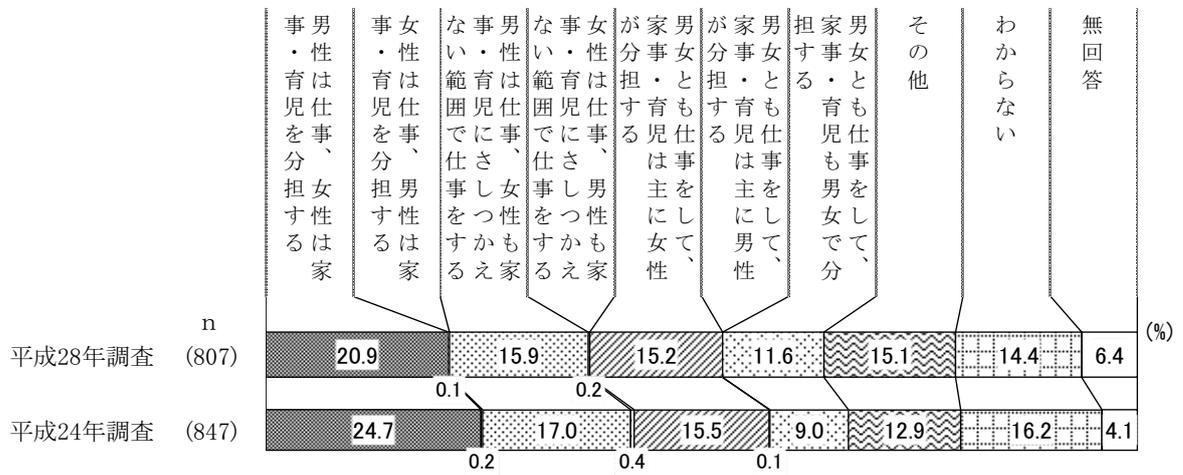
性・年齢別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」は男性の30歳代が3割台半ば、男性の60歳代が3割強、女性では50歳代で2割台半ばとなっている。「男性は仕事、女性も家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」は男性の40歳代と50歳代、女性の40歳代と50歳代で2割台となっている。「男女とも仕事し、家事・育児は主に女性が分担している」は、女性の30歳代で3割強、男性の40歳代で3割弱となっている。



第2章 調査結果の詳細

【経年変化】

経年変化をみると「男性は仕事、女性は家事・育児を分担する」は3.8ポイント減少し、「男女とも仕事をして、家事・育児も男女で分担する」は2.6ポイント増加している。

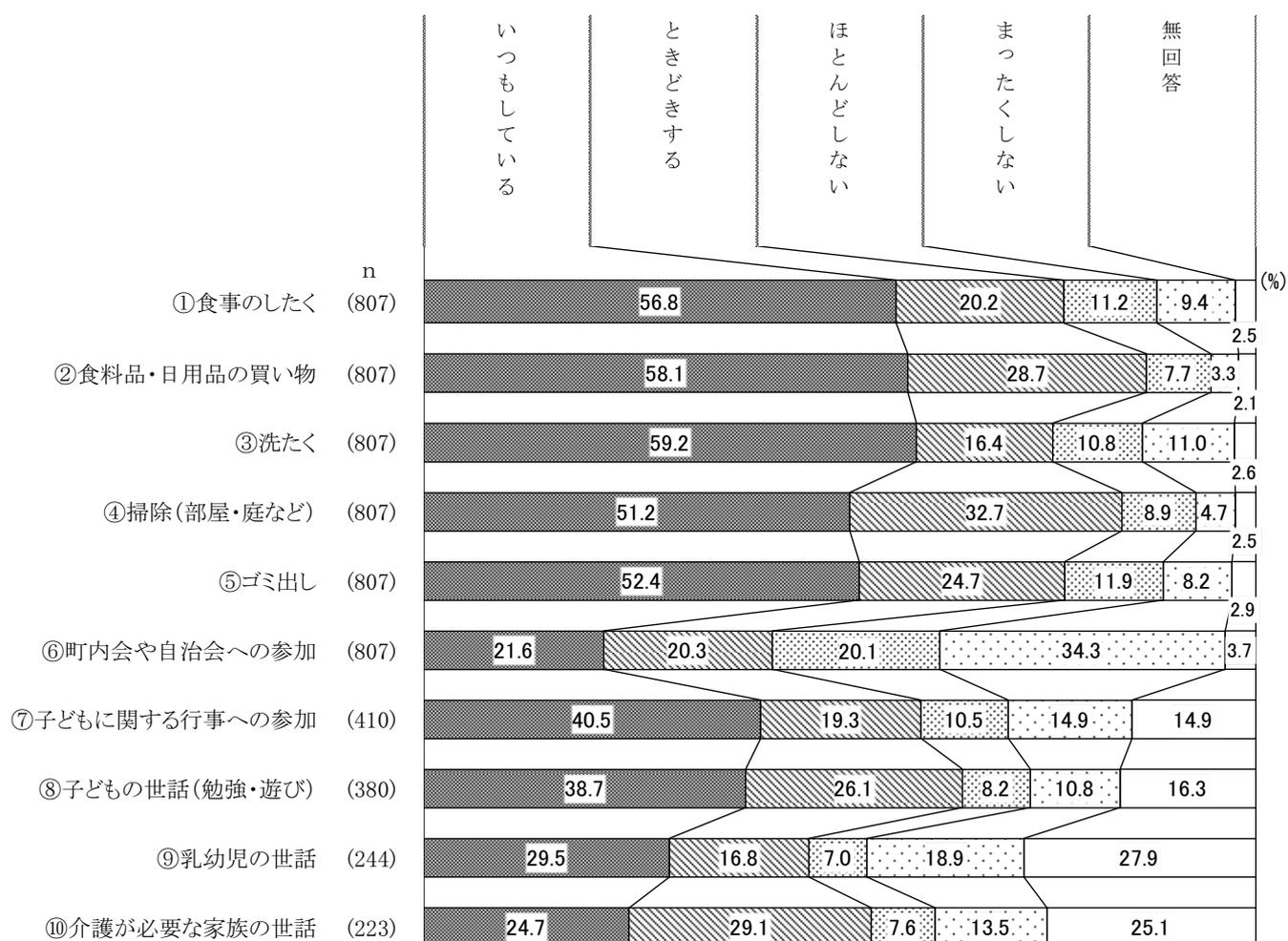


(5) 家事の実施状況

問13 あなたは、次のようなことをどの程度おこなっていますか。
(それぞれの項目について1つに○)

家事等の受け持ち状況は、「いつもしている」が『洗たく』(59.2%)、『食料品・日用品の買い物』(58.1%)、『食事のしたく』(56.8%)、『ゴミ出し』(52.4%)、『掃除(部屋・庭など)』(51.2%)で過半数となっている。

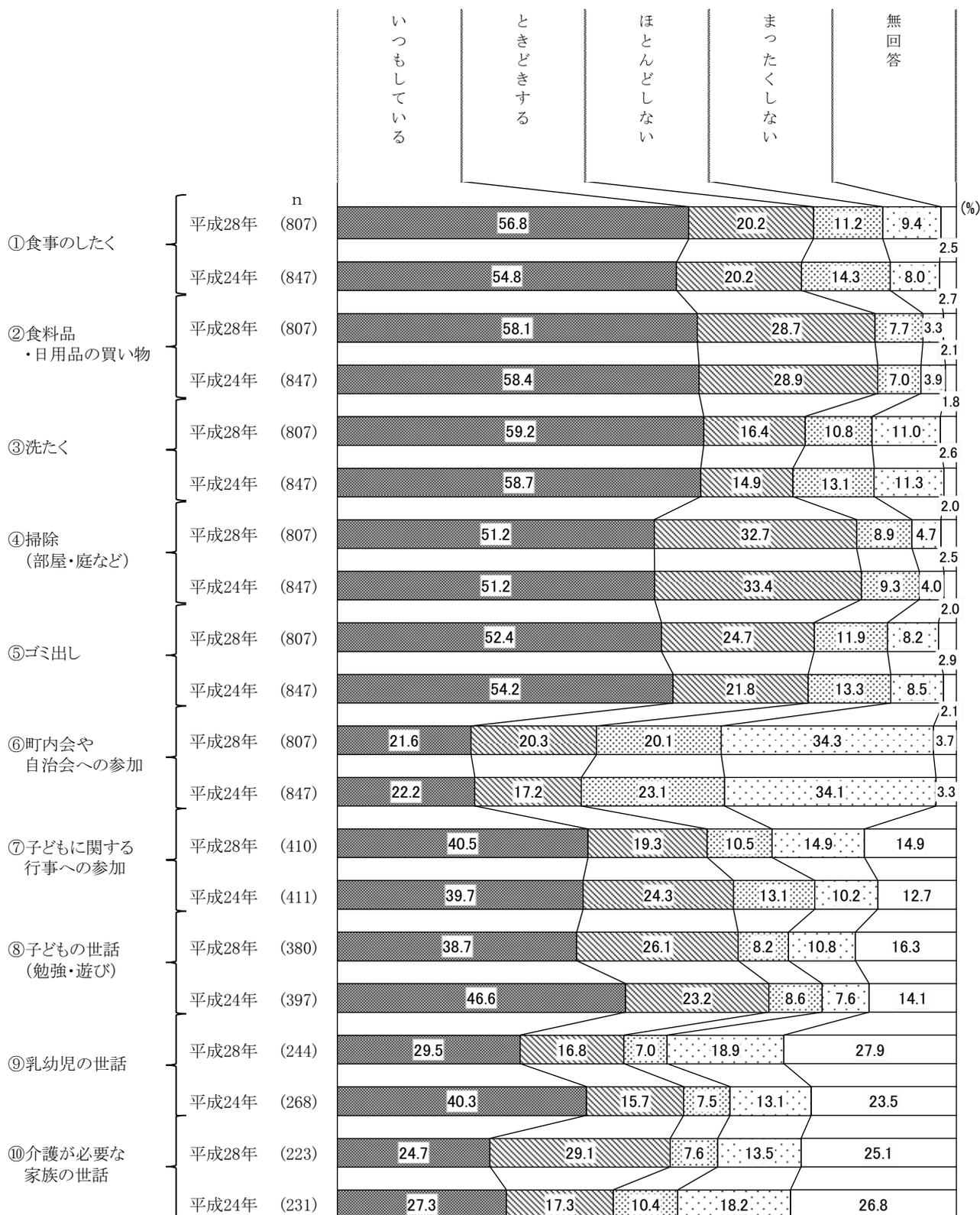
子どもや介護が必要な家族の世話に関することについては、「いつもしている」は『子どもに関する行事への参加』(40.5%)、『子どもの世話(勉強・遊び)』(38.7%)、『乳幼児の世話』(29.5%)、『介護が必要な家族の世話』(24.7%)の順となっている。



※⑦～⑩については「該当しない」の回答者を除いて集計している。

【経年変化】

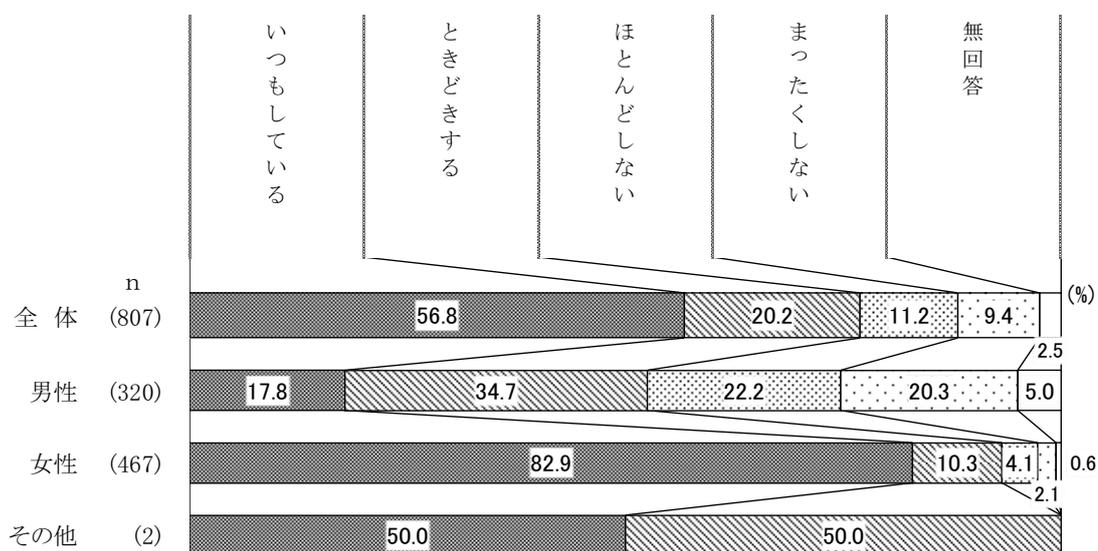
経年変化を見ると「いつもしている」は『乳幼児の世話』で10.8ポイント減少し、『子どもの世話（勉強・遊び）』で7.9ポイント減少している。「ときどきする」は『介護が必要な家族の世話』で11.8ポイント増加している。



(5-1) 食事のしたく

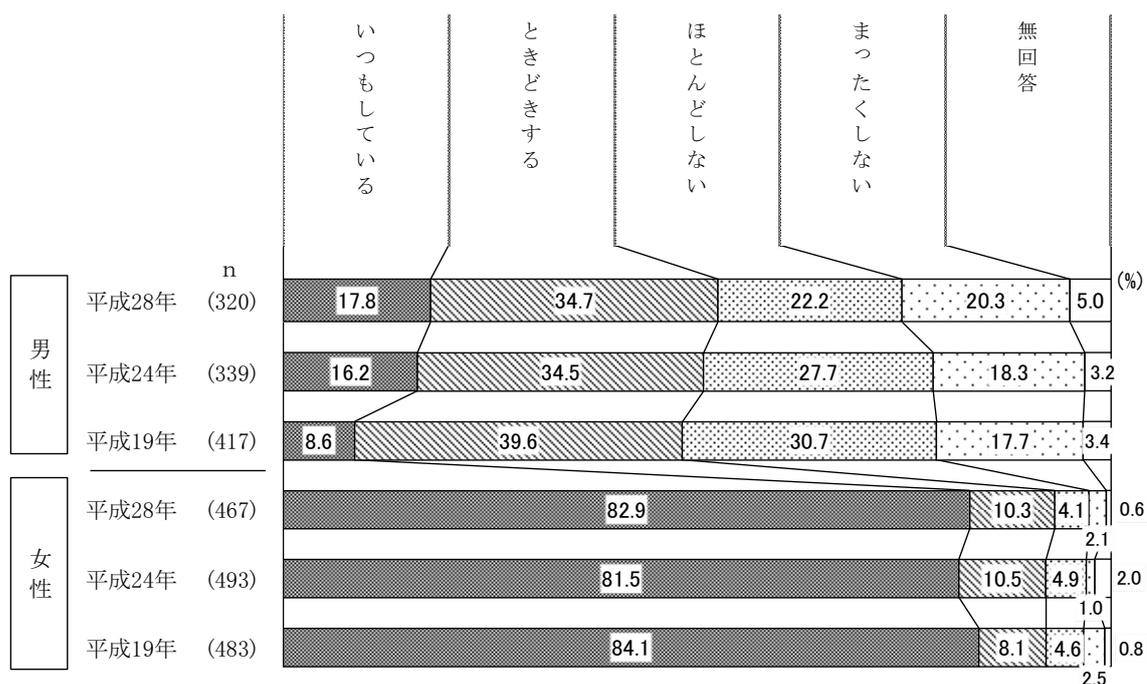
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が82.9%、男性は17.8%で、女性の方が65.1ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が34.7%、「ほとんどしない」は男性が22.2%、「まったくしない」は男性が20.3%で男性の方が多くなっている。



【経年変化・性別】

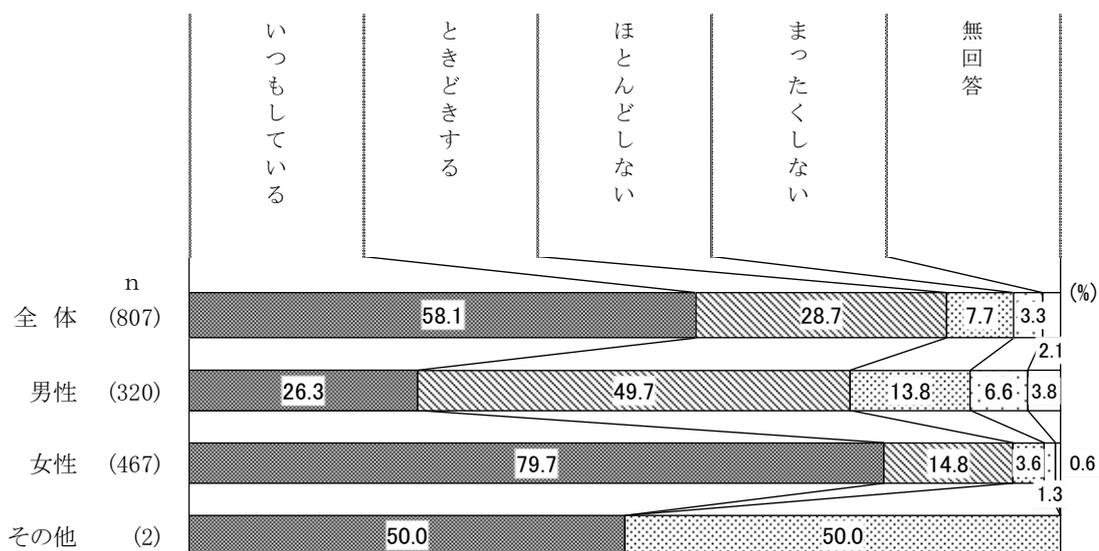
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は平成19年調査から前回調査では男性は7.6ポイント増加したが、前回調査から今回調査では1.6ポイントの増加にとどまっている。女性は平成19年調査から今回調査まで大きな違いはなく、8割強で推移している。「ほとんどしない」は前回調査より男性で5.5ポイント減少している。



(5-2) 食料品・日用品の買い物

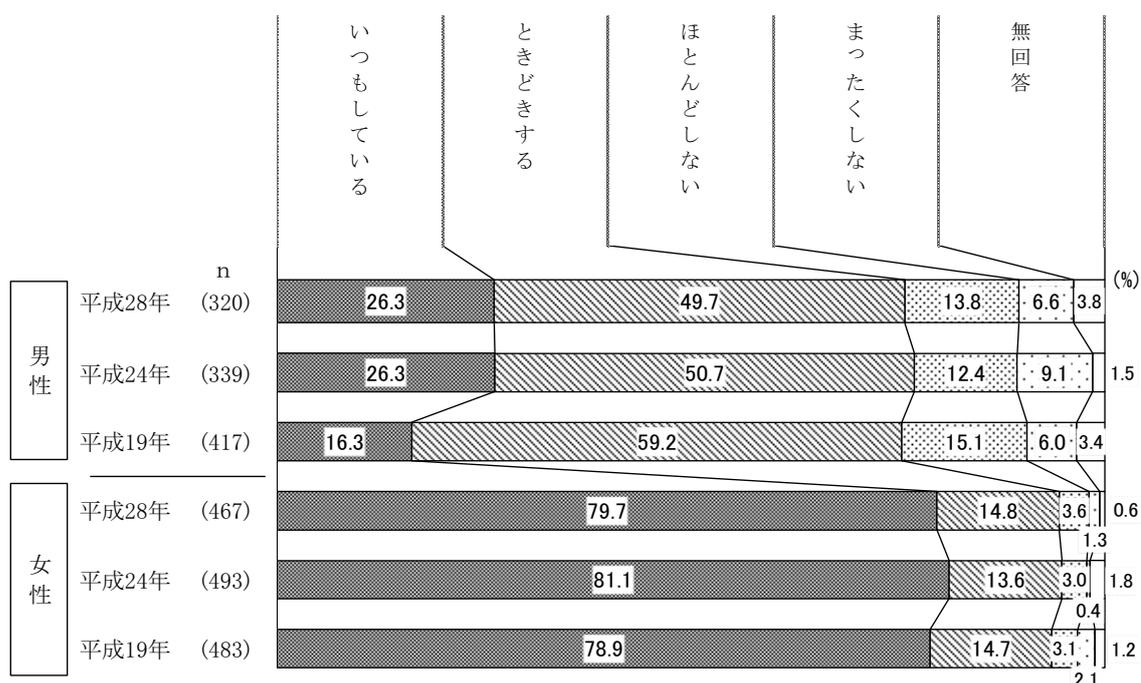
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が79.7%、男性は26.3%で、女性の方が53.4ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が49.7%、「ほとんどしない」は男性が13.8%、「まったくしない」は男性が6.6%で男性の方が多くなっている。



【経年変化・性別】

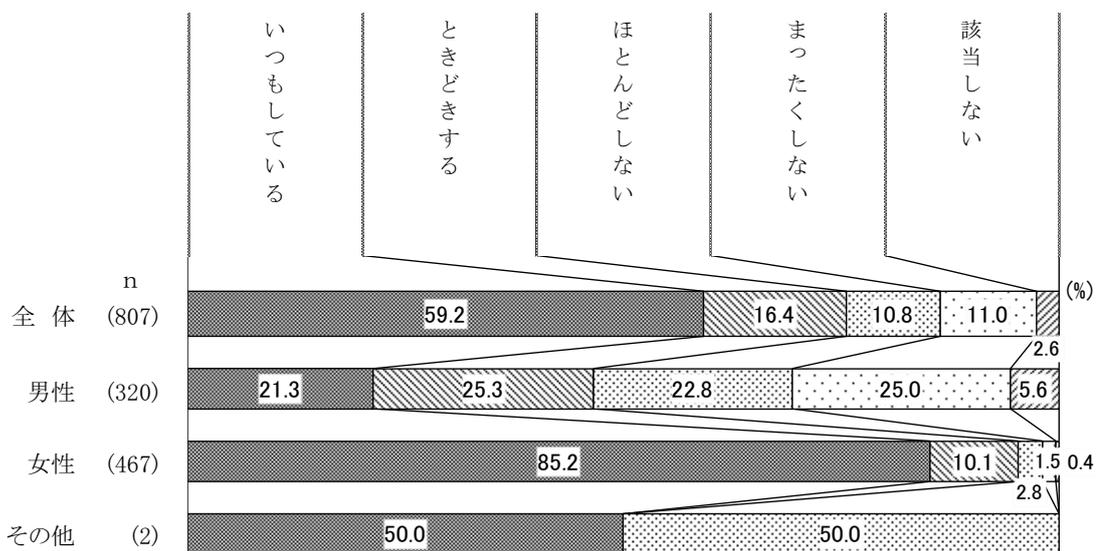
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は平成19年調査から前回調査では男性は10.0ポイント増加したが、前回調査から今回調査では同じ割合となっている。女性は平成19年調査から今回調査まで大きな違いはなく、8割前後で推移している。「まったくしない」は前回調査より男性で2.5ポイント減少している。



(5-3) 洗濯

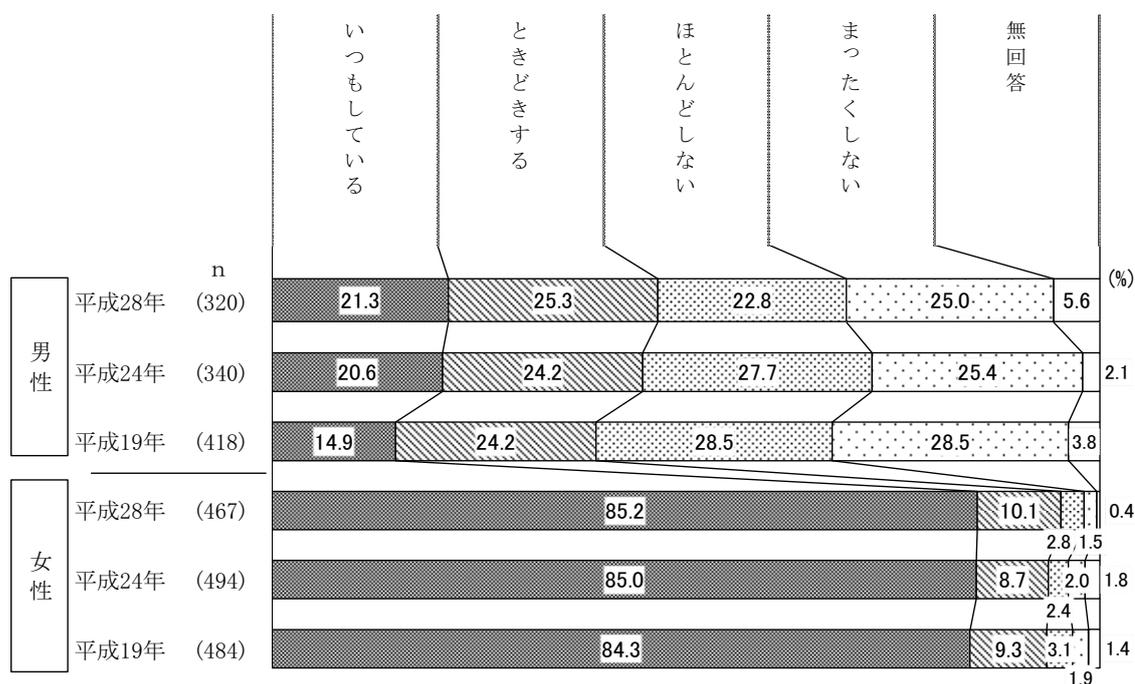
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が85.2%、男性は21.3%で、女性の方が63.9ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が25.3%、「ほとんどしない」は男性が22.8%、「まったくしない」は男性が25.0%で男性の方が多くなっている。



【経年変化・性別】

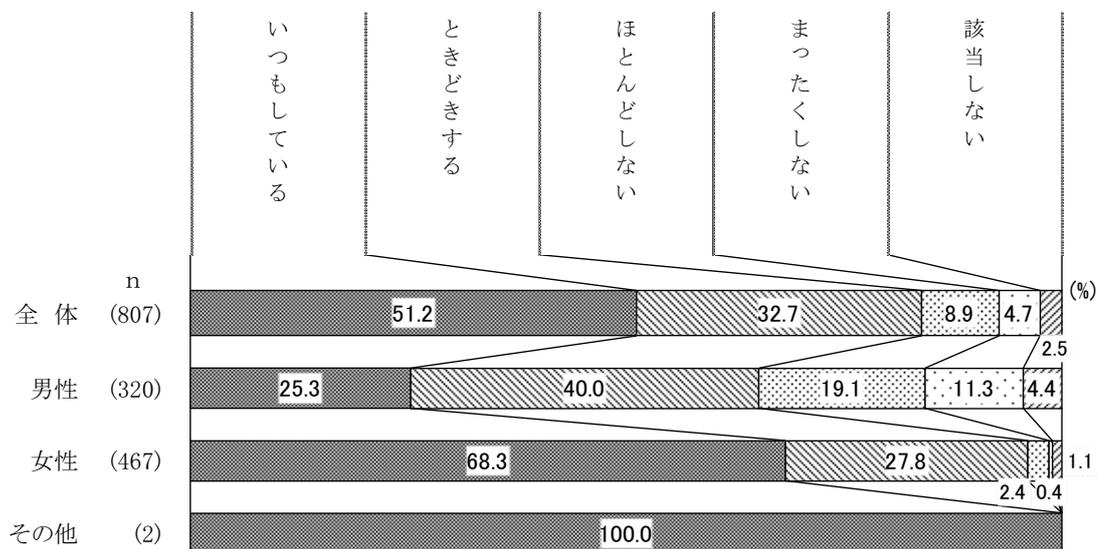
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は平成19年調査から前回調査では男性は5.7ポイント増加したが、前回調査から今回調査では0.7ポイントの増加にとどまっている。女性は平成19年調査から今回調査まで大きな違いはなく8割台半ばで推移している。「ほとんどしない」は前回調査より男性で4.9ポイント減少している。



(5-4) 掃除 (部屋・庭など)

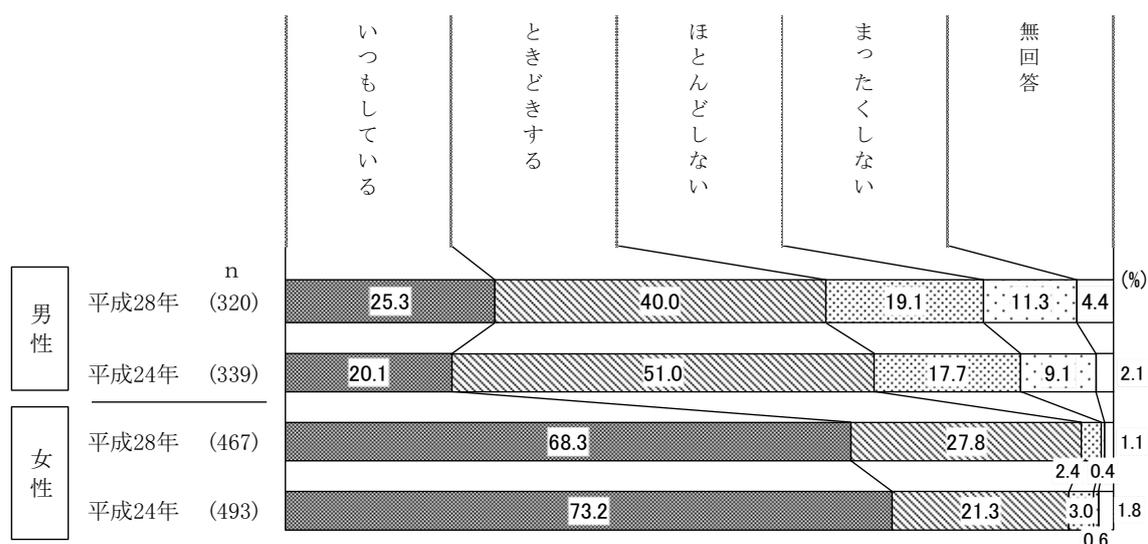
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が68.3%、男性は25.3%で、女性の方が43.0ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が40.0%、女性は27.8%、「ほとんどしない」は男性が19.1%、「まったくしない」は男性が11.3%で男性の方が多くなっている。



【経年変化・性別】

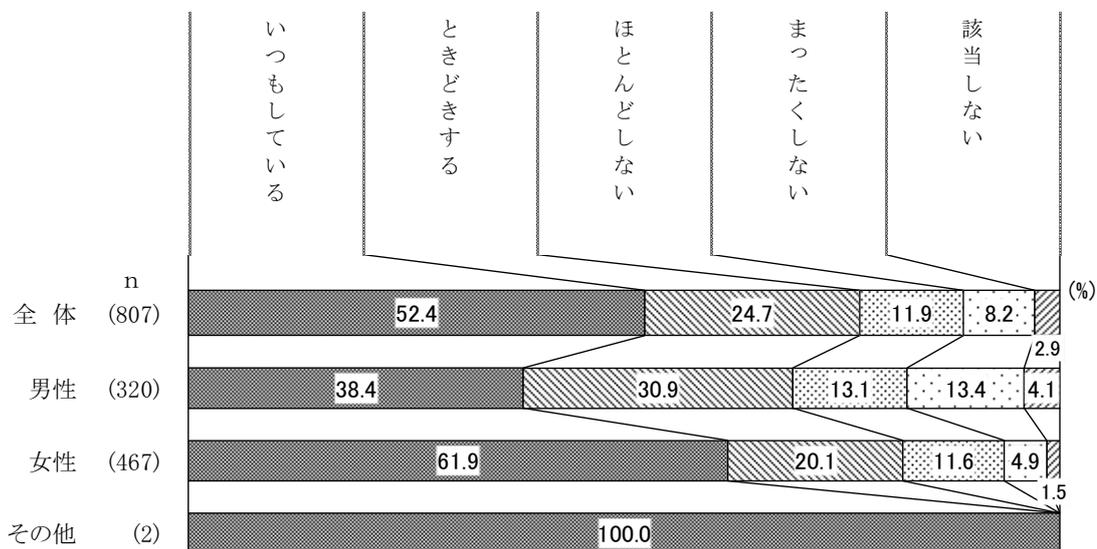
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は男性では5.2ポイント増加したが、女性は4.9ポイント減少している。男性では「まったくしない」は2.2ポイント、「ほとんどしない」は1.4ポイント増加している。



(5-5) ゴミ出し

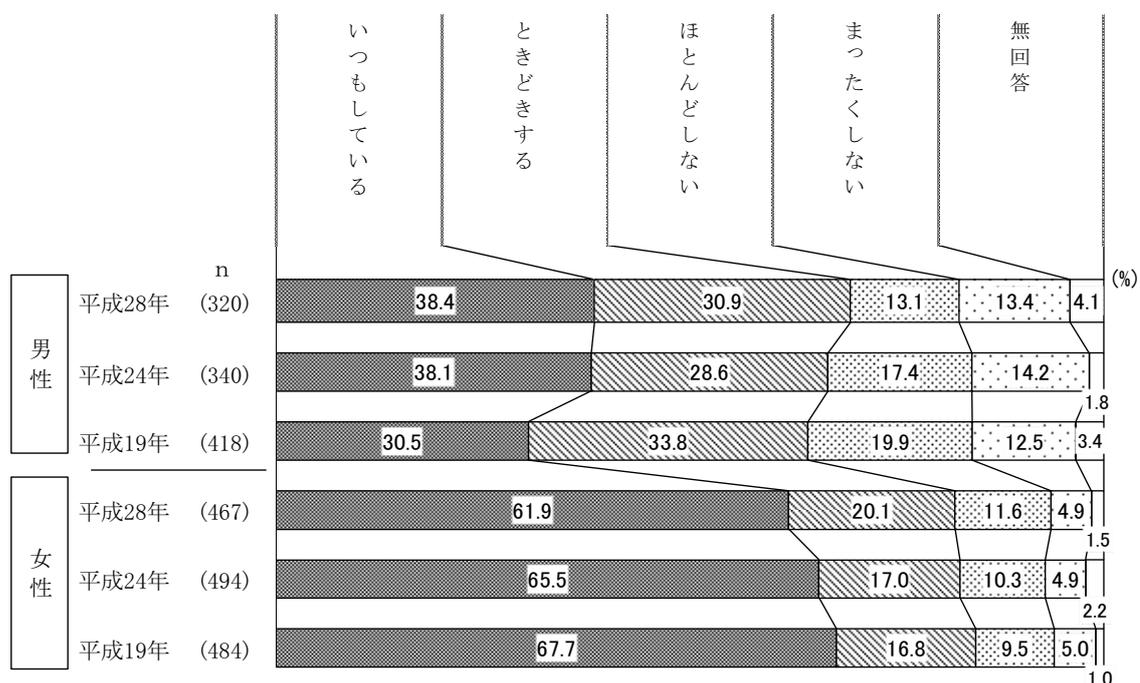
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が61.9%、男性は38.4%で、女性の方が23.5ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が30.9%、女性は20.1%、「ほとんどしない」は男性が13.1%、女性が11.6%、「まったくしない」は男性が13.4%で男性の方が多くなっている。



【経年変化・性別】

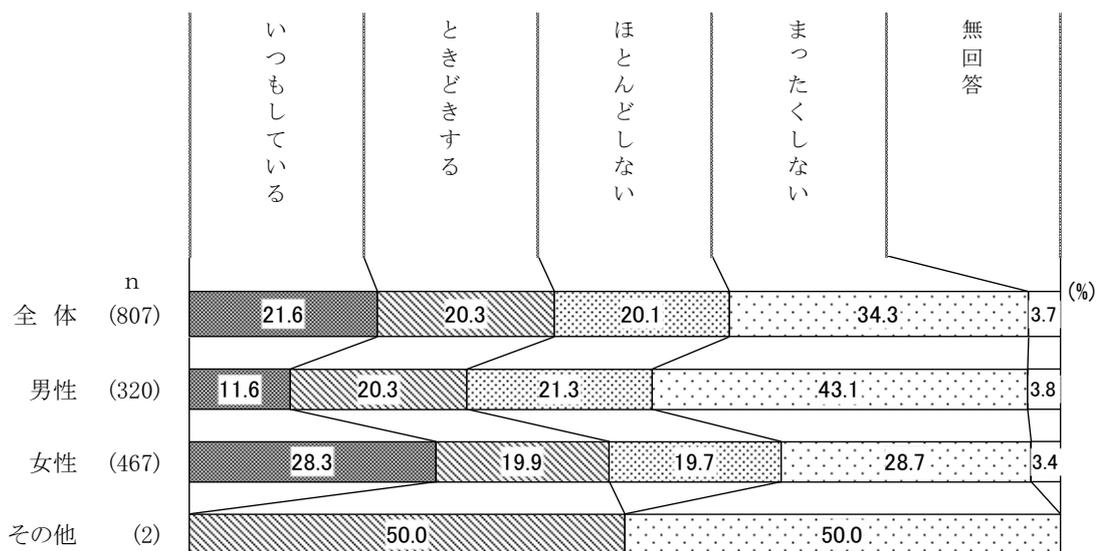
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は平成19年調査から前回調査では男性は7.6ポイント増加したが、前回調査から今回調査ではほぼ同じ割合になっている。女性は平成19年調査の7割弱から今回調査まで徐々に減少し、今回調査では6割強となっている。「ほとんどしない」は前回調査より男性で4.3ポイント減少している。



(5-6) 町内会や自治会への参加

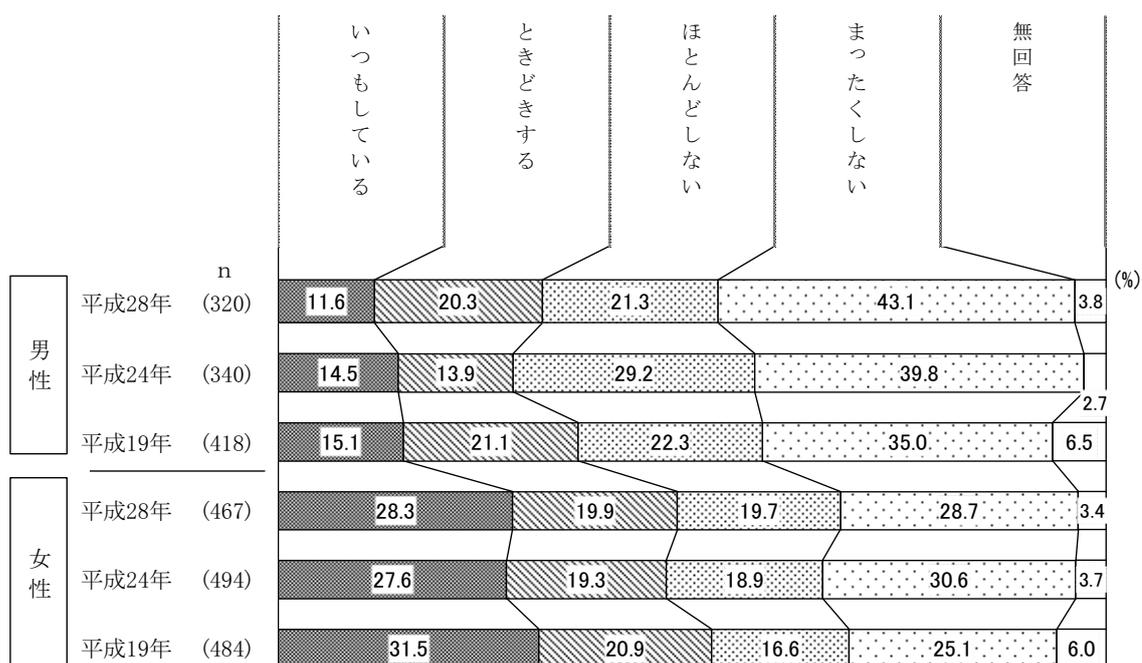
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が28.3%、男性は11.6%で、女性の方が16.7ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が20.3%、女性は19.9%、「ほとんどしない」は男性が21.3%、女性が19.7%で大きな違いはみられない。「まったくしない」は男性が43.1%、女性は28.7%で男性の方が多くなっている。



【経年変化・性別】

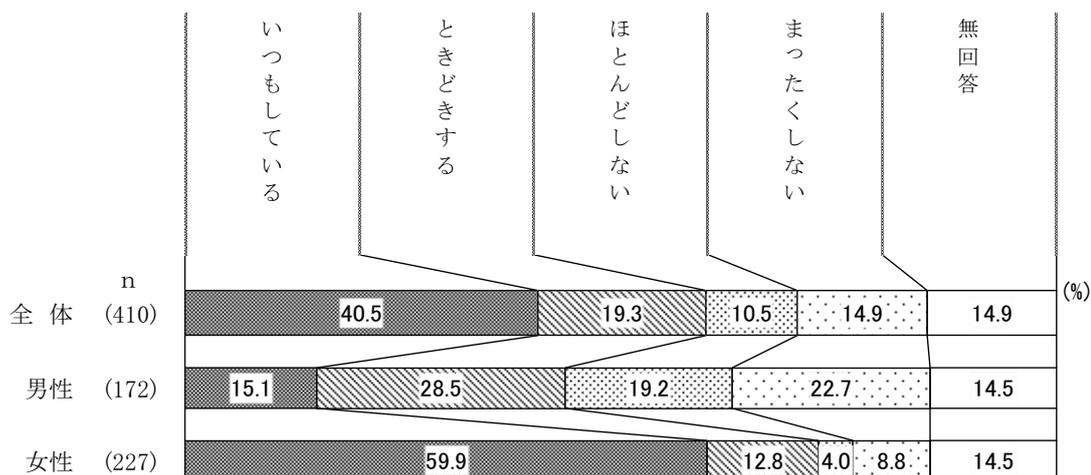
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は前回調査から男性は2.9ポイント減少し、女性はやや増加している。「ときどきする」は前回調査から男性は6.4ポイント増加し、「ほとんどしない」は7.9ポイント減少している。女性では大きな変化はみられない。



(5-7) 子どもに関する行事への参加

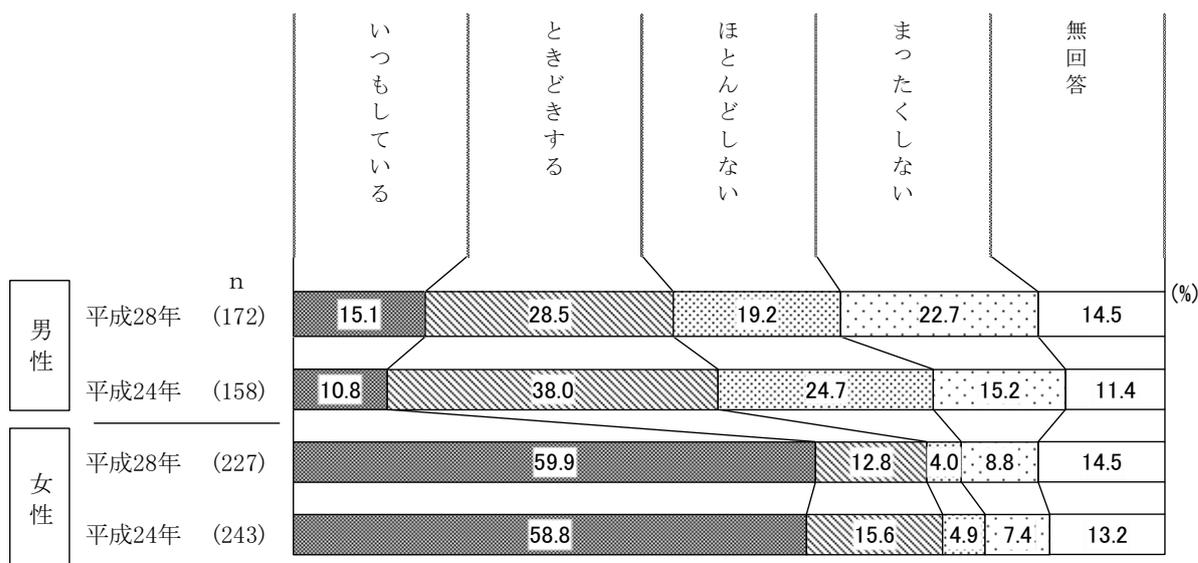
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が59.9%、男性は15.1%で、女性の方が44.8ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が28.5%、「ほとんどしない」は男性が19.2%、「まったくしない」は男性が22.7%となっている。



【経年変化・性別】

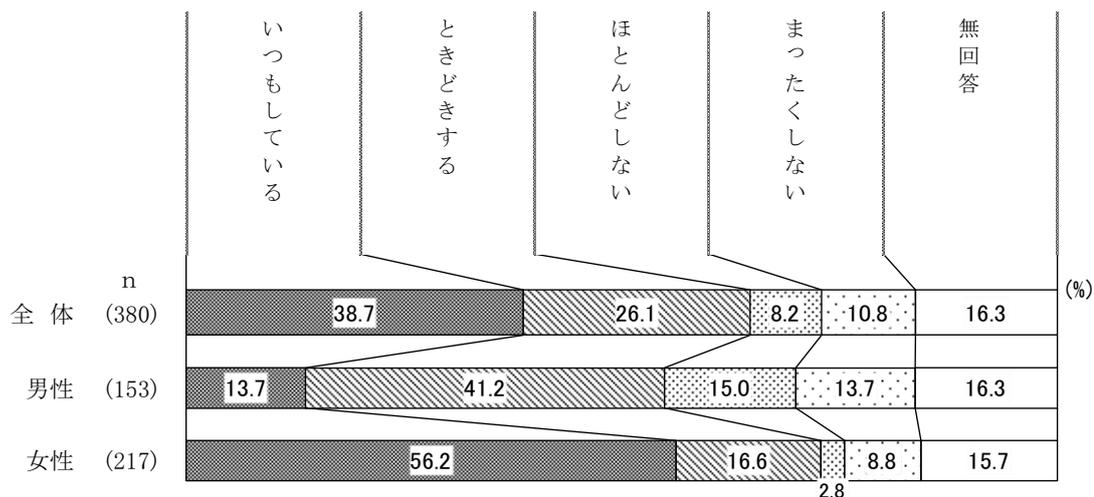
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は前回調査から男性は4.3ポイント増加し、女性はやや増加している。



(5-8) 子どもの世話(勉強・遊び)

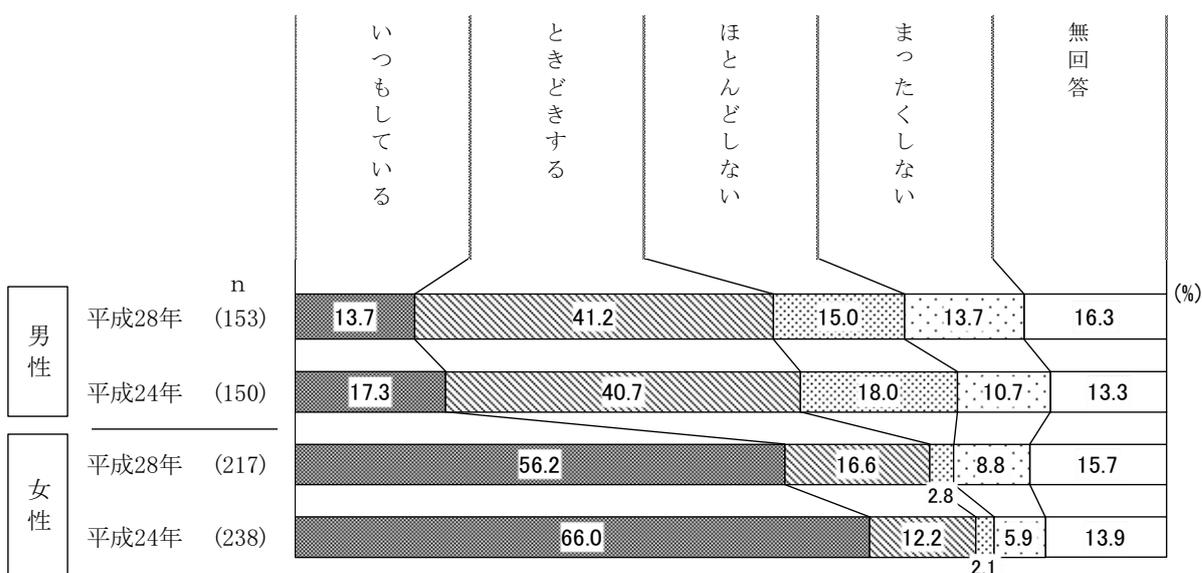
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が56.2%、男性は13.7%で、女性の方が42.5ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が41.2%、「ほとんどしない」は男性が15.0%、「まったくしない」は男性が13.7%となっている。



【経年変化・性別】

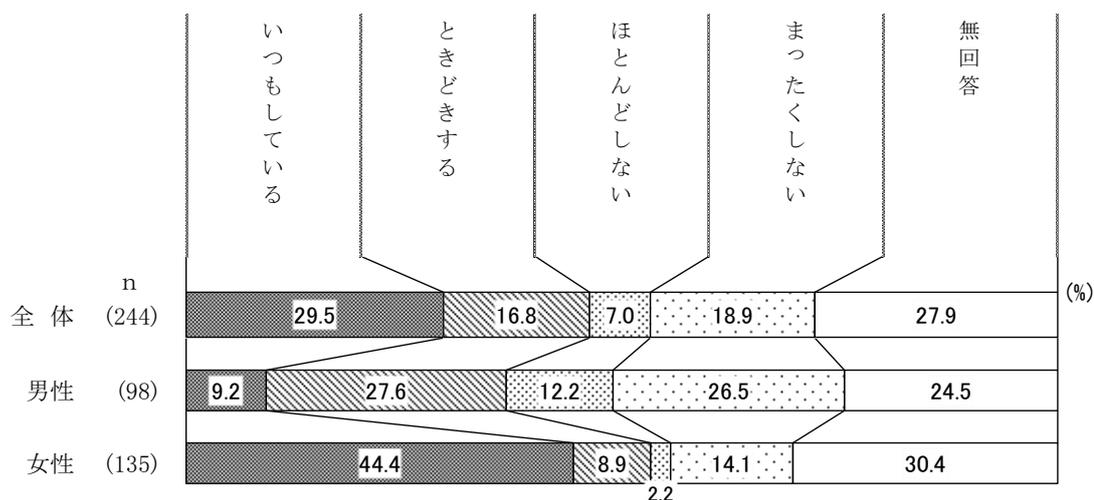
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は男性では3.6ポイント減少し、女性は9.8ポイント減少している。



(5-9) 乳幼児の世話

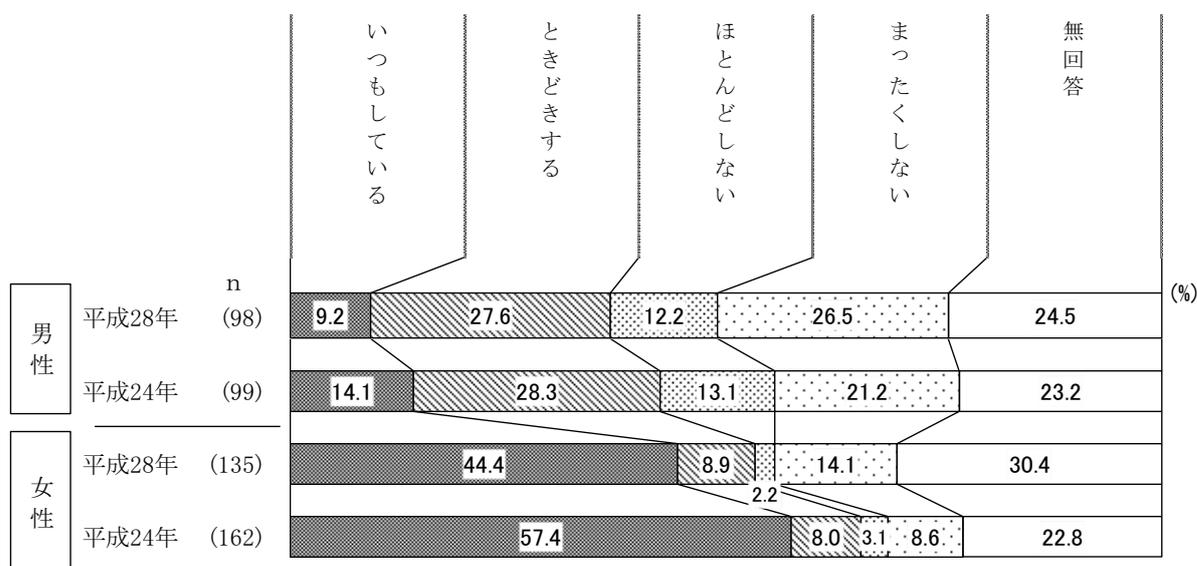
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が44.4%、男性は9.2%で、女性の方が35.2ポイント多くなっている。「ときどきする」は男性が27.6%、「ほとんどしない」は男性が12.2%、「まったくしない」は男性が26.5%となっている。



【経年変化・性別】

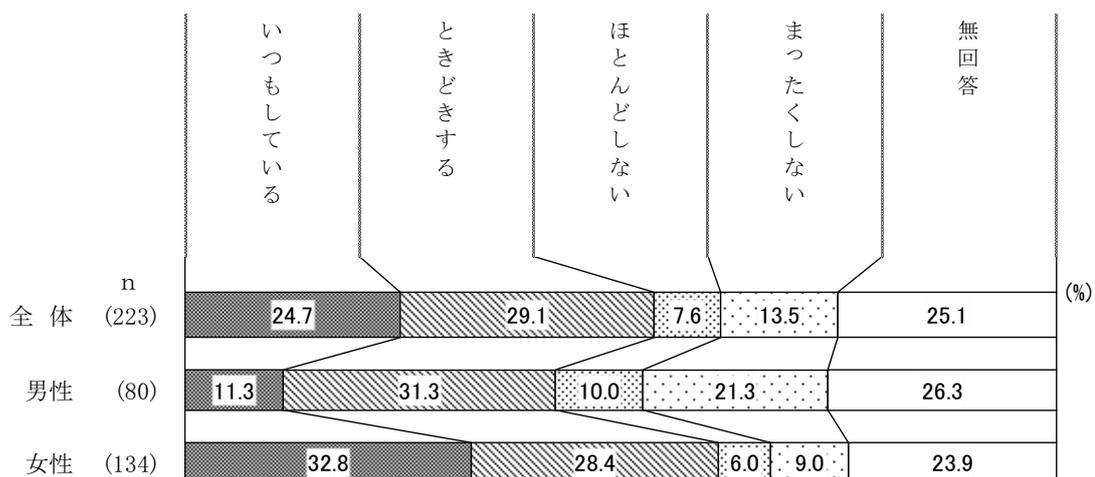
経年変化を性別でみると、「いつもしている」は男性では4.9ポイント減少し、女性は13.0ポイント減少している。



(5-10) 介護が必要な家族の世話

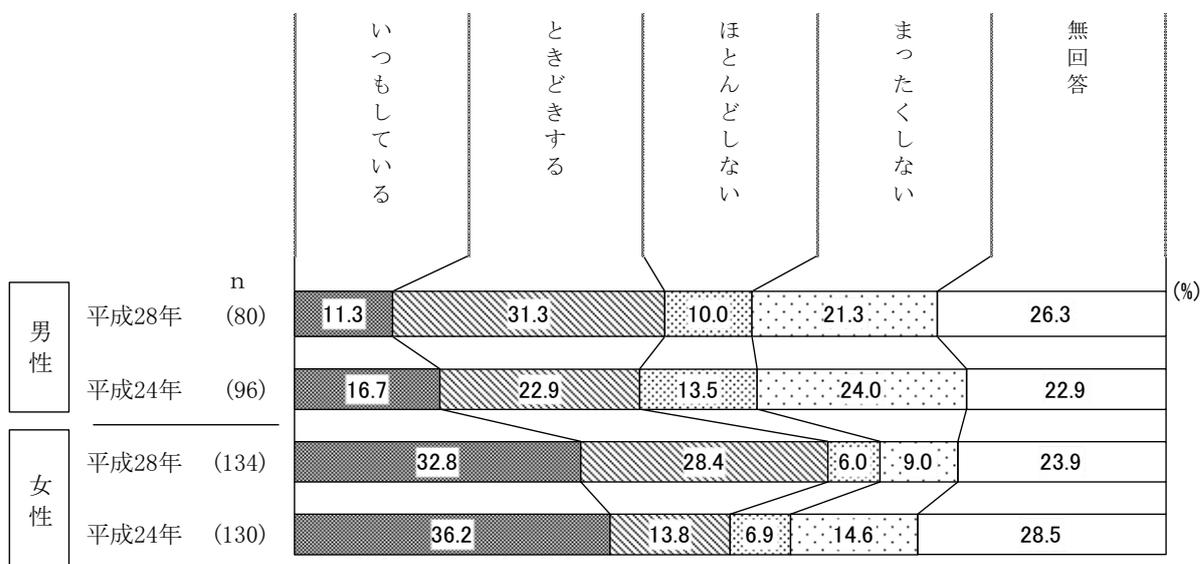
【性別】

性別でみると、「いつもしている」は女性が32.8%、男性は11.3%で、「ときどきする」は女性が28.4%、男性が31.3%となっている。「まったくしない」は男性が21.3%となっている。



【経年変化・性別】

経年変化を性別でみると、「いつもしている」は男性では5.4ポイント減少し、女性は3.4ポイント減少している。「ときどきする」は男性では8.4ポイント増加し、女性は14.6ポイント増加している。



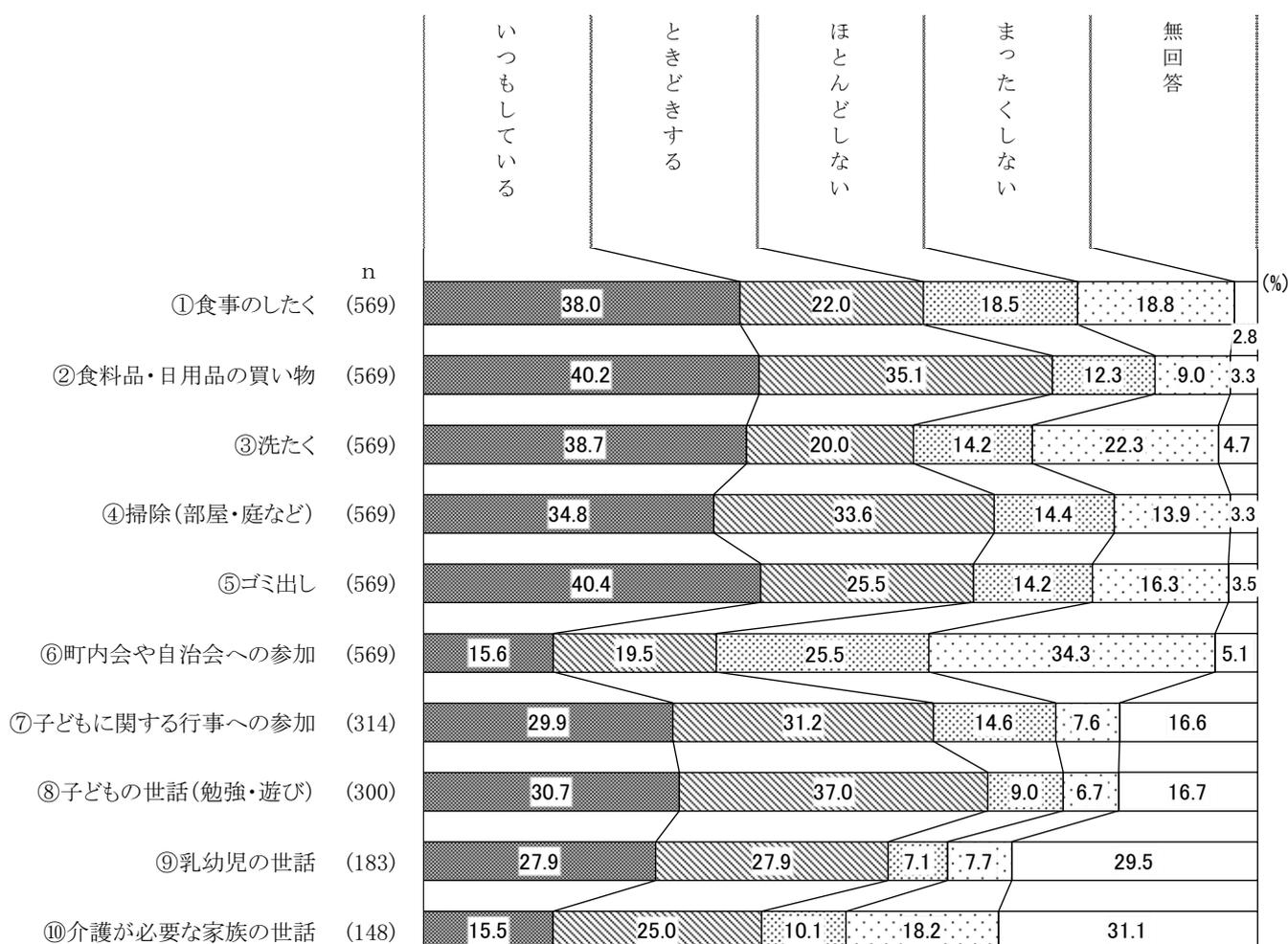
(6) 配偶者・パートナーの家事の実施状況

【配偶者・パートナーがいる方のみ】

問14 あなたの配偶者・パートナーは、次のようなことをどの程度おこなっていますか。
(それぞれの項目について1つに○)

配偶者・パートナーの家事等の受け持ち状況は、「いつもしている」は『ゴミ出し』(40.4)、『食料品・日用品の買い物』(40.2)、『洗たく』(38.7)、『食事のしたく』(38.0)、『掃除(部屋・庭など)』(34.8)の順となっている。

子どもや介護が必要な家族の世話に関することについては、対象の家族がない「該当しない」を除くと、「いつもしている」は『子どもの世話(勉強・遊び)』(30.7)、『子どもに関する行事への参加』(29.9)、『乳幼児の世話』(27.9)、『介護が必要な家族の世話』(15.5)の順となっている。



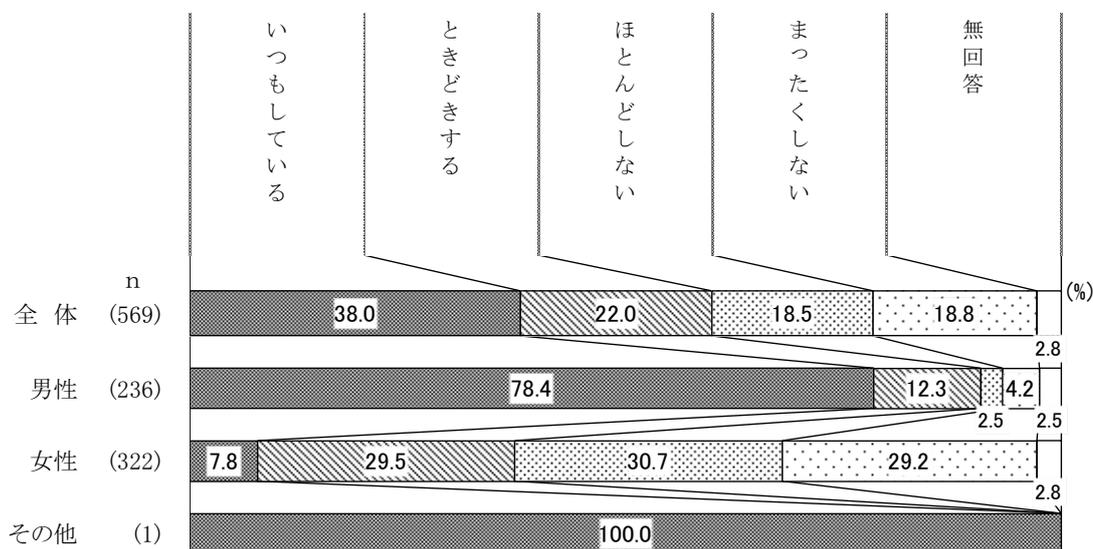
※⑦～⑩については「該当しない」の回答者を除いて集計している。

第2章 調査結果の詳細

(5-1) 食事のしたく

【性別】

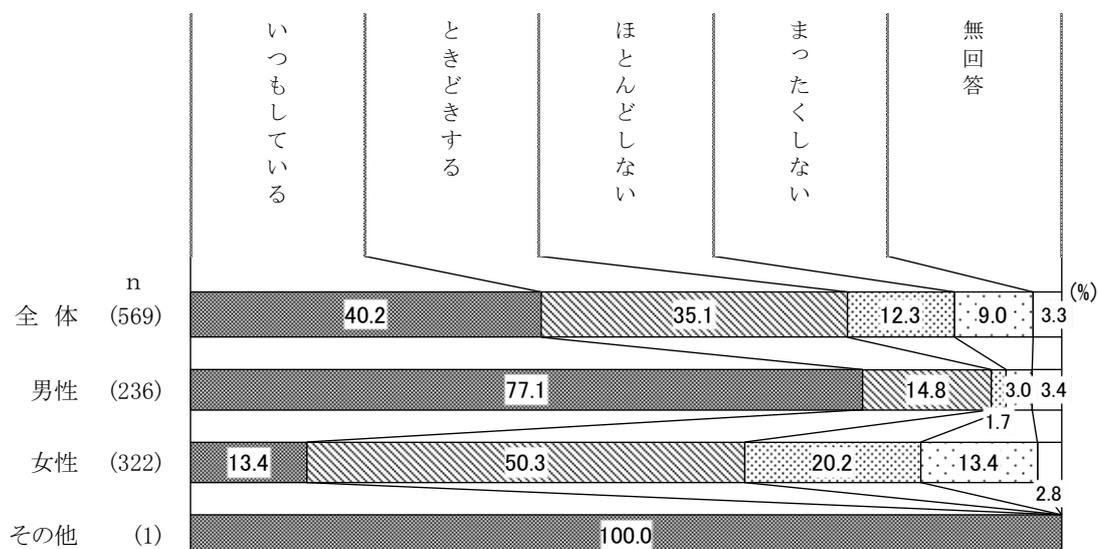
性別でみると、「いつもしている」は男性が78.4%、「ときどきする」は女性が29.5%、「ほとんどしない」は女性30.7%、「まったくしない」は女性29.2%となっている。



(5-2) 食料品・日用品の買い物

【性別】

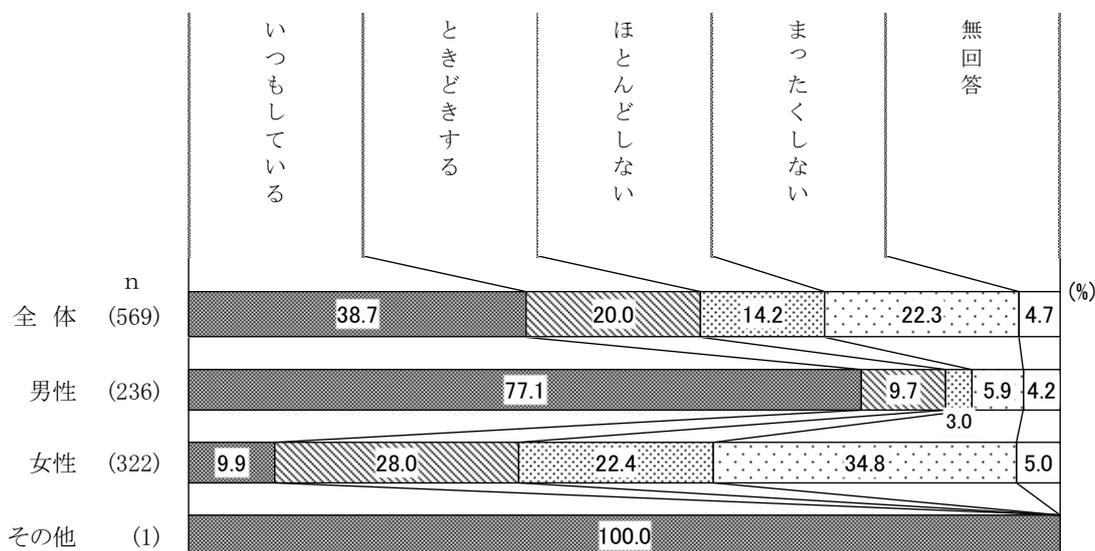
性別でみると、「いつもしている」は男性が77.1%、「ときどきする」は女性が50.3%、「ほとんどしない」は女性20.2%、「まったくしない」は女性13.4%となっている。



(5-3) 洗濯

【性別】

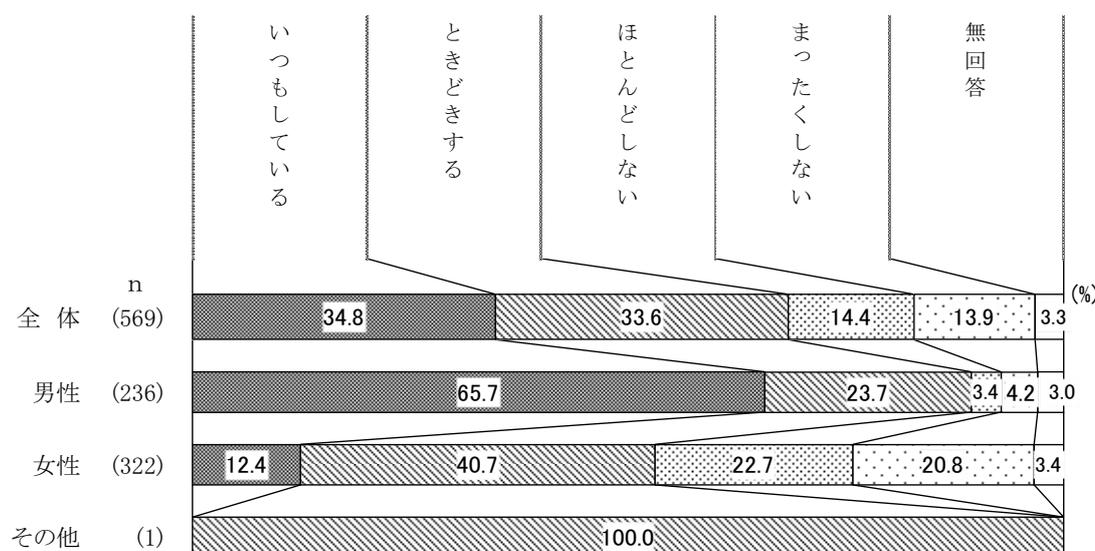
性別でみると、「いつもしている」は男性が77.1%、「ときどきする」は女性が28.0%、「ほとんどしない」は女性22.4%、「まったくしない」は女性が34.8%となっている。



(5-4) 掃除 (部屋・庭など)

【性別】

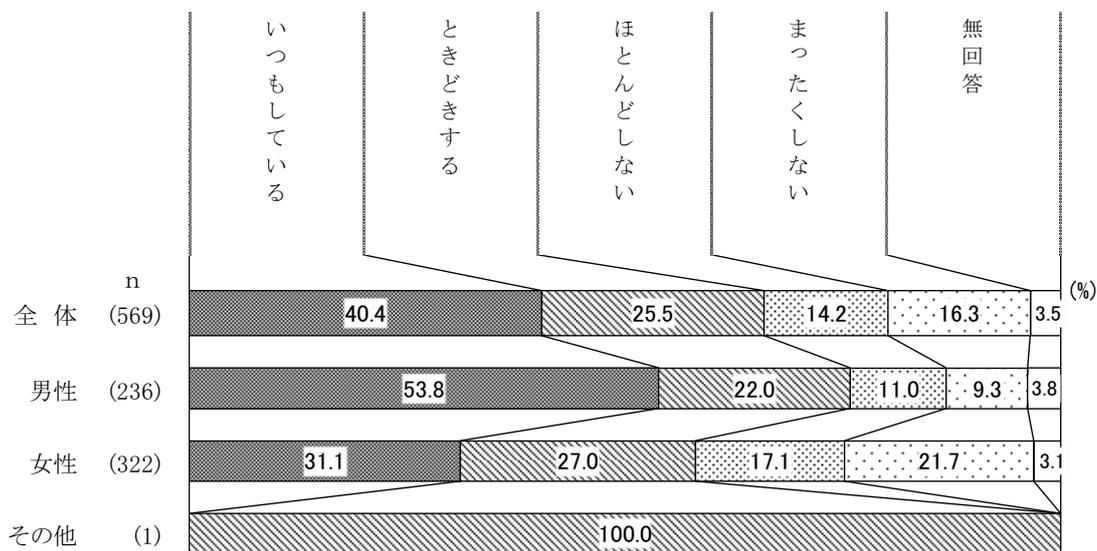
性別でみると、「いつもしている」は男性が65.7%、「ときどきする」は女性が40.7%、「ほとんどしない」は女性22.7%、「まったくしない」は女性が20.8%となっている。



(5-5) ゴミ出し

【性別】

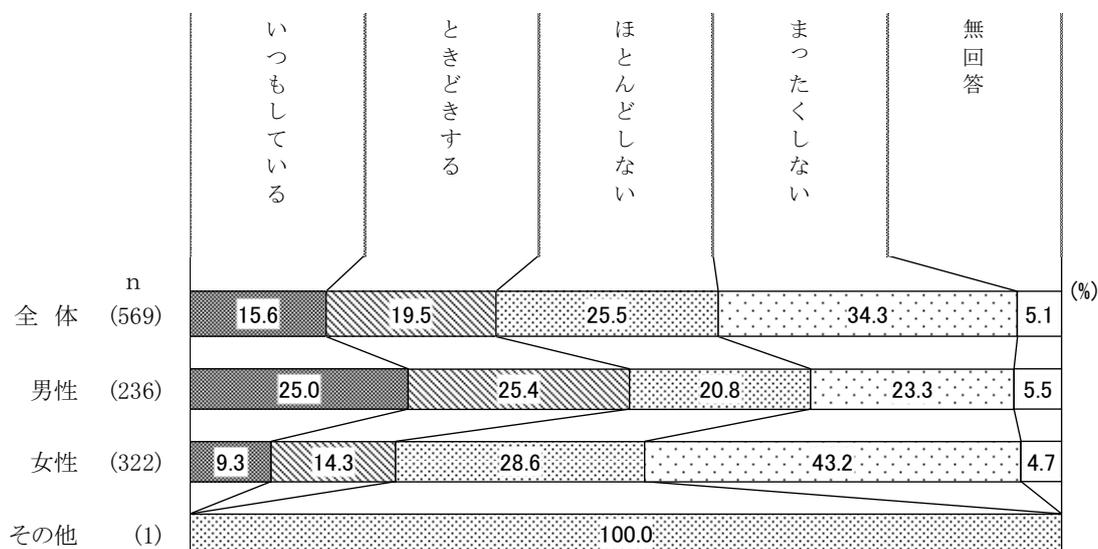
性別で見ると、「いつもしている」は男性が53.8%、女性が31.1%、「ときどきする」は女性が27.0%、男性が22.0%、「ほとんどしない」は女性17.1%、「まったくしない」は女性が21.7%となっている。



(5-6) 町内会や自治会への参加

【性別】

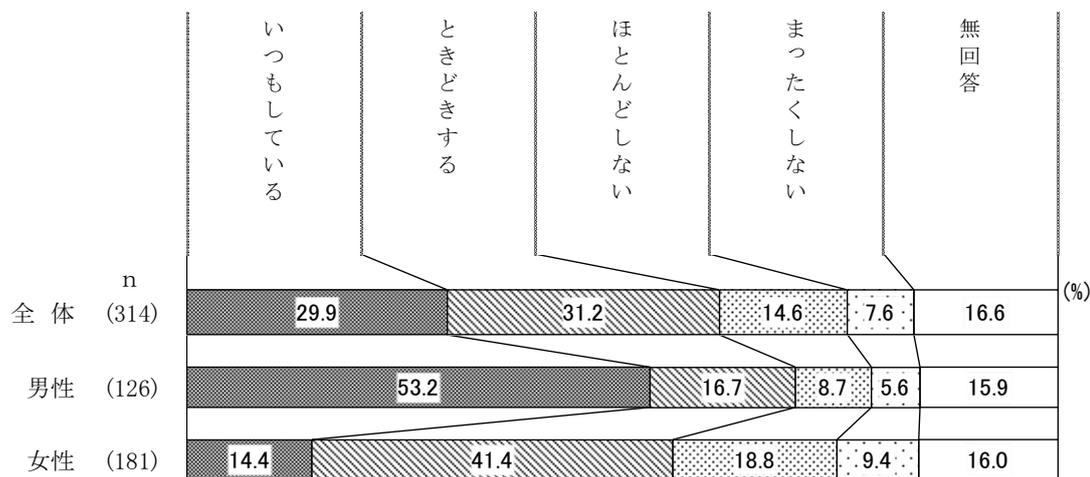
性別で見ると、「いつもしている」は男性が25.0%、女性が9.3%、「ときどきする」は男性が25.4%、女性が14.3%、「ほとんどしない」は女性28.6%、男性が20.8%、「まったくしない」は女性が43.2%、男性が23.3%となっている。



(5-7) 子どもに関する行事への参加

【性別】

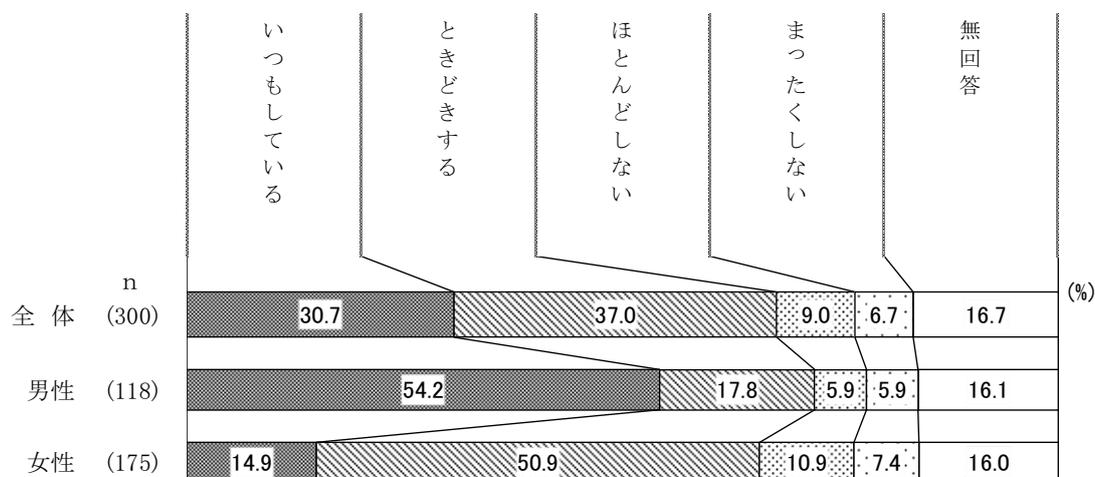
性別で見ると、「いつもしている」は男性が53.2%、女性が14.4%、「ときどきする」は女性が41.4%、男性が16.7%、「ほとんどしない」は女性18.8%、男性が8.7%となっている。



(5-8) 子どもの世話（勉強・遊び）

【性別】

性別で見ると、「いつもしている」は男性が54.2%、女性が14.9%、「ときどきする」は女性が50.9%、男性が17.8%、「ほとんどしない」は女性10.9%、男性5.9%となっている。

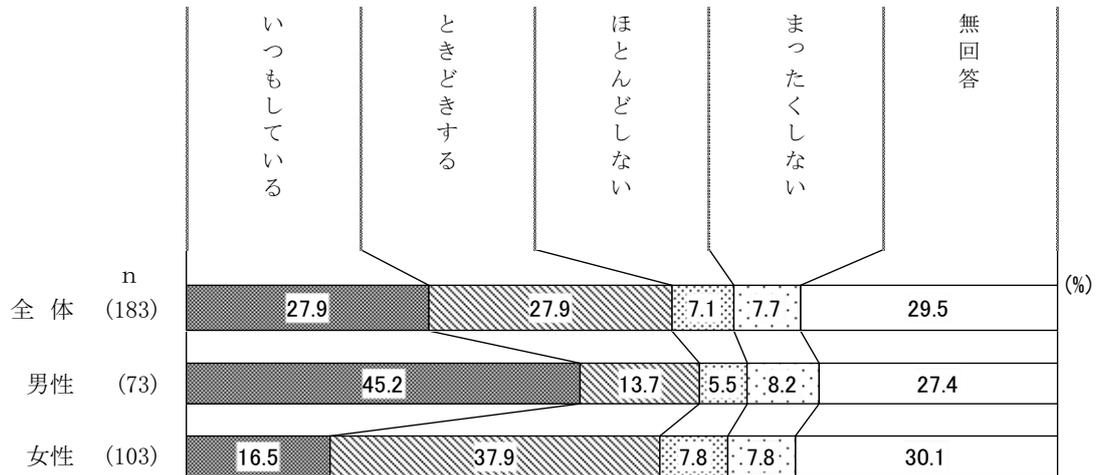


第2章 調査結果の詳細

(5-9) 乳幼児の世話

【性別】

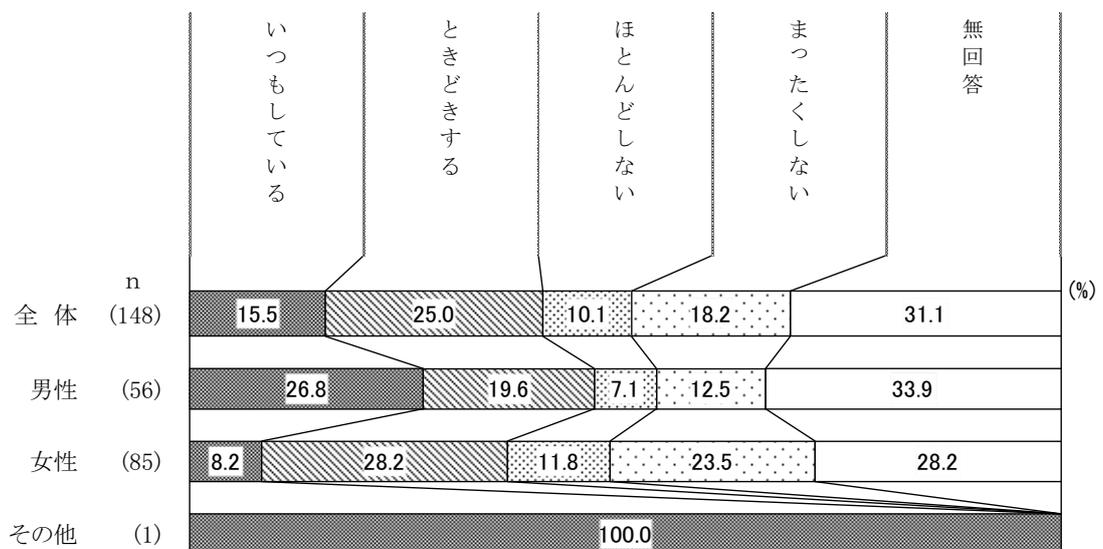
性別でみると、「いつもしている」は男性が45.2%、女性が16.5%、「ときどきする」は女性が37.9%、男性が13.7%となっている。



(5-10) 介護が必要な家族の世話

【性別】

性別でみると、「いつもしている」は男性が26.8%、女性が8.2%、「ときどきする」は女性が28.2%、男性が19.6%となっている。

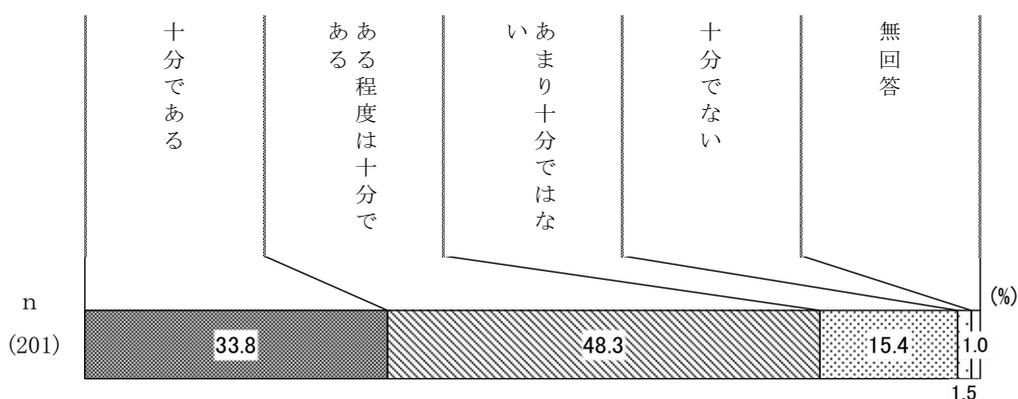


(7) 子育てへのかかわりについて

【現在、子育て中の方のみ】

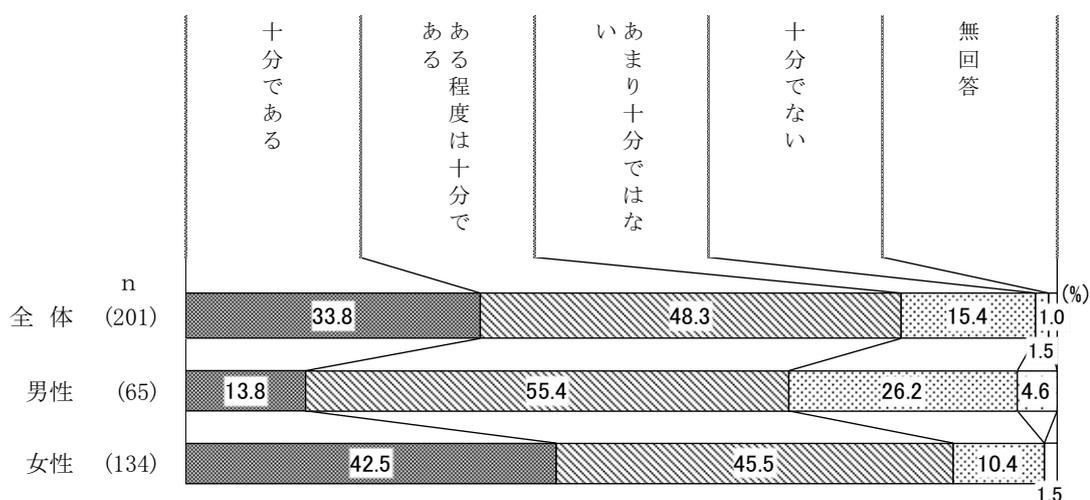
問16 あなたの子育てへのかかわりは十分だと思いますか。(1つに○)

自身の子育てへのかかわりの評価は、「ある程度は十分である」(48.3%)と「十分である」(33.8%)を合わせた<十分である>は82.1%、「あまり十分ではない」(15.4%)と「十分でない」(1.5%)を合わせた<十分でない>は16.9%となっている。



【性別】

性別でみると、「十分である」は女性が42.5%、男性は13.8%で、女性の方が28.7ポイント多く、「ある程度は十分である」は男性が55.4%、女性は45.5%で女性の方が9.9ポイント多くなっている。「あまり十分ではない」は男性が26.2%、女性は10.4%となっている。

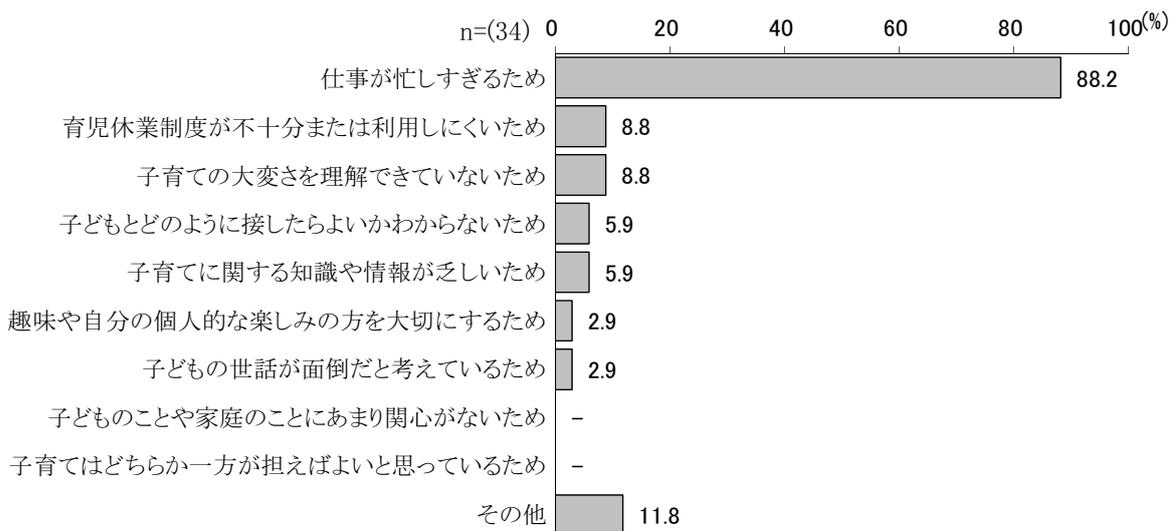


(8) 子育てに十分にかかわることができない原因

【問16で「3. あまり十分ではない」「4. 十分でない」に○とお答えの方のみ】

問16-1 あなたが子育てに十分にかかわることができないとすれば、どのような原因があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

自身が子育てに十分にかかわることができない原因は、「仕事が忙しすぎるため」(88.2%)が特に高くなっている。



【性別】

性別でみると、「仕事が忙しすぎるため」は男性が95.0%、女性は78.6%で男性の方が16.4ポイント多くなっている。

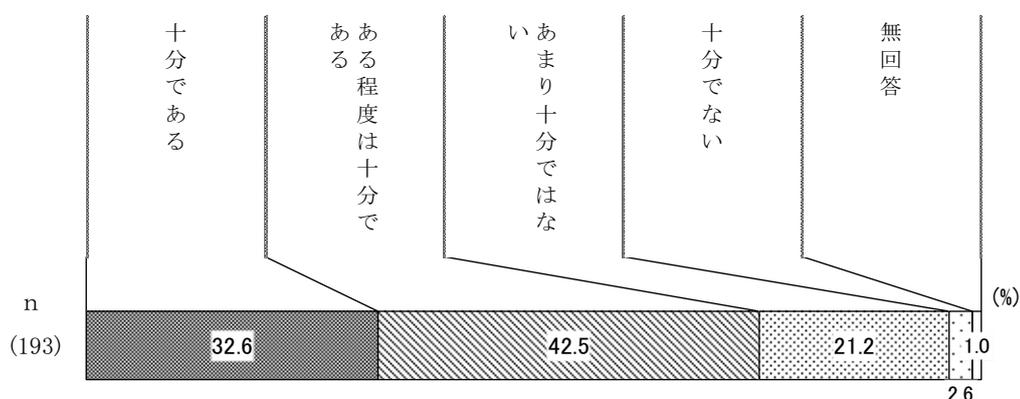
	n	仕事が忙しすぎるため	育児休業制度が不十分または利用しにくい	子育ての大変さを理解できていない	子どもとどのように接したらよいかわからない	子育てに関する知識や情報が乏しい	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切に	子どもの世話が面倒だと考えている	子どものことや家庭のことにあまり関心がない	子育てはどちらか一方が担えばよいと思	その他
全体	34	88.2	8.8	8.8	5.9	5.9	2.9	2.9	-	-	11.8
男性	20	95.0	15.0	15.0	5.0	10.0	5.0	5.0	-	-	5.0
女性	14	78.6	-	-	-	-	-	-	-	-	21.4

(9) 配偶者・パートナーの子育てへの子育てへのかわりについて

【現在子育て中で、配偶者・パートナーがいる方のみ】

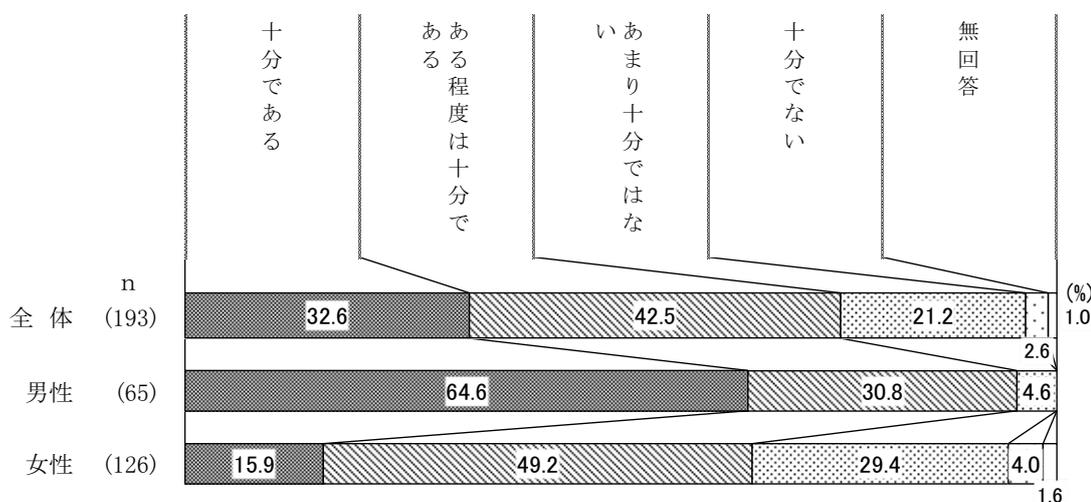
問17 あなたの配偶者・パートナーの子育てへのかわりは十分だと思いますか。
(1つに○)

配偶者・パートナーの子育てへの関わりの評価は、「ある程度は十分である」(42.5%)と「十分である」(32.6%)を合わせた<十分である>は75.1%、「あまり十分ではない」(21.2%)と「十分でない」(2.6%)を合わせた<十分でない>は23.8%となっている。



【性別】

性別でみると、「十分である」は男性が64.6%、女性は15.9%で男性の方が48.7ポイント多く、「ある程度は十分である」は女性が49.2%、男性30.8%で女性の方が18.4ポイント多くなっている。「あまり十分ではない」は女性が29.4%と多くなっている。

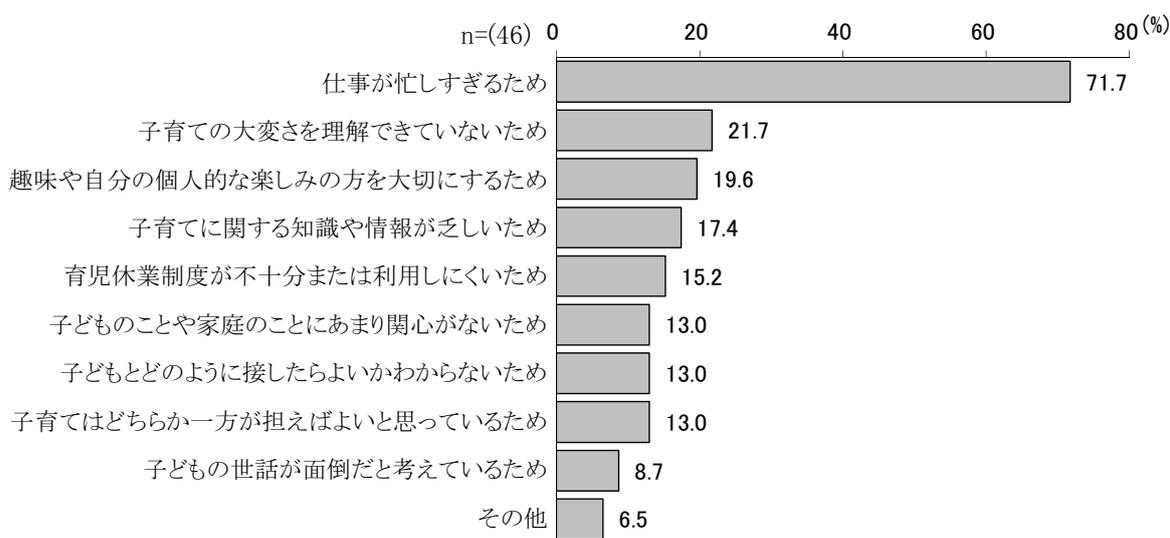


(10) 配偶者・パートナーの子育てへのかかわりについて

【問17で「3. あまり十分ではない」「4. 十分でない」に○とお答えの方のみ】

問17-1 あなたの配偶者・パートナーが子育てに十分にかかわることができないとすれば、どのような原因があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

配偶者・パートナーが子育てに十分にかかわることができない原因は、「仕事が忙しすぎるため」(71.7%)が特に高く、次いで、「子育ての大変さを理解できていないため」(21.7%)、「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」(19.6%)、「子育てに関する知識や情報が乏しいため」(17.4%)、「育児休業制度が不十分または利用しにくい」(15.2%)の順となっている。



【性別】

男性の基数が少ないため、性別による違いについては言及することができない。

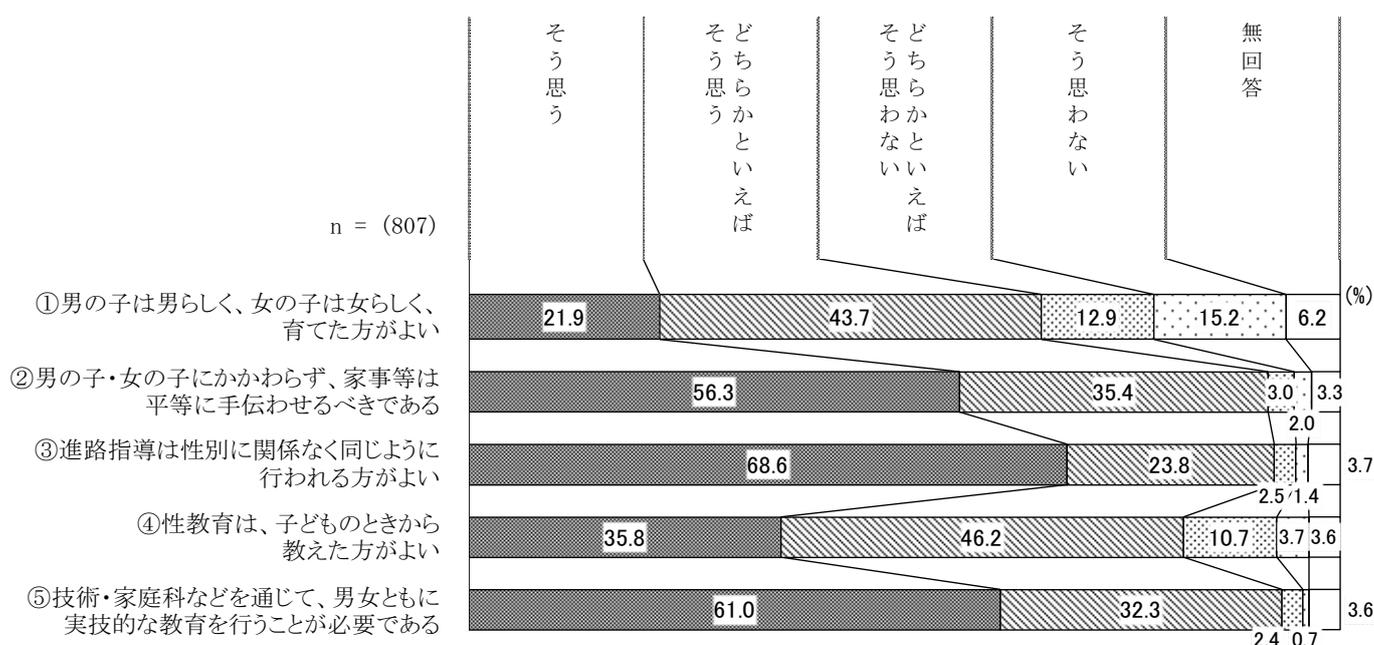
	n	仕事が忙しすぎるため	育児休業制度が不十分または利用しにくい	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切に	子どものことや家庭のことにあまり関心がない	子どもとどのように接したらよいかわからない	子育てはどちらか一方が担えばよい	子どもの世話が面倒だと	子育ての大変さを理解できていない	子どもとどのように接したらよいか	子育てに関する知識や情報が乏しい	子育てはどちらか一方が担えばよい	その他
全体	46	71.7	15.2	19.6	13.0	8.7	21.7	13.0	17.4	13.0	6.5		
男性	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
女性	42	71.4	16.7	21.4	11.9	9.5	23.8	14.3	19.0	11.9	7.1		

(11) 家庭での子育てや、学校での教育に関する考えについて

【ここからはすべての方に向かっていきます。】

問18 家庭での子育てや、学校での教育に関する以下の考えについて、あなたはどのように思いますか。(それぞれの項目について1つに○)

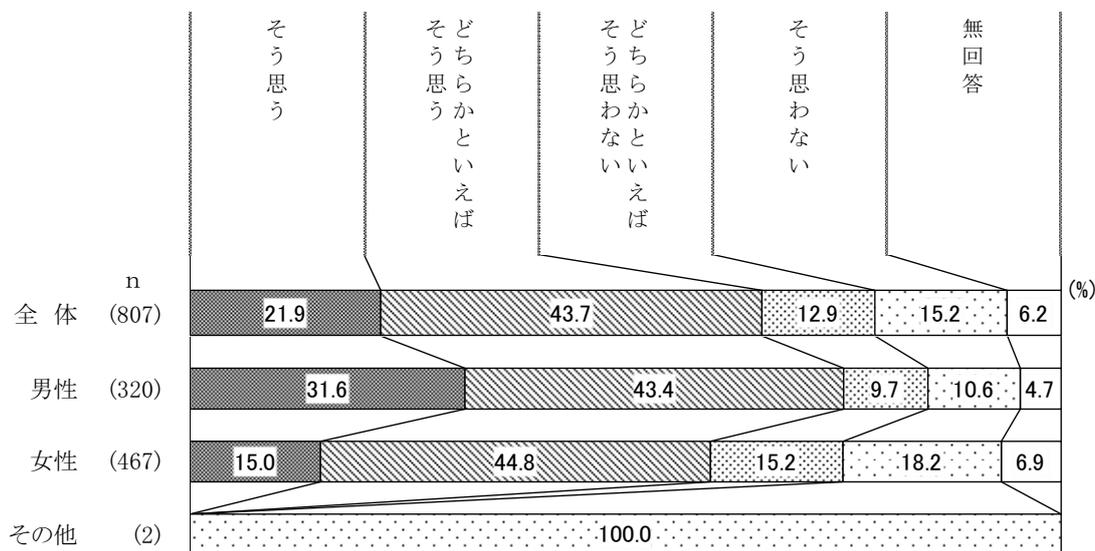
家庭での子育て・学校での教育に関する考えについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた<そう思う>でみると、「技術・家庭科などを通じて、男女ともに実技的な教育を行う必要がある」(93.3%)、「進路指導は性別に関係なく同じように行われる方がよい」(92.4%)、「男の子・女の子にかかわらず、家事等は平等に手伝わせるべきである」(91.7%)は9割台、「性教育は、子どものときから教えた方がよい」(82.0%)は8割台となっている。「男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てた方がよい」は<そう思う>が65.6%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた<そう思わない>が28.1%となっている。



(11-1) 男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てた方がよい

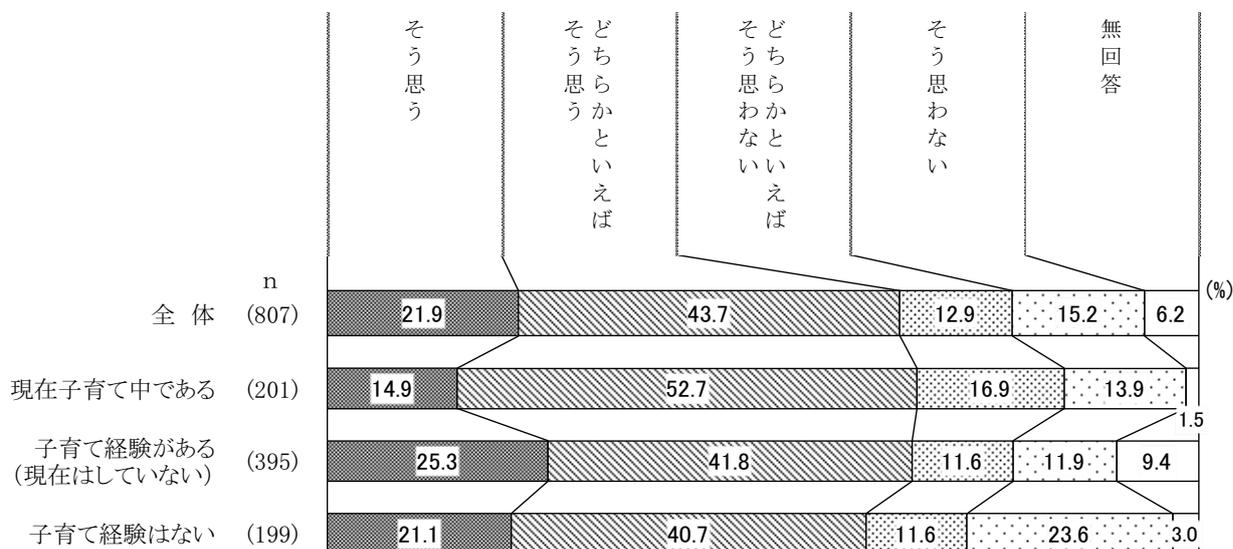
【性別】

性別でみると、〈そう思う〉は男性が75.0%、女性は59.8%で、男性の方が15.2ポイント多くなっている。



【子育て経験の有無別】

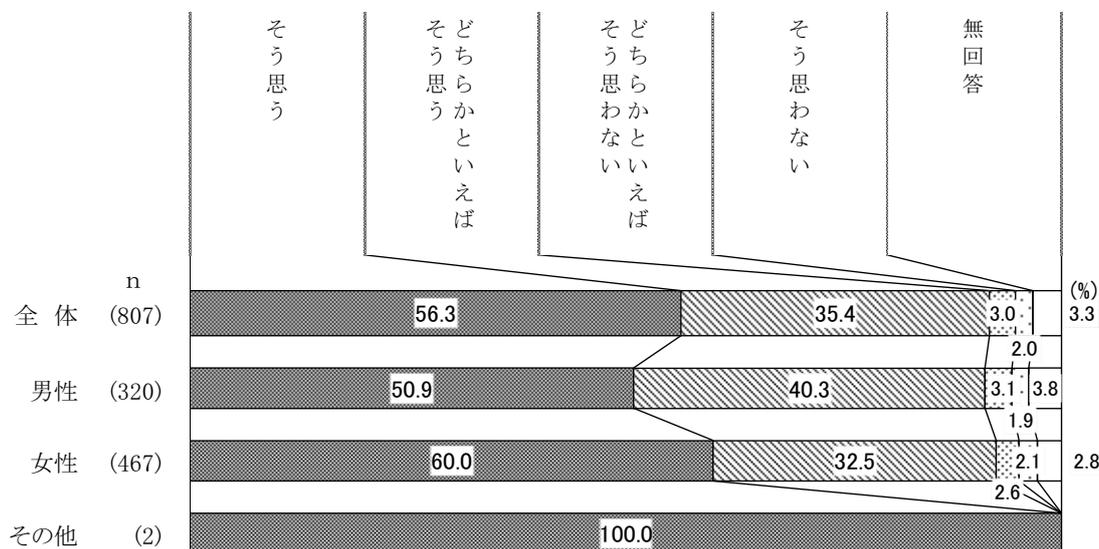
子育て経験の有無別でみると、〈そう思う〉は「現在子育て中である」と「子育て経験がある（現在はしていない）」で大きな違いはみられない。〈そう思わない〉は「子育て経験はない」で35.2%となっている。



(11-2) 男の子・女の子にかかわらず、家事等は平等に手伝わせるべきである

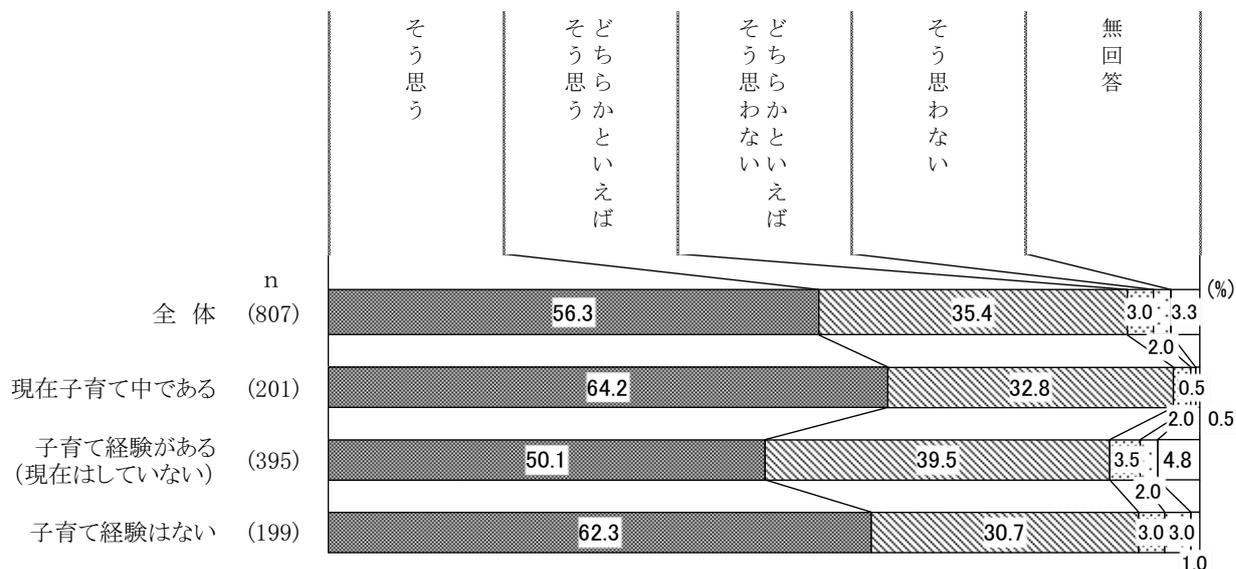
【性別】

性別でみると、＜そう思う＞は男性が91.2%、女性は92.5%で、大きな違いはみられない。



【子育て経験の有無別】

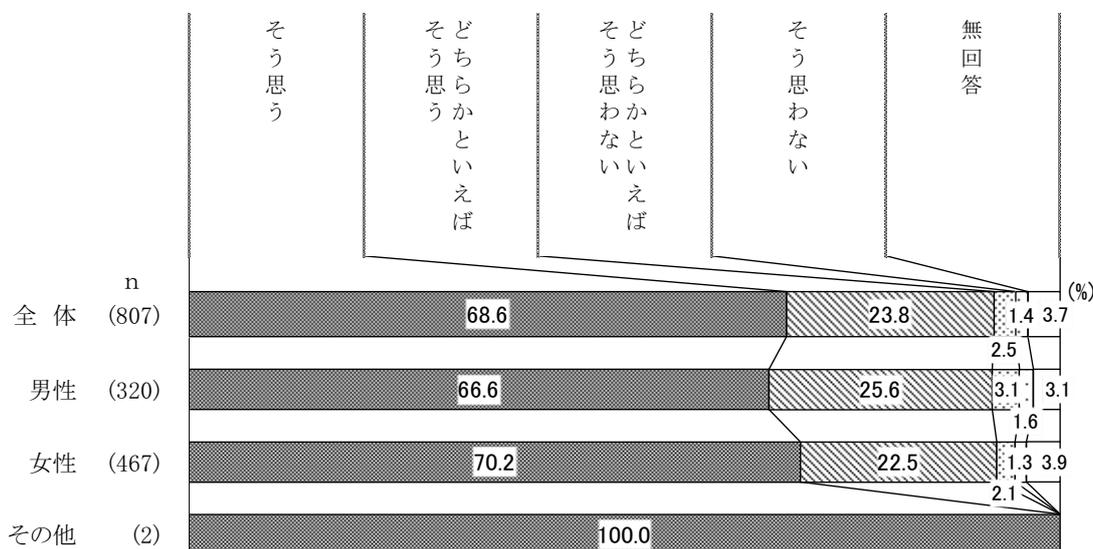
子育て経験の有無別でみると、＜そう思う＞は「現在子育て中である」が97.0%、「子育て経験がある（現在はしていない）」は89.6%となっている。「子育て経験はない」では93.0%となっている。



(11-3) 進路指導は性別に関係なく同じように行われる方がよい

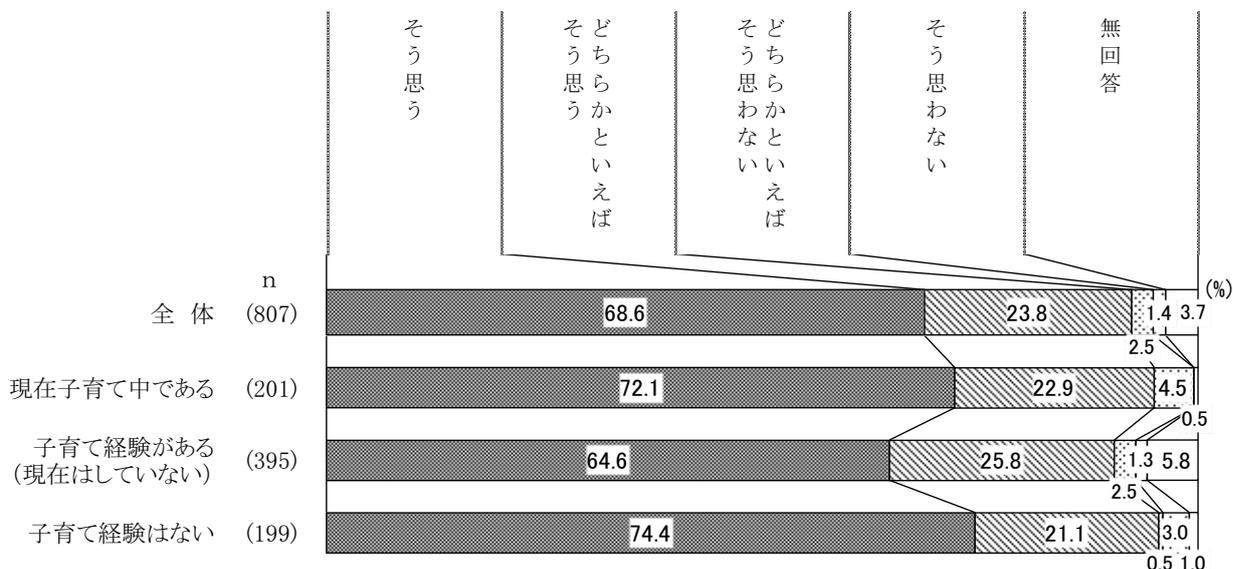
【性別】

性別でみると、＜そう思う＞は男性が92.2%、女性は92.7%で、ほぼ同じ割合となっている。



【子育て経験の有無別】

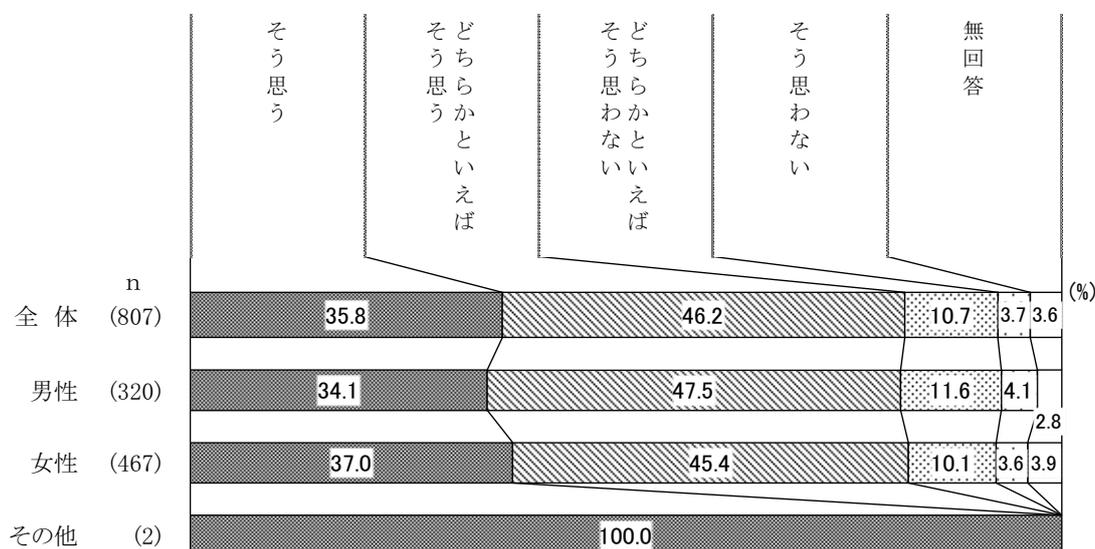
子育て経験の有無別でみると、＜そう思う＞は「現在子育て中である」が95.0%、「子育て経験がある（現在はしていない）」は90.4%となっている。「子育て経験はない」では95.5%となっている。



(11-4) 性教育は、子どものときから教えた方がよい

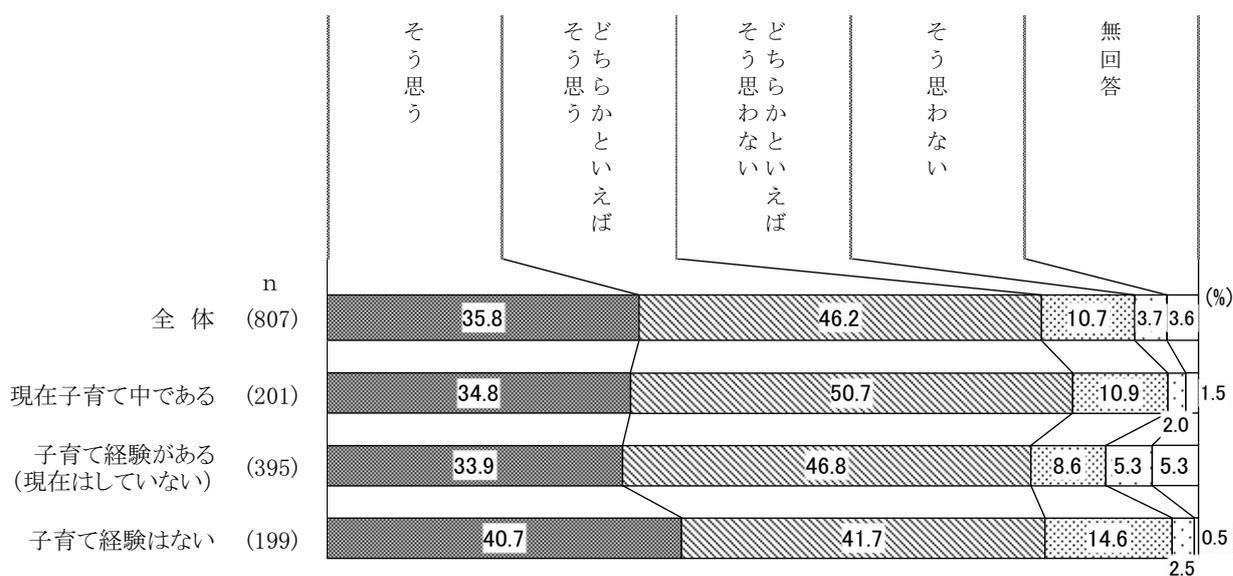
【性別】

性別でみると、＜そう思う＞は男性が81.6%、女性は82.4%で、ほぼ同じ割合となっている。



【子育て経験の有無別】

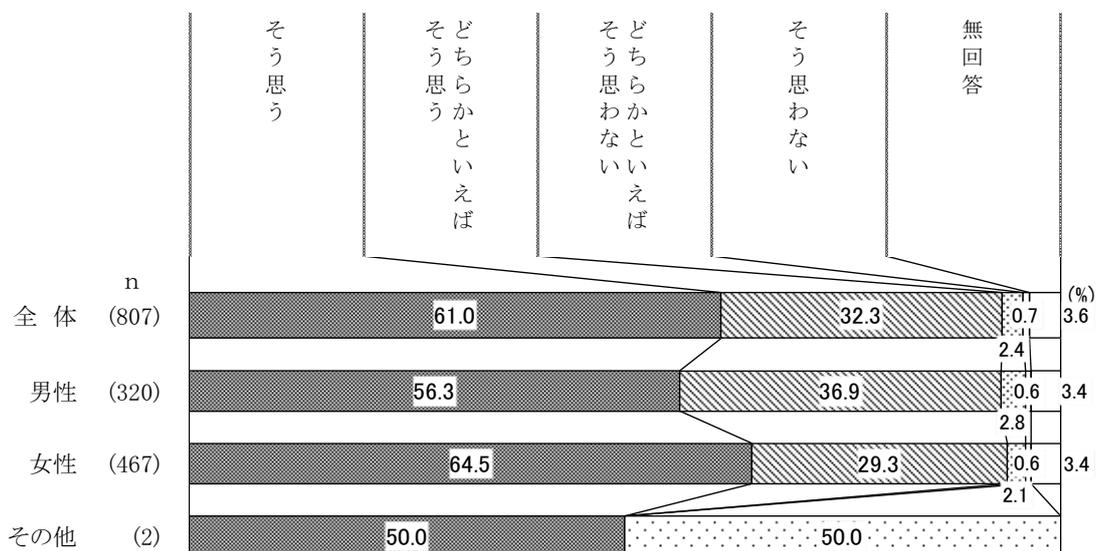
子育て経験の有無別でみると、＜そう思う＞は「現在子育て中である」が85.5%、「子育て経験がある（現在はしていない）」は80.7%となっている。「子育て経験はない」では82.4%となっている。



(11-5) 技術・家庭科などを通じて、男女ともに実技的な教育を行うことが必要である

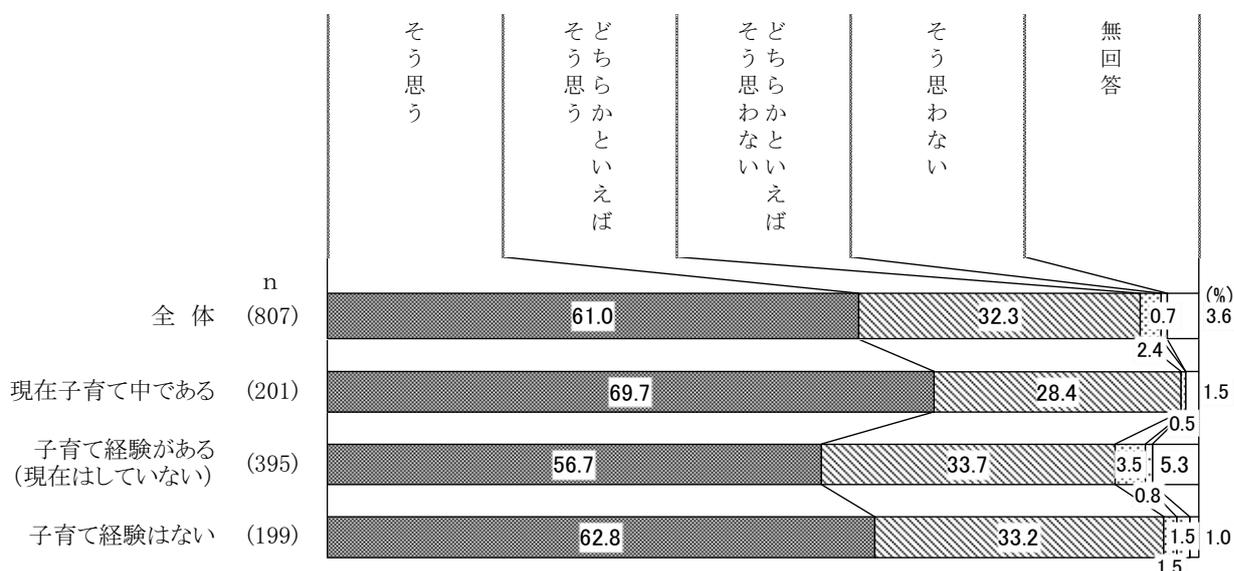
【性別】

性別でみると、＜そう思う＞は男性が93.2%、女性は93.8%で、ほぼ同じ割合となっている。



【子育て経験の有無別】

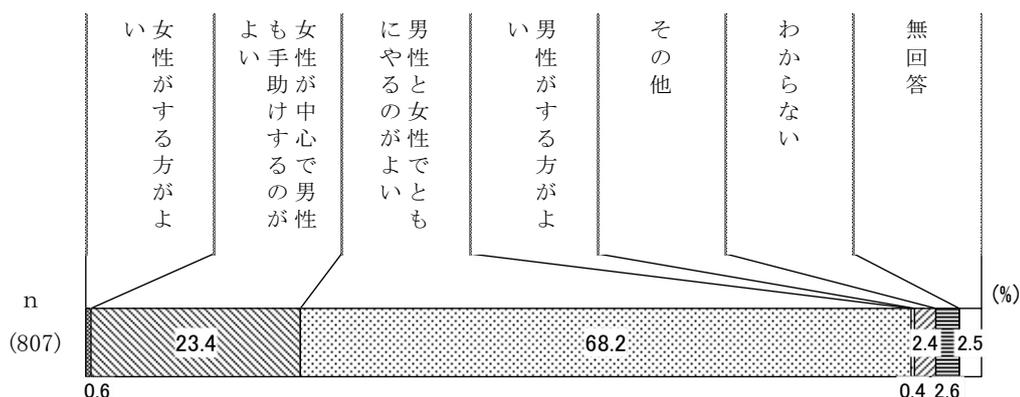
子育て経験の有無別でみると、＜そう思う＞は「現在子育て中である」が98.1%、「子育て経験がある（現在はしていない）」は90.4%となっている。「子育て経験はない」では96.0%となっている。



(12) 介護が必要な人の世話が女性の役割になりがちなことについて

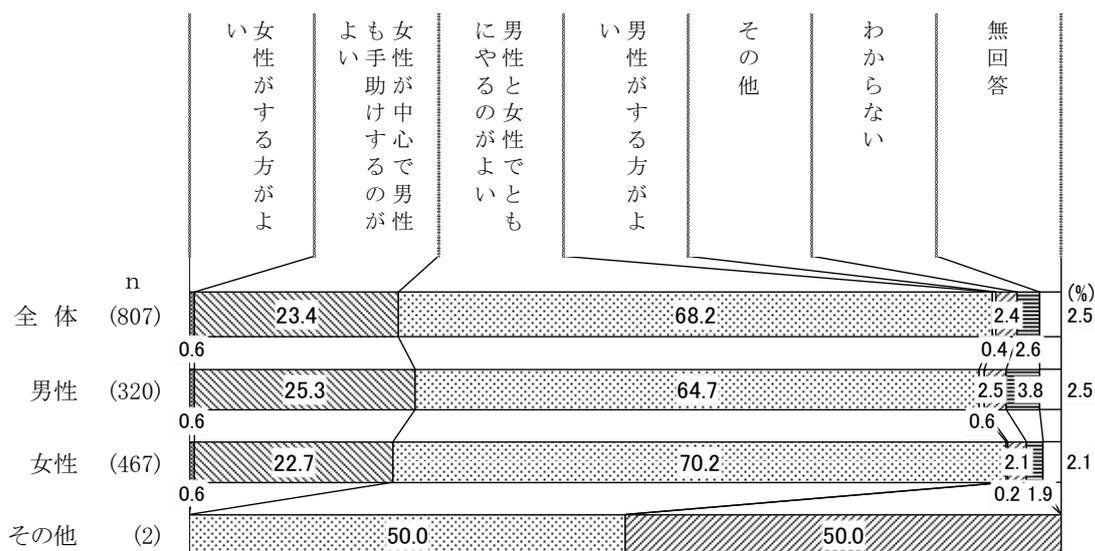
問19 家庭において、高齢や障がいなどで介護が必要な人のお世話は、現実には主として女性の役割になりがちですが、そのことに対して、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

介護が必要な人の世話が女性の役割になりがちなことについては、「男性と女性でともにやるのがよい」が68.2%、「女性が中心で男性も手助けするのがよい」が23.4%となっている。



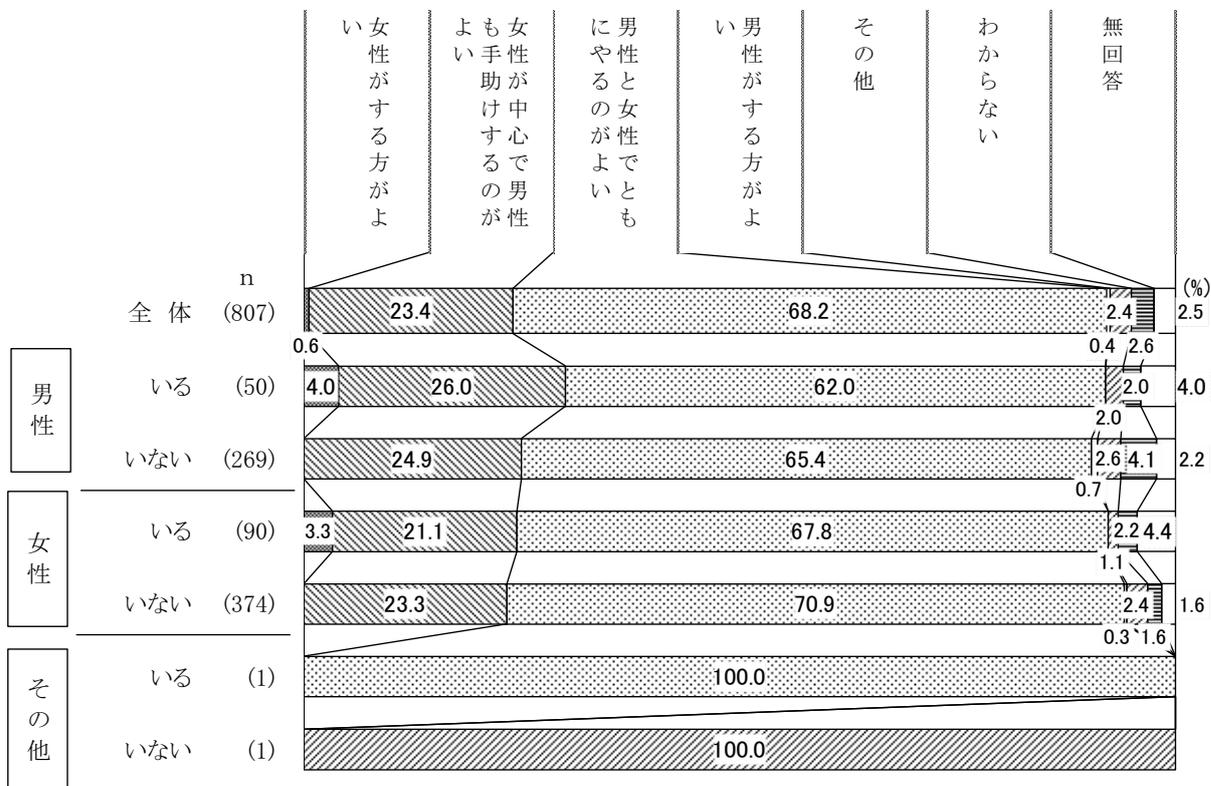
【性別】

性別でみると、「男性と女性でともにやるのがよい」は女性が70.2%、男性が64.7%で、女性の方が5.5ポイント多くなっている。



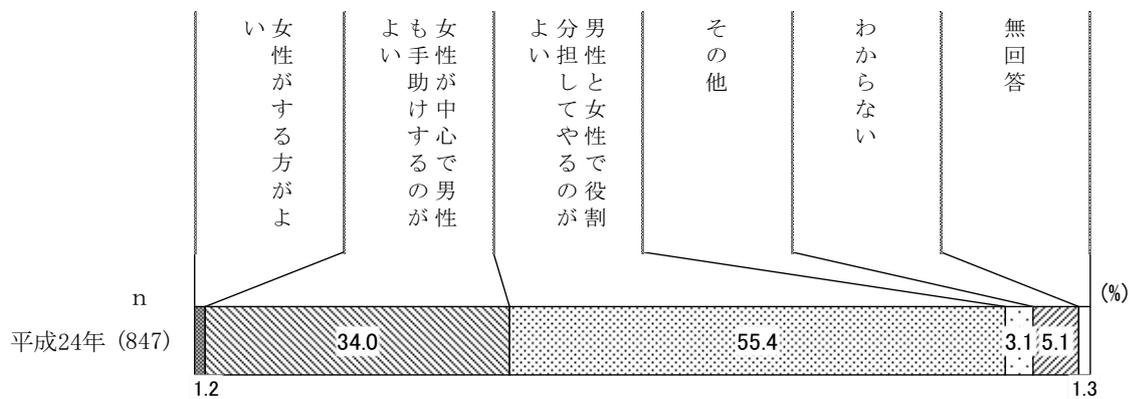
【性別／被介護者の有無別】

性別／被介護者の有無別でみると、男女とも介護が必要な家族が“いる”よりも“いない”方が「男性と女性でともにやるのがよい」が多くなっている。



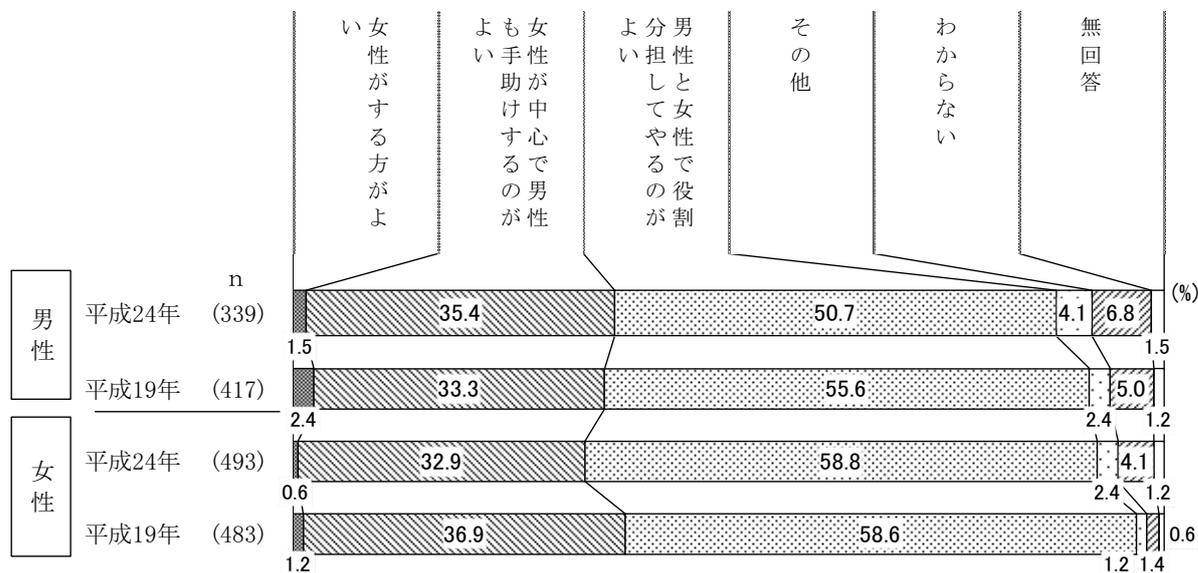
【経年変化】

今回調査と選択肢が異なるため、グラフの掲載にとどめる。



【経年変化・性別】

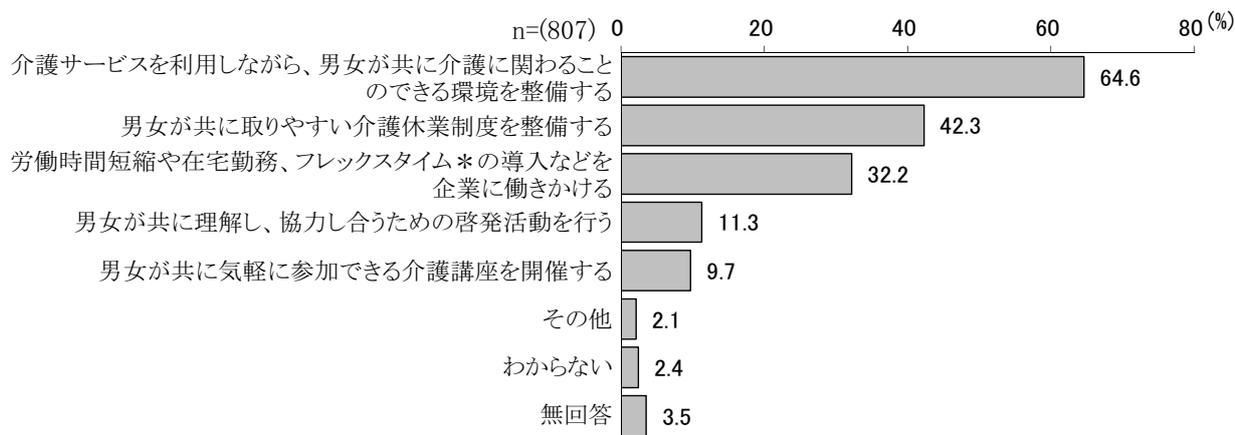
今回調査と選択肢が異なるため、グラフの掲載にとどめる。



(13) 男女が協力して介護を担うために必要なこと

問20 これからは、男女が協力して共に介護を担うことが求められます。男女が協力して介護を担うためには、どのようなことが必要だと思われますか。(2つまでに○)

男女が協力して介護を担うために必要なことは、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」が64.6%と最も多く、次いで「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」(42.3%)、「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイム*の導入などを企業に働きかける」(32.2%)の順となっている。



※フレックスタイム

始業・終業時間や1日の労働時間の長さを固定的に決めず、総労働時間の範囲で各日の労働時間を決める働き方。

【性別／性・被介護者の有無別】

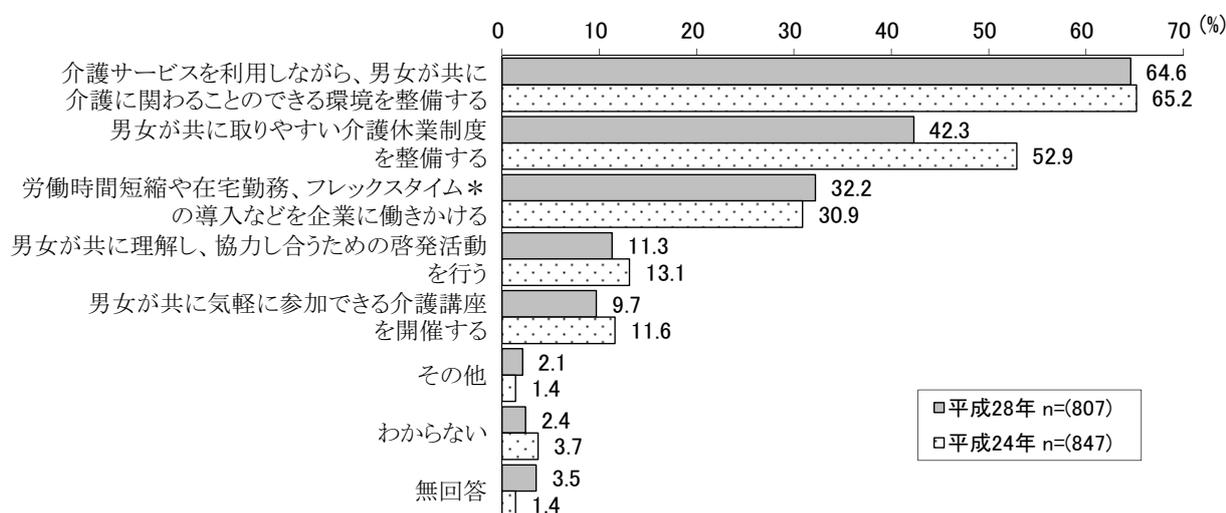
性別／性・被介護者の有無別でみると、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」は女性が70.7%、男性55.6%で女性の方が15.1ポイント多くなっている。

介護の必要な家族の有無別でみると、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」と「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」は介護の必要な家族が“いる”よりも“いない”の方が多くなっている。「男女が共に理解し、協力し合うための啓発活動を行う」は介護が必要な家族が“いる”男性で22.0%と比較的多くなっている。

		n	業男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する	介男女が共に気軽に参加できる講座を開催する	う男女が共に理解し、協力し合うための啓発活動を行う	をレ企業に働きかける	労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイム*の導入などを企業に働きかける	こら、介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する	その他	わからない	無回答
性別	全体	807	42.3	9.7	11.3	32.2	64.6	2.1	2.4	3.5	
	男性	320	44.4	12.5	12.8	30.0	55.6	2.2	5.3	2.5	
	女性	467	41.3	7.9	9.9	34.0	70.7	1.9	0.4	3.9	
	その他	2	-	-	-	50.0	100.0	50.0	-	-	
被介護者の有無別	男性	いる	50	40.0	14.0	22.0	20.0	52.0	2.0	10.0	4.0
		いない	269	45.4	12.3	10.8	32.0	56.1	2.2	4.5	2.2
	女性	いる	90	30.0	6.7	14.4	34.4	64.4	4.4	1.1	8.9
		いない	374	44.4	8.3	8.6	33.7	72.2	1.3	0.3	2.7
	その他	いる	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-
		いない	1	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-

【経年変化】

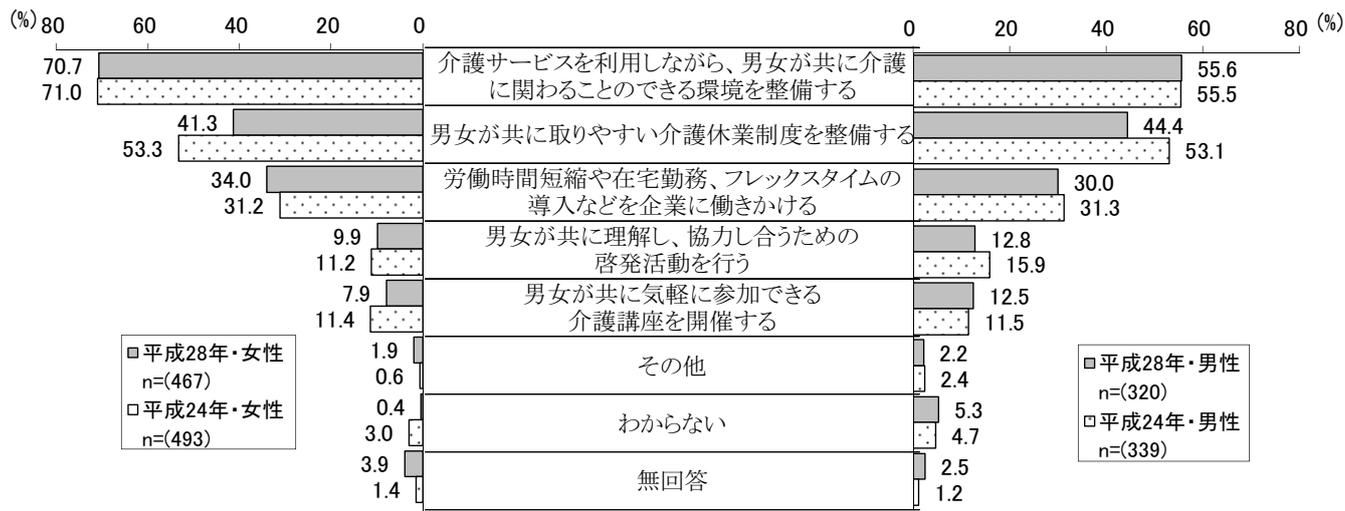
経年変化をみると、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」は6割台半ばで前回調査とほぼ同じ割合になっている。「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」は10.6ポイント前回調査より減少している。



第2章 調査結果の詳細

【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する」は男性では5割台半ば、女性では約7割でほぼ前回と同じ割合となっている。「男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する」は、男性では前回（53.1%）より今回（44.4%）で8.7ポイント減少し、女性では前回（53.3%）より今回（41.3%）で12.0ポイント減少している。



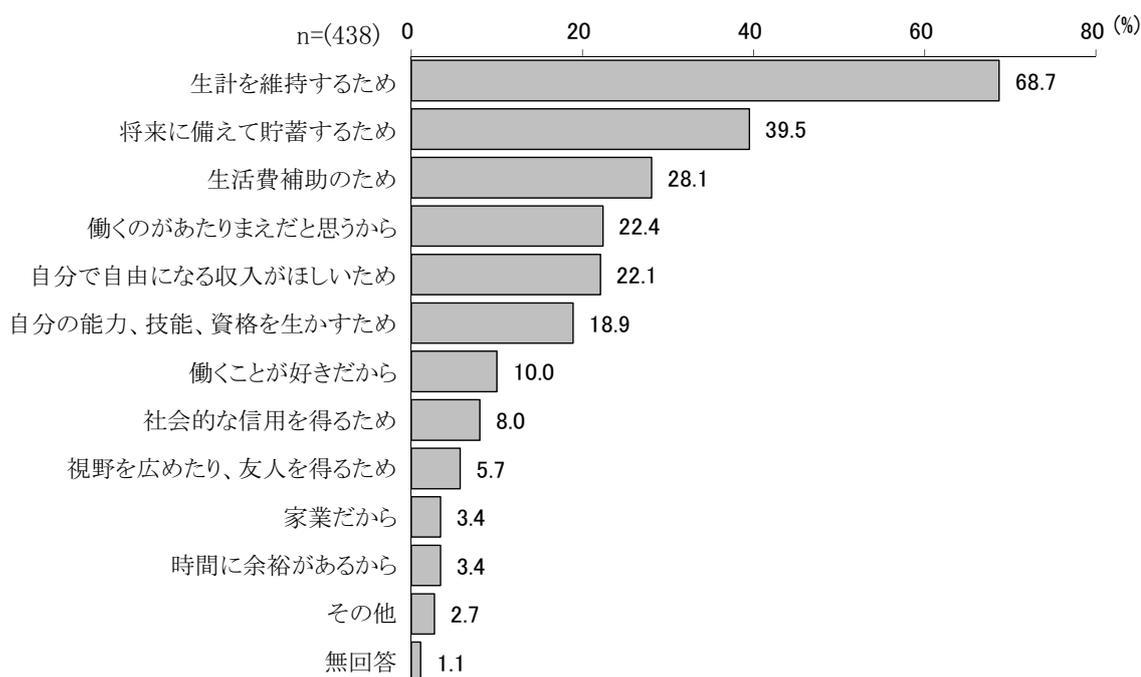
4. 就業について

(1) 働いて収入を得ている主な理由

【現在働いている方のみ】

問22 あなたが、働いて収入を得ている主な理由は何ですか。(3つまでに○)

働いて収入を得ている主な理由については、「生計を維持するため」(68.7%)、「将来に備えて貯蓄するため」(39.5%)、「生活費補助のため」(28.1%)の順となっている。



【性別】

性別では、「生計を維持するため」は男性が82.1%、女性が56.4%で男性の方が25.7ポイント多くなっている。「将来に備えて貯蓄するため」、「生活費補助のため」、「自分で自由になる収入がほしいため」はいずれも女性の方が多くなっている。

	n	生計を維持するため	生活費補助のため	将来に備えて貯蓄するため	自分で自由になる収入がほしいため	自分の能力、技能、資格を生かすため	働くことが好きだから	視野を広めたり、友人を得るため	社会的な信用を得るため	思うから	働くのがあたりまえだと思うから	家業だから	時間に余裕があるから	その他	無回答
全体	438	68.7	28.1	39.5	22.1	18.9	10.0	5.7	8.0	22.4	3.4	3.4	2.7	1.1	
男性	201	82.1	18.4	36.3	12.4	17.4	8.5	5.0	11.4	25.4	3.5	2.0	0.5	1.0	
女性	227	56.4	36.6	43.6	30.8	19.4	11.5	6.6	4.8	20.3	3.5	4.8	4.8	1.3	
その他	2	100	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	

第2章 調査結果の詳細

【性／職業別】

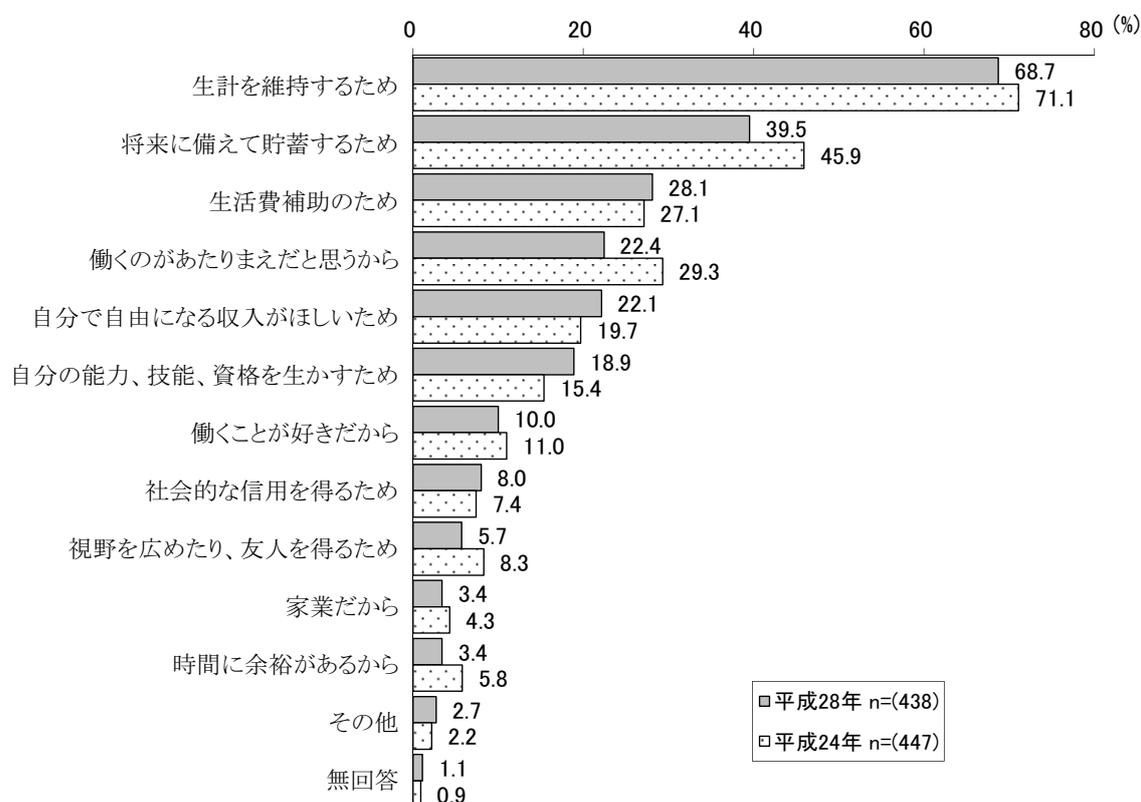
性／職業別では、「生計を維持するため」は男女とも“正社員・正職員”で多く、男性で94.0%、女性で70.7%となっている。「生活費補助のため」「自分で自由になる収入がほしいため」は“アルバイト・パート”で多くなっている。

(%)

	n	生計を維持するため	生活費補助のため	将来に備えて貯蓄するため	自分で自由になる収入がほしいため	自分の能力、技能、資格を生かすため	働くことが好きだから	視野を広めたり、友人を得るため	社会的な信用を得るため	働くのがあたりまえだと思うから	家業だから	時間に余裕があるから	その他	無回答	
全体	438	68.7	28.1	39.5	22.1	18.9	10.0	5.7	8.0	22.4	3.4	3.4	2.7	1.1	
男性	自営業・自由業	23	60.9	4.3	8.7	8.7	21.7	13.0	8.7	8.7	21.7	30.4	4.3	-	4.3
	正社員・正職員	133	94.0	12.0	43.6	9.8	15.8	5.3	3.8	13.5	28.6	-	-	0.8	0.8
	契約社員・派遣社	16	75.0	50.0	37.5	12.5	18.8	18.8	-	6.3	31.3	-	-	-	-
	アルバイト・パート	22	31.8	45.5	22.7	36.4	18.2	18.2	13.6	4.5	13.6	-	13.6	-	-
	非常勤・嘱託	7	100.0	28.6	28.6	-	28.6	-	-	14.3	-	-	-	-	-
	家事専業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無職	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	自営業・自由業	15	33.3	40.0	13.3	13.3	20.0	20.0	-	-	13.3	46.7	-	-	6.7
	正社員・正職員	82	70.7	11.0	54.9	26.8	32.9	12.2	7.3	11.0	29.3	-	-	3.7	-
	契約社員・派遣社	28	46.4	53.6	46.4	35.7	10.7	14.3	10.7	3.6	17.9	-	7.1	-	-
	アルバイト・パート	96	51.0	54.2	37.5	36.5	8.3	9.4	6.3	1.0	14.6	1.0	9.4	7.3	2.1
	非常勤・嘱託	6	50.0	16.7	50.0	16.7	50.0	-	-	-	16.7	-	-	16.7	-
	家事専業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無職	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	自営業・自由業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	2	100.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-
	契約社員・派遣社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アルバイト・パート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	非常勤・嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	家事専業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無職	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

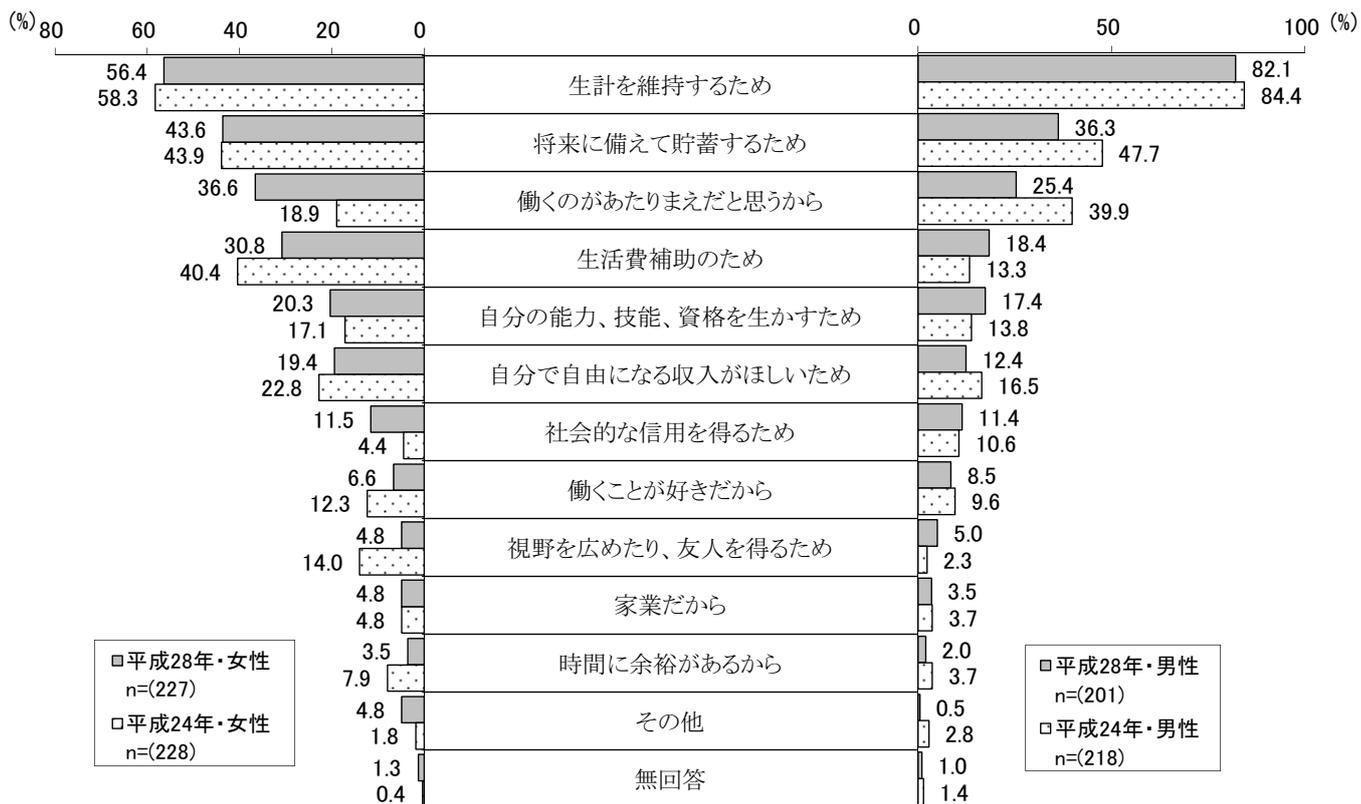
【経年変化】

経年変化をみると、「生計を維持するため」は前回調査より2.4ポイント減少し、「将来に備えて貯蓄するため」は6.4ポイント減少、「働くのがあたりまえだと思うから」は6.9ポイント減少している。「自分の能力、技能、資格を生かすため」は3.5ポイント増加し、「自分で自由になる収入がほしいため」は2.4ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「生計を維持するため」は男性では2.3ポイント減少し、女性では1.9ポイント減少している。「将来に備えて貯蓄するため」は男性では11.4ポイント減少しているが、女性ではほぼ同じ割合となっている。「働くのがあたりまえだと思うから」は男性では14.5ポイント減少し、女性では17.7ポイント増加している。「自分で自由になる収入がほしいため」は女性で3.4ポイント減少し、「視野を広めたり、友人を得るため」は女性で9.2ポイント減少している。また、「働くことが好きだから」は女性で5.7ポイント減少している。

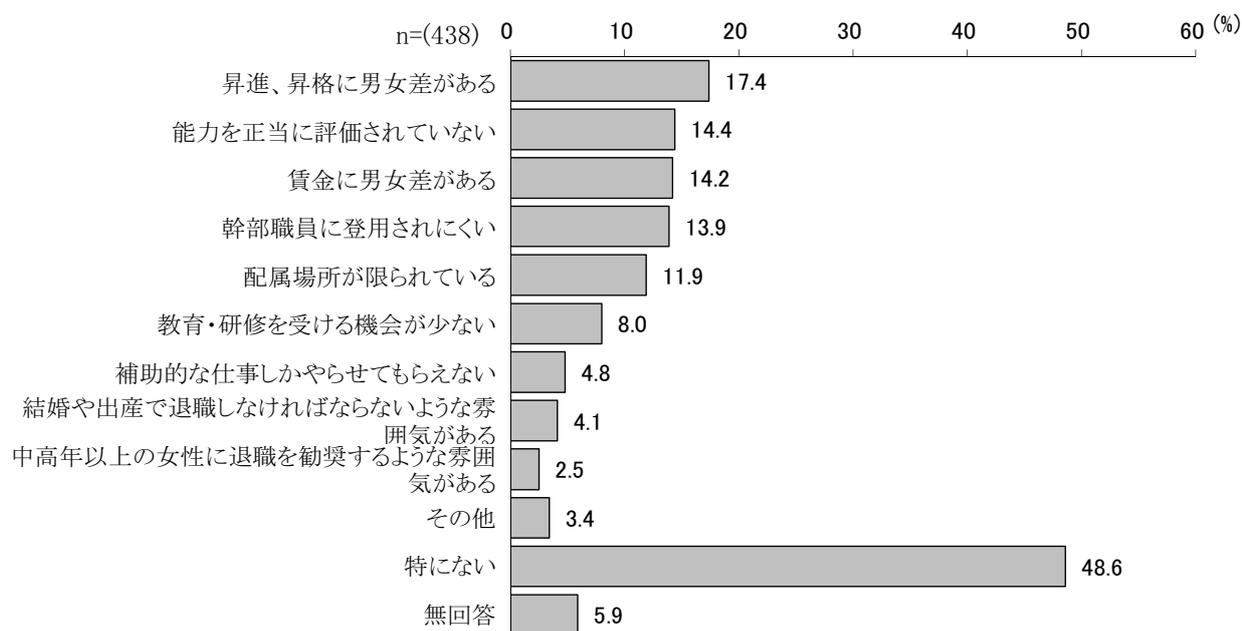


(2) 職場での女性への待遇について

【現在働いている方のみ】

問23 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

職場における女性に対する差別の状況については、「昇進、昇格に男女差がある」(17.4%)、「能力を正當に評価されていない」(14.4%)、「賃金に男女差がある」(14.2%)、「幹部職員に登用されにくい」(13.9%)、「配属場所が限られている」(11.9%)の順となっている。「特にない」は48.6%となっている。



第2章 調査結果の詳細

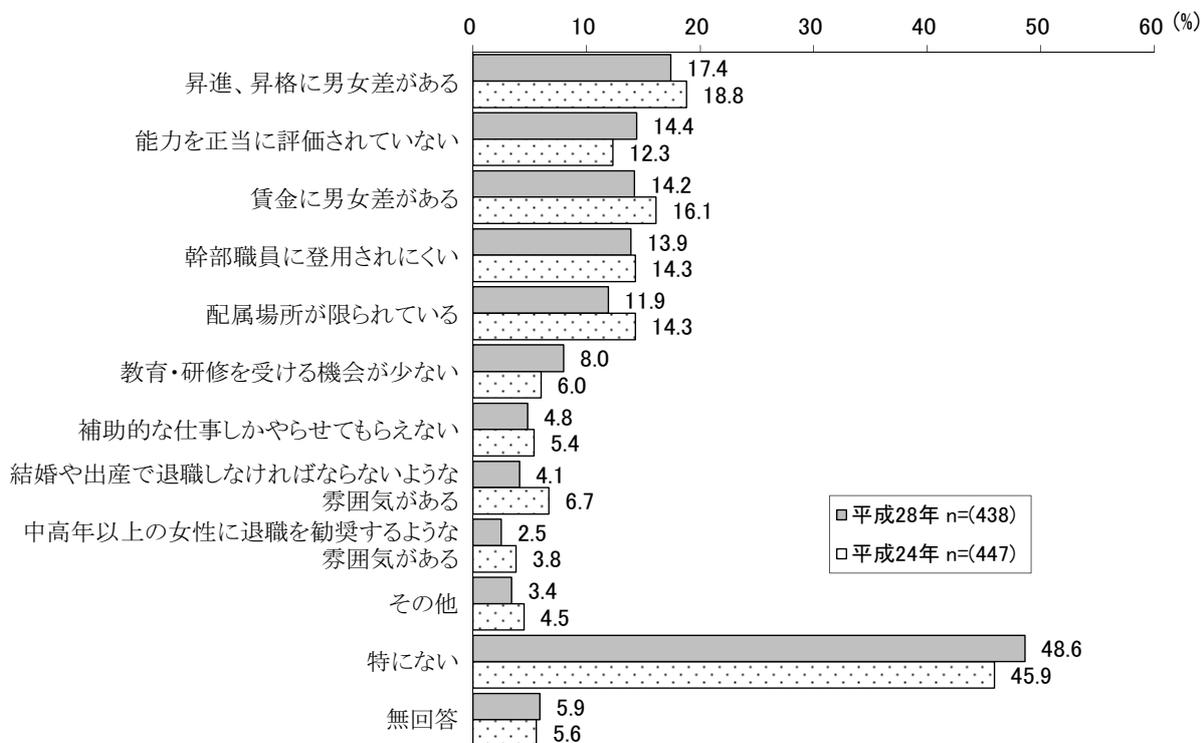
【性別】

性別でみると、「配属場所が限られている」は男性が17.9%、女性が6.2%で男性の方が11.7ポイント多くなっている。

	n	賃金に男女差がある	昇進、昇格に男女差がある	能力を正当に評価されていない	配属場所が限られている	補助的な仕事しかやらせてもらえない	幹部職員に登用されにくい	結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある	中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	教育・研修を受ける機会が少ない	その他	特にない	無回答
全体	438	14.2	17.4	14.4	11.9	4.8	13.9	4.1	2.5	8.0	3.4	48.6	5.9
男性	201	12.4	18.9	11.9	17.9	4.5	16.9	3.0	2.5	7.0	2.5	47.8	6.0
女性	227	15.0	15.9	16.3	6.2	4.4	11.0	4.8	2.6	8.4	4.4	50.2	6.2
その他	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-

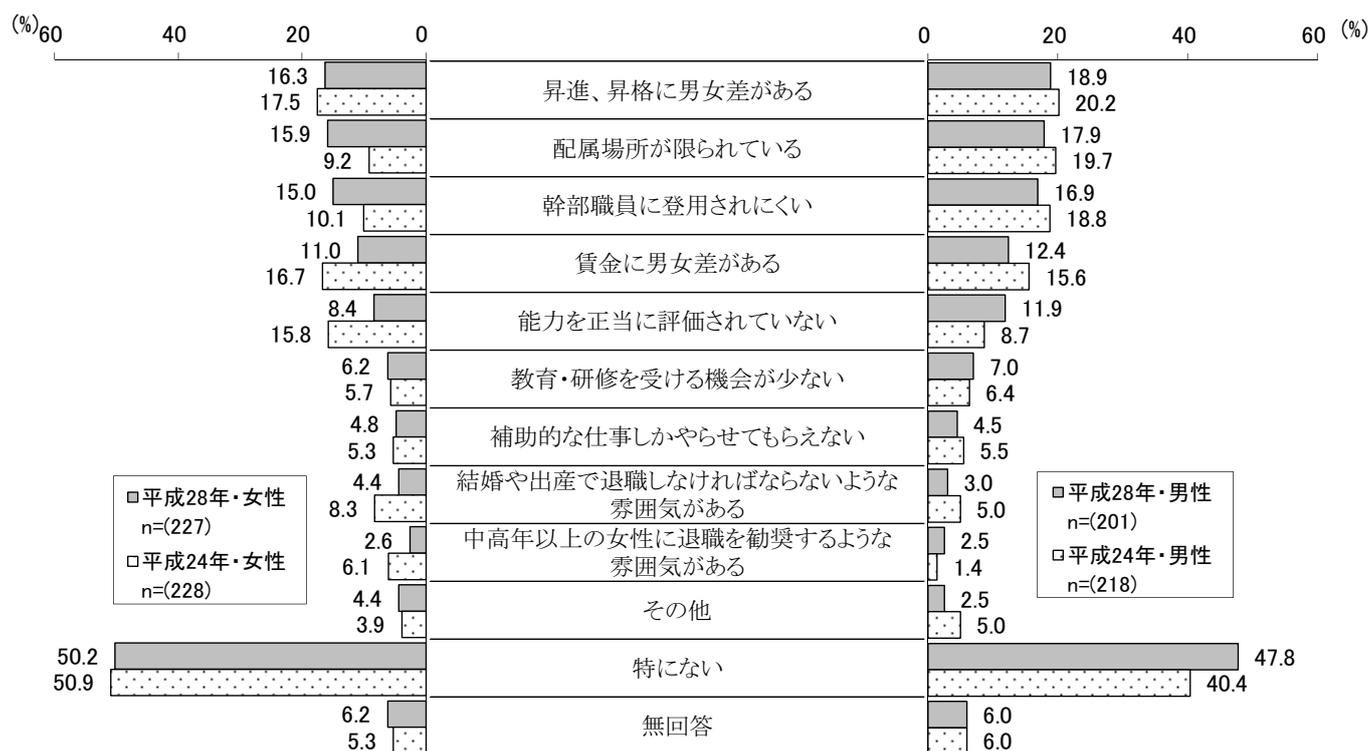
【経年変化】

経年変化をみると、各項目に大きな変化はみられない。「配属場所が限られている」は2.4ポイント減少し、「結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある」は2.6ポイント減少している。「能力を正当に評価されていない」は2.1ポイント増加し、「教育・研修を受ける機会が少ない」は2.0ポイント増加している。



【経年変化・性別】

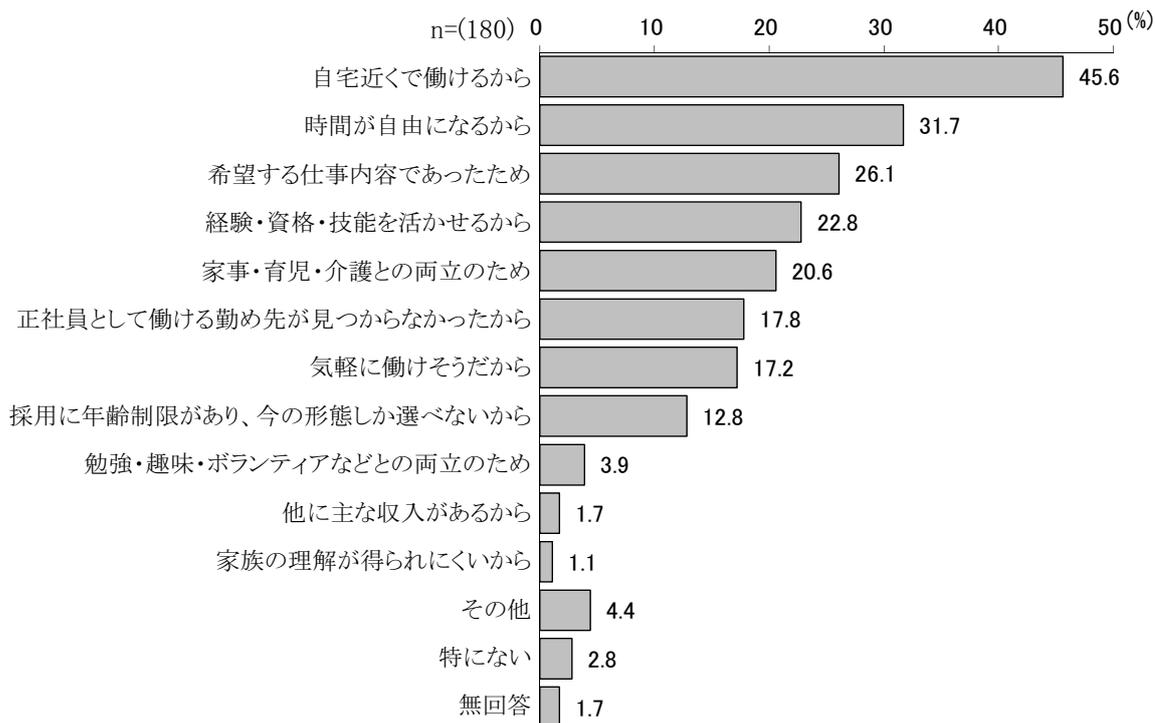
経年変化を性別で見ると、「昇進、昇格に男女差がある」は男性では1.3ポイント、女性では1.2ポイントともに減少している。「配属場所が限られている」は女性では6.7ポイント増加している。「幹部職員に登用されにくい」は女性では4.9ポイント増加している。「賃金に男女差がある」は男性では3.2ポイント減少し、女性では5.7ポイント減少している。「能力を正当に評価されていない」は男性で3.2ポイント増加し、女性では7.4ポイント減少している。



(3) 非正規雇用で働いている主な理由

【現在「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」として働いている方のみ】
 問24 現在の形態で働いている主な理由は何ですか。(3つまでに○)

非正規雇用で働いている主な理由は、「自宅近くで働けるから」(45.6%)、「時間が自由になるから」(31.7%)、「希望する仕事内容であったため」(26.1%)、「経験・資格・技能を活かせるから」(22.8%)、「家事・育児・介護との両立のため」(20.6%)の順となっている。



【性別】

性別でみると、「自宅近くで働けるから」は女性で52.3%、男性で22.2%と女性の方が30.1ポイント多くなっている。「家事・育児・介護との両立のため」は女性のみ27.7%となっている。また、「時間が自由になるから」も女性で35.4%、男性で24.4%と女性の方が11.0ポイント多くなっている。一方、「経験・資格・技能を活かせるから」は男性で40.0%、女性で16.9%と男性の方が23.1ポイント多くなっている。

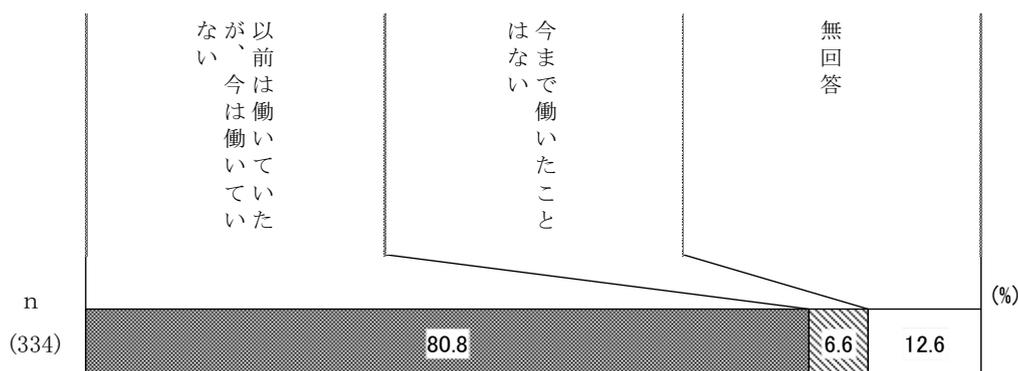
	n	経験・資格・技能を活かせるから	希望する仕事内容であったため	時間が自由になるから	気軽に働けそうだから	自宅近くで働けるから	他に主な収入があるから	家事・育児・介護との両立のため	勉強・趣味・ボランティアなどの両立のため	採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから	正社員として働ける勤め先が見つからなかったから	家族の理解が得られにくいから	その他	特にない	無回答
全体	180	22.8	26.1	31.7	17.2	45.6	1.7	20.6	3.9	12.8	17.8	1.1	4.4	2.8	1.7
男性	45	40.0	31.1	24.4	22.2	22.2	4.4	-	8.9	15.6	20.0	-	8.9	2.2	4.4
女性	130	16.9	24.6	35.4	15.4	52.3	0.8	27.7	2.3	12.3	16.9	0.8	3.1	3.1	0.8

(4) 就労経験の有無

【現在働いていない方のみ】

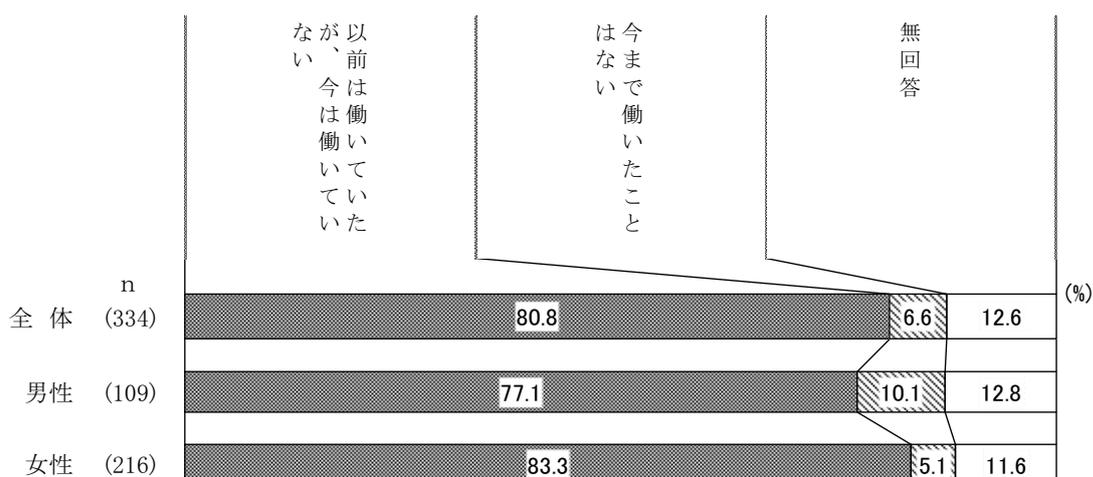
問25 あなたは、働いたこと（パート、自営業、臨時、内職等も含む）がありますか。
（1つに○）

就労経験の有無は、「以前は働いていたが、今は働いていない」が80.8%となっている。



【性別】

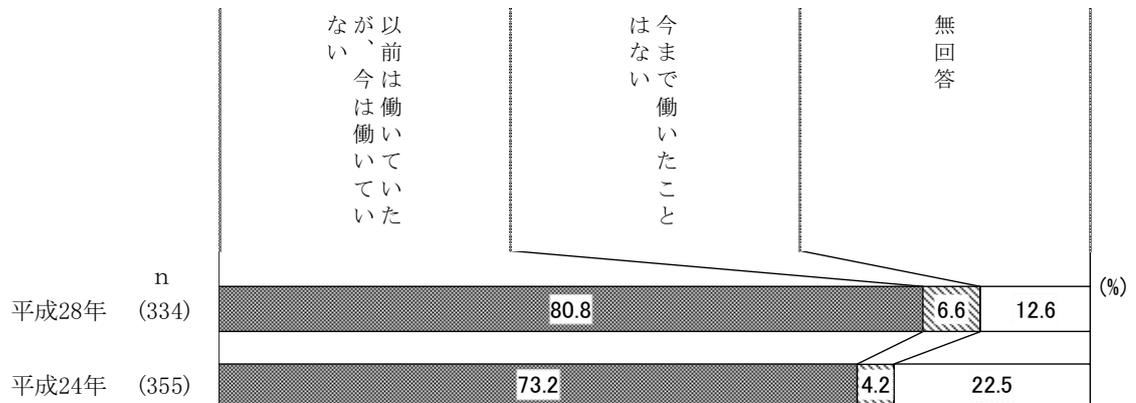
性別でみると、「以前は働いていたが、今は働いていない」は女性で83.3%、男性で77.1%と女性の方が6.2ポイント多くなっている。



第2章 調査結果の詳細

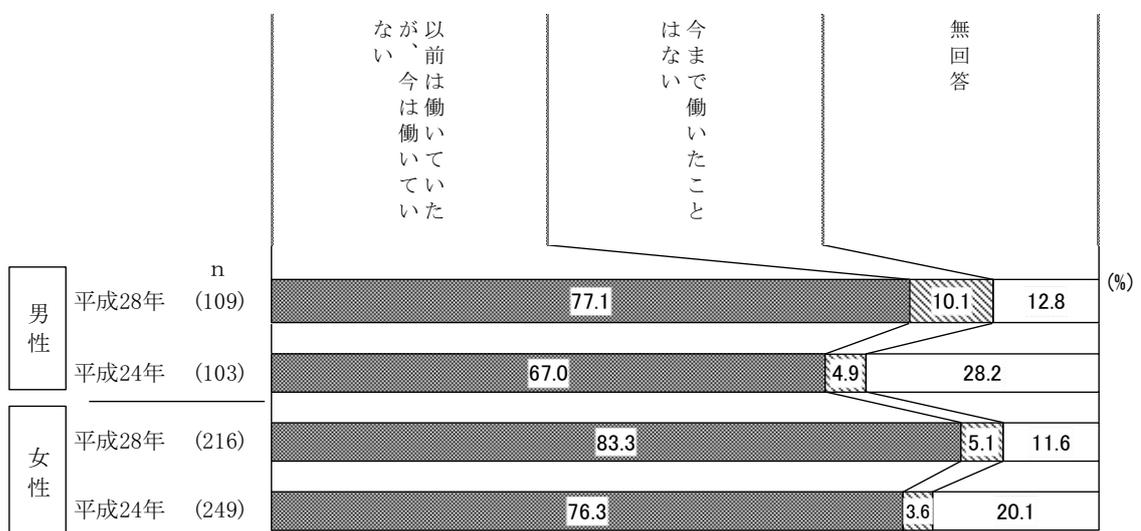
【経年変化】

経年変化をみると、「以前は働いていたが、今は働いていない」は7.6ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別でみると、「以前は働いていたが、今は働いていない」は男性では10.1ポイント増加し、女性では7.0ポイント増加している。

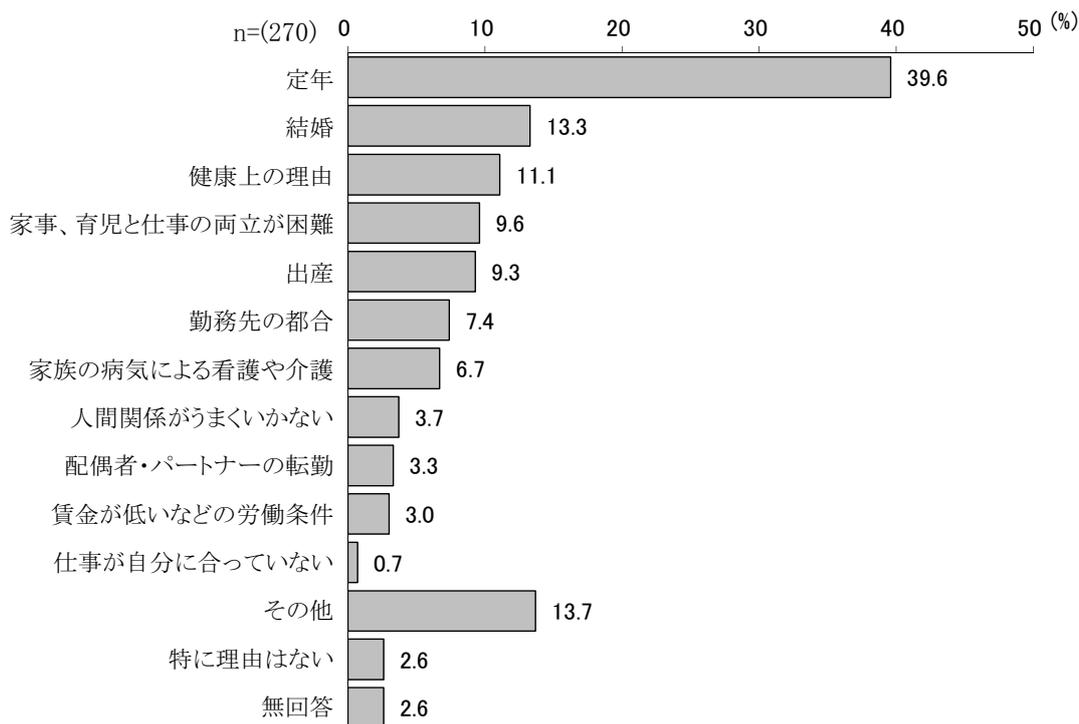


(5) 仕事をやめた主な理由

【問25で「1. 以前は働いていたが、今は働いていない」とお答えの方のみ】

問25-1 あなたが仕事をやめた主な理由は何ですか。(3つまでに○)

仕事をやめた主な理由は、「定年」(39.6%)が最も多く、次いで「結婚」(13.3%)、「健康上の理由」(11.1%)、「家事、育児と仕事の両立が困難」(9.6%)、「出産」(9.3%)の順となっている。結婚、出産、家事・育児等による離職は3割を超えている。



【性別】

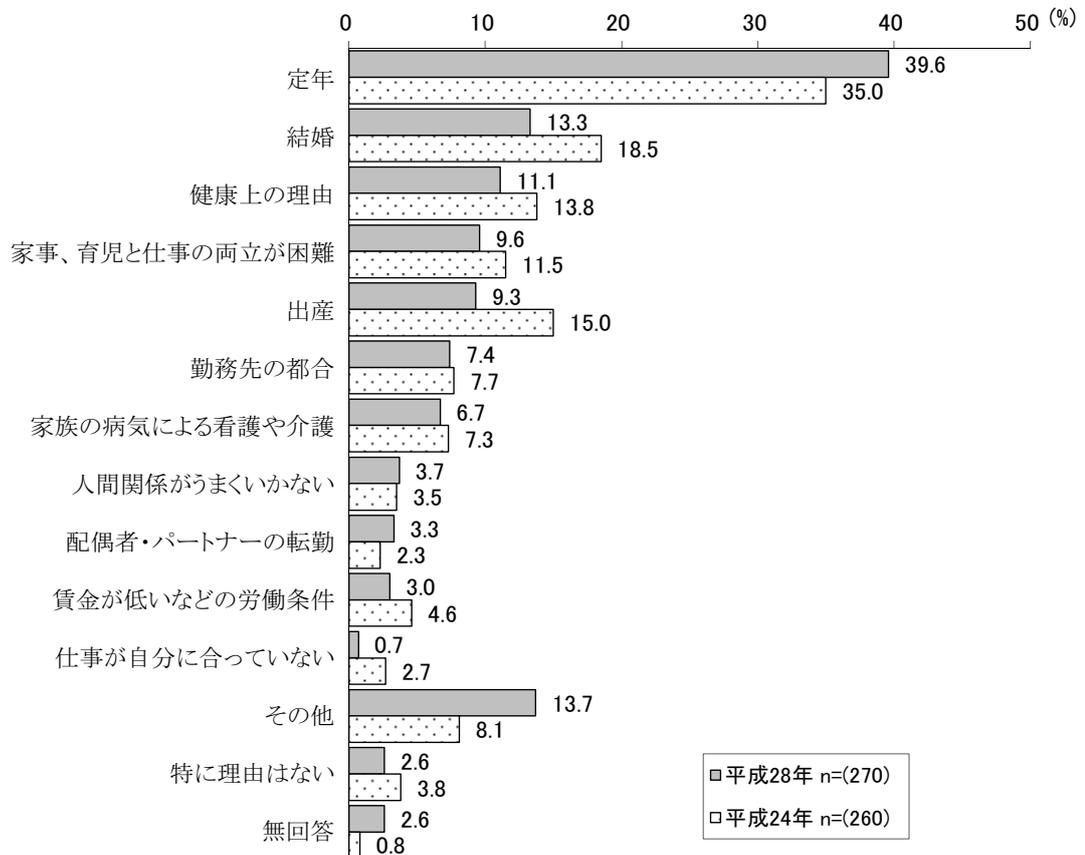
性別でみると、「定年」は男性で71.4%、女性で23.9%と男性の方が47.5ポイント多くなっている。一方、「結婚」、「家事、育児と仕事の両立が困難」、「出産」は男性の回答はなく、女性でそれぞれ10%を超えている。

	n	仕事が自分に合っていない	人間関係がうまくいかない	勤務先の都合	賃金が低いなどの労働条件	健康上の理由	定年	配偶者・パートナーの転勤	家族の病気による看護や介護	結婚	出産	家事、育児と仕事の両立が困難	その他	特に理由はない	無回答
全体	270	0.7	3.7	7.4	3.0	11.1	39.6	3.3	6.7	13.3	9.3	9.6	13.7	2.6	2.6
男性	84	1.2	3.6	3.6	1.2	10.7	71.4	-	1.2	-	-	-	16.7	2.4	2.4
女性	180	0.6	3.9	9.4	3.9	11.1	23.9	5.0	9.4	19.4	13.9	14.4	12.8	2.8	2.8

第2章 調査結果の詳細

【経年変化】

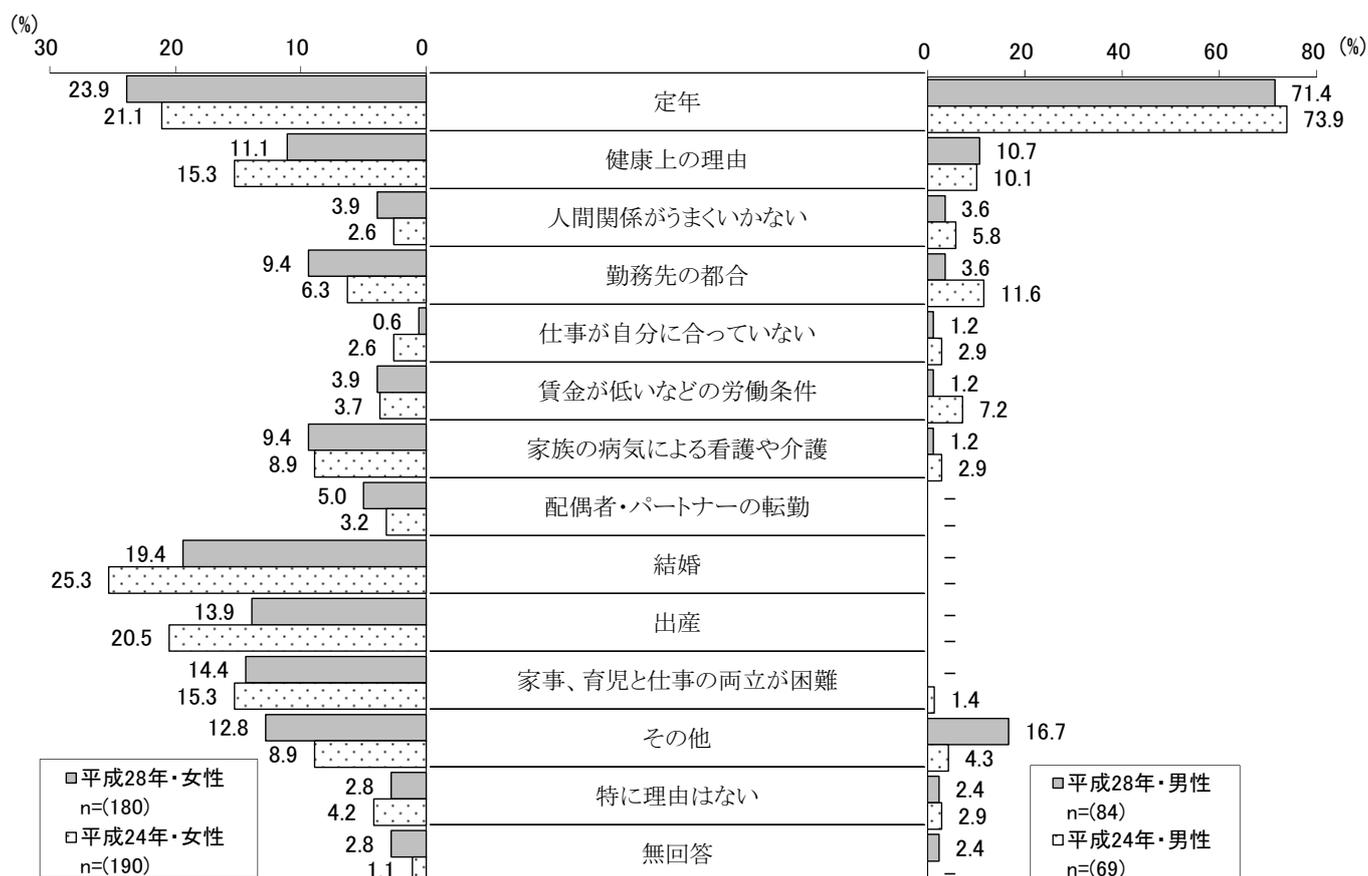
経年変化をみると、「定年」は 4.6 ポイント増加している。「出産」は 5.7 ポイント減少し、「結婚」は 5.2 ポイント減少、「健康上の理由」は 2.7 ポイント減少している。



※「配偶者・パートナーの転勤」は平成24年調査では「夫または妻の転勤」となっている。

【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「定年」は男性では2.5ポイント減少し、女性では2.8ポイント増加している。「健康上の理由」は女性では4.2ポイント減少している。「勤務先の都合」は男性では8.0ポイント減少し、女性では3.1ポイント増加している。「結婚」は女性で5.9ポイント減少し、「出産」は女性で6.6ポイント減少している。

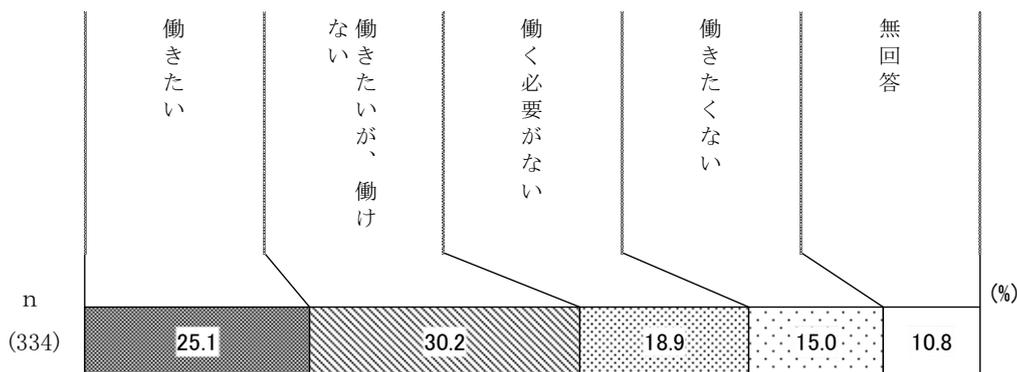


(6) 就労希望

【現在働いていない方のみ】

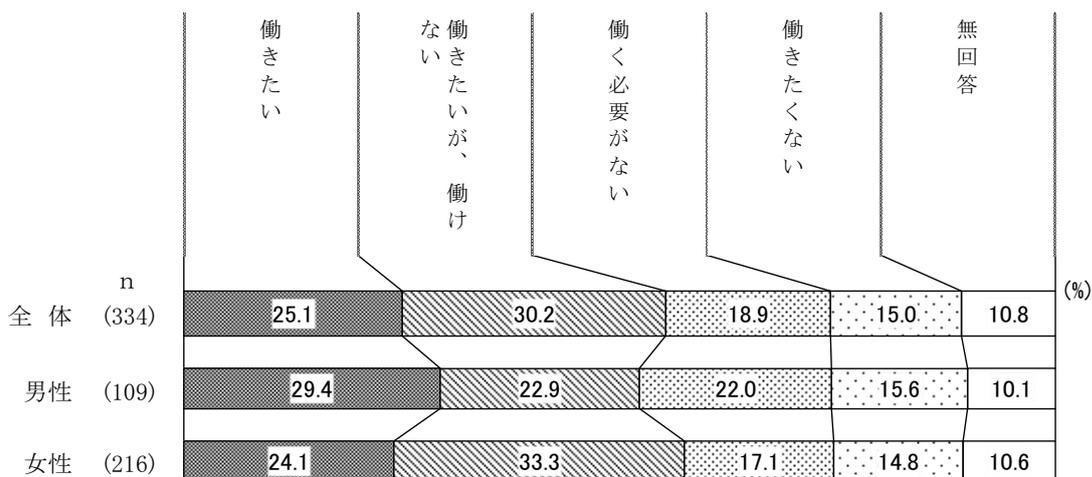
問26 現在または将来、あなたは働きたいと思いますか。ここでは雇われる働き方だけでなく、自分や仲間と新しく事業を始めることも含めてお答えください。(1つに○)

就労希望は、「働きたいが、働けない」(30.2%)が最も多く、次いで「働きたい」(25.1%)が続いている。



【性別】

性別でみると、「働きたいが、働けない」は女性で33.3%、男性で22.9%と女性の方が10.4ポイント多くなっている。「働きたい」と「働く必要がない」は男性の方が多くなっている。

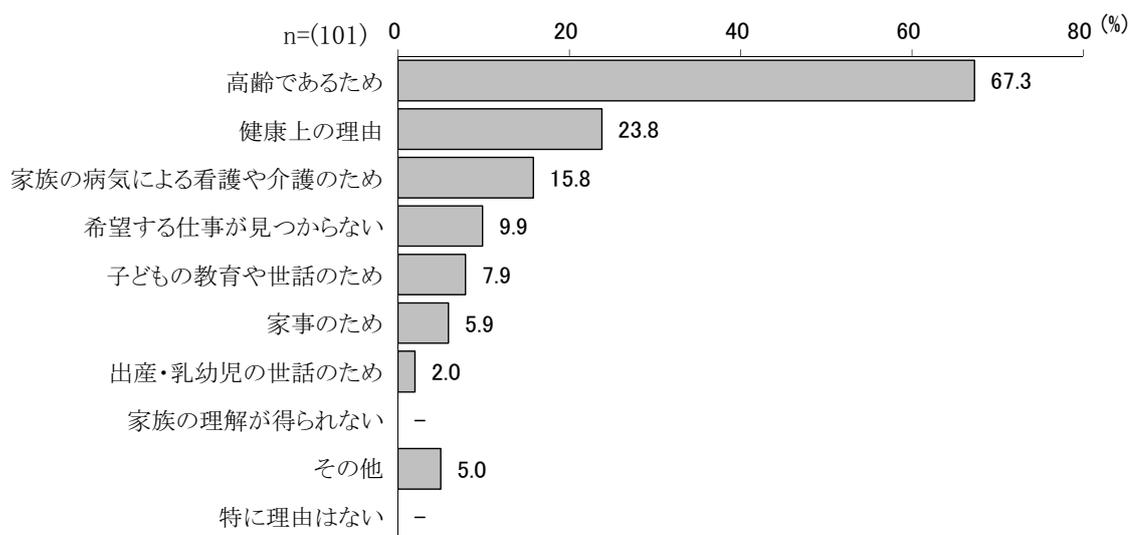


(7) 働けない理由

問26で「2. 働きたいが、働けない」とお答えの方のみ

問26-1 その主な理由は何ですか。(2つまでに○)

働けない理由は、「高齢であるため」(67.3%)が最も多く、「健康上の理由」(23.8%)、「家族の病気による看護や介護のため」(15.8%)、「希望する仕事が見つからない」(9.9%)、「子どもの教育や世話のため」(7.9%)、「家事のため」(5.9%)の順となっている。育児・介護・家事等を理由とする人は3割を超えている。



【性別】

性別でみると、「高齢であるため」は男性で76.0%、女性で62.5%と男性の方が13.5ポイント多くなっている。「家族の病気による看護や介護のため」と「子どもの教育や世話のため」は男性の回答はなく、女性でそれぞれ10%を超えている。

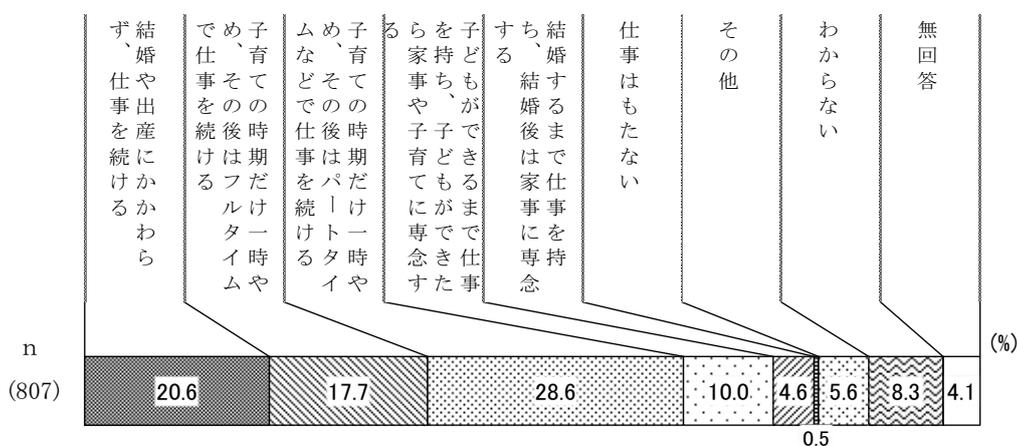
	n	希望する仕事が見つからない	健康上の理由	高齢であるため	出産・乳幼児の世話のため	家事のため	子どもの教育や世話のため	家族の病気による看護や介護のため	家族の理解が得られない	その他	特に理由はない
全体	101	9.9	23.8	67.3	2.0	5.9	7.9	15.8	-	5.0	-
男性	25	8.0	28.0	76.0	-	-	-	12.0	-	-	-
女性	72	9.7	20.8	62.5	2.8	8.3	11.1	18.1	-	6.9	-

(8) 女性の働き方の理想

【すべての方にうかがいます。】

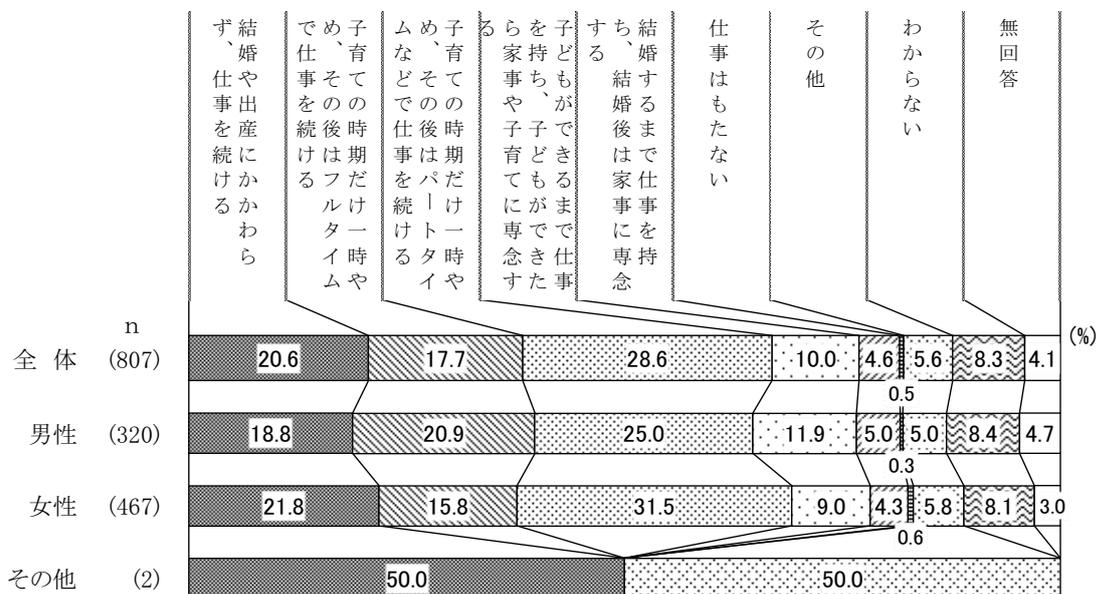
問27 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。(1つに○)

女性の働き方の理想については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」<就業継続>支持は20.6%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける」は28.6%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」は17.7%となっており、<一時中断・再就職>支持は46.3%となっている。



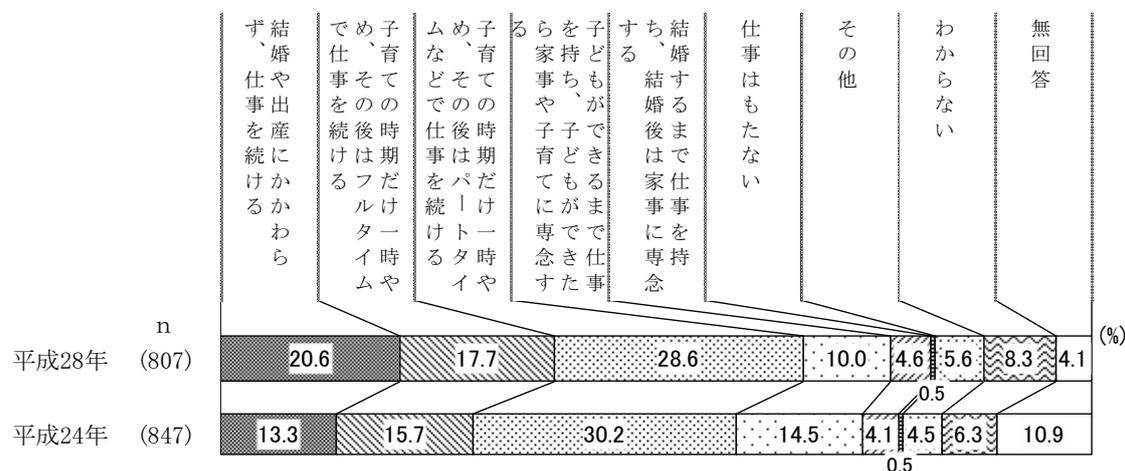
【性別】

性別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」<就業継続>支持は女性で21.8%、男性で18.8%と女性の方が3.0ポイント多くなっている。また、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」も女性が31.5%、男性が25.0%と女性の方が6.5ポイント多くなっている。



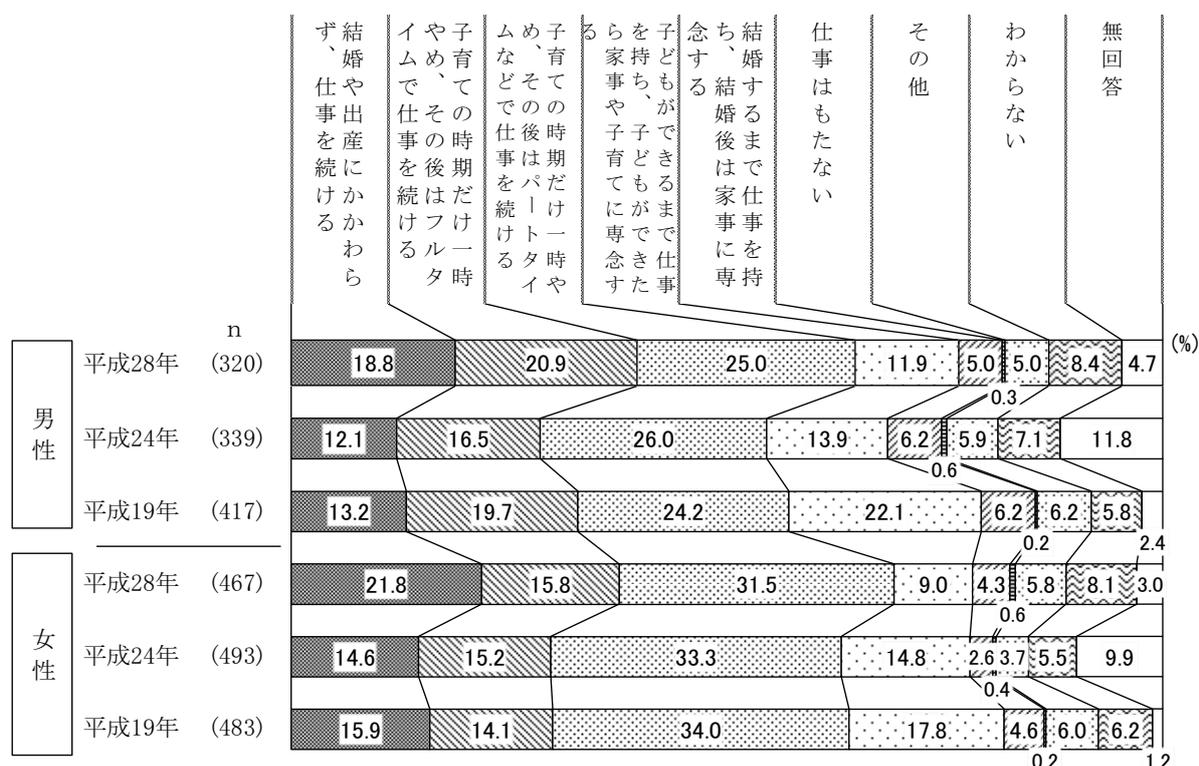
【経年変化】

経年変化をみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」は7.3ポイント増加し、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」は2.0ポイント増加している。「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける」は1.6ポイント減少し、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」は4.5ポイント減少している。



【経年変化・性別】

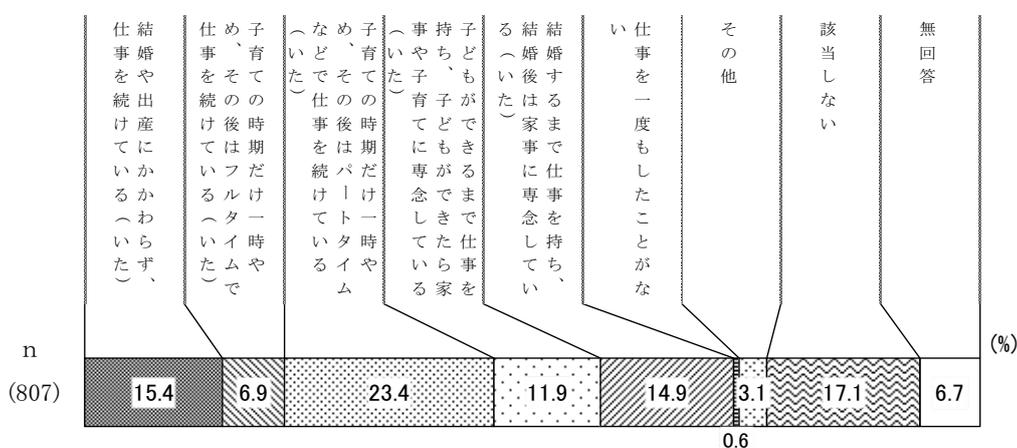
経年変化を性別でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」は前回調査から男性は6.7ポイント増加し、女性では7.2ポイント増加している。「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」は男性では前回調査より4.4ポイント増加しているが、女性では0.6ポイントの増加にとどまっている。



(9) 女性の働き方について家庭での現状

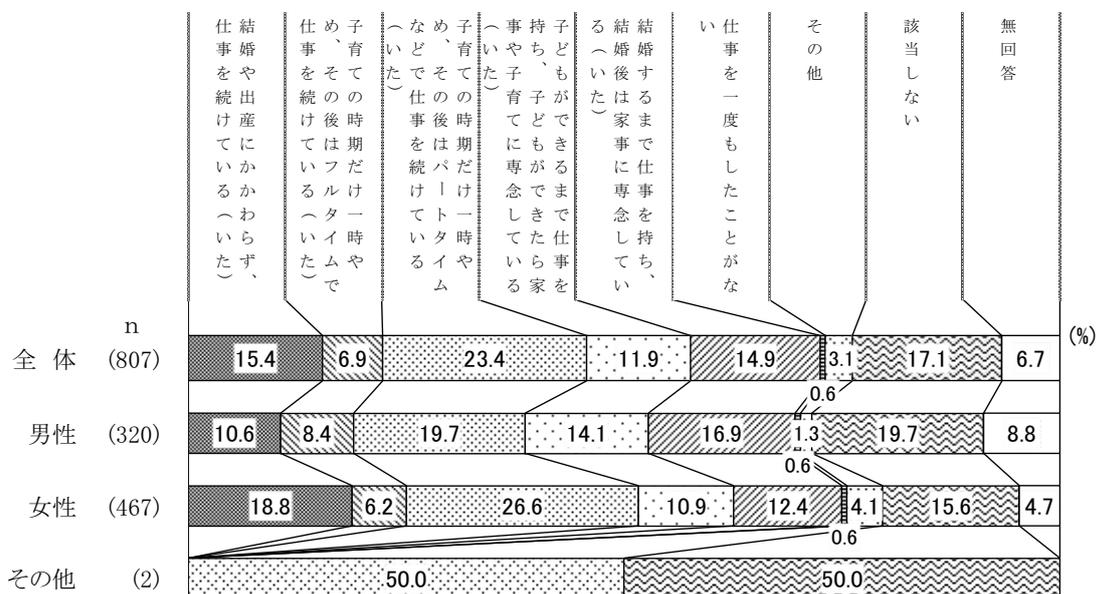
問28 女性の働き方について、あなたのご家庭での現状は次のどれですか。(1つに○)

女性の働き方について家庭での現状については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」<就業継続>は15.4%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続けている (いた)」は23.4%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている (いた)」は6.9%となっており、<一時中断・再就職>は30.3%となっている。また、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念している (いた)」は11.9%、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念している (いた)」は14.9%となっている。



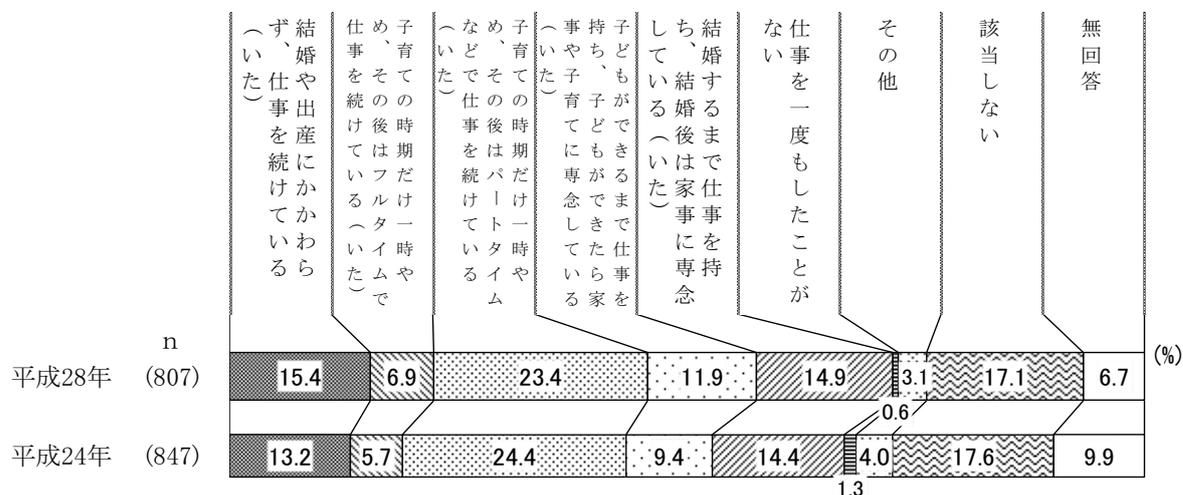
【性別】

性別でみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続けている (いた)」と「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」はいずれも女性の方が多くなっている。



【経年変化】

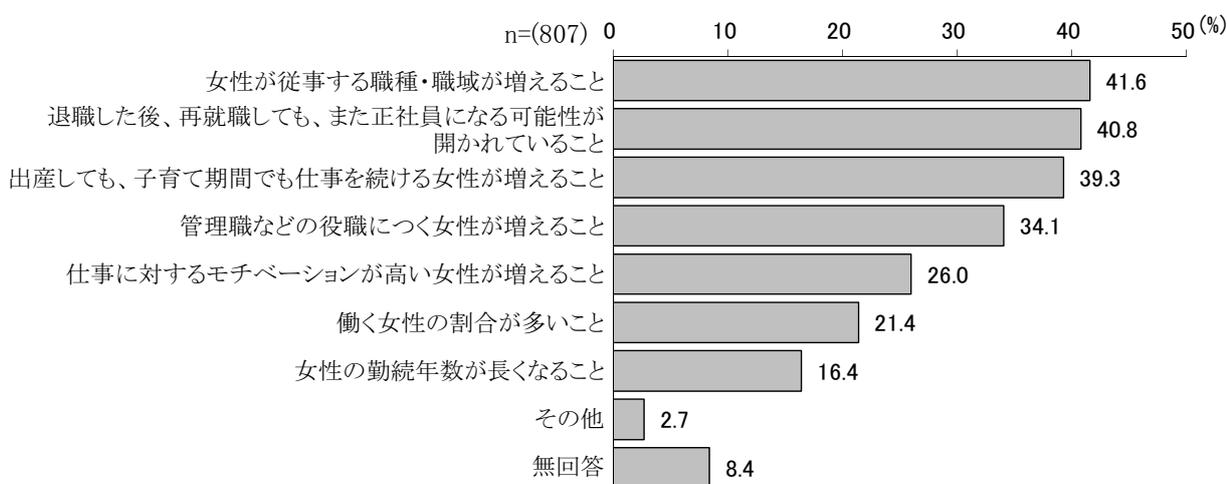
経年変化をみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）」は2.2ポイント増加し、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念している（いた）」は2.5ポイント増加している。



(10) 働く場で「女性の活躍が推進されている」状態

問29 働く場で「女性の活躍が推進されている」とは主にどのような状態だと思いますか。
(3つまでに○)

働く場で「女性の活躍が推進されている」状態については、「女性が従事する職種・職域が増えること」(41.6%)、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」(40.8%)、「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」(39.3%)、「管理職などの役職につく女性が増えること」(34.1%)、「仕事に対するモチベーションが高い女性が増えること」(26.0%)の順となっている。



【性別】

性別でみると、「女性が従事する職種・職域が増えること」と「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は男女ともに4割程度と多くなっている。「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」は女性で42.8%、男性で35.3%と女性の方が7.5ポイント多くなっている。

	n	女性の勤続年数が長くなること	出産しても仕事を続ける女性が増えること	退職後も開かれた社員の再就職も可能	働く女性の割合が多いこと	女性が従事する職種・職域が増えること	仕事に対するモチベーションが高い女性が増えること	管理職などの役職につく女性が増えること	その他	無回答
全体	807	16.4	39.3	40.8	21.4	41.6	26.0	34.1	2.7	8.4
男性	320	17.2	35.3	39.4	24.7	41.6	28.8	32.5	2.2	8.8
女性	467	15.0	42.8	42.4	18.8	42.6	24.4	35.3	3.0	7.5
その他	2	50.0	-	50.0	-	-	-	100.0	50.0	-

【性／年齢別】

性／年齢別でみると、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」と「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」は男女ともに“30歳代”と“40歳代”で多く、「出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること」は“女性30歳代”で73.0%と特に多くなっている。“女性40歳代”ではどちらも5割となっている。また、「管理職などの役職につく女性が増えること」は“女性30歳代”で46.0%と多い。一方、「女性が従事する職種・職域が増えること」と「仕事に対するモチベーションが高い女性が増えること」は男女ともに“50歳代”と“60歳代”で多くなっている。

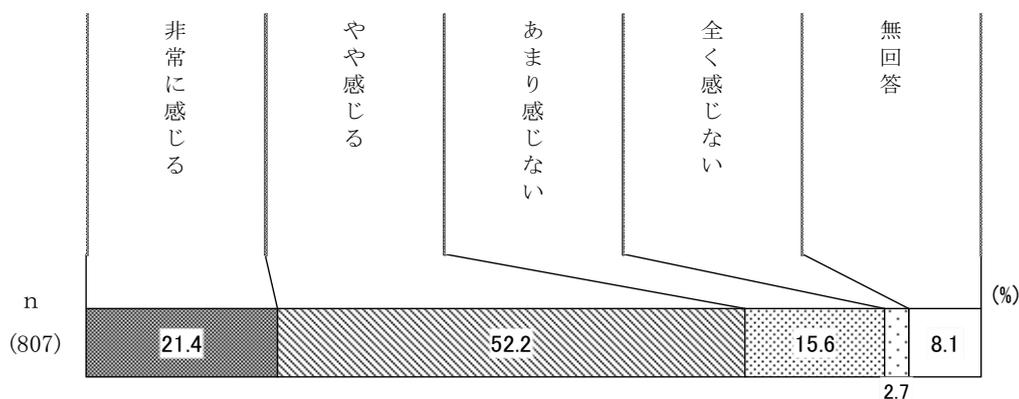
(%)

	n	と女性 の勤続 年数が 長くなる こと	と仕出 産して も、子 育て期 間でも 仕事を 続ける 女性 が増 えるこ と	かま退 れた職 した正 社員に なる可 能性が 開	働く女 性の割 合が多 いこと	増女性 が従事 する職 種・職 域が	が仕事 に對す るモチ ベーン ション	が管 理職な どの役 職につ く女性 が増 えるこ と	そ の 他	無 回 答
全 体	807	16.4	39.3	40.8	21.4	41.6	26.0	34.1	2.7	8.4
男性	18・19歳	6	16.7	50.0	33.3	50.0	16.7	-	16.7	-
	20歳代	24	25.0	37.5	54.2	37.5	37.5	12.5	37.5	4.2
	30歳代	34	23.5	47.1	38.2	8.8	29.4	32.4	50.0	2.9
	40歳代	47	27.7	44.7	53.2	25.5	36.2	29.8	36.2	2.1
	50歳代	51	15.7	35.3	31.4	19.6	51.0	39.2	39.2	-
	60歳代	58	10.3	31.0	41.4	27.6	48.3	34.5	32.8	3.4
	70歳以上	100	13.0	28.0	33.0	26.0	42.0	24.0	21.0	2.0
女性	18・19歳	2	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	50.0	-
	20歳代	25	28.0	56.0	36.0	20.0	36.0	8.0	40.0	12.0
	30歳代	63	15.9	73.0	47.6	11.1	27.0	31.7	46.0	4.8
	40歳代	108	14.8	50.9	50.0	16.7	38.9	26.9	38.0	2.8
	50歳代	64	15.6	42.2	51.6	17.2	53.1	21.9	29.7	1.6
	60歳代	79	17.7	30.4	41.8	25.3	53.2	34.2	38.0	-
	70歳以上	125	9.6	25.6	30.4	21.6	42.4	17.6	27.2	3.2
その他	18・19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	1	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0
	40歳代	1	100.0	-	100.0	-	-	-	100.0	-
	50歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(11) 女性が働き続けることのさまたげとなっていることの有無

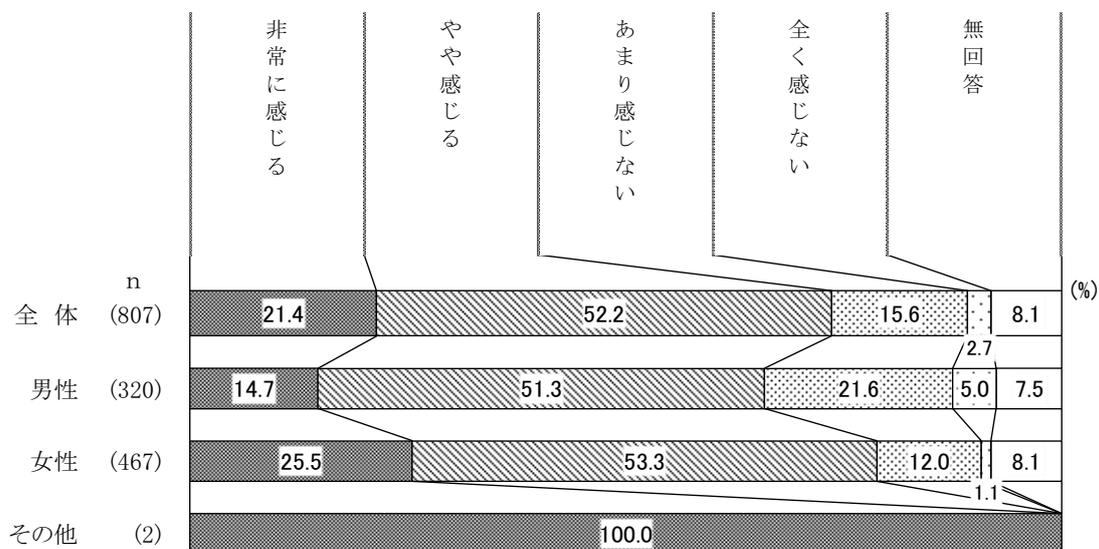
問30 今の社会全体からみて、女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることがあると感じますか。(1つに○)

女性が働き続けることのさまたげとなっていることの有無については、「非常に感じる」(21.4%)と「やや感じる」(52.2%)を合わせた<感じる>が73.6%、「あまり感じない」(15.6%)、「全く感じない」(2.7%)を合わせた<感じない>が18.3%となっている。



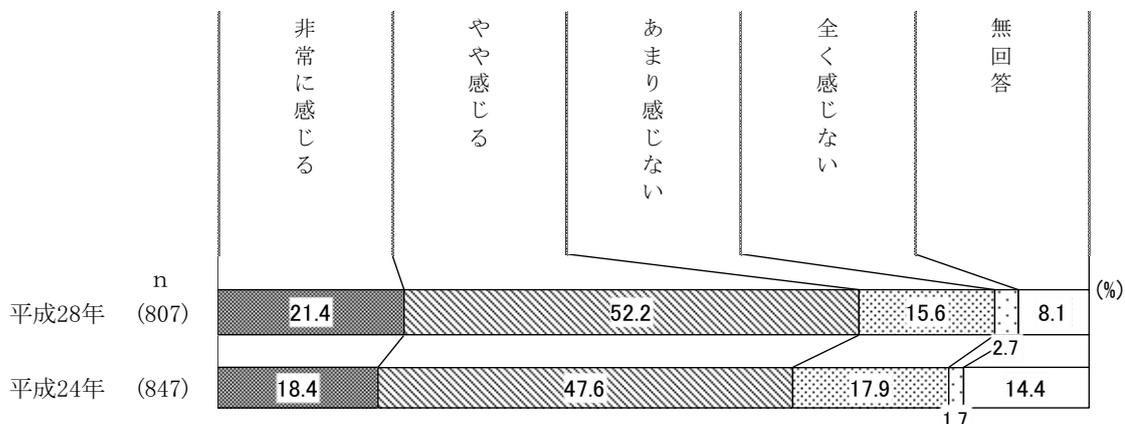
【性別】

性別でみると、<感じる>は女性で78.8%、男性で66.0%と女性の方が12.8ポイント多くなっている。



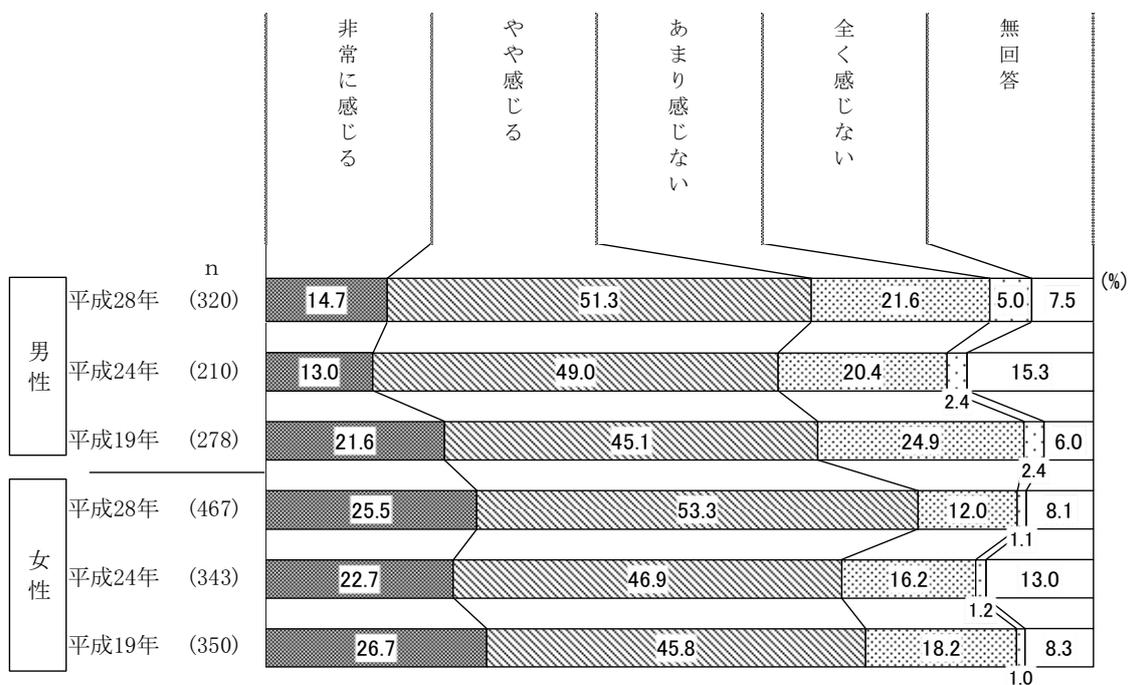
【経年変化】

経年変化をみると、「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた<感じる>は、前回調査と比べて7.6ポイント増加している。



【経年変化・性別】

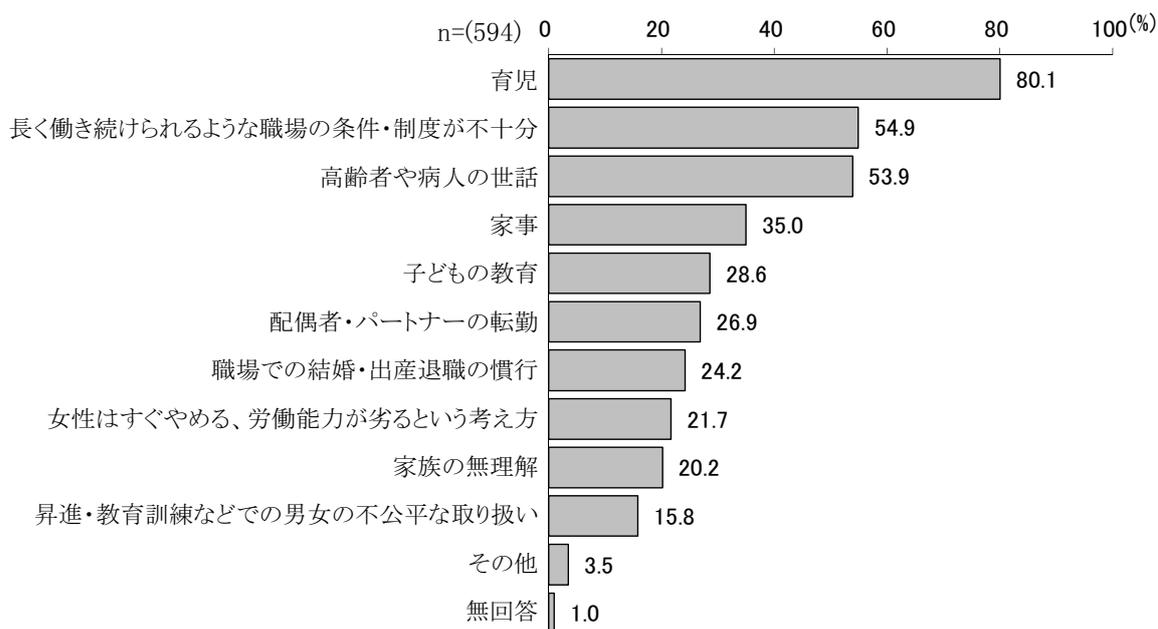
経年変化を性別でみると、<感じる>は前回調査と比べて、男性では4.0ポイント増加し、女性では9.2ポイント増加している。



(12) 女性が働き続けることのさまたげになっている要因

問30で「1. 非常に感じる」・「2. やや感じる」とお答えの方のみ
 問30-1 女性が長く働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性が働き続けることのさまたげになっている要因については、「育児」が80.1%と特に多く、次いで「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」(54.9%)、「高齢者や病人の世話」(53.9%)、「家事」(35.0%)、「子どもの教育」(28.6%)の順となっている。



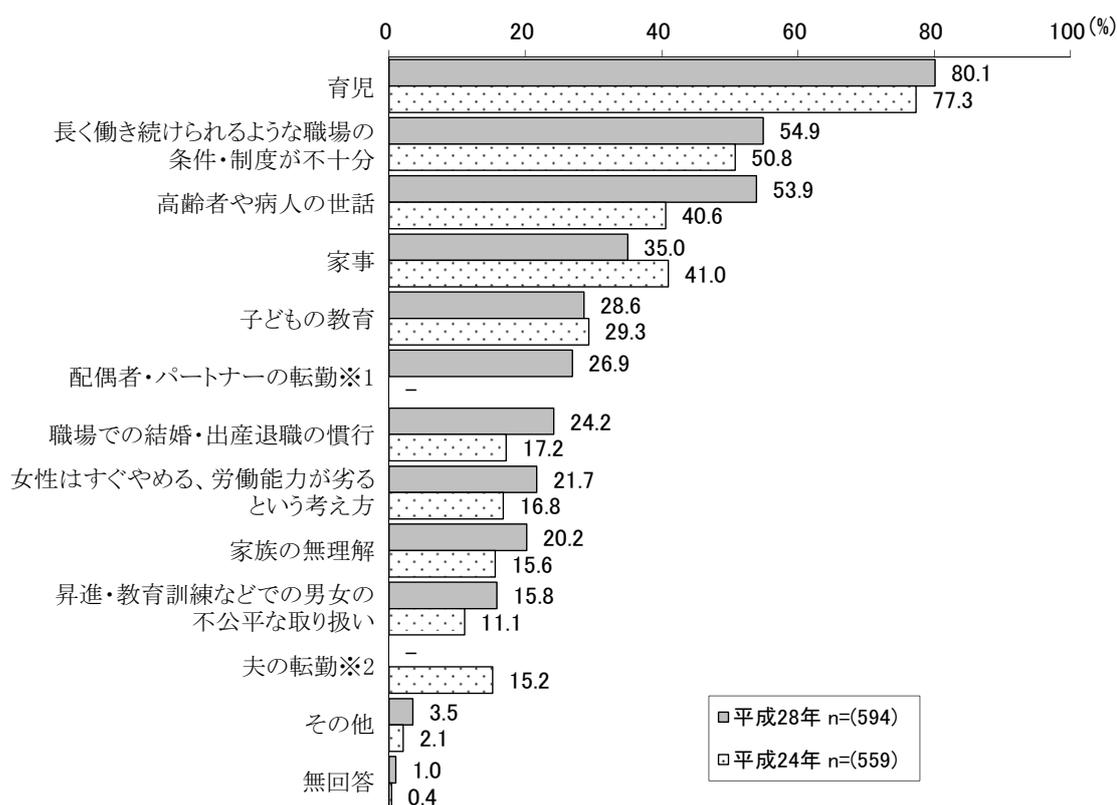
【性別】

性別でみると、「育児」は男性で84.8%、女性で77.2%と男性の方が7.6ポイント多くなっている。「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」は男女ともに5割台半ばとなっている。「高齢者や病人の世話」は女性で57.9%、男性で45.5%と女性の方が12.4ポイント多くなっている。

	n	育児	高齢者や病人の世話	子どもの教育	家事	配偶者・パートナーの転勤	家族の無理解	職場での結婚・出産退職の慣行	職場の働き続けられるような条件・制度が不十分	昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い	女性が劣るとすぐやめる、労働能力が劣るという考え方	その他	無回答
全体	594	80.1	53.9	28.6	35.0	26.9	20.2	24.2	54.9	15.8	21.7	3.5	1.0
男性	211	84.8	45.5	32.7	37.4	23.7	17.1	24.2	54.5	19.0	18.0	2.4	1.4
女性	368	77.2	57.9	26.6	33.4	29.1	21.7	23.9	55.2	14.1	23.4	3.8	0.8
その他	2	100	100	-	100.0	50.0	100	-	100.0	100	-	-	-

【経年変化】

経年変化をみると、「高齢者や病人の世話」は13.3ポイント増加し、「職場での結婚・出産退職の慣行」は7.0ポイント増加、「女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方」は4.9ポイント増加、「昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い」は4.7ポイント増加している。「家事」は6.0ポイント減少している。

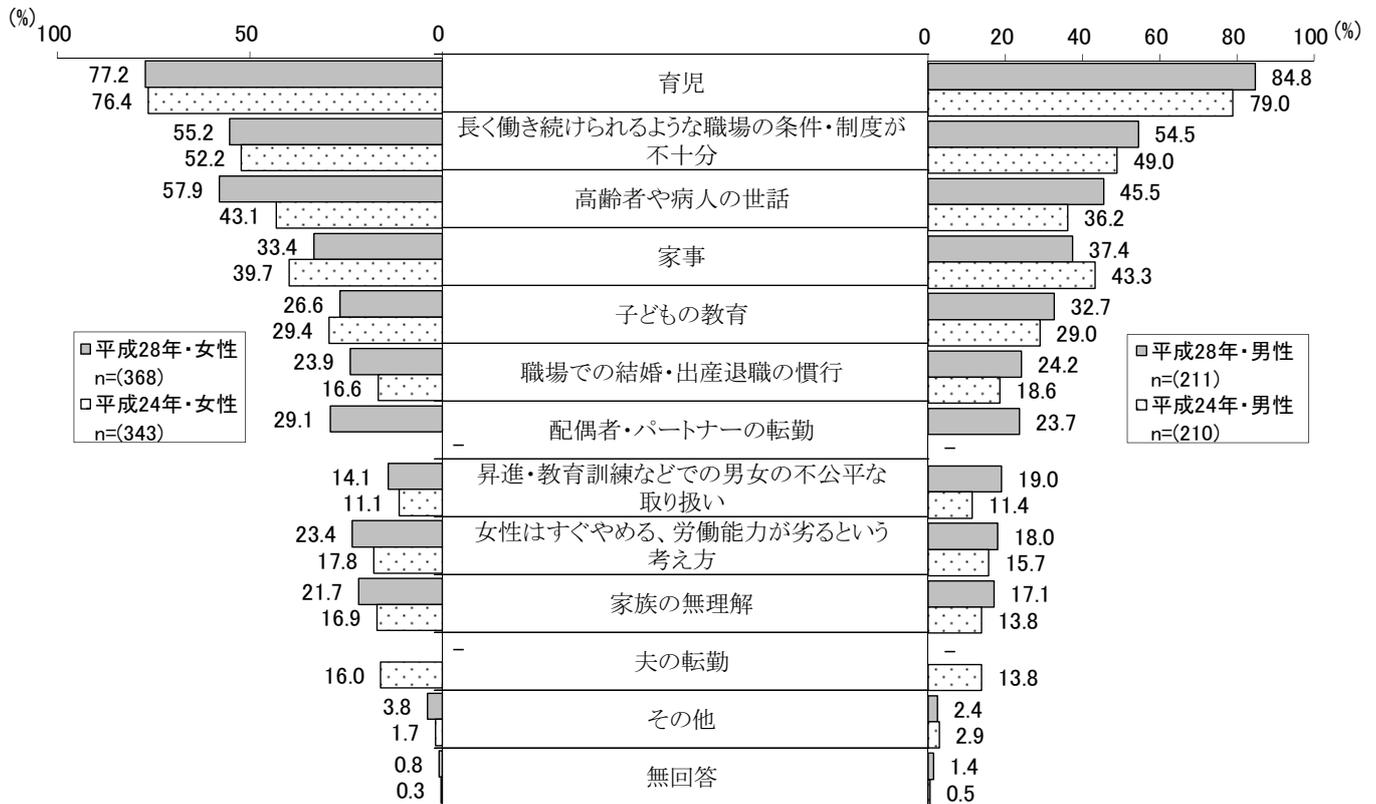


※1は平成28年調査のみの項目、※2は平成24年調査のみの項目

第2章 調査結果の詳細

【経年変化・性別】

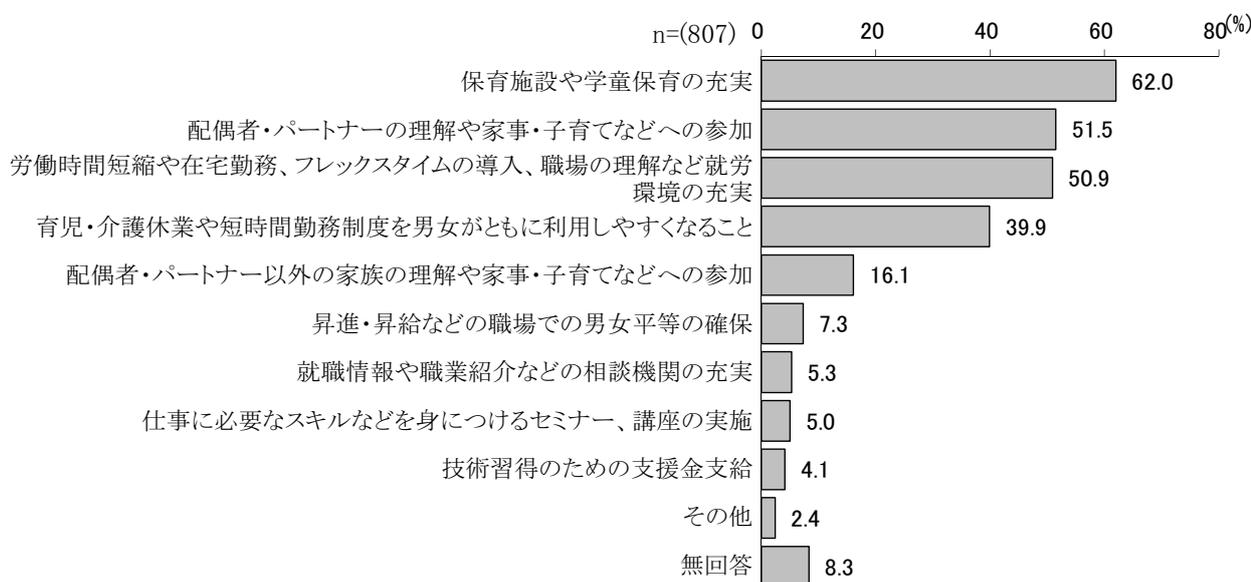
経年変化を性別で見ると、「育児」は男性では5.8ポイント増加しているが、女性ではほぼ同じ割合になっている。「高齢者や病人の世話」は女性で14.8ポイント、男性では9.3ポイント増加している。「家事」は男性では5.9ポイント、女性で6.3ポイント減少している。



(13) 女性の就労継続、再就職のために必要なこと

問31 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けたり、一度離職しても再び働くことができるようにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。(○は3つまで)

女性の就労継続、再就職のために必要なことについては、「保育施設や学童保育の充実」が62.0%で最も多く、次いで「配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加」(51.5%)、「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実」(50.9%)、「育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること」(39.9%)、「配偶者・パートナー以外の家族の理解や家事・子育てなどへの参加」(16.1%)の順となっている。



【性別】

性別でみると、「保育施設や学童保育の充実」は男女ともに6割台となっている。「配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加」、「配偶者・パートナー以外の家族の理解や家事・子育てなどへの参加」、「育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること」「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実」はいずれも女性の方が多くなっている。

	n	配偶者・子育てなどへの参加	配偶者・パートナーの子育て以外の参加	保育施設や学童保育の充実	労働時間短縮や在宅勤務、職場の理解など就労環境の充実	育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること	昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	仕事に必要なスキルなど、講座の実施	技術習得のための支援金支給	その他	無回答
全体	807	51.5	16.1	62.0	50.9	39.9	7.3	5.3	5.0	4.1	2.4	8.3
男性	320	48.4	13.1	63.4	48.8	35.9	8.1	5.3	5.3	3.4	3.1	9.4
女性	467	54.8	18.4	61.0	52.9	42.0	6.0	5.1	4.7	4.7	1.9	7.1
その他	2	-	50	100	50.0	50.0	50	-	-	-	-	-

第2章 調査結果の詳細

【性／職業別】

性／職業別でみると、「保育施設や学童保育の充実」と「労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実」は男女ともに“正社員・正職員”で多くなっている。「配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加」は男性の“契約社員・派遣社員”と“アルバイト・パート”、女性の“正社員・正職員”と“アルバイト・パート”で多くなっている。「育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること」は女性の“家事専業”で51.2%と多くなっている。

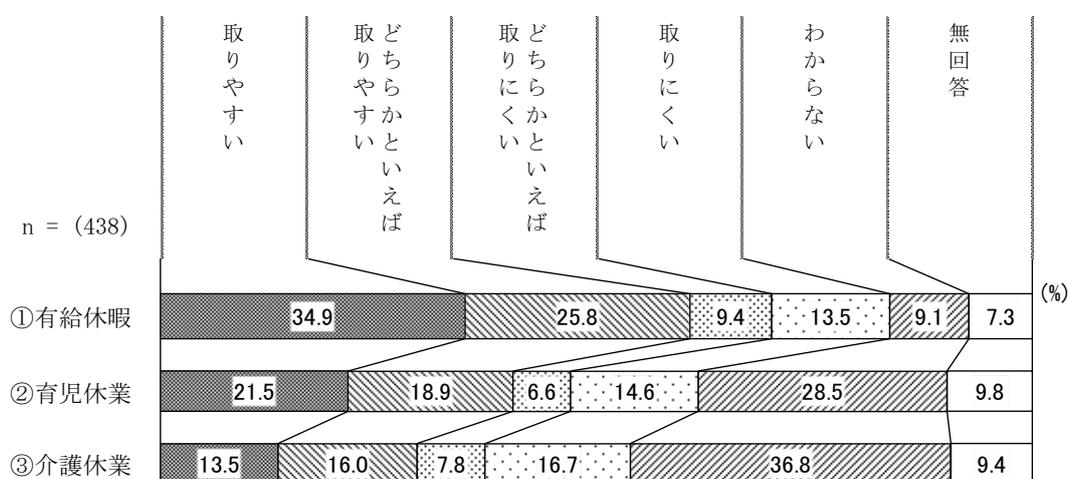
		n	配偶者・子育てなどパートナーへの参加	配偶者・パートナー以外への参加	保育施設や学童保育の充実	理解など就労環境の充実	労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入	育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること	昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	就職情報や職業紹介などの相談	仕事に必要なスキルなどを身につけるセミナー、講座の実施	技術習得のための支援金支給	その他	無回答
全体		807	51.5	16.1	62.0	50.9	39.9	7.3	5.3	5.0	4.1	2.4	8.3	
男性	自営業・自由業	23	43.5	21.7	65.2	47.8	30.4	17.4	4.3	-	4.3	4.3	-	
	正社員・正職員	133	46.6	15.0	63.9	63.9	37.6	6.0	2.3	8.3	3.0	3.8	6.8	
	契約社員・派遣社員	16	62.5	-	68.8	43.8	37.5	18.8	6.3	-	-	-	6.3	
	アルバイト・パート	22	68.2	13.6	40.9	36.4	36.4	4.5	4.5	9.1	4.5	4.5	18.2	
	非常勤・嘱託	7	14.3	14.3	85.7	71.4	71.4	-	-	-	-	-	-	
	家事専業	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	
	学生	13	61.5	-	69.2	30.8	46.2	7.7	7.7	-	-	-	-	
	無職	94	45.7	10.6	66.0	37.2	34.0	9.6	10.6	4.3	5.3	3.2	12.8	
その他	2	100.0	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-		
女性	自営業・自由業	15	46.7	20.0	80.0	60.0	26.7	6.7	6.7	-	6.7	6.7	6.7	
	正社員・正職員	82	67.1	19.5	63.4	63.4	45.1	7.3	2.4	1.2	-	2.4	2.4	
	契約社員・派遣社員	28	50.0	25.0	53.6	57.1	42.9	-	-	10.7	-	3.6	7.1	
	アルバイト・パート	96	66.7	20.8	62.5	54.2	34.4	7.3	7.3	5.2	6.3	1.0	2.1	
	非常勤・嘱託	6	66.7	-	83.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-	
	家事専業	123	54.5	13.8	64.2	52.8	51.2	4.9	4.1	5.7	7.3	2.4	4.9	
	学生	9	44.4	11.1	66.7	55.6	44.4	11.1	-	-	-	-	-	
	無職	84	40.5	19.0	53.6	42.9	46.4	7.1	9.5	6.0	6.0	-	13.1	
その他	3	66.7	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-	33.3	
その他	自営業・自由業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	正社員・正職員	2	-	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	
	契約社員・派遣社員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	アルバイト・パート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	非常勤・嘱託	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	家事専業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無職	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

(14) 職場の有給休暇・育児・介護休暇の取りやすさ

【現在働いている方のみ】

問32 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りたい場合、取りやすい環境にありますか。(それぞれの項目について1つに○)

職場の休暇・休業の取りやすさについては、『有給休暇』は「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」を合わせた<取りやすい>が60.7%となっている。一方、『育児休業』は<取りやすい>が40.4%、『介護休業』は29.5%にとどまっている。

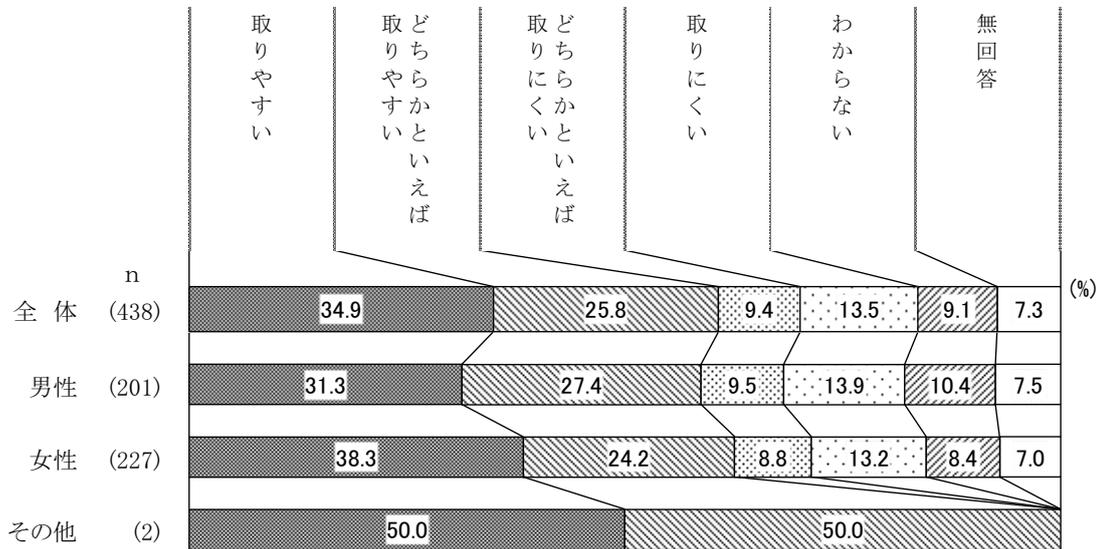


第2章 調査結果の詳細

(14-1) 有給休暇

【性別】

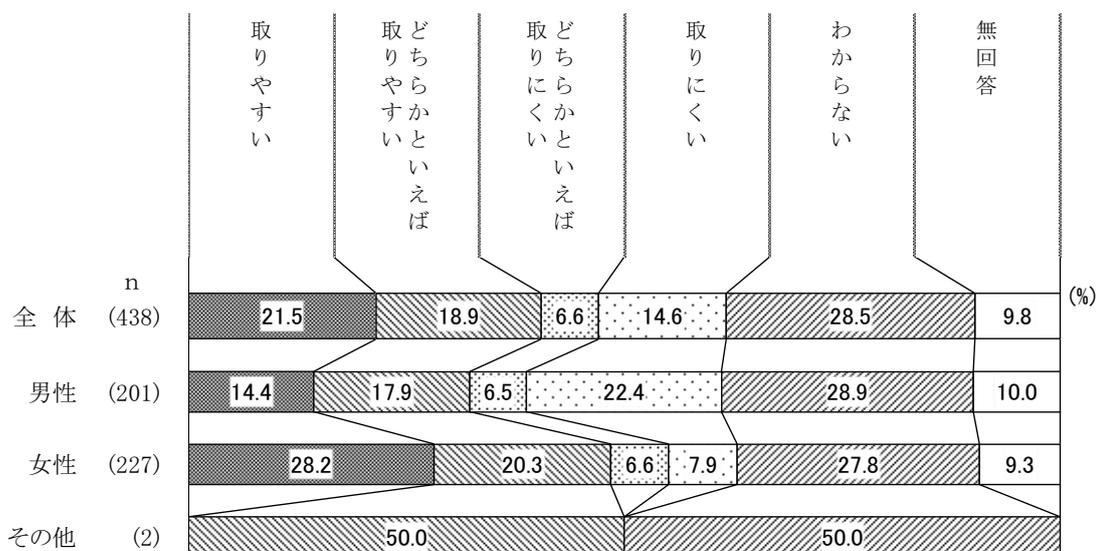
性別でみると、＜取りやすい＞は女性で62.5%、男性で58.7%と女性の方が3.8ポイント多くなっている。＜取りにくい＞は男女で大きな違いはみられない。



(14-2) 育児休業

【性別】

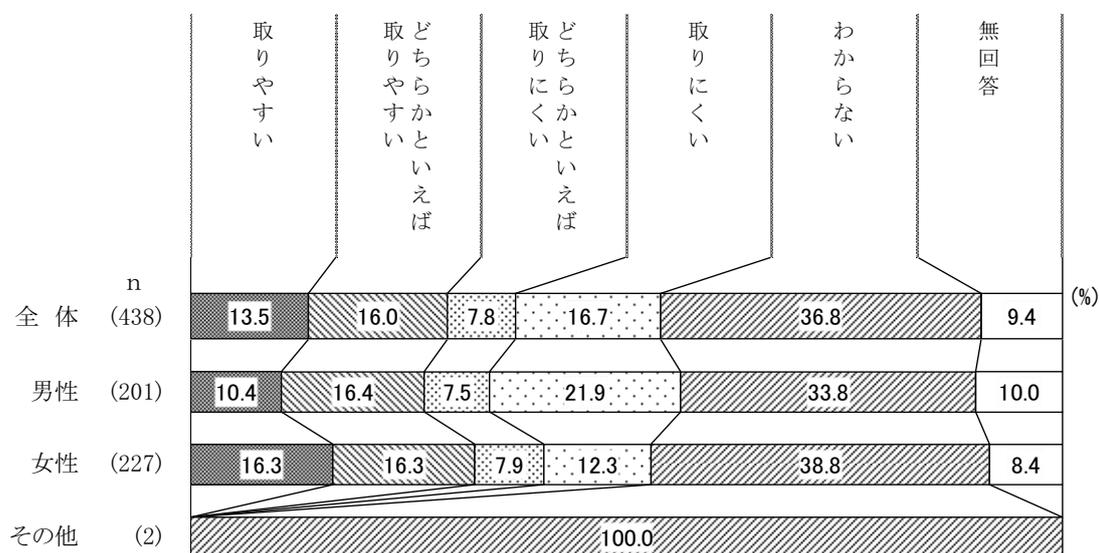
性別でみると、＜取りやすい＞は女性で48.5%、男性で32.3%と女性の方が16.2ポイント多くなっている。＜取りにくい＞は男性で28.9%、女性で14.5%と男性の方が14.4ポイント多くなっている。



(14-3) 介護休業

【性別】

性別でみると、＜取りやすい＞は女性で32.6%、男性で26.8%と女性の方が5.8ポイント多くなっている。＜取りにくい＞は男性で29.4%、女性で20.2%と男性の方が9.2ポイント多くなっている。

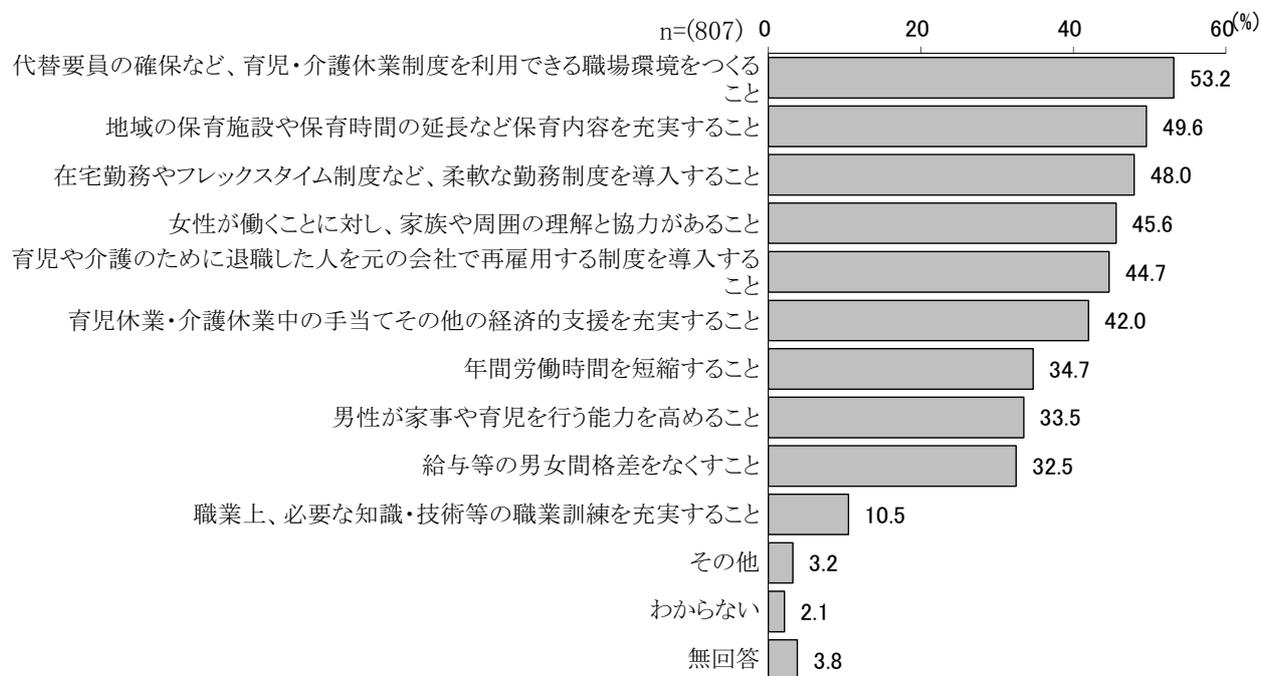


(15) 仕事と家庭の両立に必要なこと

【すべての方にうかがいます。】

問33 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女が共に仕事と家庭の両立をするために必要な条件については、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が53.2%と最も多く、次いで「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」(49.6%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(48.0%)、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」(45.6%)、「育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること」(44.7%)の順となっている。



【性別】

性別でみると、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は男女とも5割前後と多く、性別で大きな違いはみられない。「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」、「育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること」、「男性が家事や育児を行う能力を高めること」は女性の方が5ポイント以上多くなっている。一方、「年間労働時間を短縮すること」は男性が38.4%、女性が31.9%と男性の方が6.5ポイント多くなっている。

	n	給与等の男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること	育児休業・介護休業中の手当でその他の経済的支援を充実すること	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	男性が家事や育児を行う能力を高めること	その他	わからない	無回答
全体	807	32.5	34.7	53.2	44.7	42.0	49.6	48.0	10.5	45.6	33.5	3.2	2.1	3.8
男性	320	32.8	38.4	52.8	41.9	40.3	49.1	49.1	9.4	41.6	29.7	3.4	2.8	4.1
女性	467	32.3	31.9	53.7	47.3	43.3	49.7	47.5	11.6	49.0	36.4	2.8	1.5	3.4
その他	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	100	50.0	-	50.0	100	50.0	-	-

第2章 調査結果の詳細

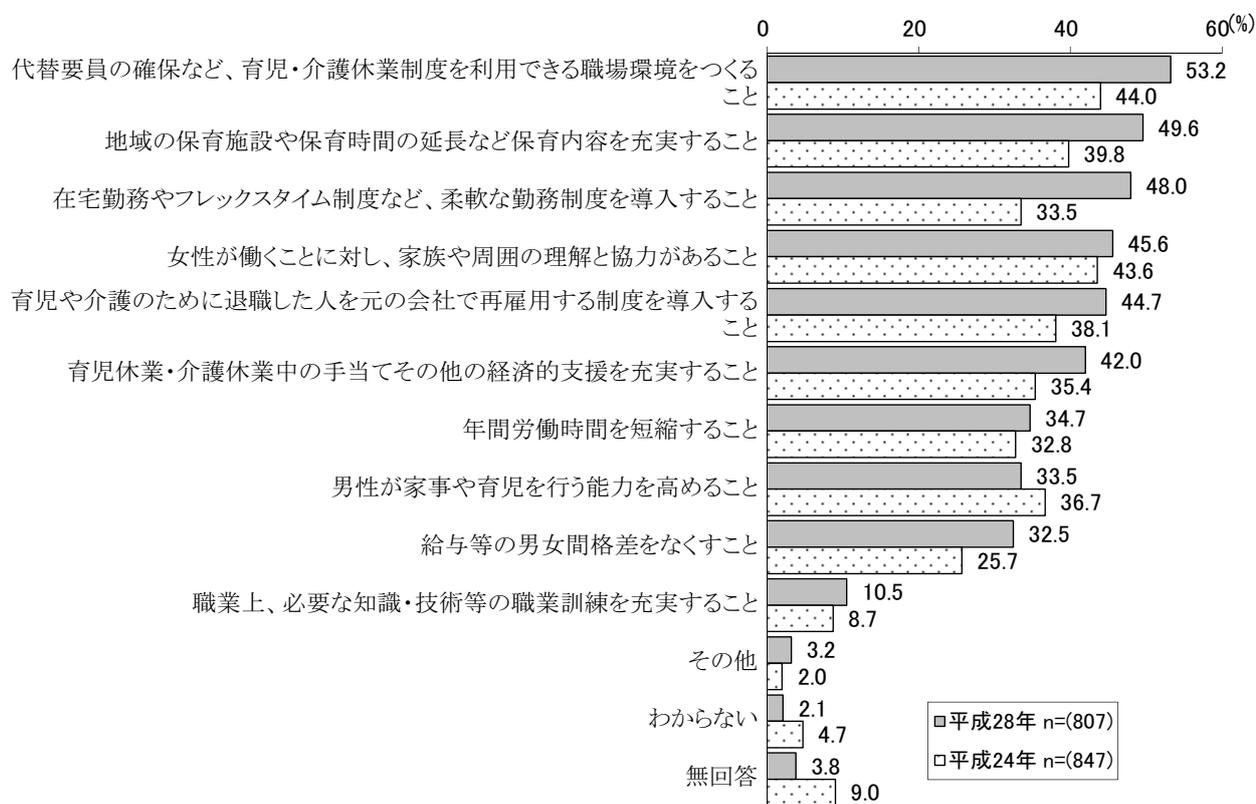
【性／年齢別】

性／年齢別でみると、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」は男性の“60歳代”で67.2%、女性“60歳代”で60.8%と多くなっている。「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」は女性“30歳代”で66.7%と多くなっている。「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は男性“30歳代”で70.6%と最も多く、女性“30歳代”で61.9%となっている。

		n	給与等の男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること	育児休業・介護休業中の手当その他の経済的支援を充実すること	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること	女性と協力があることに対し、家族や周囲の理解と男性が家事や育児を行う能力を高めること	その他	わからない	無回答	
全体		807	32.5	34.7	53.2	44.7	42.0	49.6	48.0	10.5	45.6	33.5	3.2	2.1	3.8
男性	18・19歳	6	50.0	-	66.7	33.3	50.0	16.7	16.7	-	33.3	50.0	-	-	-
	20歳代	24	37.5	50.0	75.0	41.7	58.3	25.0	50.0	8.3	54.2	37.5	8.3	4.2	-
	30歳代	34	38.2	44.1	52.9	47.1	58.8	61.8	70.6	5.9	50.0	41.2	5.9	2.9	-
	40歳代	47	19.1	48.9	53.2	31.9	42.6	55.3	53.2	6.4	38.3	17.0	6.4	-	-
	50歳代	51	31.4	39.2	45.1	37.3	33.3	45.1	58.8	9.8	35.3	27.5	-	3.9	2.0
	60歳代	58	31.0	44.8	67.2	44.8	46.6	55.2	58.6	8.6	37.9	32.8	3.4	3.4	-
	70歳以上	100	37.0	27.0	42.0	46.0	28.0	48.0	31.0	13.0	43.0	28.0	2.0	3.0	12.0
女性	18・19歳	2	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-
	20歳代	25	28.0	32.0	64.0	48.0	56.0	40.0	60.0	4.0	40.0	32.0	-	4.0	4.0
	30歳代	63	23.8	54.0	58.7	41.3	47.6	66.7	61.9	7.9	49.2	47.6	6.3	-	-
	40歳代	108	33.3	36.1	50.9	44.4	34.3	46.3	57.4	7.4	41.7	36.1	2.8	0.9	-
	50歳代	64	39.1	25.0	57.8	54.7	59.4	57.8	57.8	20.3	65.6	42.2	4.7	1.6	1.6
	60歳代	79	36.7	26.6	60.8	49.4	41.8	62.0	38.0	12.7	54.4	40.5	1.3	1.3	-
	70歳以上	125	30.4	24.0	46.4	47.2	39.2	34.4	28.8	13.6	45.6	25.6	1.6	2.4	11.2
その他	18・19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	1	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-
	40歳代	1	-	-	-	100.0	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-
	50歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【経年変化】

経年変化をみると、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」は9.2ポイント増加し、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」は9.8ポイント増加、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は14.5ポイント増加している。

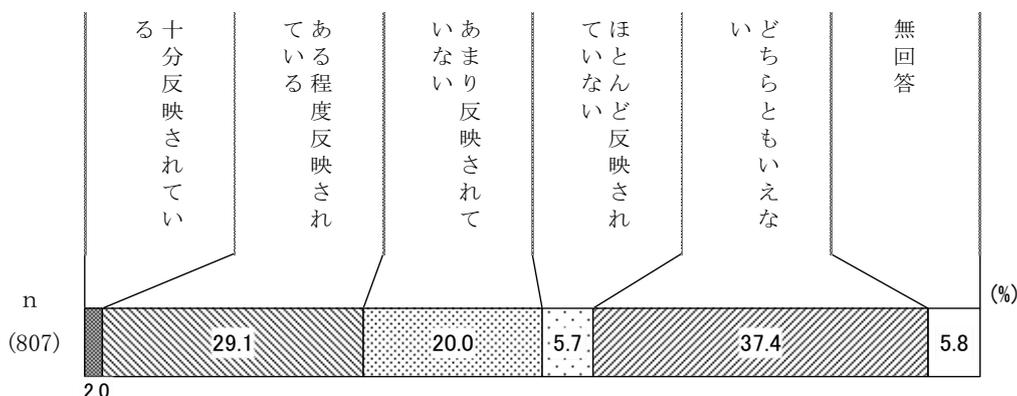


5. 社会参加について

(1) 地方自治体への施策への女性の意見や考えの反映度

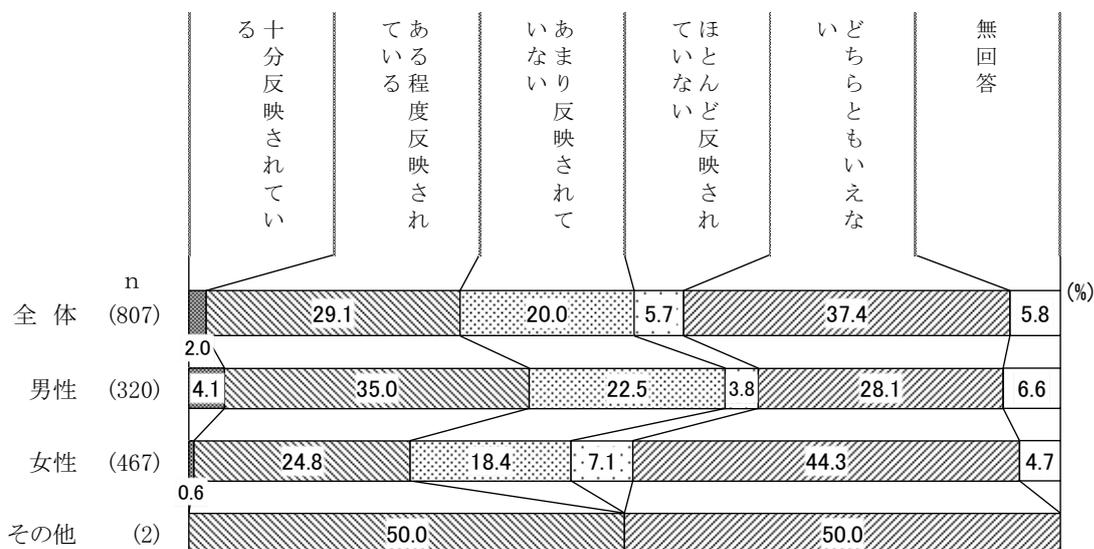
問34 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（1つに○）

地方自治体の施策への女性の意見や考えの反映度については、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた＜反映されている＞が31.1%、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた＜反映されていない＞が25.7%となっている。



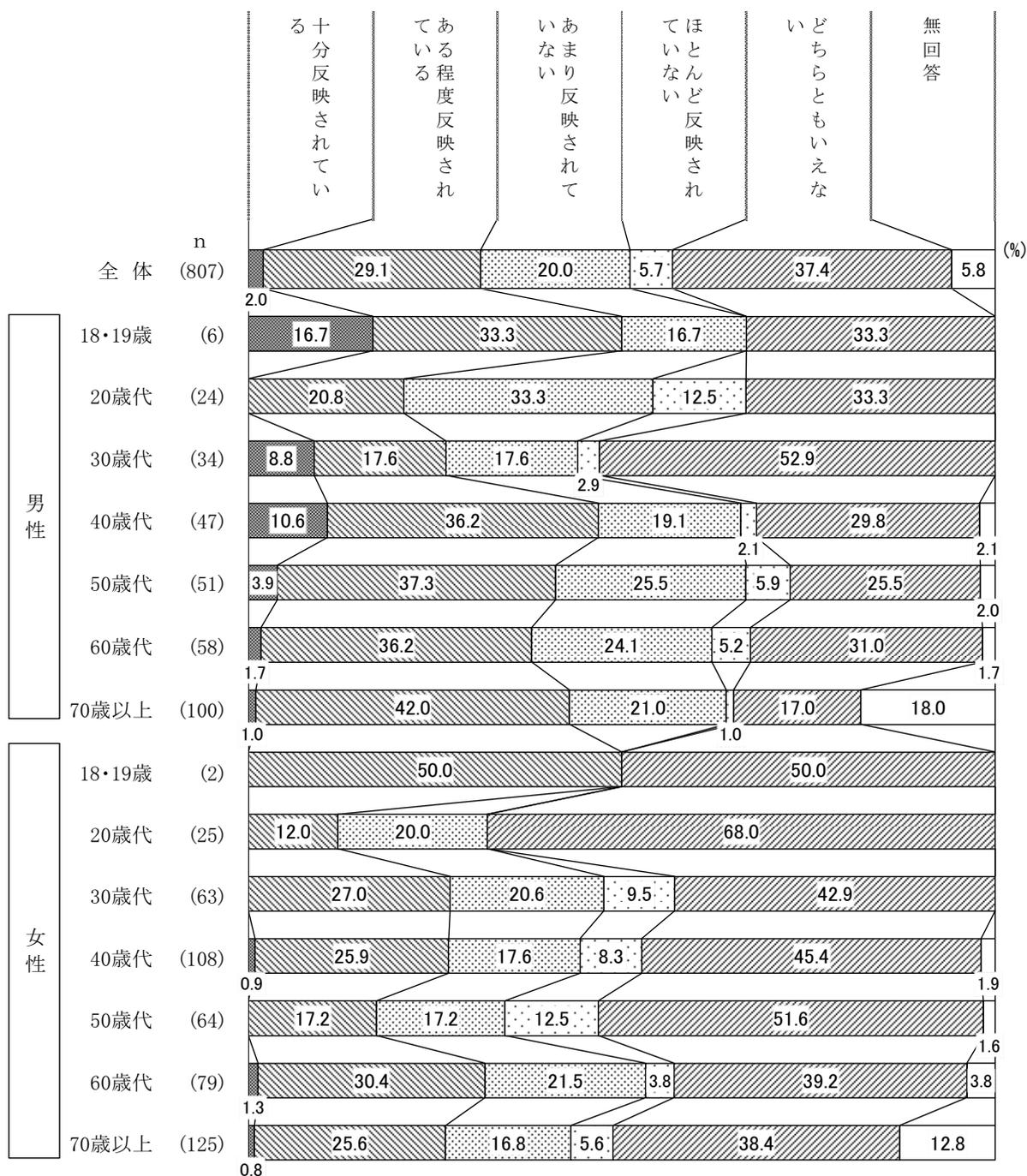
【性別】

性別でみると、＜反映されている＞は男性で39.1%、女性で25.4%と男性の方が13.7ポイント多くなっている。＜反映されていない＞は男女ともに2割台半ばと性別で大きな違いはみられない。「どちらともいえない」は女性で44.3%、男性で28.1%と女性の方が16.2ポイント多くなっている。



【性・年齢別】

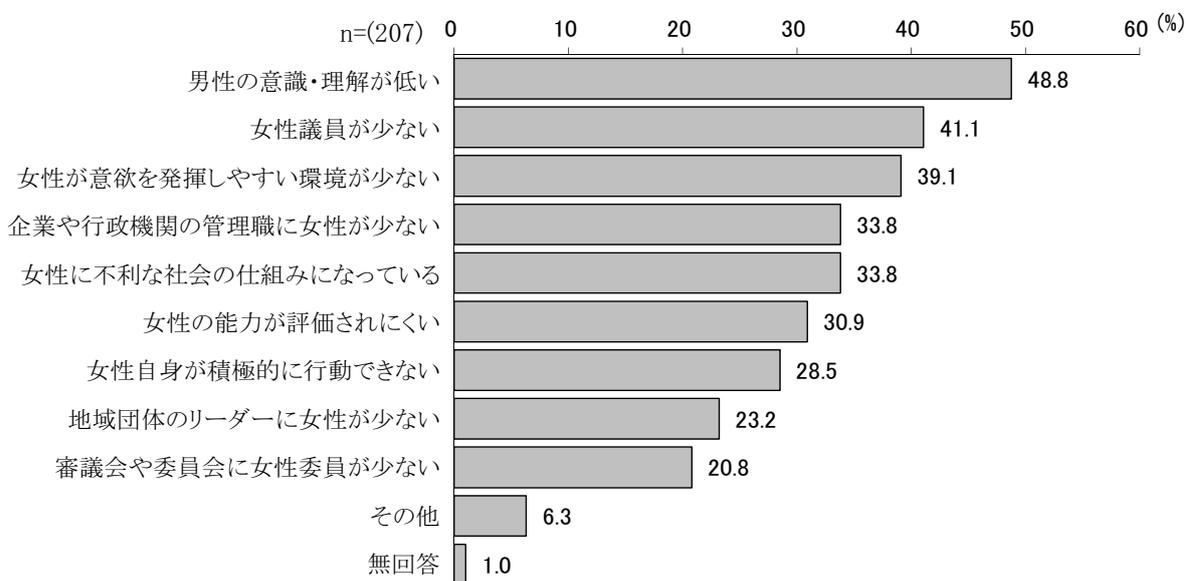
性・年齢別でみると、＜反映されている＞は男性の“40歳代”と“50歳代”で4割を超えて多くなっている。＜反映されていない＞は男性の“50歳代”と女性の“30歳代”で3割を超えて多くなっている。



(2) 女性の意見や考えが反映されにくい理由

問34で「3. あまり反映されていない」「4. ほとんど反映されていない」とお答えの方のみ
 問34-1 女性の意見や考え方が社会に反映されにくい理由は何だと思えますか。
 (あてはまるものすべてに○)

女性の意見や考え方が反映されにくい理由については、「男性の意識・理解が低い」が48.8%と最も多く、次いで「女性議員が少ない」(41.1%)、「女性が意欲を發揮しやすい環境が少ない」(39.1%)、「企業や行政機関の管理職に女性が少ない」(33.8%)、「女性に不利な社会の仕組みになっている」(33.8%)、「女性の能力が評価されにくい」(30.9%)の順となっている。



【性別】

性別でみると、「男性の意識・理解が低い」は男女ともに5割程度、「女性議員が少ない」は男女ともに4割と性別で大きな違いはみられない。「女性が意欲を發揮しやすい環境が少ない」は女性が42.9%、男性が34.5%と女性の方が8.4ポイント多くなっている。

	n	女性議員が少ない	企業や行政機関の管理職に女性が少ない	審議会や委員会に女性委員が少ない	地域団体のリーダーに女性が少ない	女性が意欲を發揮しやすい環境が少ない	女性自身が積極的に行動できない	男性の意識・理解が低い	女性に不利な社会の仕組みになっている	女性の能力が評価されにくい	その他	無回答
全体	207	41.1	33.8	20.8	23.2	39.1	28.5	48.8	33.8	30.9	6.3	1.0
男性	84	40.5	38.1	20.2	22.6	34.5	26.2	50.0	33.3	27.4	6.0	-
女性	119	41.2	31.1	19.3	24.4	42.9	30.3	47.9	34.5	34.5	6.7	1.7

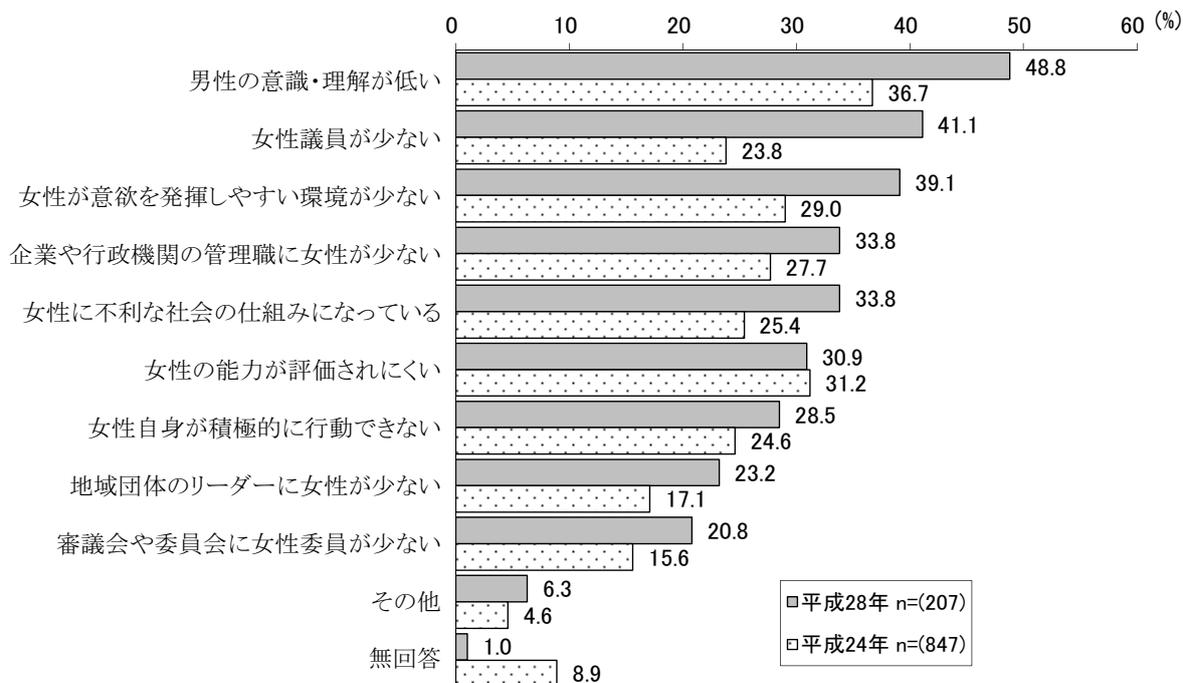
【性・年齢別】

各年代の基数が少ないため、性・年齢別による違いについては言及することができない。

		(%)											
		n	女性議員が少ない	企業や行政機関の管理職に女性が少ない	審議会や委員会に女性委員が少ない	地域団体のリーダーに女性が少ない	女性が意欲を發揮しやすい環境が少ない	女性自身が積極的に行動できない	男性の意識・理解が低い	女性に不利な社会の仕組みになっっている	女性の能力が評価されにくい	その他	無回答
全 体		207	41.1	33.8	20.8	23.2	39.1	28.5	48.8	33.8	30.9	6.3	1.0
男性	18・19歳	1	-	-	-	-	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-	-
	20歳代	11	27.3	36.4	9.1	9.1	18.2	18.2	63.6	27.3	45.5	18.2	-
	30歳代	7	42.9	42.9	14.3	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3	-	14.3	-
	40歳代	10	40.0	50.0	30.0	30.0	40.0	40.0	50.0	40.0	20.0	-	-
	50歳代	16	43.8	37.5	31.3	18.8	18.8	18.8	43.8	25.0	6.3	6.3	-
	60歳代	17	47.1	35.3	17.6	23.5	23.5	41.2	64.7	41.2	47.1	5.9	-
	70歳以上	22	40.9	36.4	18.2	27.3	54.5	22.7	40.9	36.4	27.3	-	-
女性	18・19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	5	20.0	-	-	-	20.0	-	20.0	20.0	60.0	-	-
	30歳代	19	52.6	52.6	36.8	31.6	36.8	42.1	52.6	36.8	26.3	5.3	-
	40歳代	28	46.4	17.9	10.7	17.9	35.7	17.9	50.0	50.0	28.6	7.1	3.6
	50歳代	19	42.1	52.6	15.8	26.3	47.4	31.6	52.6	47.4	42.1	10.5	-
	60歳代	20	35.0	20.0	25.0	20.0	55.0	35.0	60.0	20.0	30.0	5.0	-
	70歳以上	28	35.7	28.6	17.9	32.1	46.4	35.7	35.7	21.4	39.3	7.1	3.6

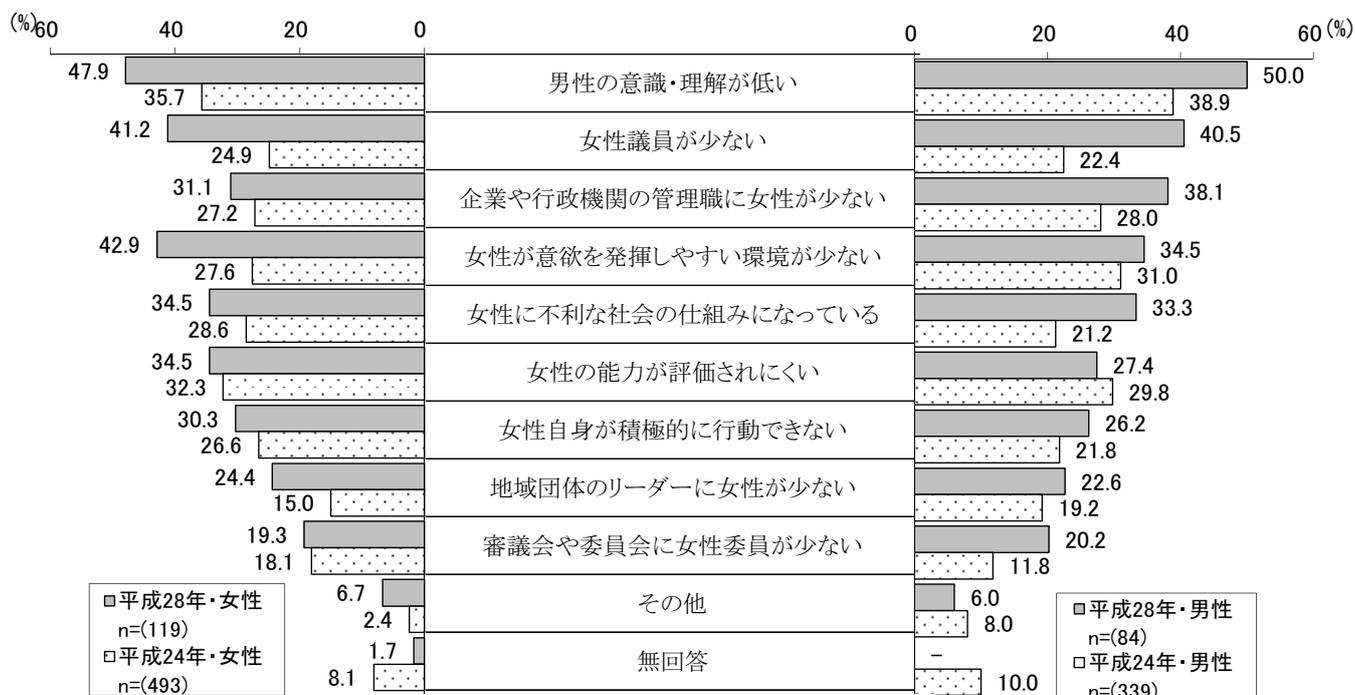
【経年変化】

経年変化をみると、「女性の能力が評価されにくい」は前回調査とほぼ同じ割合であるが、それ以外の項目では前回調査より増加している。「女性議員が少ない」は17.3ポイント増加し、「男性の意識・理解が低い」は12.1ポイント増加、「女性が意欲を発揮しやすい環境が少ない」は10.1ポイント増加、「女性に不利な社会の仕組みになっている」は8.4ポイント増加、「企業や行政機関の管理職に女性が少ない」は6.1ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「男性の意識・理解が低い」は、前回調査と比べて男性では 11.1 ポイント、女性では 12.2 ポイントともに増加している。「女性議員が少ない」は男性では 18.1 ポイント、女性では 16.3 ポイント増加している。「女性が意欲を発揮しやすい環境が少ない」は女性で 15.3 ポイント増加している。「女性に不利な社会の仕組みになっている」は男性で 12.1 ポイント増加している。

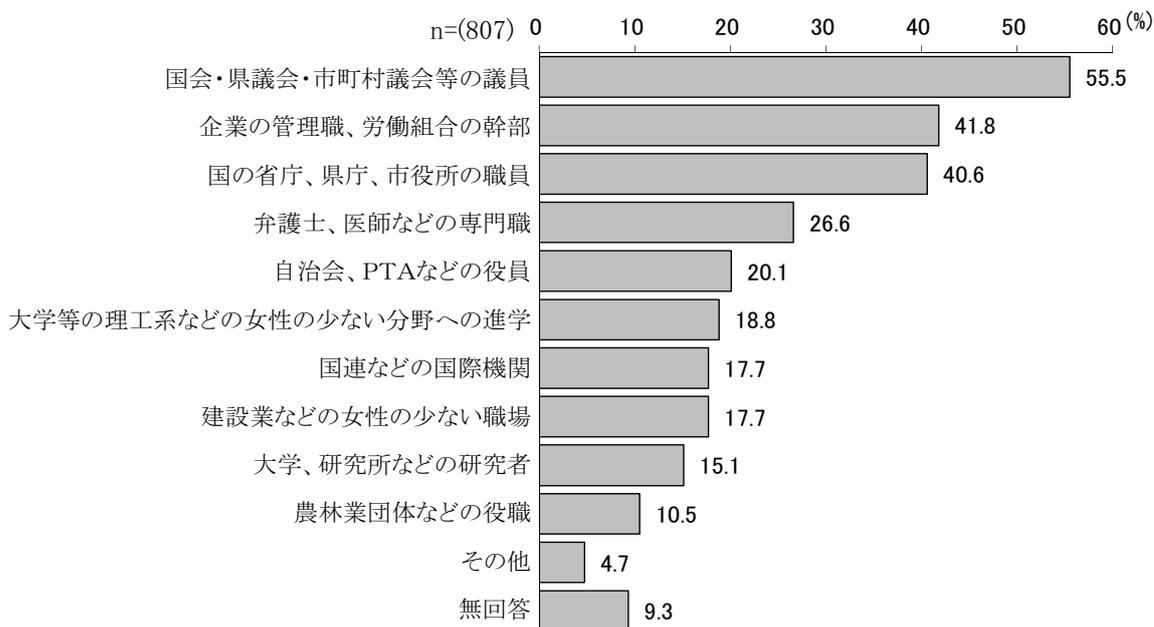


(3) 女性の参画が進むべき分野

【すべての方にうかがいます。】

問35 あなたは、今後どのような分野で、特に女性の参画が進むべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

特に女性の参画が進むべき分野については、「国会・県議会・市町村議会等の議員」が55.5%と最も多く、次いで「企業の管理職、労働組合の幹部」(41.8%)、「国の省庁、県庁、市役所の職員」(40.6%)、「弁護士、医師などの専門職」(26.6%)、「自治会、PTAなどの役員」(20.1%)の順となっている。



【性別】

性別でみると、「国会・県議会・市町村議会等の議員」は男性が56.9%、女性が54.4%といずれも5割台半ばとなっている。「企業の管理職、労働組合の幹部」は男性が47.5%、女性が38.3%と男性の方が9.2ポイント多くなっている。「建設業などの女性の少ない職場」も男性が24.7%、女性が13.3%と男性の方が11.4ポイント多くなっている。

	n	国会・県議会・市町村議会等の議員	国の省庁、県庁、市役所の職員	弁護士、医師などの専門職	自治会、PTAなどの役員	企業の管理職、労働組合の幹部	国連などの国際機関	建設業などの女性の少ない職場	大学等の理工系などの女性の少ない分野への進学	大学、研究所などの研究者	農林業団体などの役職	その他	無回答
全体	807	55.5	40.6	26.6	20.1	41.8	17.7	17.7	18.8	15.1	10.5	4.7	9.3
男性	320	56.9	41.3	25.6	24.4	47.5	15.6	24.7	22.8	14.7	13.4	5.9	7.8
女性	467	54.4	40.3	27.4	16.7	38.3	19.3	13.3	16.5	15.4	8.4	3.9	9.4
その他	2	50.0	50.0	50.0	-	100.0	-	-	-	-	50.0	-	-

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「国会・県議会・市町村議会等の議員」は男性の“50歳代”で約7割と多くなっている。「企業の管理職、労働組合の幹部」は男性の“30歳代”で約6割と多く、「国の省庁、県庁、市役所の職員」も男性の“30歳代”が5割強と多くなっている。

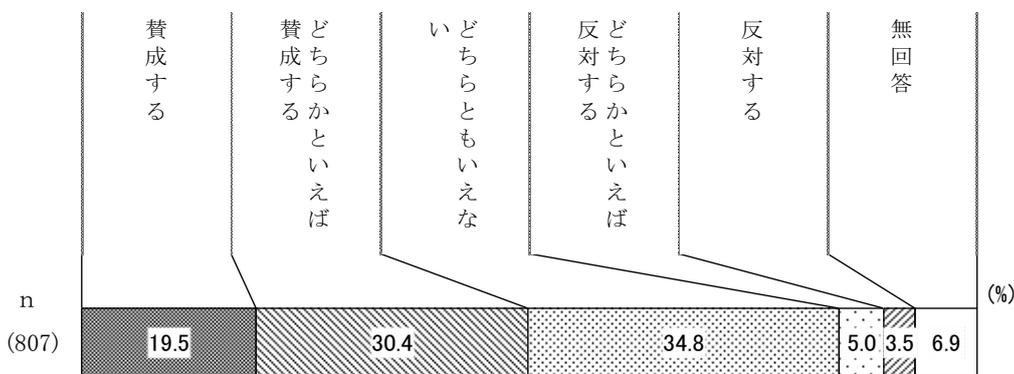
(%)

	n	国会・ 県議会・ 市町村 議会等 の 議員	国 の 省 庁、 県 庁、 市 役 所 の 職 員	弁 護 士、 医 師 な ど の 専 門 職	自 治 会、 P T A な ど の 役 員	企 業 の 管 理 職、 労 働 組 合 の 幹 部	国 連 な ど の 国 際 機 関	建 設 業 な ど の 女 性 の 少 な い 職 場	大 学 等 の 理 工 系 な ど の 女 性 の 少 な い 分 野 へ の 進 学	大 学、 研 究 所 な ど の 研 究 者	農 林 業 団 体 な ど の 役 職	そ の 他	無 回 答	
全 体	807	55.5	40.6	26.6	20.1	41.8	17.7	17.7	18.8	15.1	10.5	4.7	9.3	
男 性	18・19歳	6	66.7	66.7	50.0	33.3	50.0	33.3	33.3	16.7	16.7	16.7	-	-
	20歳代	24	62.5	50.0	25.0	12.5	54.2	25.0	33.3	50.0	20.8	16.7	4.2	-
	30歳代	34	55.9	52.9	26.5	26.5	58.8	29.4	29.4	32.4	23.5	20.6	2.9	-
	40歳代	47	48.9	36.2	21.3	29.8	51.1	21.3	25.5	21.3	14.9	12.8	12.8	8.5
	50歳代	51	52.9	37.3	29.4	15.7	51.0	15.7	17.6	17.6	11.8	19.6	3.9	5.9
	60歳代	58	70.7	48.3	31.0	27.6	50.0	8.6	24.1	19.0	15.5	8.6	6.9	5.2
	70歳以上	100	53.0	34.0	21.0	26.0	37.0	9.0	24.0	19.0	11.0	10.0	5.0	15.0
女 性	18・19歳	2	50.0	50.0	100.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	25	64.0	48.0	44.0	12.0	48.0	32.0	16.0	20.0	16.0	4.0	-	-
	30歳代	63	58.7	42.9	30.2	17.5	41.3	17.5	11.1	9.5	11.1	11.1	7.9	4.8
	40歳代	108	62.0	45.4	17.6	9.3	47.2	13.0	12.0	16.7	11.1	5.6	4.6	6.5
	50歳代	64	59.4	43.8	32.8	14.1	50.0	23.4	21.9	17.2	25.0	15.6	6.3	4.7
	60歳代	79	63.3	41.8	36.7	16.5	34.2	22.8	7.6	20.3	24.1	6.3	-	6.3
	70歳以上	125	35.2	29.6	21.6	25.6	23.2	19.2	14.4	16.8	11.2	8.0	3.2	20.8
そ の 他	18・19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	1	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-
	40歳代	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	50歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) ポジティブ・アクションに対する考え

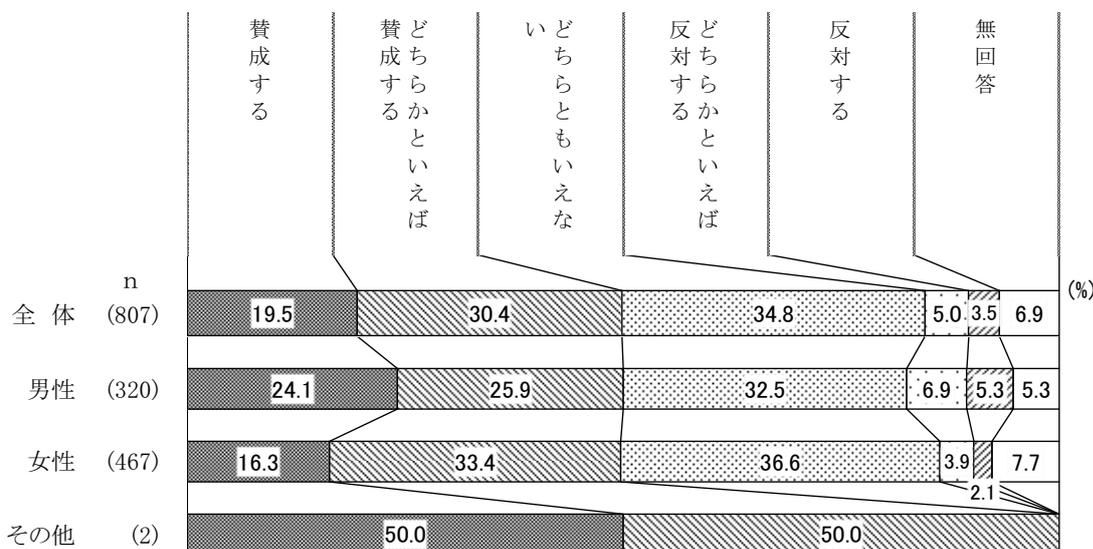
問36 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」(=ポジティブ・アクション) という考え方についてどのように思いますか。(1つに○)

ポジティブ・アクションに対する考えは、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた<賛成する>は49.9%、「どちらかといえば反対する」と「反対する」を合わせた<反対する>は8.5%であり、「どちらともいえない」は34.8%となっている。



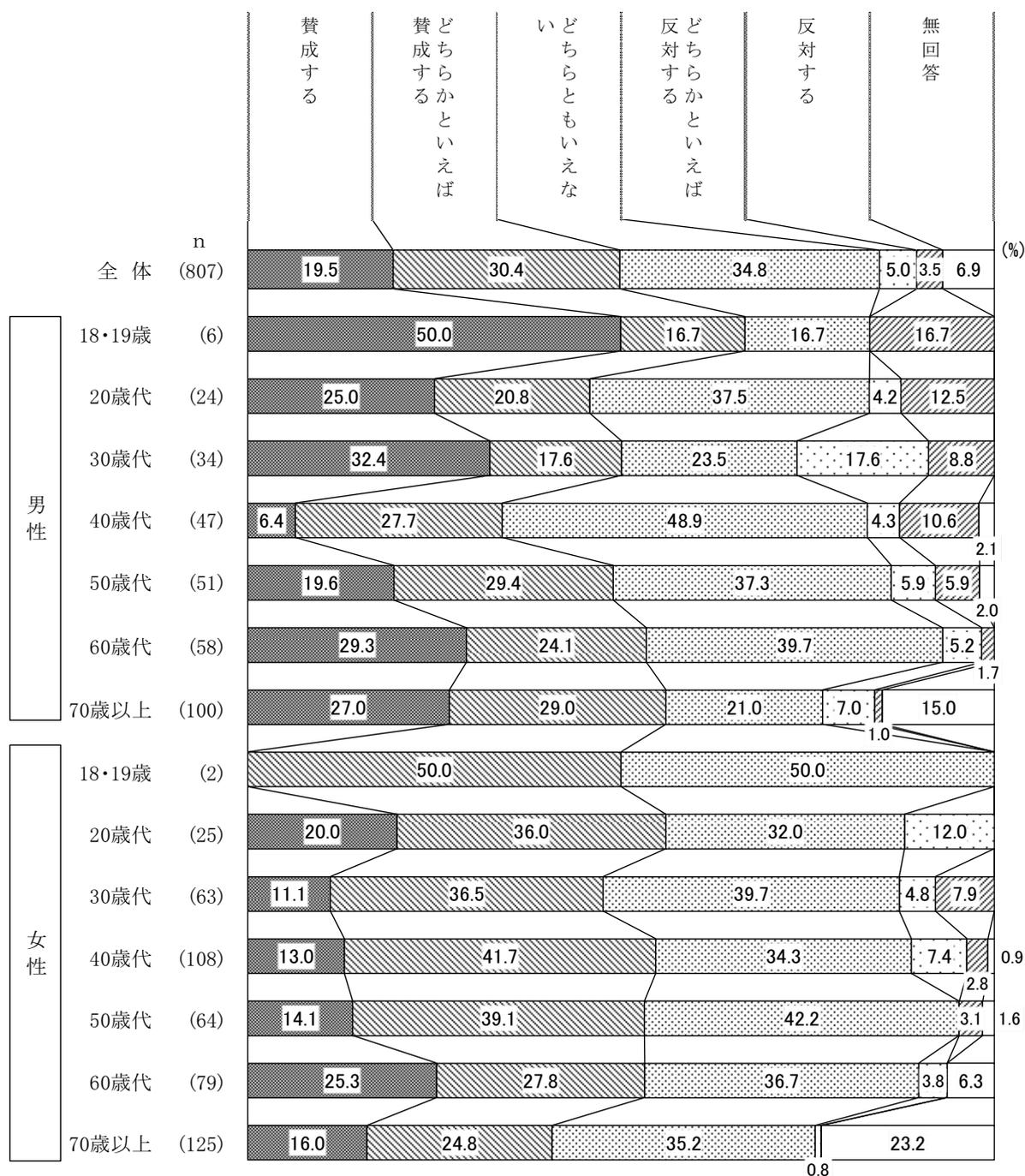
【性別】

性別でみると、「賛成する」は男性が24.1%、女性が16.3%と男性の方が7.8ポイント多く、「どちらかといえば賛成する」は、女性が33.4%、男性が25.9%と女性の方が7.5ポイント多くなっており、<賛成する>では性別で違いはみられない。



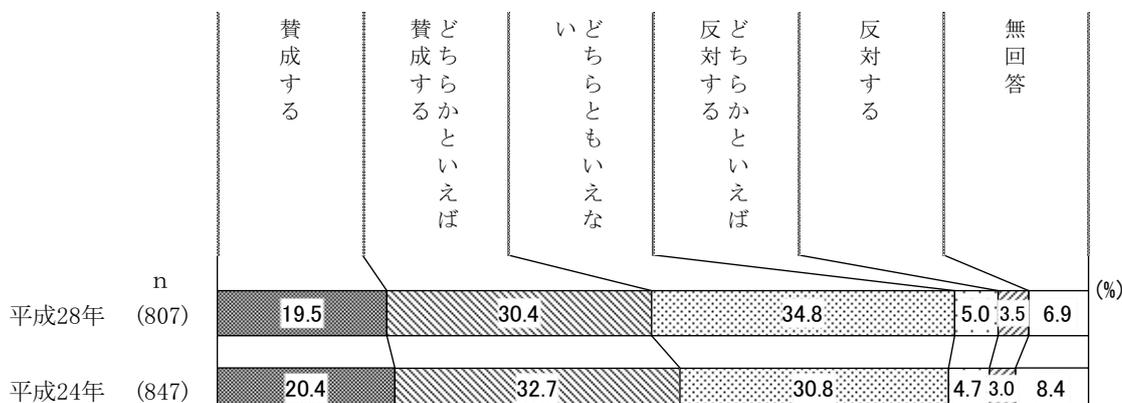
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、＜賛成する＞は男性の“70歳以上”と女性の“40歳代”で5割台半ばと多く
 になっている。＜反対する＞は男性の“30歳代”で2割台半ばとなっている。



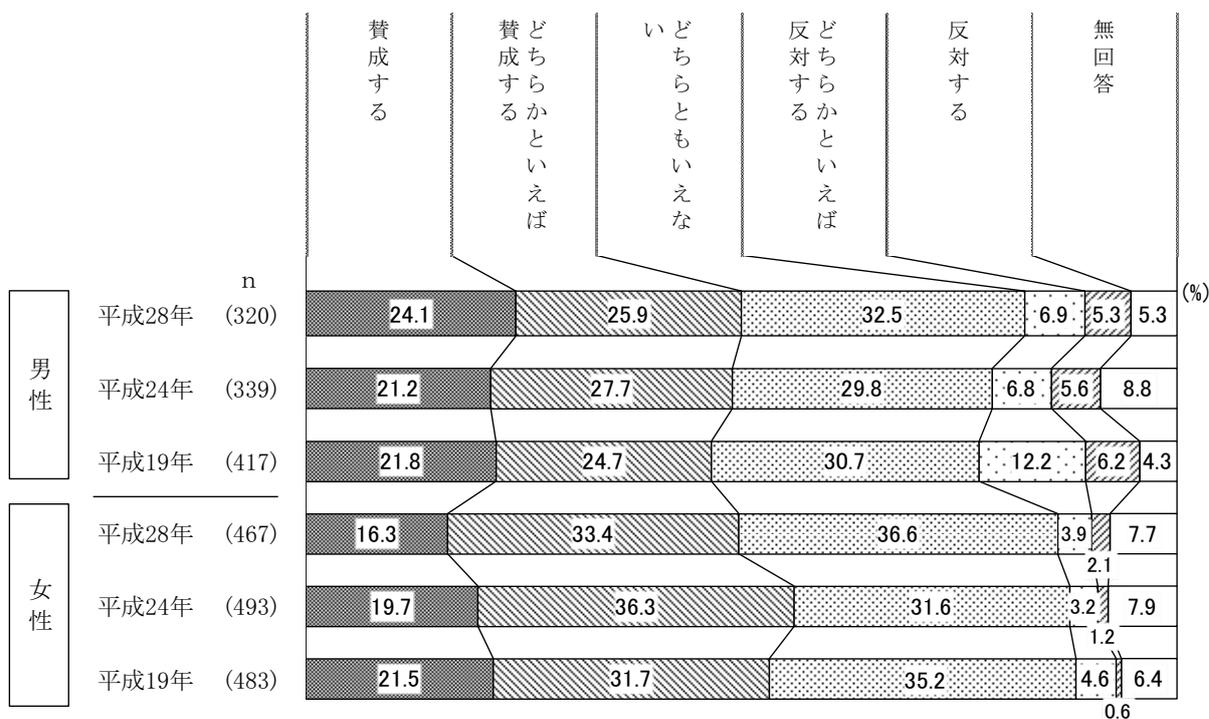
【経年変化】

経年変化をみると、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた<賛成する>は3.2ポイント減少し、「どちらともいえない」は4.0ポイント増加している。



【経年変化・性別】

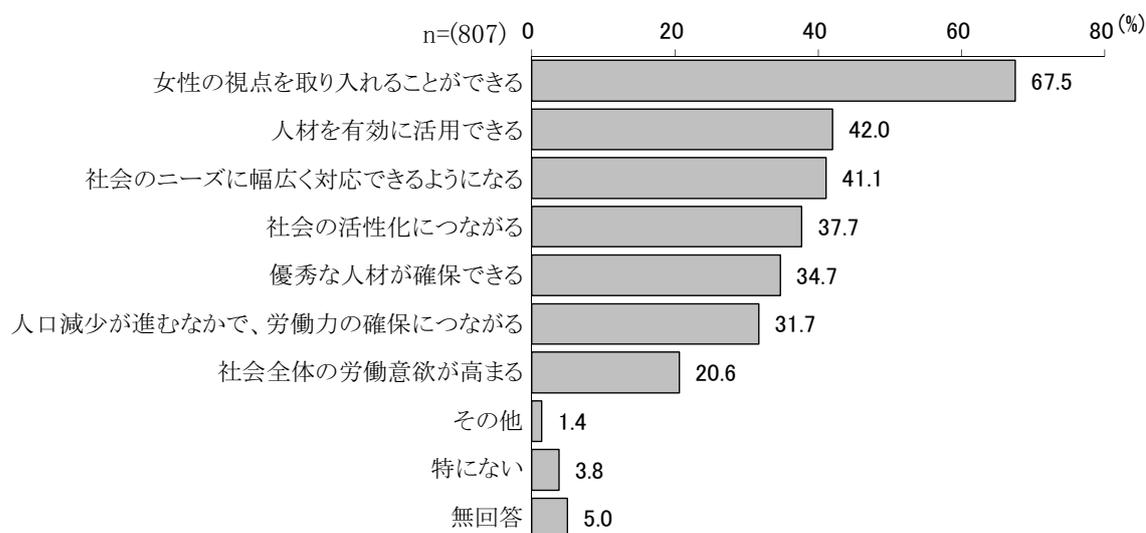
経年変化を性別でみると、「賛成する」は前回調査より男性では2.9ポイント増加し、女性では3.4ポイント減少している。<賛成する>は前回調査より男性では1.1ポイント増加し、女性では6.3ポイント減少している。「どちらともいえない」は前回調査より男性では2.7ポイント、女性では5.0ポイント増加している。



(5) 女性を積極的に活用することによる効果

問37 女性を積極的に活用することによって、社会全体にどのような効果があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性を積極的に活用することによる効果については、「女性の視点を取り入れることができる」が67.5%と最も多く、次いで「人材を有効に活用できる」(42.0%)、「社会のニーズに幅広く対応できるようになる」(41.1%)、「社会の活性化につながる」(37.7%)、「優秀な人材が確保できる」(34.7%)、「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」(31.7%)、「社会全体の労働意欲が高まる」(20.6%)の順となっている。



【性別】

性別でみると、「女性の視点を取り入れることができる」は女性が70.0%、男性が65.6%と女性の方が4.4ポイント多く、「社会のニーズに幅広く対応できるようになる」も女性が43.0%、男性が38.8%と女性の方が4.2ポイント多くなっている。「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」は男性が33.8%、女性が29.6%と男性の方が4.2ポイント多くなっている。

	n	女性の視点を取り入れることができる	人材を有効に活用できる	社会全体の労働意欲が高まる	社会のニーズに幅広く対応できる	社会の活性化につながる	優秀な人材が確保できる	人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる	その他	特にない	無回答
全体	807	67.5	42.0	20.6	41.1	37.7	34.7	31.7	1.4	3.8	5.0
男性	320	65.6	41.9	20.9	38.8	39.1	36.6	33.8	1.3	6.3	4.1
女性	467	70.0	42.2	20.6	43.0	36.8	33.6	29.6	1.5	2.4	4.9
その他	2	50.0	100.0	-	50.0	50.0	50	50.0	-	-	-

第2章 調査結果の詳細

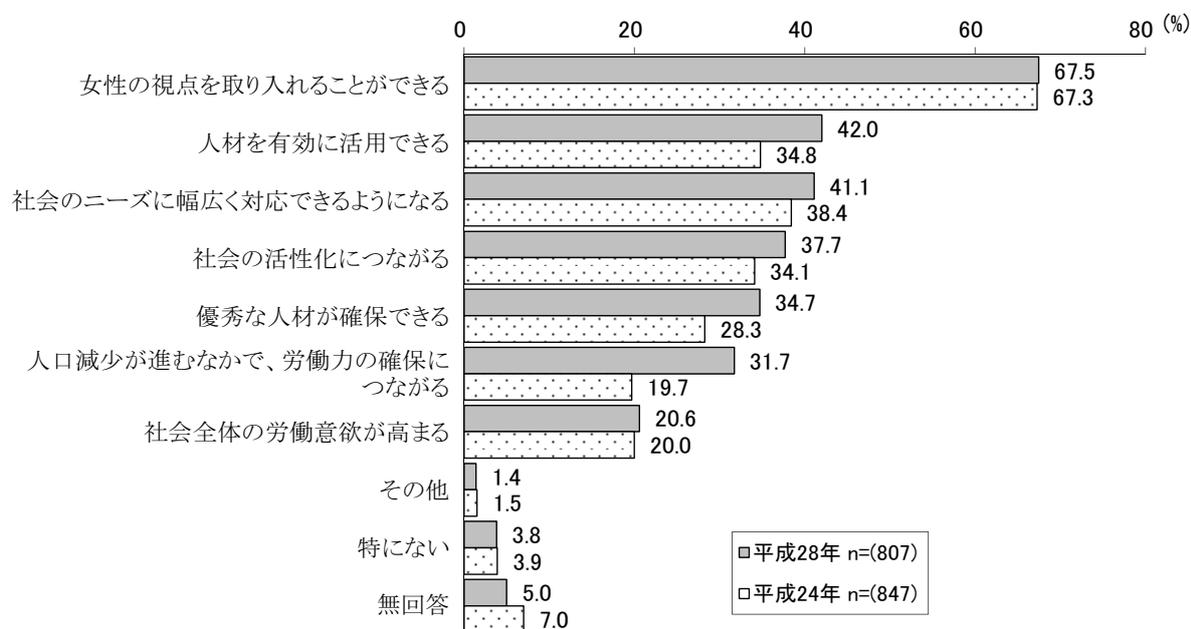
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、「女性の視点を取り入れることができる」は女性の“60歳代”で8割弱と多くなっている。「社会のニーズに幅広く対応できるようになる」も女性の“50歳代”と“60歳代”で5割前後と多くなっている。「社会の活性化につながる」は男性の“60歳代”で5割強と多くなっている。

		n	女性の視点を取り入れることができる	人材を有効に活用できる	社会全体の労働意欲が高まる	社会のニーズに幅広く対応できるようになる	社会の活性化につながる	優秀な人材が確保できる	人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる	その他	特にない	無回答
全体		807	67.5	42.0	20.6	41.1	37.7	34.7	31.7	1.4	3.8	5.0
男性	18・19歳	6	66.7	33.3	33.3	33.3	50.0	33.3	-	-	-	-
	20歳代	24	75.0	25.0	12.5	45.8	29.2	41.7	33.3	-	4.2	-
	30歳代	34	67.6	47.1	26.5	44.1	41.2	52.9	29.4	5.9	11.8	-
	40歳代	47	68.1	44.7	19.1	34.0	38.3	36.2	21.3	2.1	4.3	2.1
	50歳代	51	70.6	43.1	17.6	39.2	37.3	43.1	47.1	-	5.9	2.0
	60歳代	58	67.2	53.4	27.6	44.8	51.7	44.8	43.1	-	5.2	-
	70歳以上	100	58.0	36.0	19.0	34.0	34.0	22.0	31.0	1.0	7.0	11.0
女性	18・19歳	2	100.0	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-
	20歳代	25	76.0	44.0	20.0	52.0	28.0	52.0	24.0	4.0	-	-
	30歳代	63	76.2	39.7	17.5	41.3	36.5	30.2	30.2	1.6	-	-
	40歳代	108	70.4	47.2	17.6	37.0	39.8	33.3	27.8	1.9	0.9	1.9
	50歳代	64	71.9	40.6	18.8	50.0	21.9	31.3	32.8	1.6	4.7	3.1
	60歳代	79	77.2	48.1	19.0	49.4	44.3	35.4	29.1	-	2.5	2.5
	70歳以上	125	59.2	36.0	27.2	40.0	38.4	32.0	31.2	1.6	4.0	13.6
その他	18・19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	1	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	40歳代	1	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
	50歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【経年変化】

経年変化をみると、「女性の視点を取り入れることができる」は前回調査と変わらず7割弱となっている。「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」は12.0ポイント増加し、「人材を有効に活用できる」は7.2ポイント増加、「優秀な人材が確保できる」は6.4ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「女性の視点を取り入れることができる」は前回調査より男性では5.1ポイント増加し、女性では2.4ポイント減少している。「人材を有効に活用できる」は男性では5.3ポイント増加、女性では8.7ポイント増加している。「社会の活性化につながる」は女性では6.4ポイント増加し、「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」は男性では13.4ポイント、女性では9.9ポイント男女とも増加している。

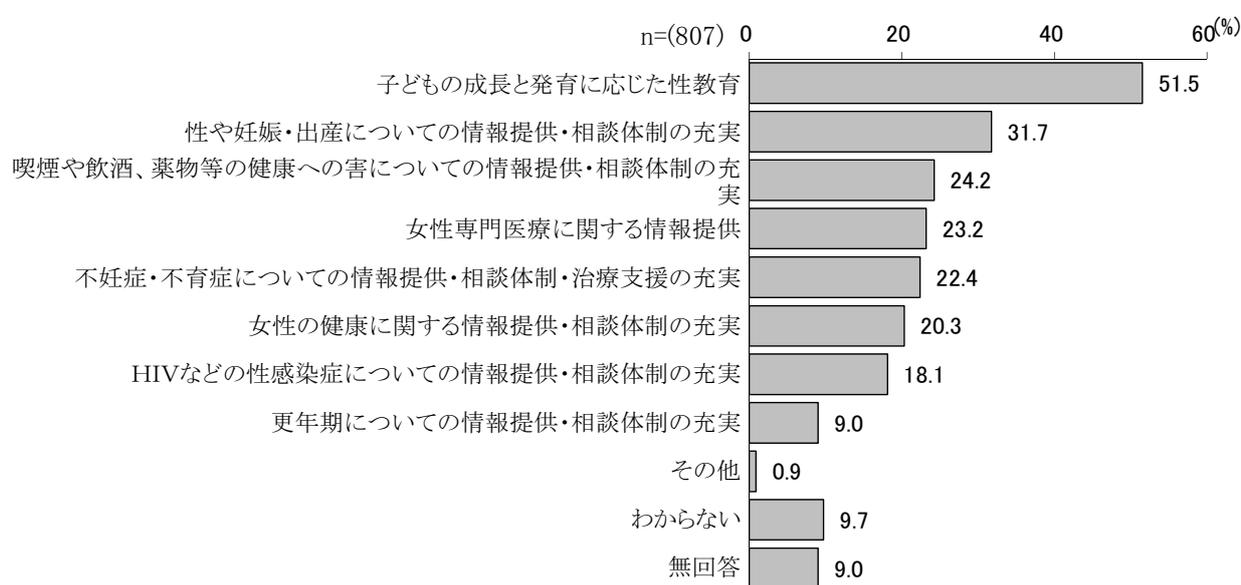


6. 健康・人権について

(1) リプロダクティブ・ヘルス／ライツの実現に必要なこと

問38 性別に関わらず性と生殖に関する健康を保持し、性や妊娠・出産に関して自己決定できるよう支援するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

リプロダクティブ・ヘルス／ライツの実現に必要なことについては、「子どもの成長と発育に応じた性教育」が51.5%と最も多く、次いで「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」(31.7%)、「喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実」(24.2%)、「女性専門医療に関する情報提供」(23.2%)、「不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実」(22.4%)、「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」(20.3%)の順となっている。



【性別】

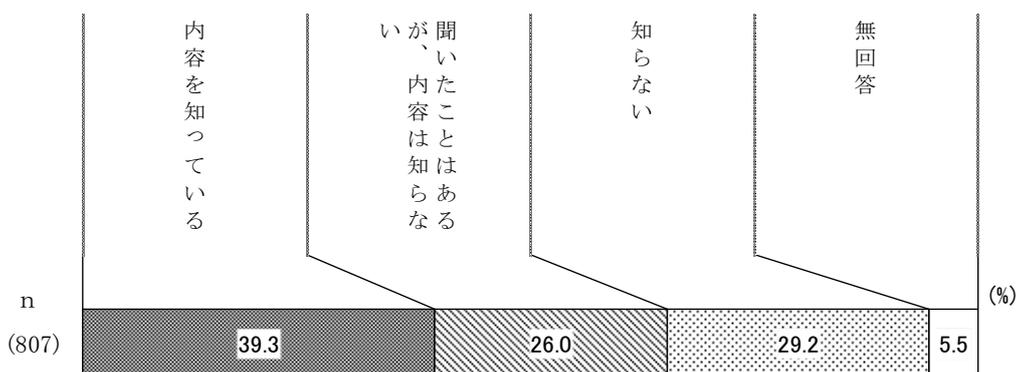
性別でみると、「子どもの成長と発育に応じた性教育」や「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」では性別による大きな違いはみられない。「女性専門医療に関する情報提供」は女性が27.6%、男性が17.5%と女性の方が10.1ポイント多くなっている。

	n	子どもの成長と発育に応じた性教育	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実	女性専門医療に関する情報提供	不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実	女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実	HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実	更年期についての情報提供・相談体制の充実	その他	わからない	無回答
全体	807	51.5	31.7	24.2	23.2	22.4	20.3	18.1	9.0	0.9	9.7	9.0
男性	320	52.5	33.1	22.2	17.5	22.8	20.0	20.0	5.6	0.9	13.1	8.1
女性	467	51.2	30.6	22.5	27.6	24.6	16.9	16.9	11.3	0.9	7.3	9.2
その他	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-

(2) 性的マイノリティの認知度

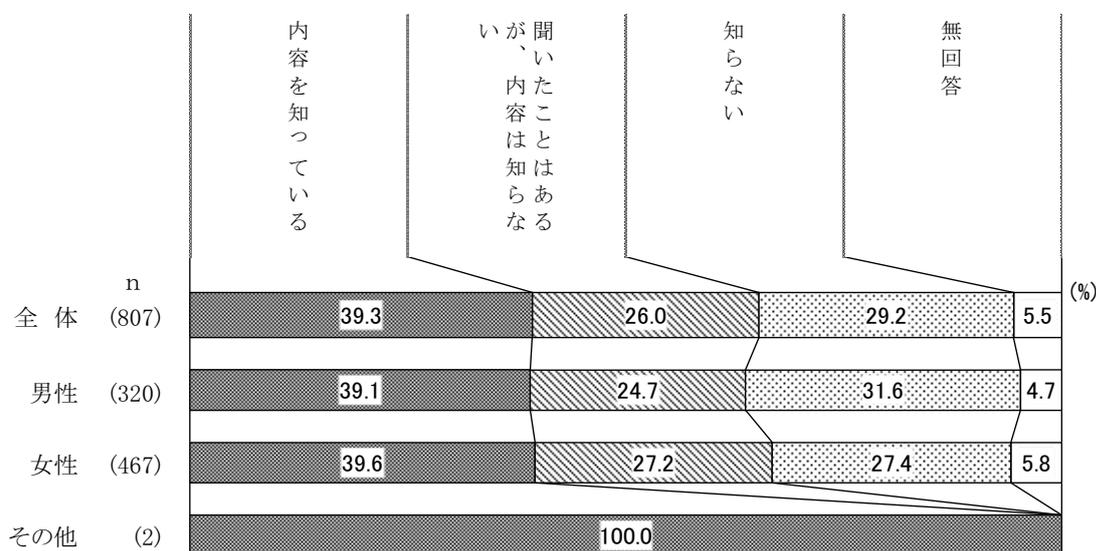
問39 あなたは性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。（1つに○）

性的マイノリティの認知状況は、「内容を知っている」が39.3%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.0%、「知らない」が29.2%となっている。



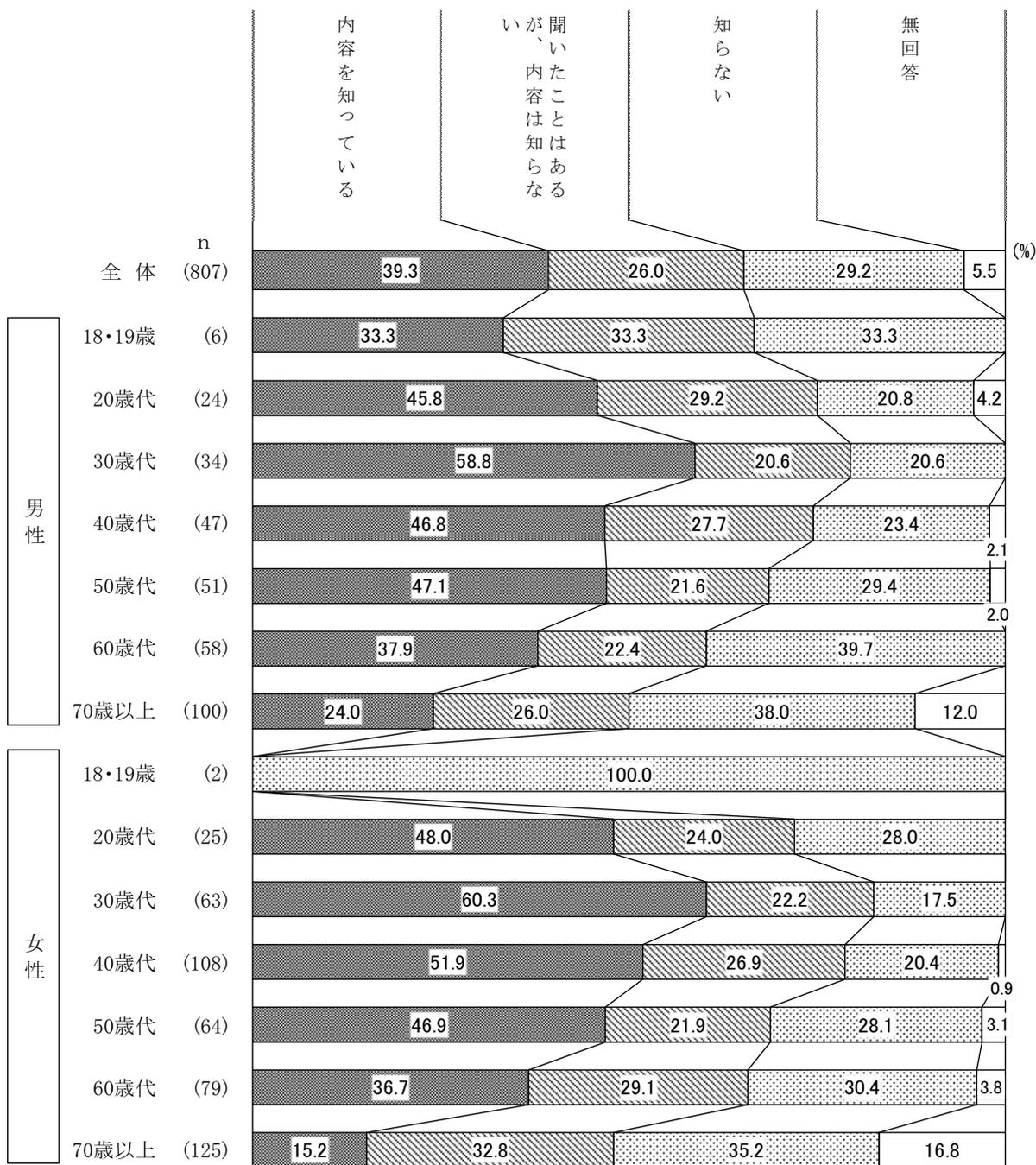
【性別】

性別では大きな違いはみられない。



【性・年齢別】

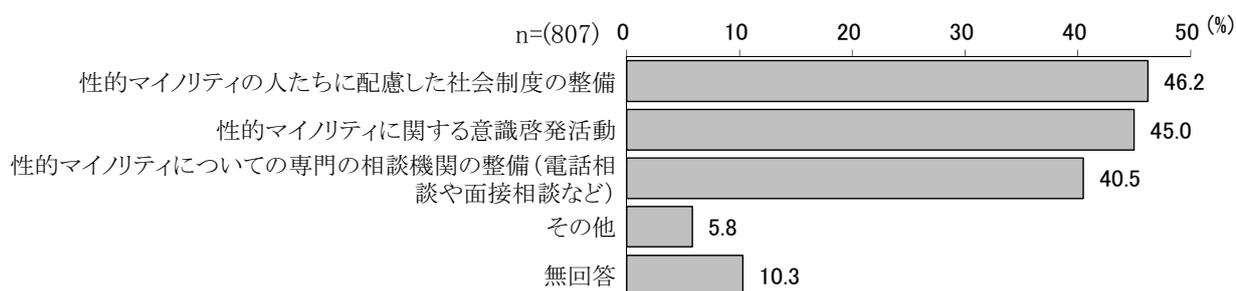
性・年代別でみると、「内容を知っている」は男性と女性の“30歳代”で6割前後と多くなっており、年齢があがるほど割合が低くなる傾向になっている。「知らない」は、男性の“60歳代”と“70歳以上”で4割前後と多くなっている。



(3) 性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会をつくるために必要な取組み

問40 あなたは性的マイノリティ（LGBT等）の人たちが暮らしやすい社会をつくるためにどのような取組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会をつくるために必要な取組みについては、「性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備」が46.2%、「性的マイノリティに関する意識啓発活動」が45.0%、「性的マイノリティについての専門の相談機関の整備（電話相談や面接相談など）」が40.5%となっている。



【性別】

性別でみると、「性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備」は女性が51.8%、男性が39.7%と女性の方が12.1ポイント多くなっている。

	n	性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備 (%)	性的マイノリティに関する意識啓発活動 (%)	性的マイノリティについての専門の相談機関の整備(電話相談や面接相談など) (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	807	46.2	45.0	40.5	5.8	10.3
男性	320	39.7	45.6	38.8	8.1	9.7
女性	467	51.8	45.0	41.3	4.1	10.3
その他	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-

第2章 調査結果の詳細

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備」はすべての年代で女性の割合が多く、「30歳代」では7割弱と多くなっている。「性的マイノリティに関する意識啓発活動」は、男性の“40歳代”で7割弱と多くなっている。

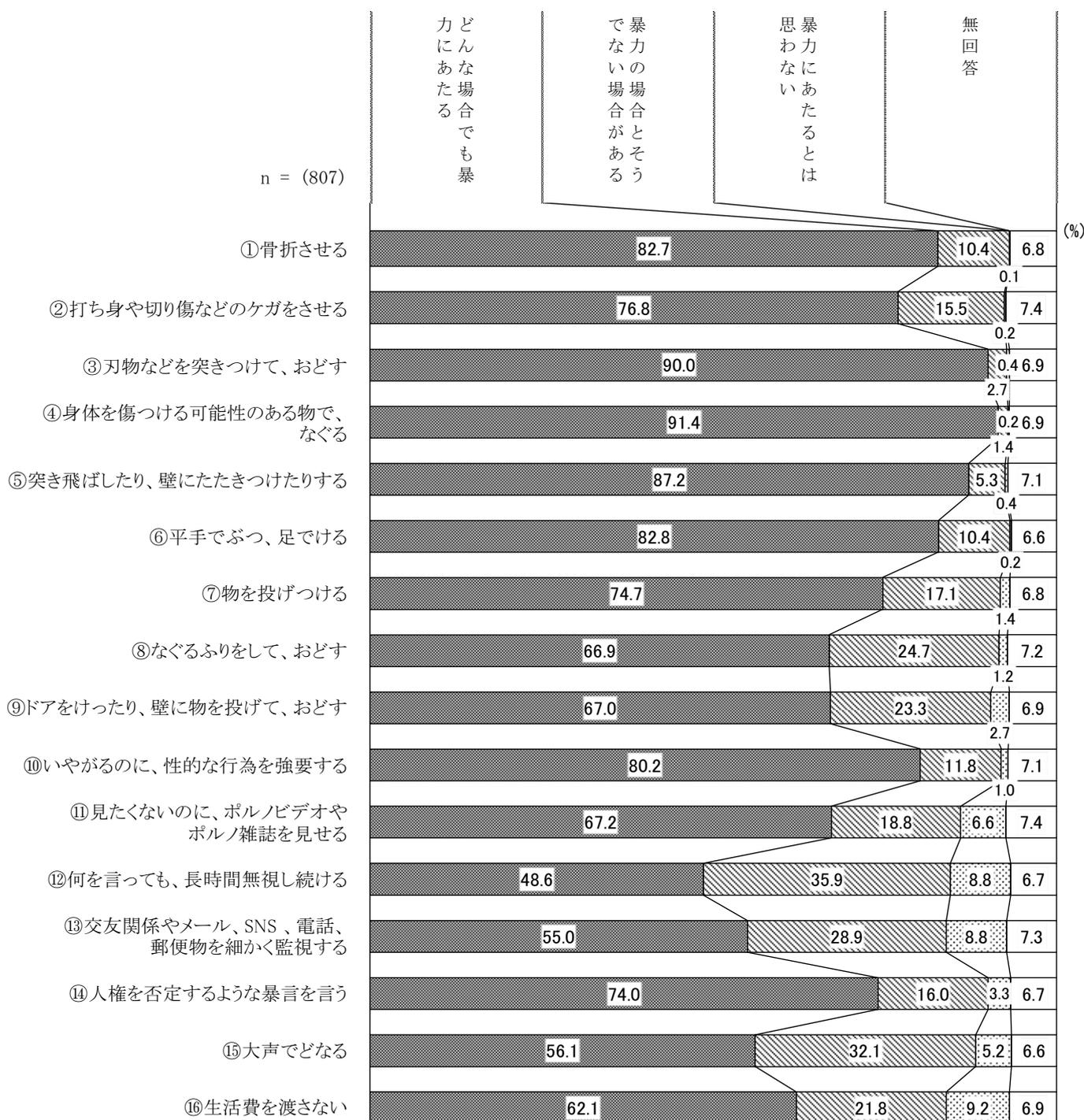
		(%)					
	n	性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備	性的マイノリティに関する意識啓発活動	性的マイノリティに関する専門的相談や面接相談など（電話の相談機関の整備）	その他	無回答	
全 体		807	46.2	45.0	40.5	5.8	10.3
男 性	18・19歳	6	50.0	83.3	33.3	-	-
	20歳代	24	50.0	54.2	41.7	12.5	4.2
	30歳代	34	52.9	44.1	23.5	17.6	5.9
	40歳代	47	36.2	68.1	40.4	6.4	2.1
	50歳代	51	43.1	54.9	45.1	5.9	3.9
	60歳代	58	43.1	43.1	48.3	5.2	3.4
	70歳以上	100	30.0	28.0	34.0	8.0	23.0
女 性	18・19歳	2	50.0	100.0	50.0	-	-
	20歳代	25	72.0	48.0	48.0	4.0	-
	30歳代	63	68.3	57.1	39.7	4.8	3.2
	40歳代	108	55.6	58.3	33.3	2.8	1.9
	50歳代	64	53.1	54.7	40.6	4.7	4.7
	60歳代	79	49.4	43.0	53.2	1.3	5.1
	70歳以上	125	36.8	21.6	40.8	6.4	29.6
そ の 他	18・19歳	-	-	-	-	-	-
	20歳代	-	-	-	-	-	-
	30歳代	1	-	-	-	100.0	-
	40歳代	1	100.0	100.0	100.0	-	-
	50歳代	-	-	-	-	-	-
	60歳代	-	-	-	-	-	-
	70歳以上	-	-	-	-	-	-

7. DV（配偶者等からの暴力）について

（1）夫婦・恋人間の暴力と認識される行為

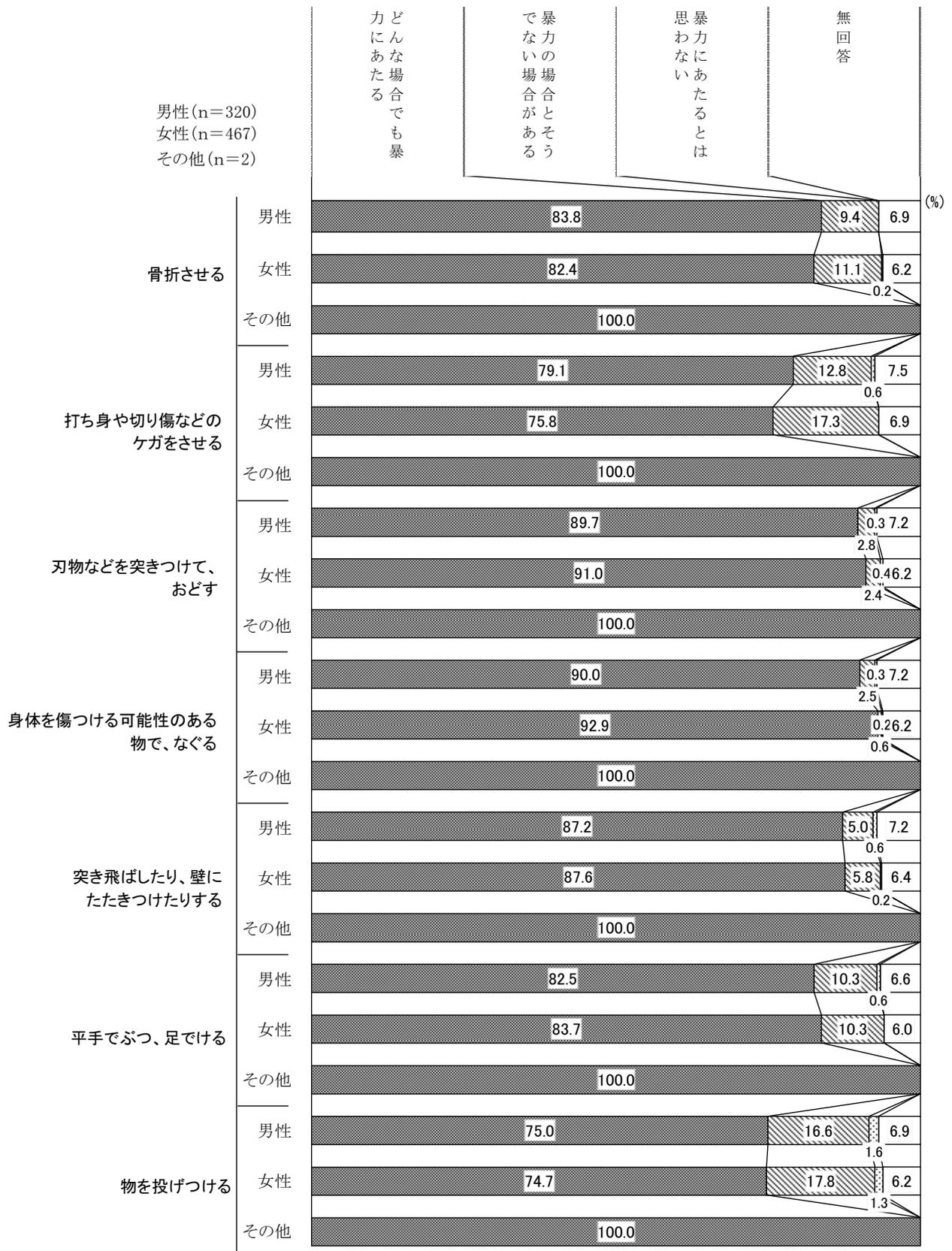
問41 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（それぞれの項目について1つに○）

夫婦・恋人間の暴力と認識される行為については、『身体を傷つける可能性のある物で、なぐる』、『刃物などを突きつけて、おどす』、『突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする』で「どんな場合でも暴力にあたる」が9割前後と多くなっている。一方、「どんな場合でも暴力にあたる」が少ないものは、『大声でどなる』が56.1%、『交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を』は55.0%、『何を言っても、長時間無視し続ける』は48.6%となっている。

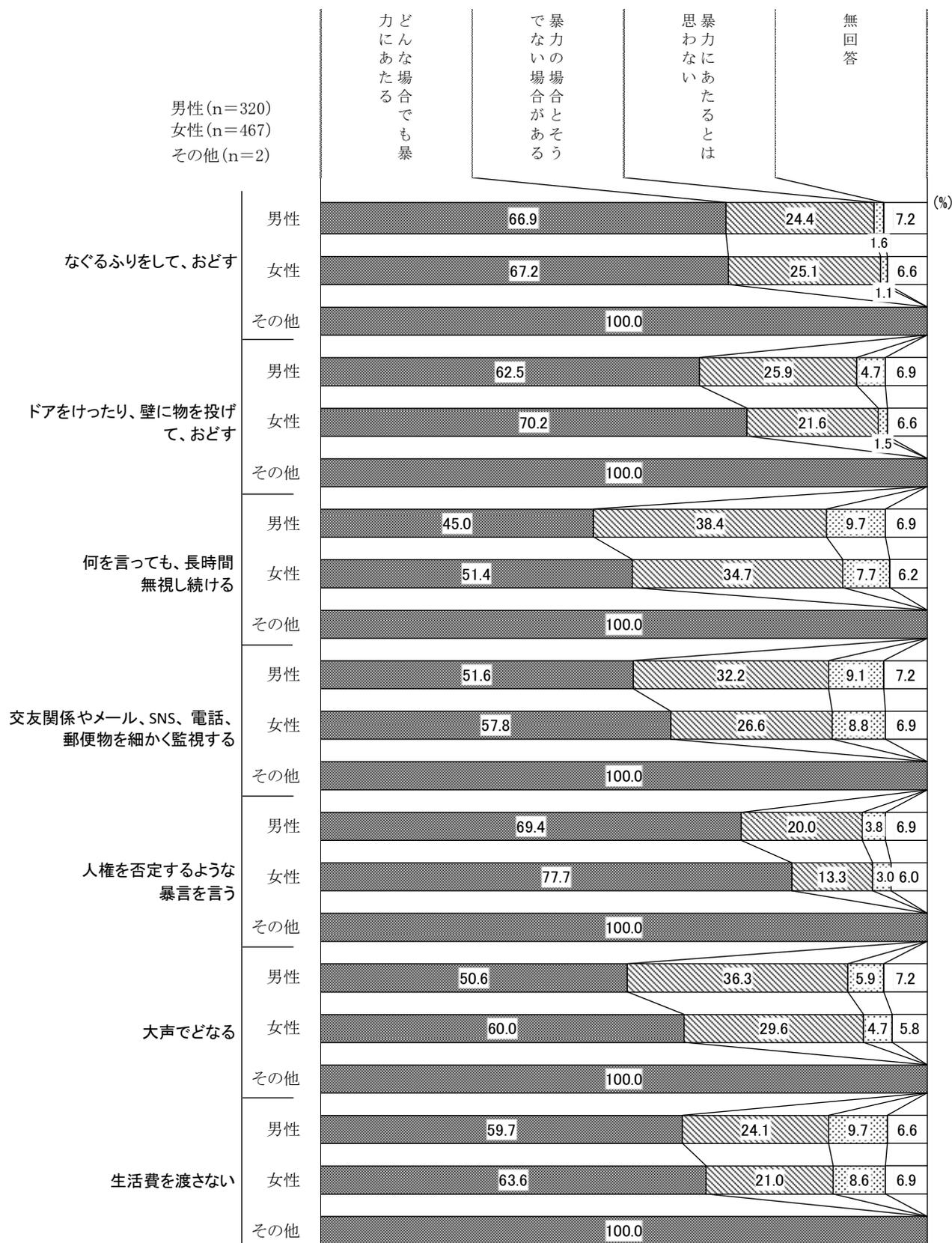


【性別】

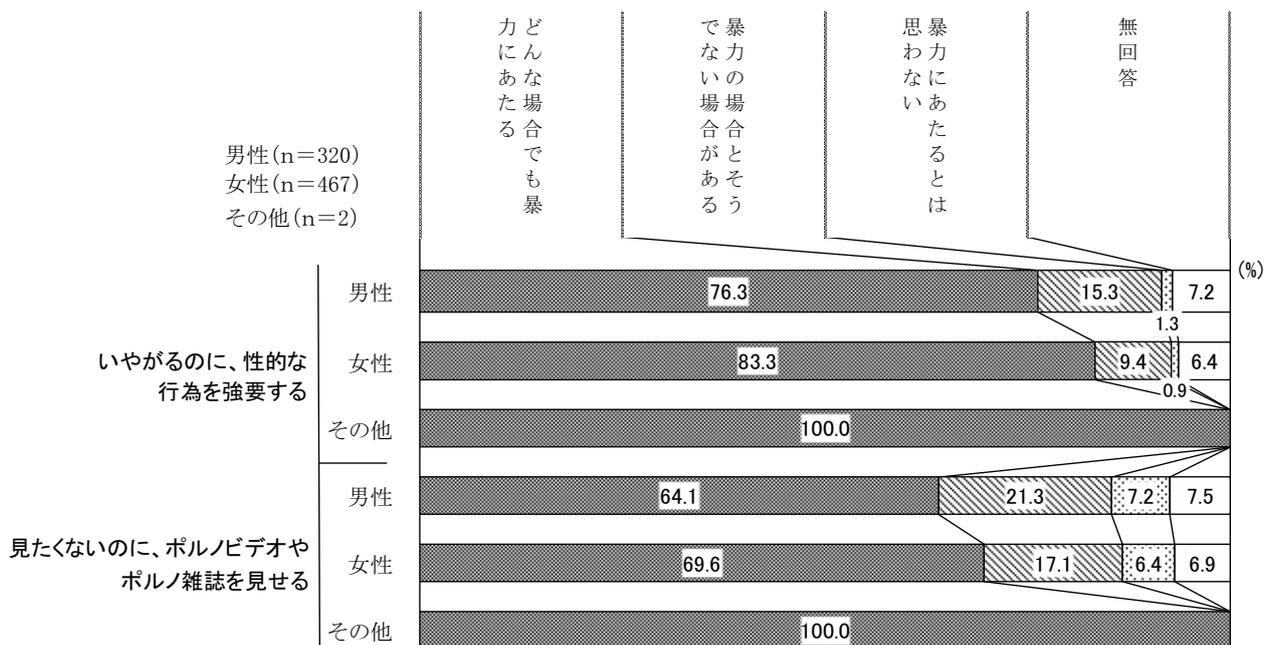
『骨折させる』から『物を投げつける』までの行為について性別で大きな違いはみられない。



『なぐるふりをして、おどす』から『生活費を渡さない』までの行為について性別で見ると、『大声でどなる』、『人権を否定するような暴言を言う』、『ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす』、『いやがるのに、性的な行為を強要する』、『何を言っても、長時間無視し続ける』などで女性の方が多くなっている。

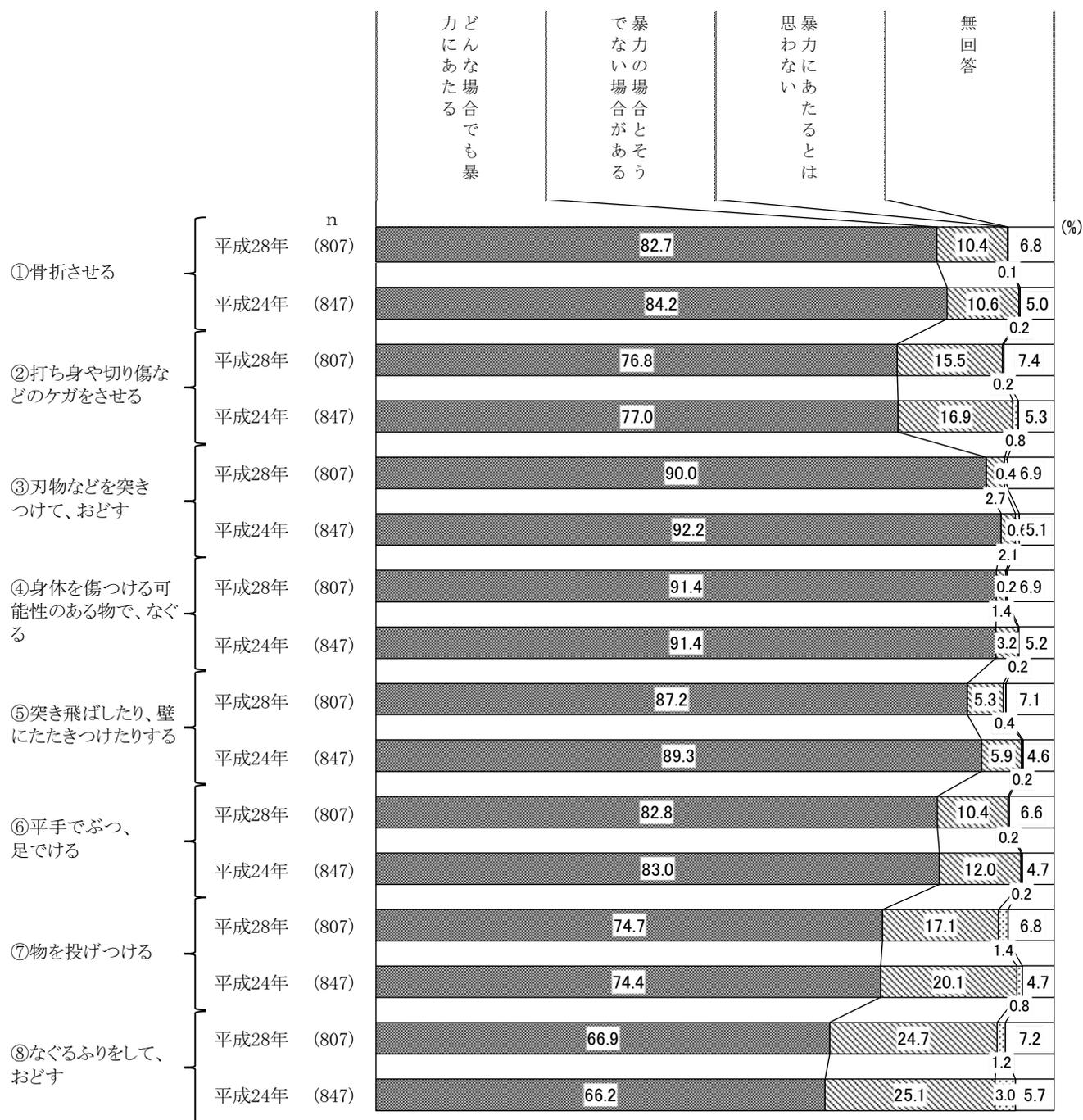


第2章 調査結果の詳細



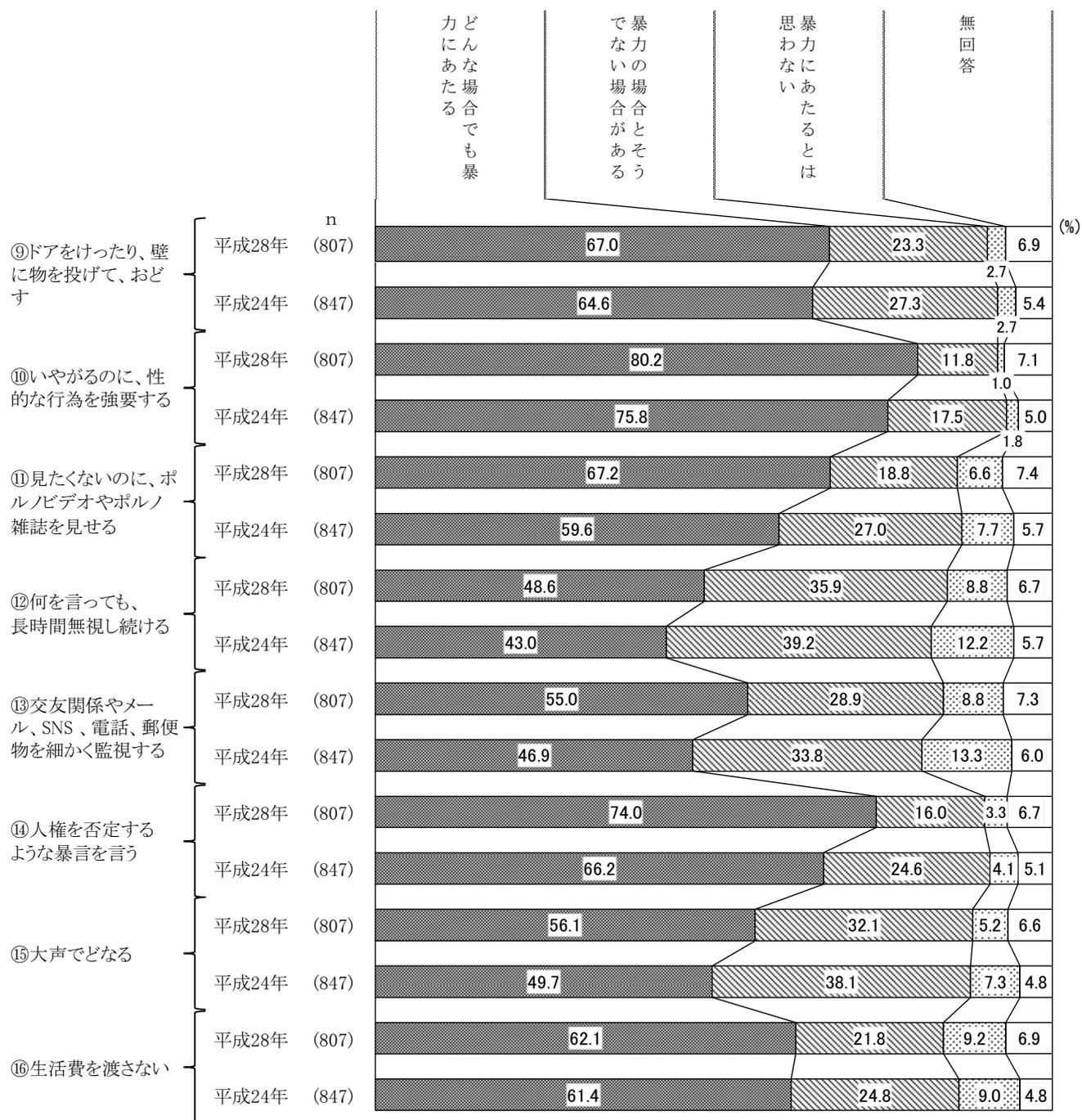
【経年変化】①～⑧

経年変化をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は⑤突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりするでは前回調査より2.1ポイント減少し、①骨折させるは1.5ポイント減少している。



【経年変化】⑨～⑯

経年変化をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は⑬交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視するでは前回調査より8.1ポイント増加し、⑭人権を否定するような暴言を言うは7.8ポイント、⑯見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せるは7.6ポイント増加している。

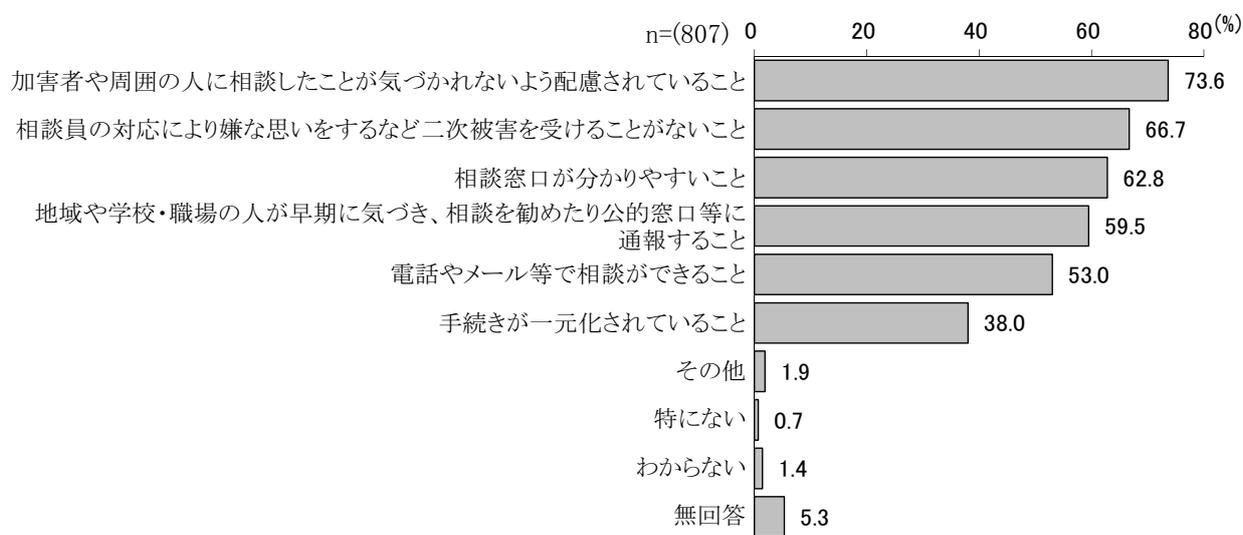


※「⑬交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かに監視する」は平成24年調査では「⑬交友関係や電話、郵便物を細かく監視する」となっている。

(2) DVの被害発見や相談しやすい環境をつくるために必要なこと

問42 DVの被害発見や相談しやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものはすべてに○)

DVの被害発見や相談しやすい環境をつくるために必要なことについては、「加害者や周囲の人に相談したことが気づかれないよう配慮されていること」が73.6%で最も多く、次いで、「相談員の対応により嫌な思いをするなど二次被害を受けることがないこと」が66.7%、「相談窓口が分かりやすいこと」が62.8%、「地域や学校・職場の人が早期に気づき、相談を勧めたり公的窓口等に通報すること」が59.5%、「電話やメール等で相談ができること」が53.0%の順となっている。



【性別】

性別でみると、「相談員の対応により嫌な思いをするなど二次被害を受けることがないこと」は12.7ポイント、「相談窓口が分かりやすいこと」は8.2ポイント、「加害者や周囲の人に相談したことが気づかれないよう配慮されていること」は7.4ポイント、「手続きが一元化されていること」は7.3ポイント女性の方が多くなっている。

	n	的に気域相 窓づや談 口づきや 等に学校 に相・職 報談場の する勧め ことめ人 たりが 公期	相 談 窓 口 が 分 か り や す い こ と	と 手 続 き が 一 元 化 さ れ て い る こ と	さ こ と が あ ら ず い る こ と	加 害 者 や 周 圍 の 人 に 相 談 し た こ と	電 話 や メ ー ル 等 で 相 談 が で き る こ と	相 談 員 の 対 応 に よ り 嫌 な お も い を す る な ど 二 次 被 害 を 受 け る こ と	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	807	59.5	62.8	38.0	73.6	53.0	66.7	1.9	0.7	1.4	5.3	
男性	320	61.3	57.8	33.8	69.7	53.8	59.7	1.6	0.9	2.5	5.6	
女性	467	59.1	66.0	41.1	77.1	52.9	72.4	1.7	0.6	0.6	4.7	
その他	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50	50.0	-	-	-	

第2章 調査結果の詳細

【性・年齢別】

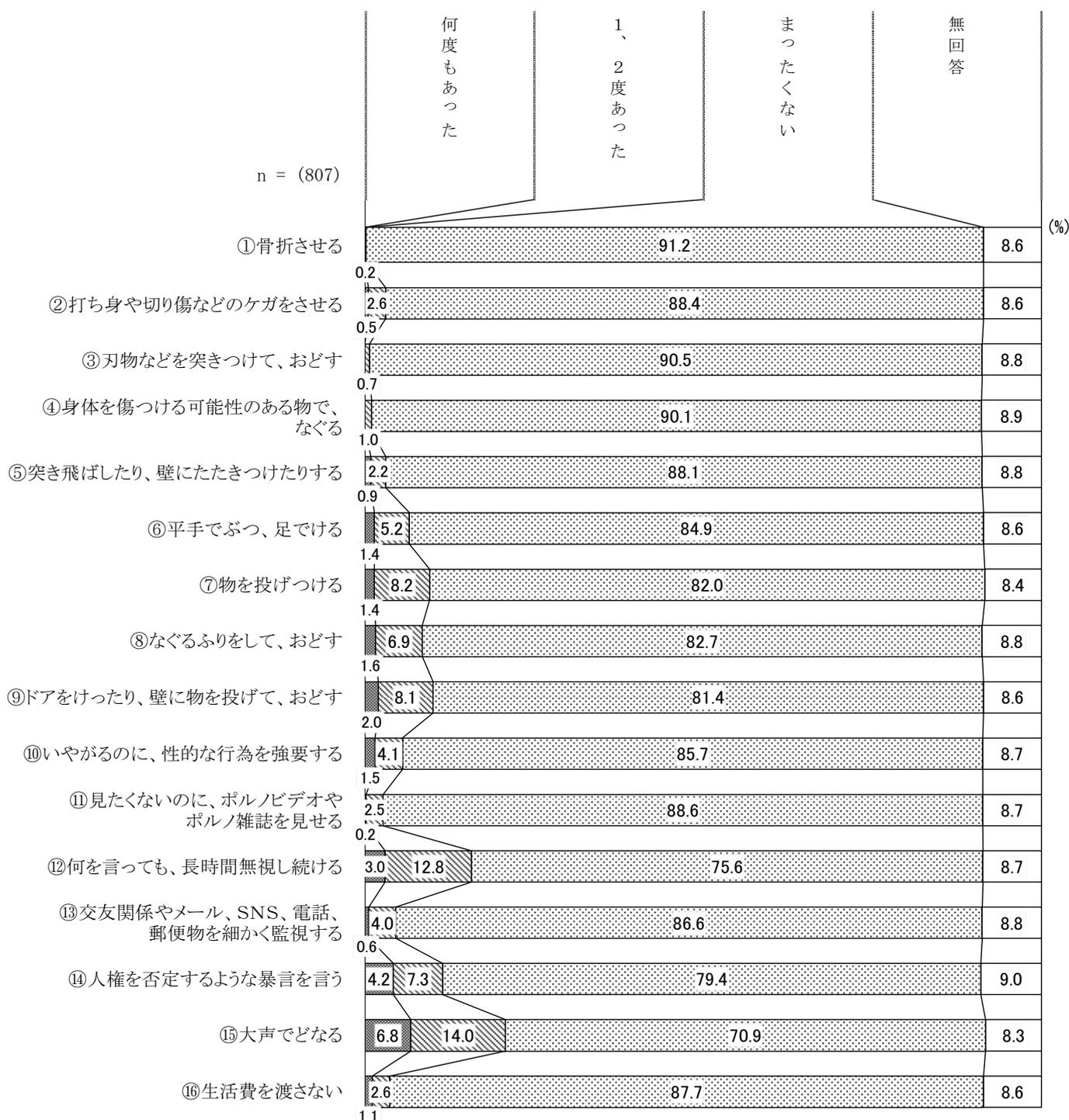
性・年齢別でみると、「加害者や周囲の人に相談したことが気づかれないよう配慮されていること」は女性の“50歳代”で約9割と多く、「相談員の対応により嫌な思いをするなど二次被害を受けることがないこと」も女性の“50歳代”で9割弱と多くなっている。

		n	的に地 窓気づ 口づき 等にや 校・学 校・校 通相・職 報談場の する人 ことめ たり 公期	相 談 窓 口 が 分 か り や す い こ と	と手 続 き が 一 元 化 さ れ て い る こ と	さこ とが あ ら ず か れ な い よ う 配 慮 し た こ と	加 害 者 や 周 圍 の 人 に 相 談 し た こ と	電 話 や メ ー ル 等 で 相 談 が で き る こ と	こ と が あ ら ず か れ な い こ と	相 談 員 の 対 応 に よ り 嫌 な 思 い を 受 け る こ と	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		807	59.5	62.8	38.0	73.6	53.0	66.7	1.9	0.7	1.4	5.3		
男 性	18・19歳	6	66.7	66.7	33.3	33.3	50.0	33.3	-	16.7	-	-		
	20歳代	24	62.5	50.0	45.8	70.8	50.0	58.3	4.2	-	4.2	4.2		
	30歳代	34	50.0	58.8	38.2	82.4	61.8	67.6	-	-	2.9	-		
	40歳代	47	55.3	59.6	38.3	80.9	61.7	76.6	2.1	-	-	-		
	50歳代	51	60.8	58.8	25.5	82.4	51.0	64.7	3.9	-	-	3.9		
	60歳代	58	75.9	72.4	44.8	79.3	69.0	67.2	-	1.7	-	-		
	70歳以上	100	59.0	49.0	25.0	50.0	41.0	44.0	1.0	1.0	6.0	15.0		
女 性	18・19歳	2	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-		
	20歳代	25	56.0	56.0	28.0	76.0	64.0	64.0	-	-	-	-		
	30歳代	63	47.6	61.9	38.1	82.5	57.1	73.0	3.2	-	-	-		
	40歳代	108	60.2	65.7	45.4	82.4	55.6	76.9	1.9	-	-	0.9		
	50歳代	64	64.1	79.7	54.7	89.1	62.5	87.5	3.1	-	-	-		
	60歳代	79	67.1	69.6	45.6	81.0	54.4	75.9	-	1.3	1.3	1.3		
	70歳以上	125	56.0	61.6	31.2	62.4	40.8	60.8	1.6	1.6	1.6	16.0		
そ の 他	18・19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	30歳代	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-		
	40歳代	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-		
	50歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	60歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	70歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

(3) 配偶者等からの被害経験の有無

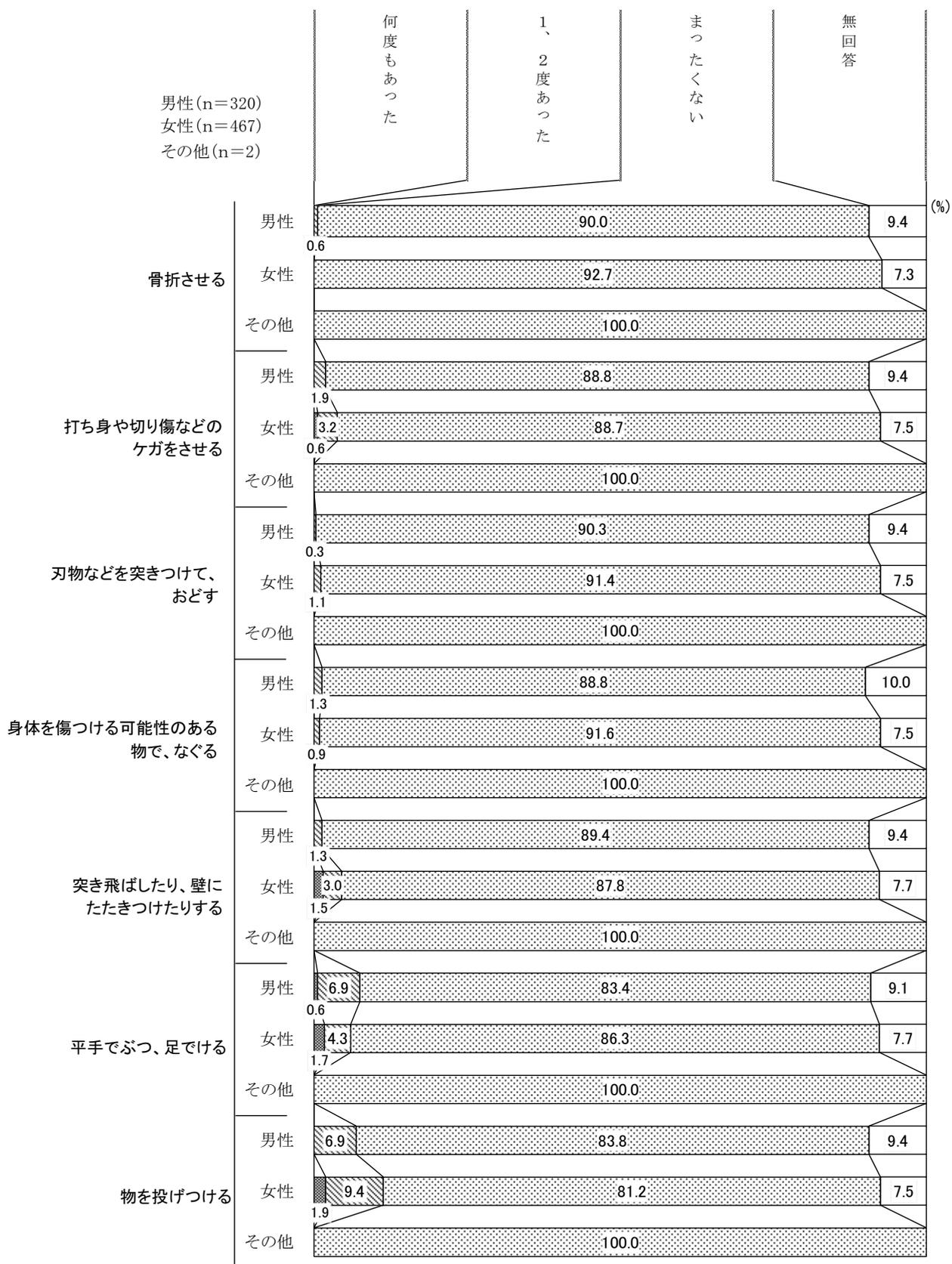
問43 あなたは、これまでにあなたの夫や妻（事実婚や別居中、離別・死別を含む）または恋人などから、次のようなことをされたことがありますか。（それぞれの項目について1つに○）

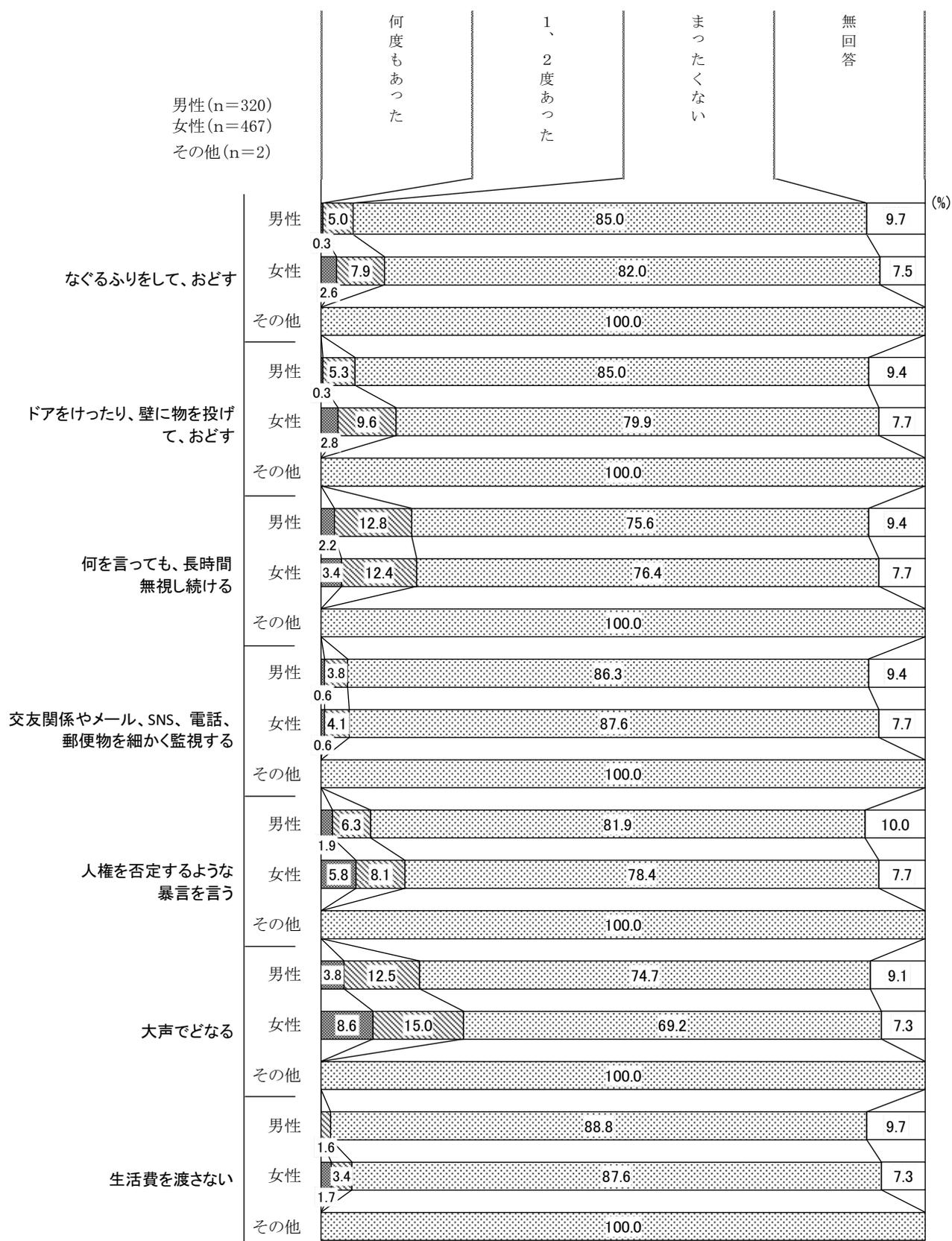
配偶者等からの被害経験の有無については、いずれの項目も「まったくない」が8割以上となっているものの、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた＜あった＞では、『大声でどなる』が20.8%で最も多く、次いで、『何を言っても、長時間無視し続ける』が15.8%、『人権を否定するような暴言を言う』が11.5%、『ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす』が10.1%の順となっている。



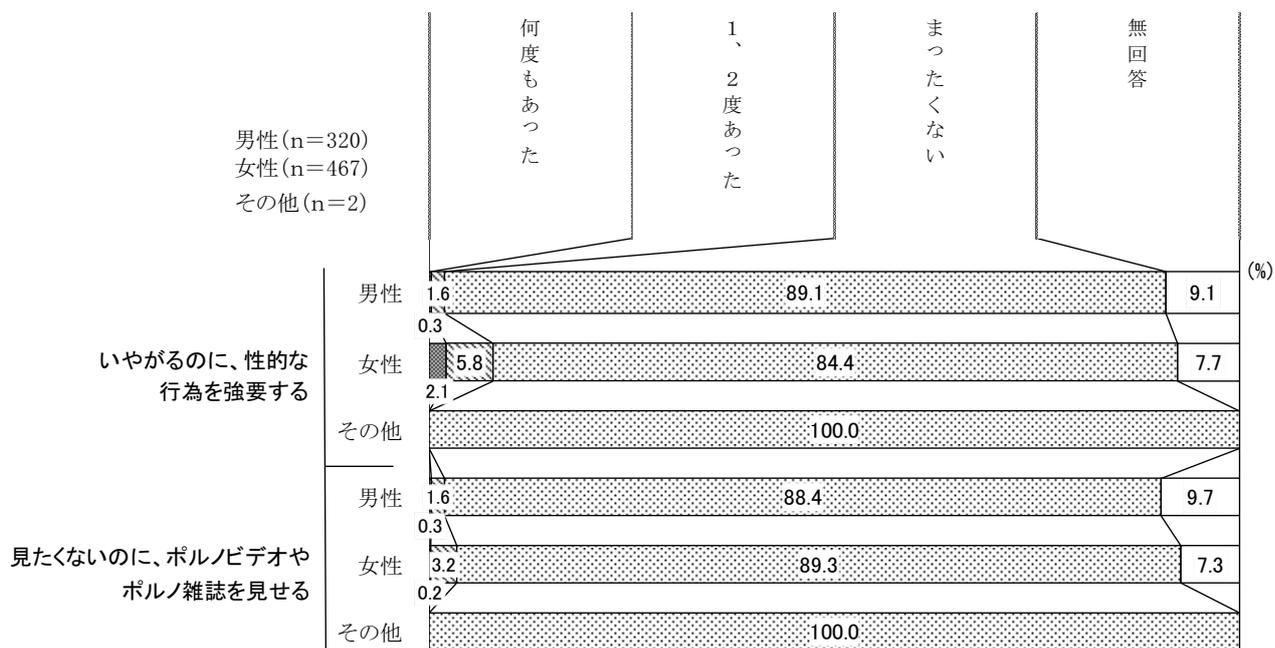
【性別】

性別でみると、『ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす』が6.8ポイント、『いやがるのに、性的な行為を強要する』が6.0ポイント、『なぐるふりをして、おどす』が5.2ポイント、『人権を否定するような暴言を言う』が5.7ポイント女性の方が多くなっている。



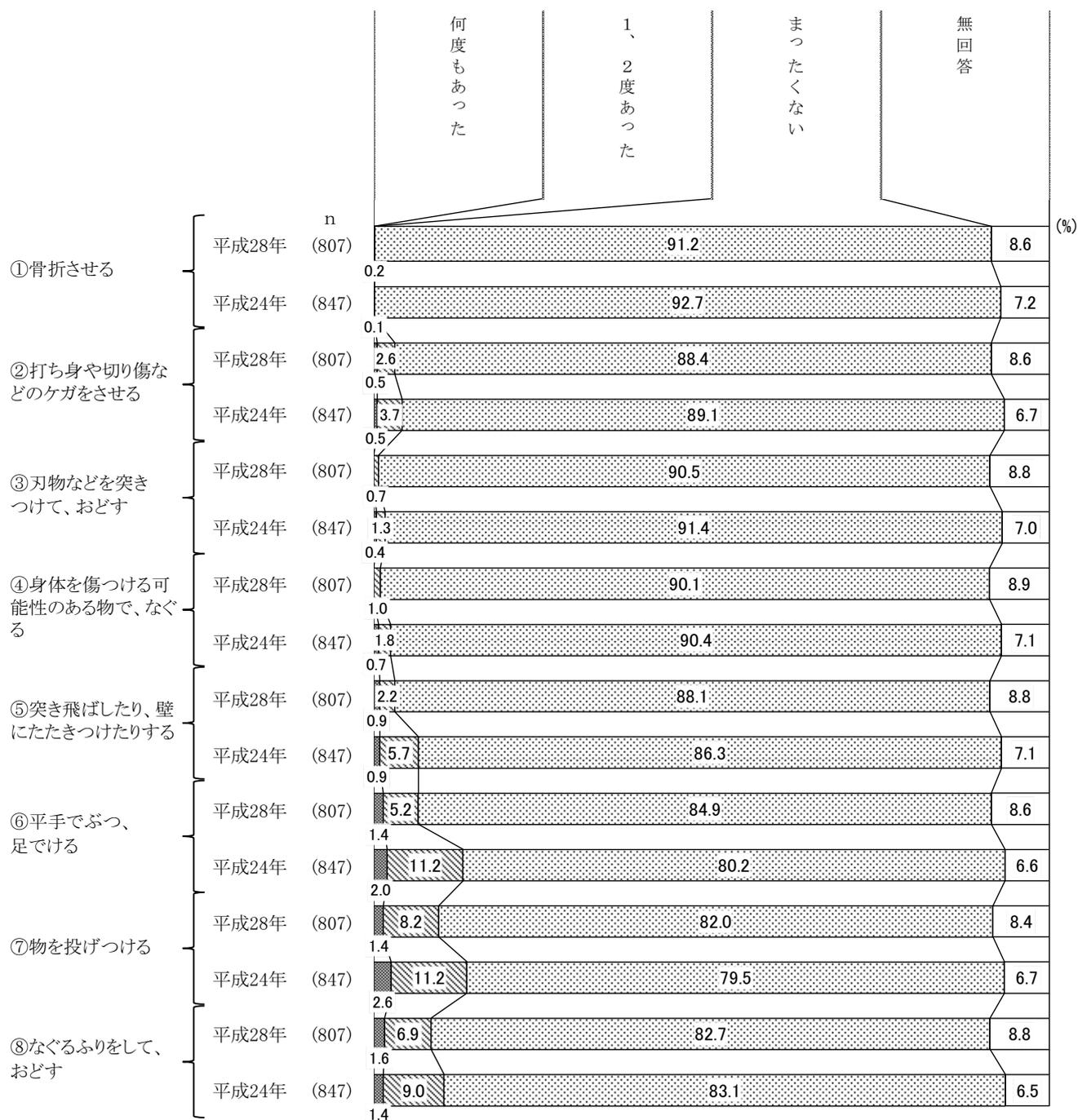


第2章 調査結果の詳細



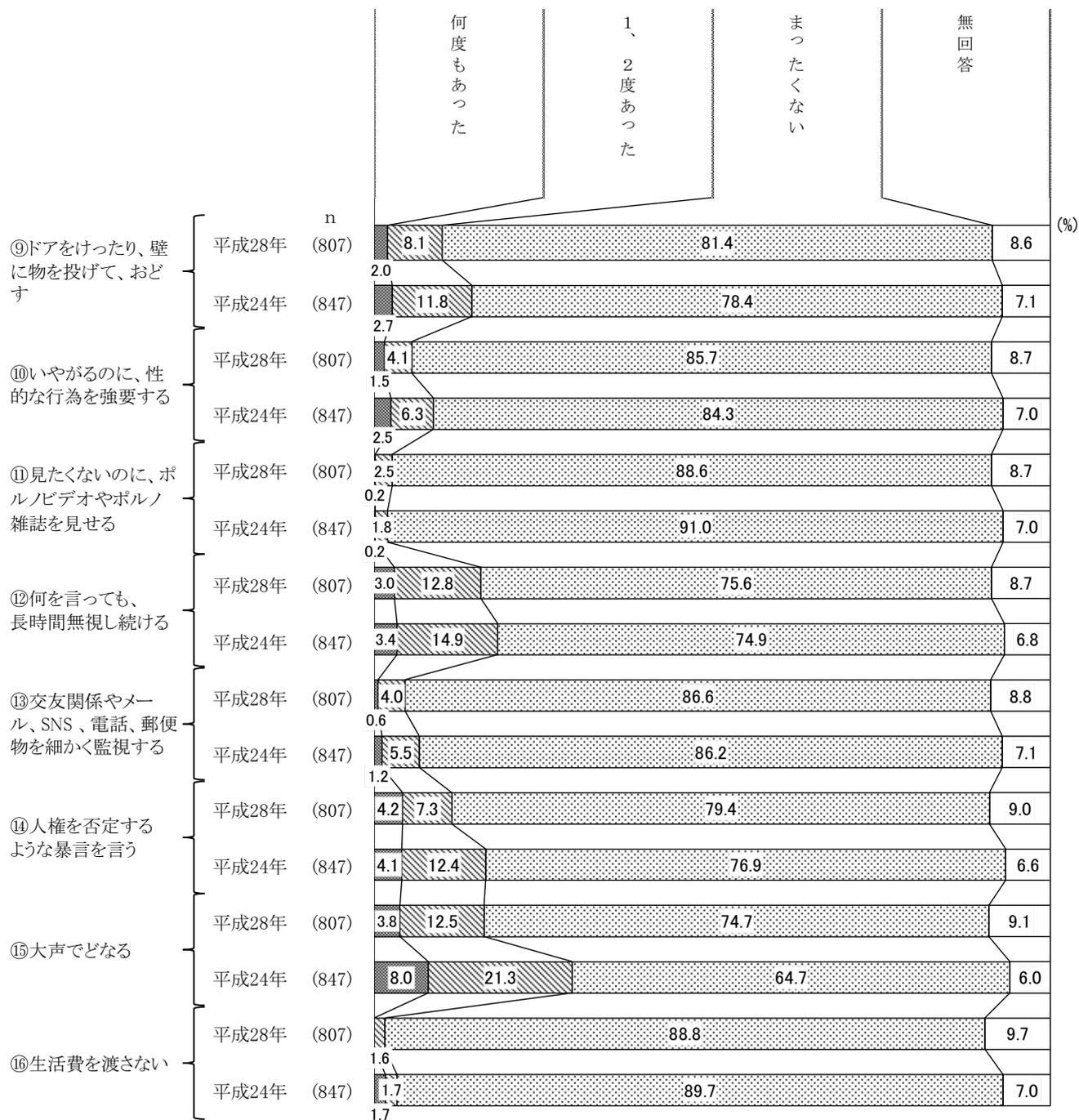
【経年変化】①～⑧

経年変化をみると、「1、2度あった」は⑥平手でぶつ、足でけるは前回調査より 6.0 ポイント減少し、⑦物を投げつけるは、3.0 ポイント減少している。



【経年変化】⑨～⑯

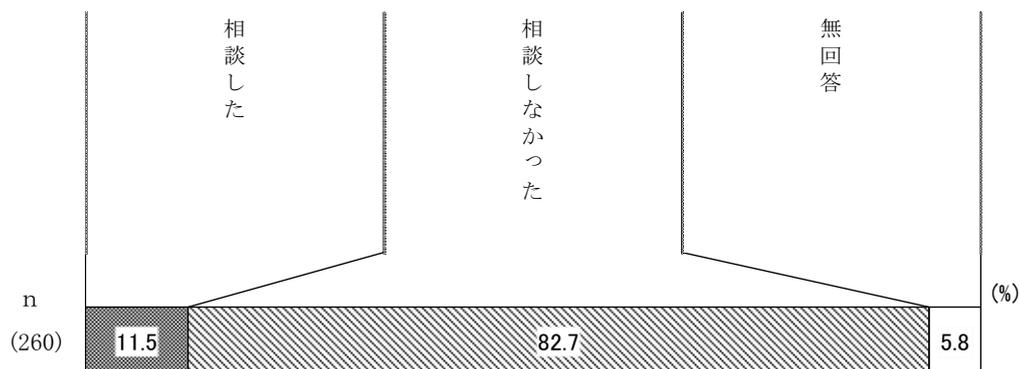
経年変化をみると、「1、2度あった」は⑯大声でどなるは前回調査より8.8ポイント減少し、⑭人権を否定するような暴言を言うは、5.1ポイント減少している。



(4) 暴力に関する相談の有無

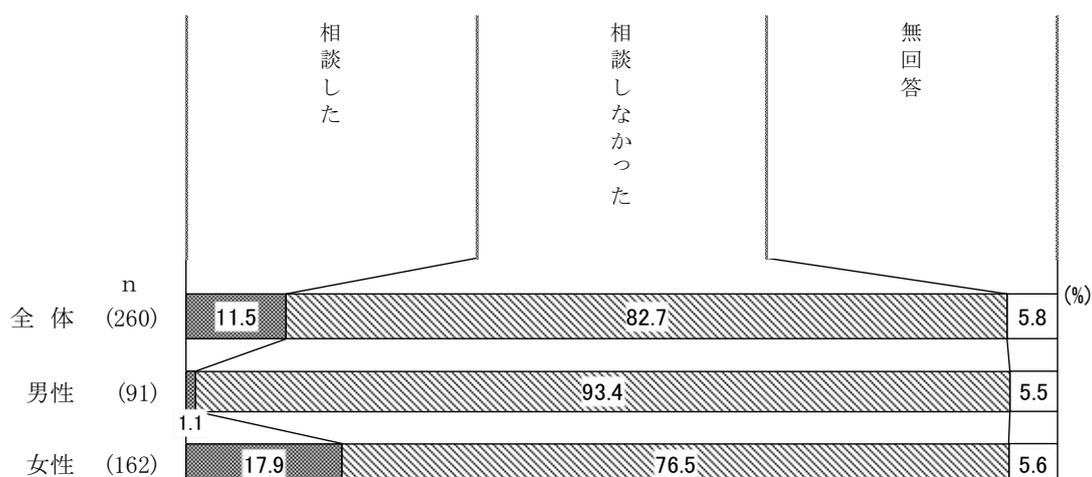
問43のいずれかの項目で「1. 何度もあった」または「2. 1、2度あった」とお答えの方のみ
 問43-1 その行為を受けたことをどなたか（どこか）に相談しましたか。
 （1つに〇）

暴力に関する相談の有無については、「相談しなかった」が82.7%、「相談した」が11.5%となっている。



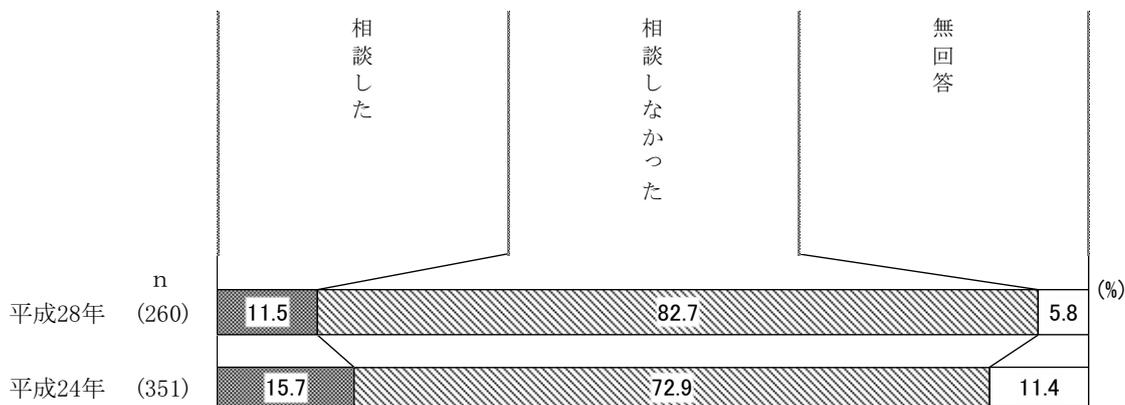
【性別】

性別でみると、「相談した」は女性で17.9%、男性で1.1%と女性の方が16.8ポイント多くなっている。男性では「相談しなかった」が93.4%となっている。



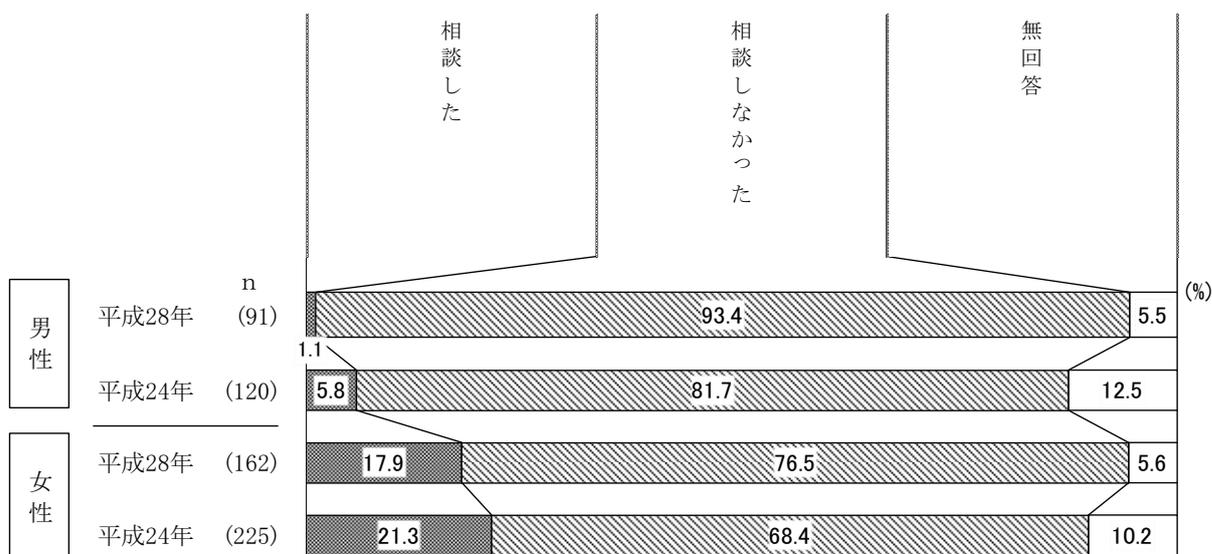
【経年変化】

経年変化をみると、「相談した」は4.2ポイント減少し、「相談しなかった」は9.8ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別でみると、「相談した」は男性では4.7ポイント減少し、女性では3.4ポイント減少している。「相談しなかった」は前回調査より男性では11.7ポイント増加し、女性では8.1ポイント増加している。

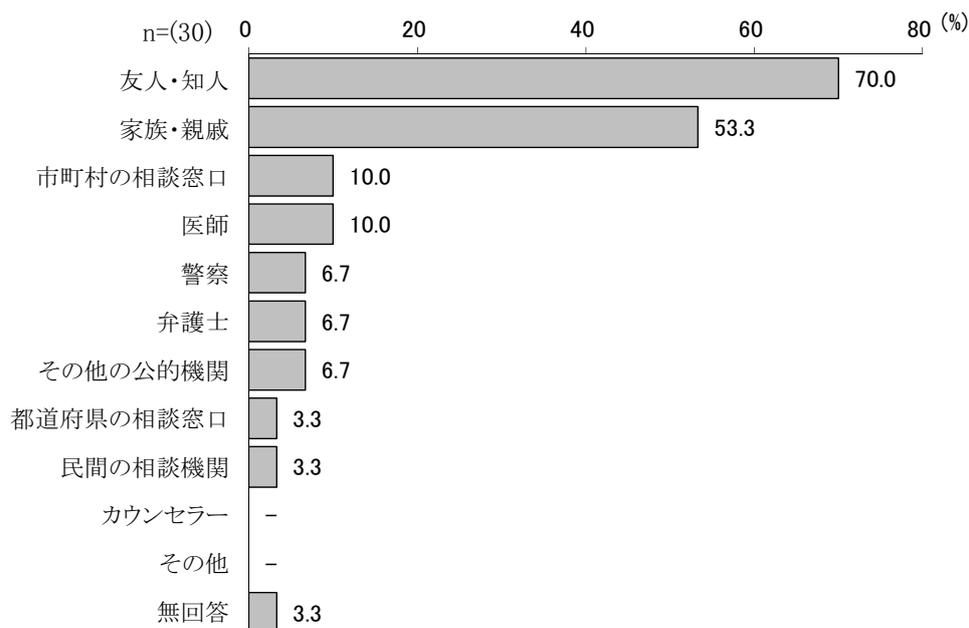


(5) 相談した相手

問43-1で「1. 相談した」とお答えの方のみ

問43-2 どなた(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

相談した相手については、「友人・知人」が70.0%で最も多く、次いで、「家族・親戚」が53.3%となっている。「市町村の相談窓口」と「医師」はともに10.0%となっている。



【性別】

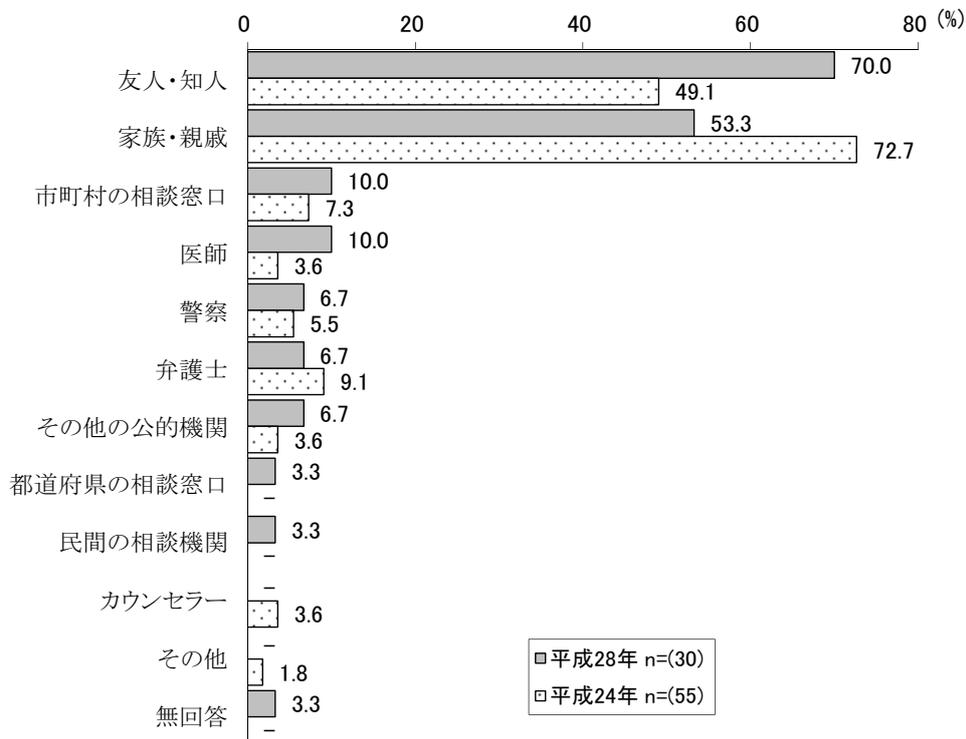
男性の基数が少ないため、性別による違いについては言及することができない。

	n	家族・親戚	友人・知人	警察	弁護士	市町村の相談窓口	都道府県の相談窓口	その他の公的機関	民間の相談機関	医師	カウンセラー	その他	無回答
全体	30	53.3	70.0	6.7	6.7	10.0	3.3	6.7	3.3	10.0	-	-	3.3
男性	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	29	55.2	69.0	6.9	6.9	10.3	3.4	6.9	3.4	10.3	-	-	3.4

第2章 調査結果の詳細

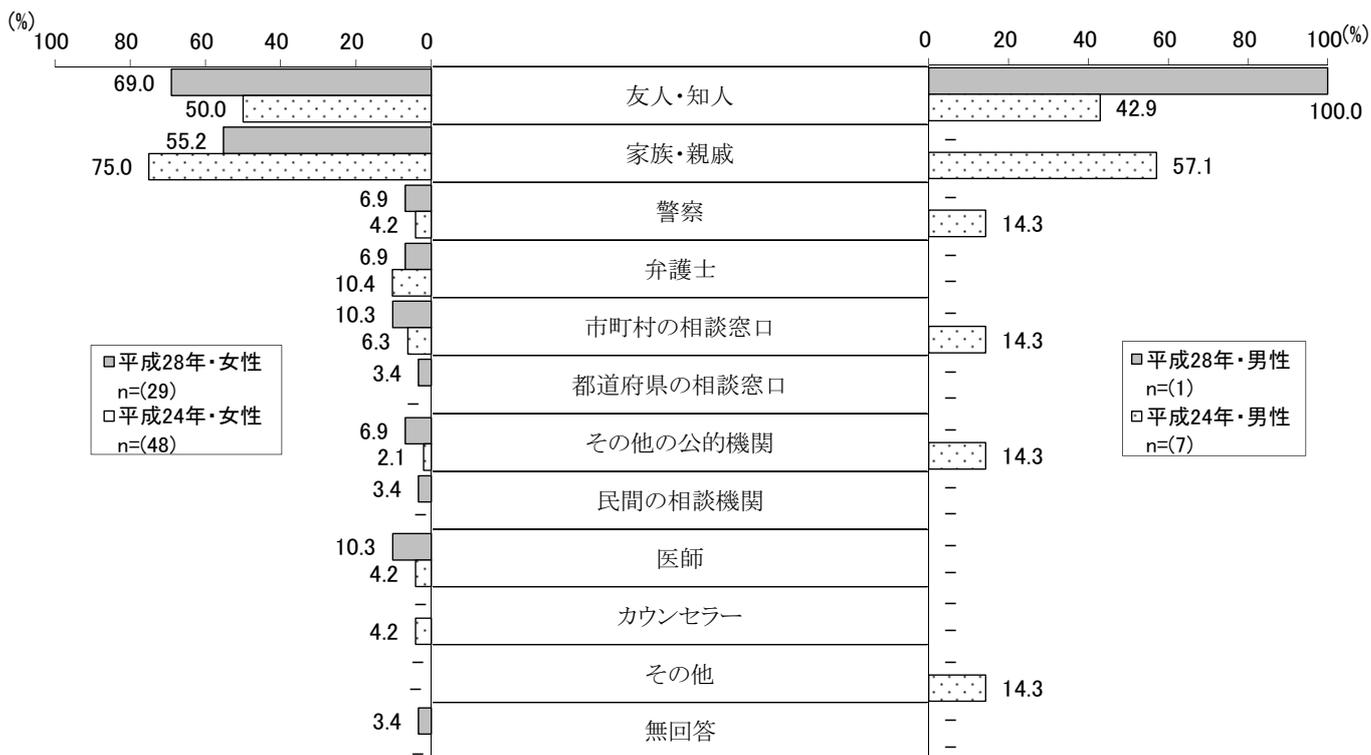
【経年変化】

経年変化をみると、「友人・知人」は20.1ポイント増加している。「家族・親戚」は19.4ポイント減少している。



【経年変化・性別】

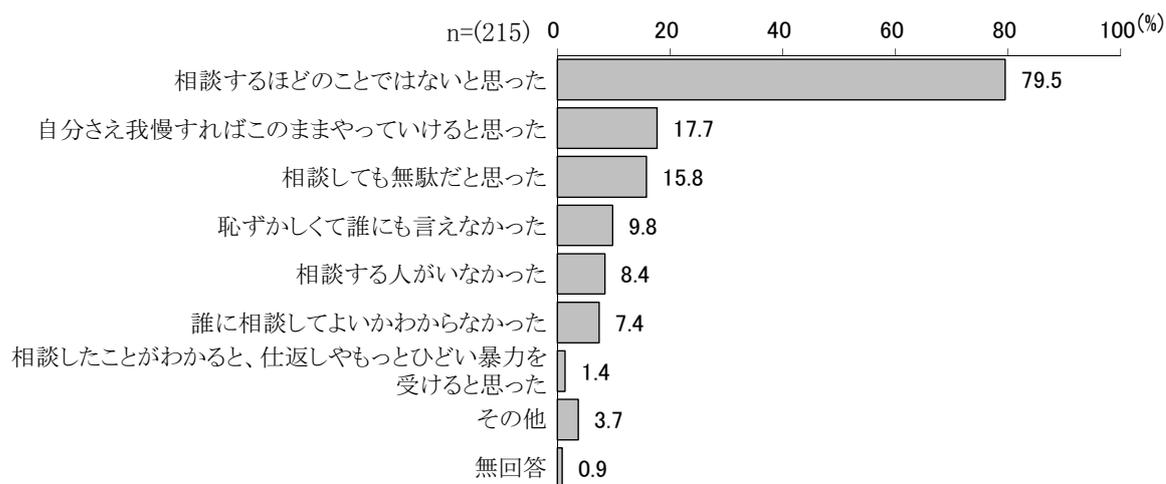
回答数が少ないため参考にとどめる。



(6) 相談しなかった理由

問43-1で「2. 相談しなかった」とお答えの方のみ
 問43-3 相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものはすべてに○)

相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」が79.5%で最も多く、次いで、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」が17.7%、「相談しても無駄だと思った」が15.8%の順となっている。



【性別】

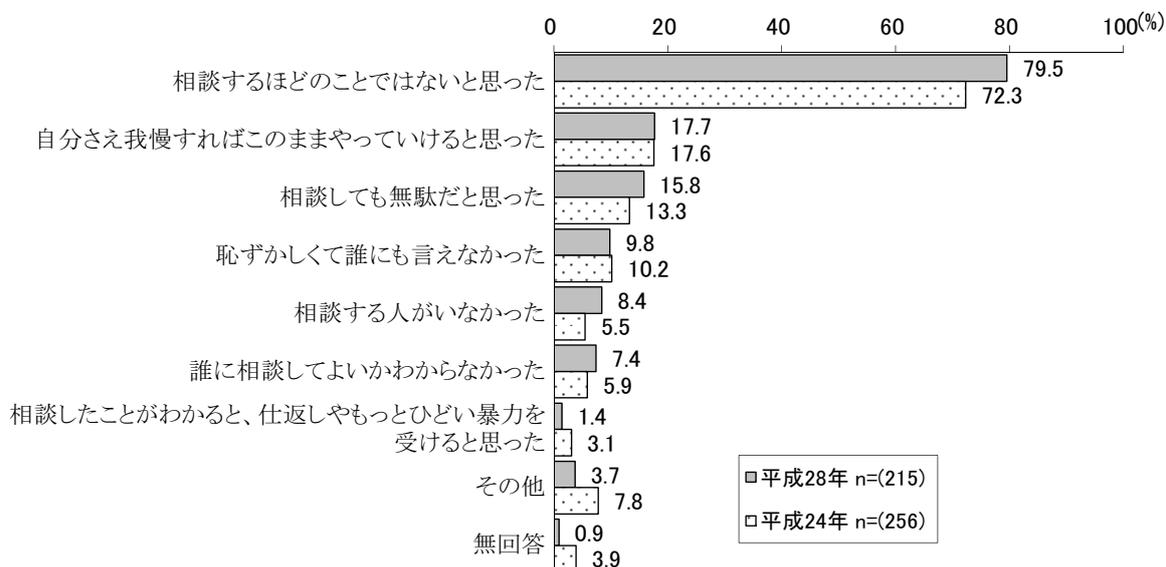
性別でみると、「相談するほどのことではないと思った」は男性で83.5%、女性で78.2%と男性の方が5.3ポイント多くなっている。一方、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」は女性で11.3%、男性で9.8%と女性の方が5.4ポイント多くなっている。

	n	相談するほどのことではないと	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思った	自分さえ我慢すればこのまま	恥ずかしくて誰にも言えなかつ	相談する人がいなかった	誰に相談してよいかわからな	その他	無回答
全体	215	79.5	15.8	1.4	17.7	9.8	8.4	7.4	3.7	0.9
男性	85	83.5	14.1	1.2	16.5	5.9	7.1	9.4	1.2	2.4
女性	124	78.2	16.9	1.6	17.7	11.3	9.7	6.5	5.6	-

第2章 調査結果の詳細

【経年変化】

経年変化をみると、「相談するほどのことではないと思った」は7.2ポイント増加し、「相談する人がいなかった」は2.9ポイント増加、「相談しても無駄だと思った」は2.5ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別でみると、「相談するほどのことではないと思った」は男性では2.9ポイント増加し、女性では11.3ポイント増加している。「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思った」は男性では5.3ポイント増加し、女性では4.4ポイント減少している。「相談しても無駄だと思った」は男性で7.0ポイント増加している。

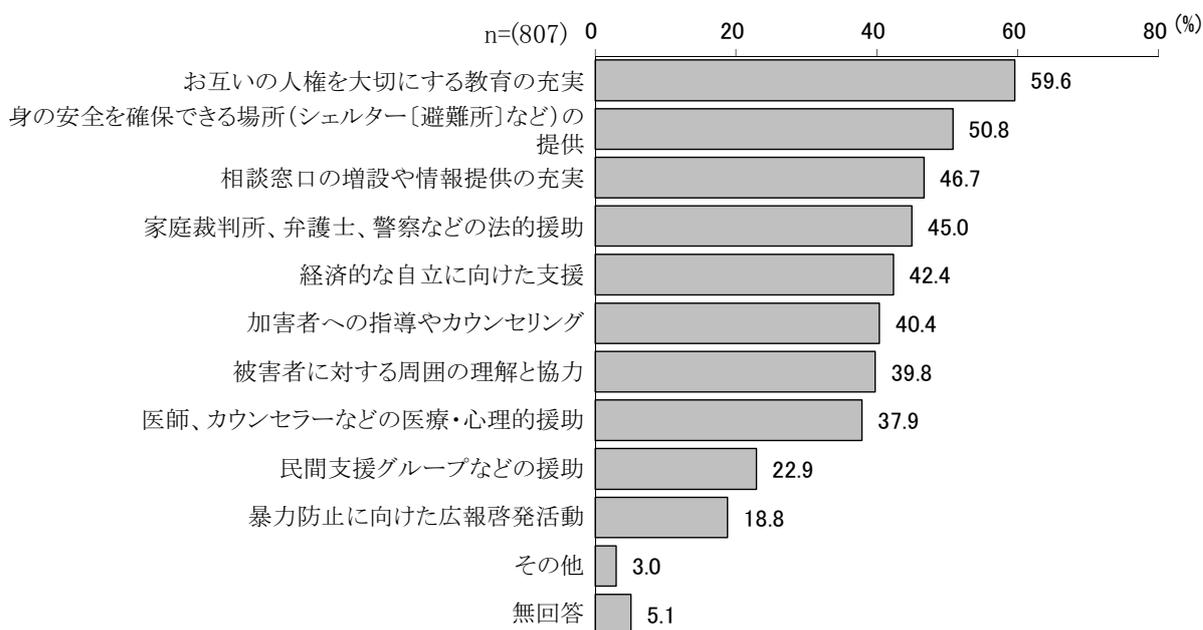


(7) 暴力を防止するために必要なこと

【すべての方にうかがいます。】

問44 夫婦または恋人における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものはすべてに○)

暴力を防止するために必要なことについては、「お互いの人権を大切にする教育の充実」が59.6%で最も多く、次いで、「身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」が50.8%、「相談窓口の増設や情報提供の充実」が46.7%、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」が45.0%の順となっている。



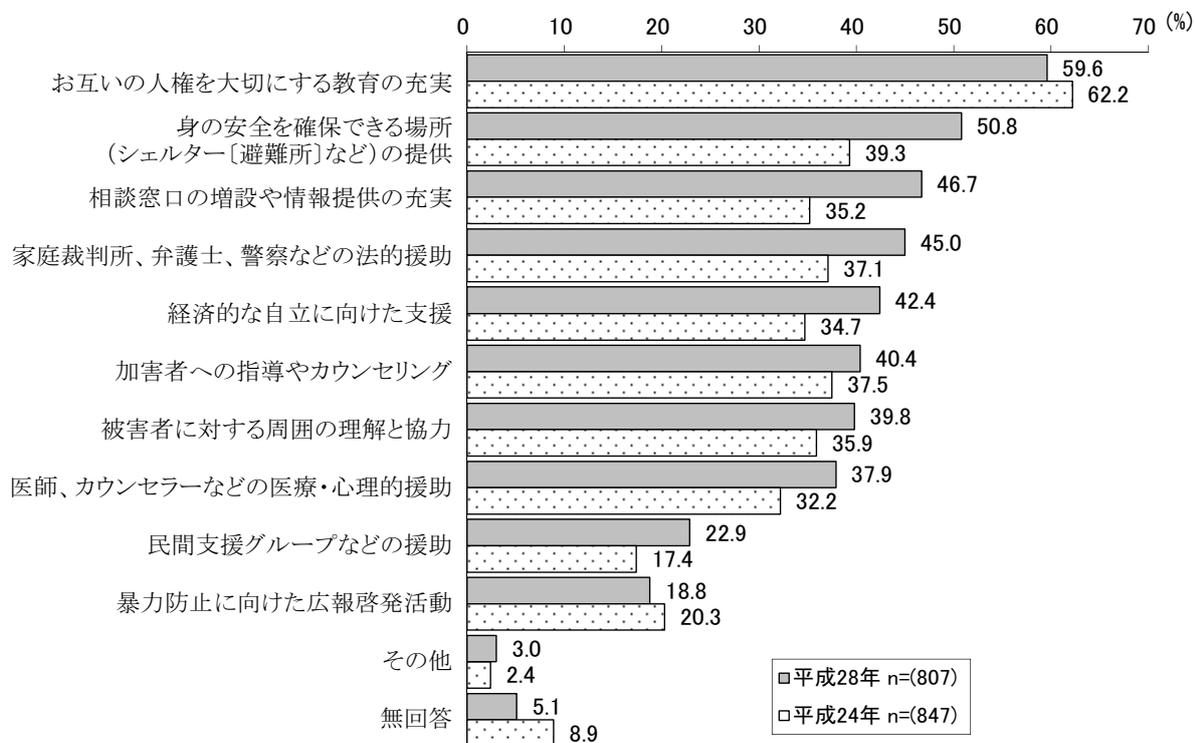
【性別】

性別でみると、「お互いの人権を大切にする教育の充実」は男性で65.9%、女性で56.5%と男性の方が9.4ポイント多くなっている。一方、「身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」は女性で55.7%、男性で43.1%と女性の方が12.6ポイント、「経済的な自立に向けた支援」は女性で45.8%、男性で38.4%と女性の方が7.4ポイント多くなっている。

	n	教育お互いの人権を大切にする	経済的な自立に向けた支援	相談窓口の増設や情報提供	家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助	医師・心理的援助	民間支援グループなどの援助	（シェルター〔避難所〕）の提供	被害者に対する周囲の理解と協力	加害者への指導やカウンセリング	暴力防止に向けた広報啓発活動	その他	無回答
全体	807	59.6	42.4	46.7	45.0	37.9	22.9	50.8	39.8	40.4	18.8	3.0	5.1
男性	320	65.9	38.4	46.9	46.6	37.5	20.6	43.1	38.1	40.9	20.0	3.4	4.1
女性	467	56.5	45.8	45.6	45.0	38.1	24.4	55.7	41.5	40.0	17.8	2.6	5.6
その他	2	-	100.0	100.0	50.0	50.0	50	100.0	-	50.0	50	50.0	-

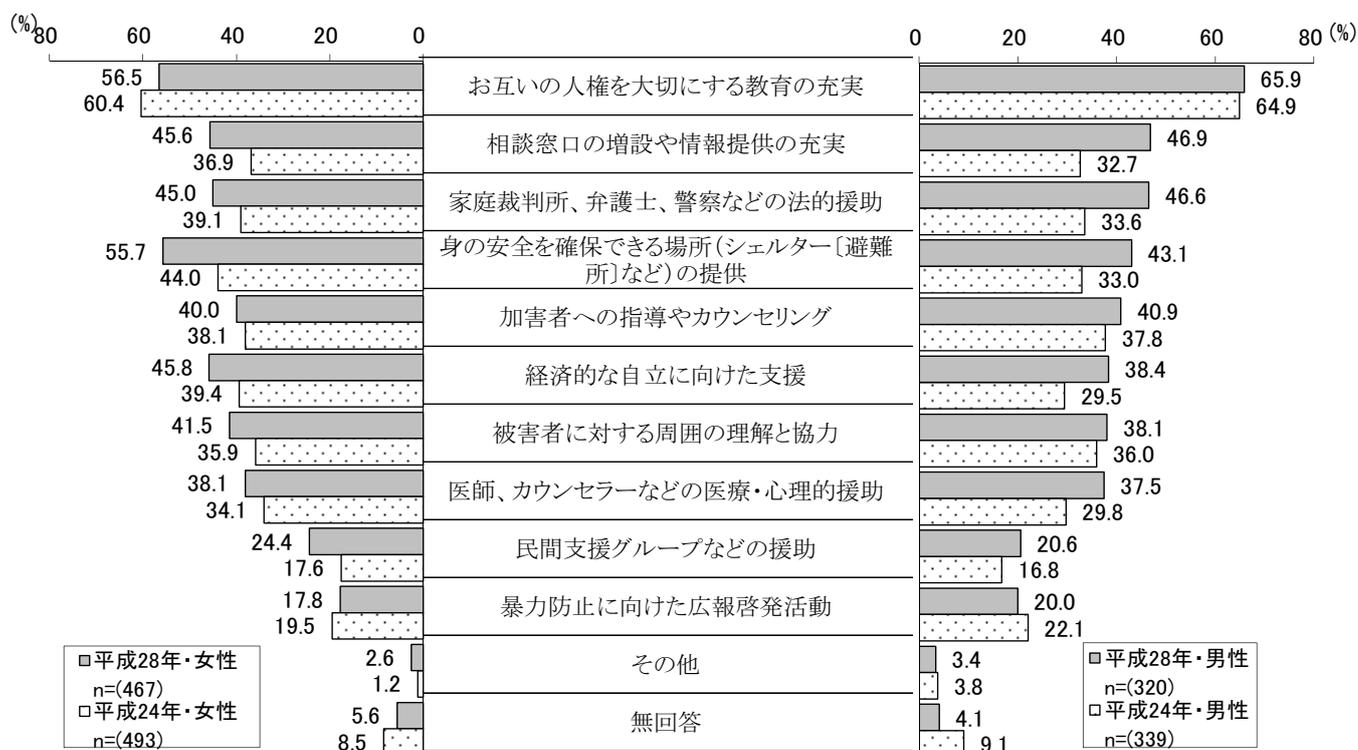
【経年変化】

経年変化をみると、「身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」と「相談窓口の増設や情報提供の充実」はともに 11.5 ポイント増加し、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」は 7.9 ポイント増加、「経済的な自立に向けた支援」は 7.7 ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「相談窓口の増設や情報提供の充実」は男性では14.2ポイント、女性では8.7ポイント増加している。「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」は男性では13.0ポイント増加し、女性では5.9ポイント増加している。「身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供」は男性で10.1ポイント、女性では11.7ポイント増加している。

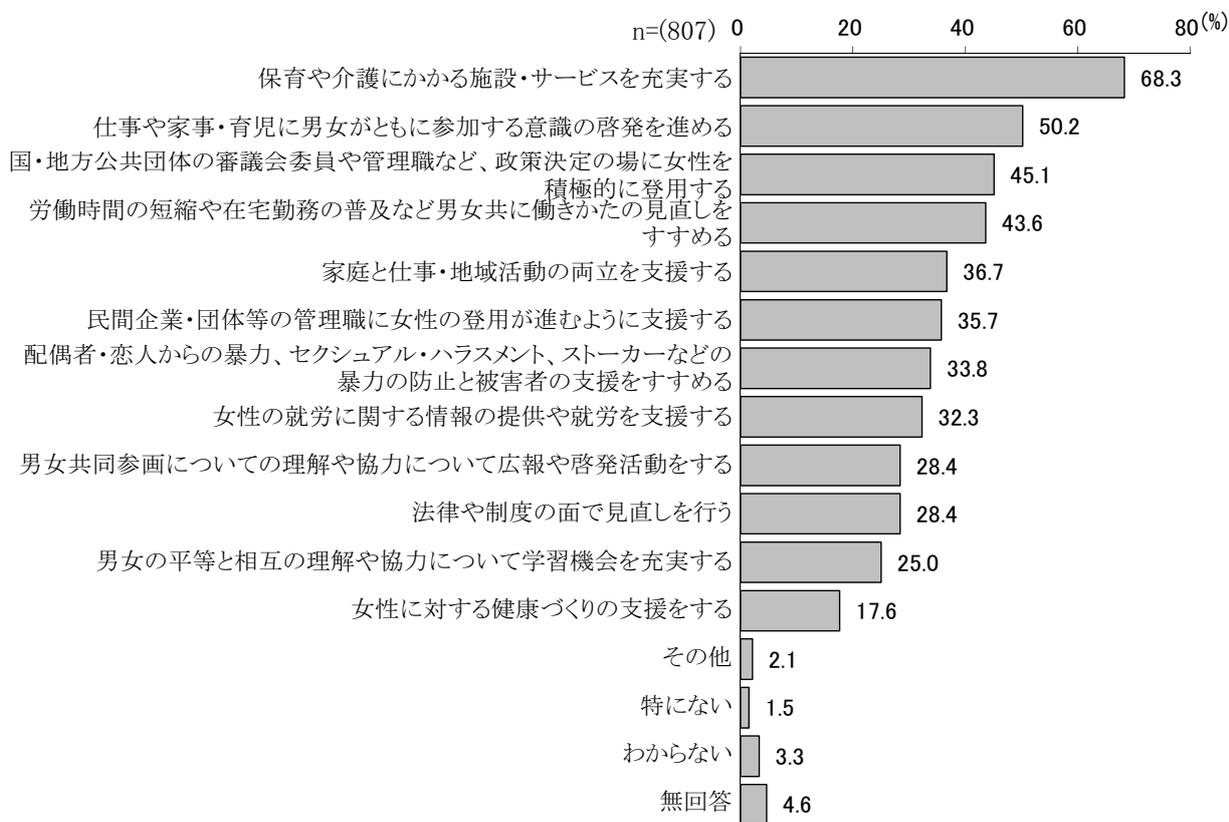


8. 男女共同参画行政について

(1) 男女共同参画をすすめるために必要な取組み

問45 今後、女性も男性も、ともに社会のあらゆる分野に積極的に参加していくために、「行政」はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(あてはまるものはすべてに○)

男女共同参画をすすめるために必要な取組みについては、「保育や介護にかかる施設・サービスを充実する」が68.3%で最も多く、次いで、「仕事や家事・育児に男女がともに参加する意識の啓発を進める」が50.2%、「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が45.1%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働きかたの見直しをすすめる」が43.6%の順となっている。



【性別】

性別でみると、「保育や介護にかかる施設・サービスを充実する」は女性で71.3%、男性で64.1%と女性の方が7.2ポイント多くなっている。また、「女性の就労に関する情報の提供や就労を支援する」も女性で35.1%、男性で28.4%と女性の方が6.7ポイント多くなっている。

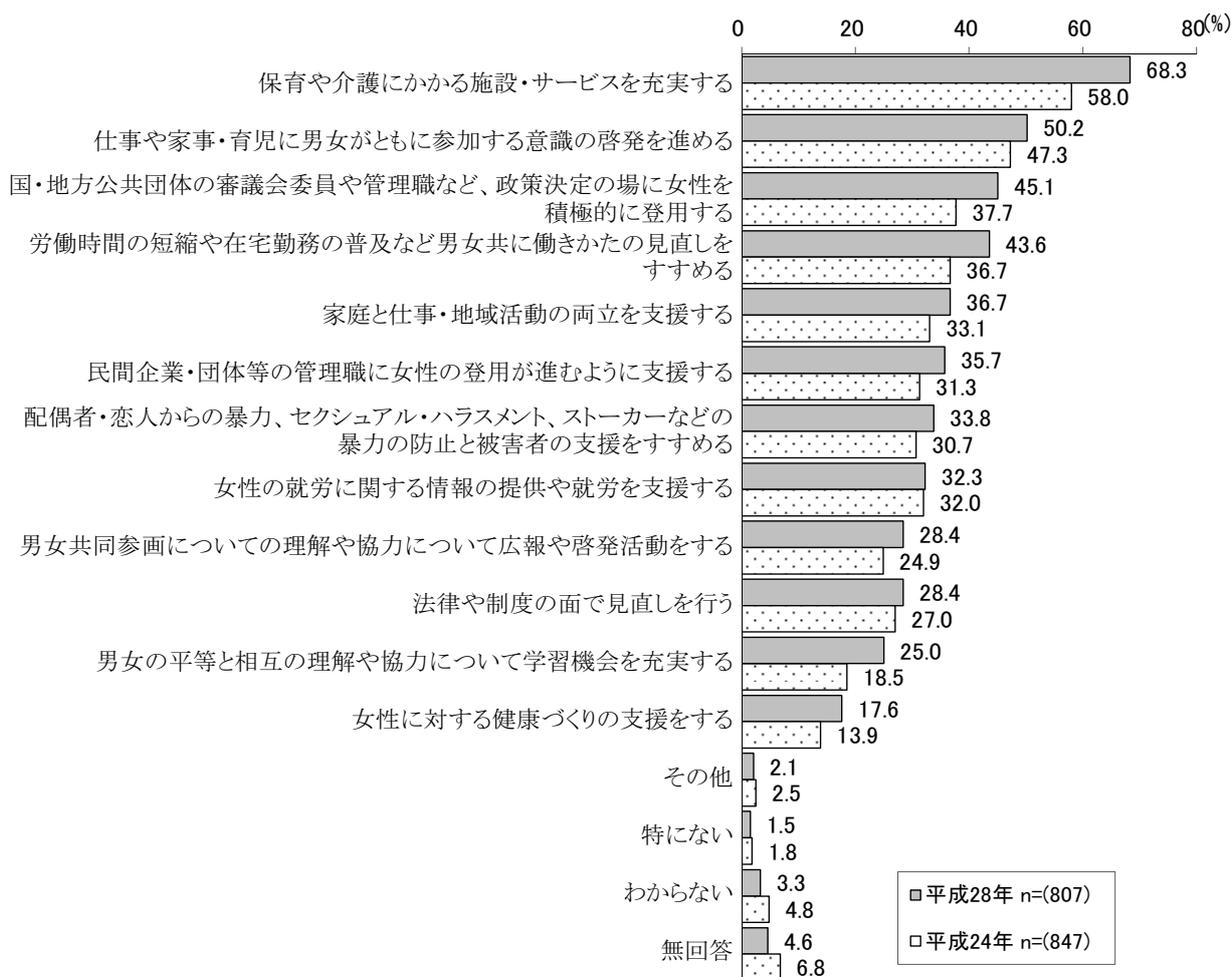
(%)

	n	場員国 にや・地 女管理方 性を職公 を積な共 極など団 的に体的 登策審 用決議 すの委	す女民 る性の間 の登業 が進・団 むむ体 よう等の に管 支理 援職に	めも仕 るに事 参や家 加事・育 す意児 る識の の啓 発 を 進	サ保育 ーや ビ介 ス護 を充 実 す か か る 施 設 ・	供女 や性の 就就 労労 をに 支支 援援 す る 情 報 の 提	を家 支庭 援と す仕事 ・地 域 活 動 の 両 立	る力男 に女の つっの いて平 学等 習と 機相 会互 をの 充理 実解 すや 協	見普 直及 しな をど すす すめ るに 働女 き共 か た の 務 の
全 体	807	45.1	35.7	50.2	68.3	32.3	36.7	25.0	43.6
男性	320	45.6	37.5	50.0	64.1	28.4	37.2	25.9	44.1
女性	467	45.4	35.1	51.0	71.3	35.1	36.4	24.2	43.0
その他	2	50.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50	50.0	100.0

	n	とス配 被トシ偶 害トシ者 者カアル・ のカル・恋 支カール・人 援ハからの をの暴スの す力メ暴 すのメン力 め防ト、セ 止、	援女 を性 に 対 す る 健 康 づ く り の 支	動や男 を協女 を力共 す同 る参 画 に つ い て 広 報 い て の 啓 発 理 活 解	う法 律 や 制 度 の 面 で 見 直 し を 行	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	807	33.8	17.6	28.4	28.4	2.1	1.5	3.3	4.6
男性	320	36.3	16.6	30.9	27.8	1.6	1.9	4.1	4.4
女性	467	32.3	18.0	26.8	29.1	2.4	1.3	2.8	4.5
その他	2	100.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-

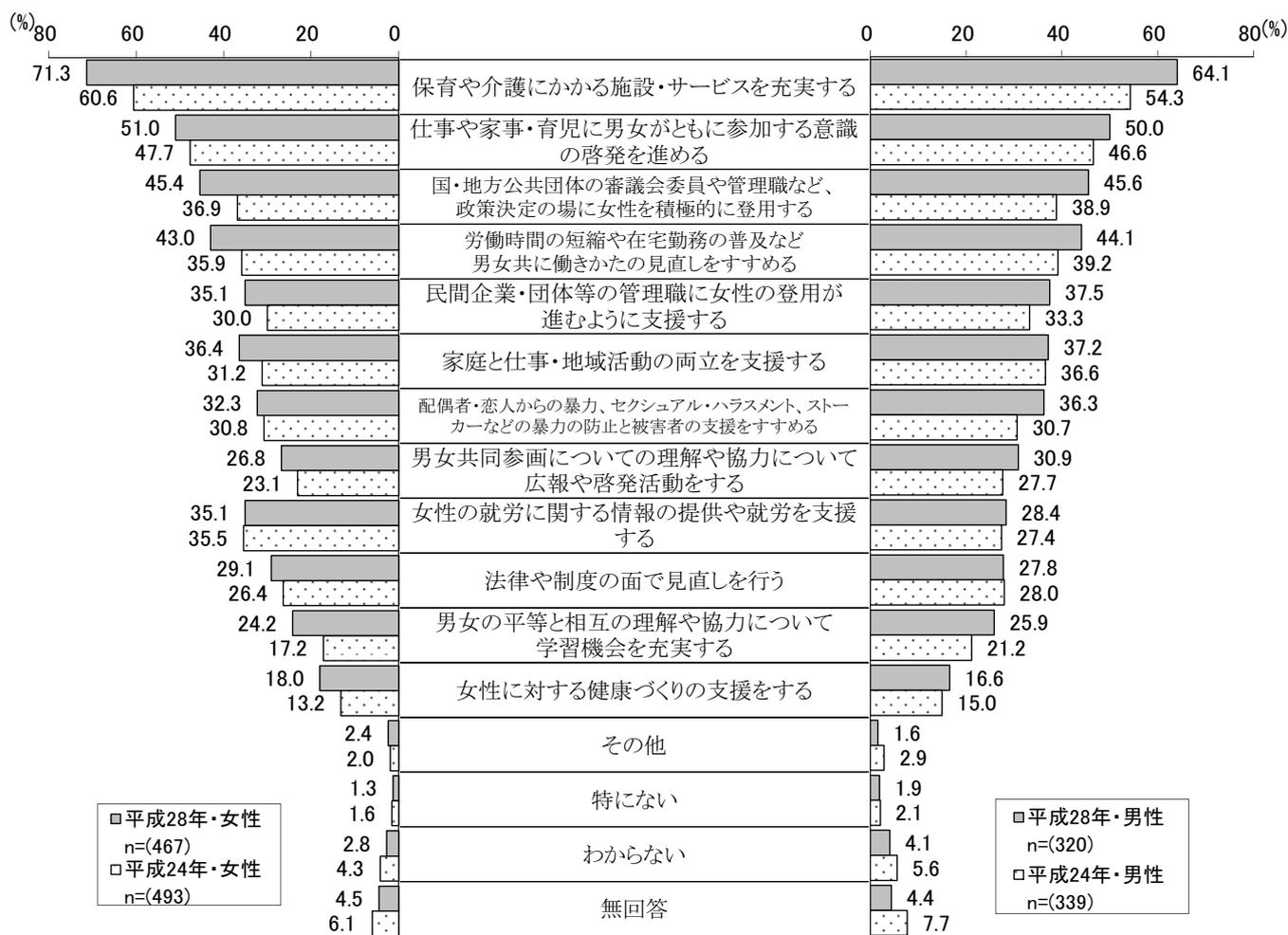
【経年変化】

経年変化をみると、「保育や介護にかかる施設・サービスを充実する」は10.3ポイント増加し、「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」は7.4ポイント増加、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働きかたの見直しをすすめる」は6.9ポイント増加している。



【経年変化・性別】

経年変化を性別で見ると、「保育や介護にかかる施設・サービスを充実する」は男性では9.8ポイント増加し、女性では10.7ポイント増加している。「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」は男性では6.7ポイント増加し、女性では8.5ポイント増加している。「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働きかたの見直しをすすめる」は男性で4.9ポイント増加、女性では7.1ポイント増加している。



※「国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」は平成24年調査では「政策決定の場に女性を積極的に登用する」となっている。

9. 男女共同参画社会についての市の取り組みに対する意見・要望

最後に、男女共同参画社会についての市の取り組みに対するご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

男女共同参画社会についての市の取り組みに対するご意見・ご要望は、108人の方から117件の多様な回答をいただいた。これらを項目別に分類した結果は以下の通りである。

一つの回答が複数の内容にわたる場合は複数回答として、それぞれの項目へ分類し、その一部を掲載する。

項 目	件数
男女共同参画全般について	32
男女共同参画行政について	22
子育て・健康・介護について	15
意識・啓発について	9
雇用・労働環境等について	8
社会制度について	2
アンケートについて	12
その他	17
計	117

資料編

ふじみ野市男女共同参画に関する市民意識調査

～調査ご協力のお願～

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
ございます。

本市では、平成20年度から平成29年度までを計画期間とする「ふじみ野市男女共同参画基本計画」を策定し、さまざまな取り組みをすすめてまいりましたが、この計画が平成29年度をもって終了するにあたり、新たに平成30年から平成42年度を計画期間とする「ふじみ野市第2次男女共同参画基本計画」を策定します。

新計画を策定するにあたり、今後の計画の内容に反映させることを目的に、「ふじみ野市男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することにいたしました。

調査の実施にあたって、ふじみ野市在住の方の中から満18歳以上の男女2,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。

なお、記入内容につきましては無記名の上、アンケートの結果はすべて統計的に処理しますので、個々の回答内容や個人情報公表されることは一切ございません。ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 29 年 1 月

ふじみ野市

【ご記入にあたってのお願い】

- ◆ご記入は、お送りした封筒のあて名のご本人にお願いいたします。
- ◆ご記入は、鉛筆またはボールペンで濃くご記入ください。
- ◆ご回答は、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。
- ◆回答する○の数はそれぞれ異なります。()内のことわり書きに従ってご記入ください。
- ◆「その他」と回答した場合には、()内に具体的な内容をご記入ください。
- ◆質問によっては、ご回答いただく方が限られているものもあります。矢印やことわり書きに従ってご記入ください。

ご記入いただいたアンケート用紙は、**2月17日(金)まで**に同封の返信用封筒に入れて、お近くのポストに投函して下さい。切手は不要です。

※お問い合わせ先

ふじみ野市役所 市民生活部 市民総合相談室

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1

TEL : 049-262-9001 (直通) FAX : 049-261-5960



ふじみ野市 PR 大使
『ふじみん』

問13 あなたは、次のようなことをどの程度おこなっていますか。

(それぞれの項目について1つに○)

	いつも している	ときどき する	ほとんど しない	まったく しない	該当 しない
①食事のしたく	1	2	3	4	
②食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	
③洗たく	1	2	3	4	
④掃除（部屋・庭など）	1	2	3	4	
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	
⑥町内会や自治会への参加	1	2	3	4	
⑦子どもに関する行事への参加	1	2	3	4	5
⑧子どもの世話（勉強・遊び）	1	2	3	4	5
⑨乳幼児の世話	1	2	3	4	5
⑩介護が必要な家族の世話	1	2	3	4	5

配偶者・パートナーがいる方のみ

問14 あなたの配偶者・パートナーは、次のようなことをどの程度おこなっていますか。

(それぞれの項目について1つに○)

	いつも している	ときどき する	ほとんど しない	まったく しない	該当 しない
①食事のしたく	1	2	3	4	
②食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	
③洗たく	1	2	3	4	
④掃除（部屋・庭など）	1	2	3	4	
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	
⑥町内会や自治会への参加	1	2	3	4	
⑦子どもに関する行事への参加	1	2	3	4	5
⑧子どもの世話（勉強・遊び）	1	2	3	4	5
⑨乳幼児の世話	1	2	3	4	5
⑩介護が必要な家族の世話	1	2	3	4	5

すべての方にうかがいます。

問15 あなたは、子育ての経験がありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. 現在子育て中である | 2. 子育て経験がある（現在はしていない） |
| 3. 子育て経験はない | |

現在、子育て中の方のみ

問16 あなたの子育てへのかかわりは十分だと思いますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 十分である | 2. ある程度は十分である |
| 3. あまり十分ではない | 4. 十分でない |

問16で「3. あまり十分ではない」「4. 十分でない」に○とお答えの方のみ

問16-1 あなたが子育てに十分にかかわることができないとすれば、どのような原因があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 仕事が忙しすぎるため |
| 2. 育児休業制度が不十分または利用しにくい |
| 3. 趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため |
| 4. 子どものことや家庭のことにあまり関心がないため |
| 5. 子どもの世話が面倒だと考えているため |
| 6. 子育ての大変さを理解できていないため |
| 7. 子どもとどのように接したらよいかわからないため |
| 8. 子育てに関する知識や情報が乏しいため |
| 9. 子育てはどちらか一方が担えばよいと思っているため |
| 10. その他 () |

現在子育て中で、配偶者・パートナーがいる方のみ

問17 あなたの配偶者・パートナーの子育てへのかかわりは十分だと思いますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 十分である | 2. ある程度は十分である |
| 3. あまり十分ではない | 4. 十分でない |

問17で「3. あまり十分ではない」「4. 十分でない」に○とお答えの方のみ

問17-1 あなたの配偶者・パートナーが子育てに十分にかかわることができないとすれば、どのような原因があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 仕事が忙しすぎるため |
| 2. 育児休業制度が不十分または利用しにくい |
| 3. 趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため |
| 4. 子どものことや家庭のことにあまり関心がないため |
| 5. 子どもの世話が面倒だと考えているため |
| 6. 子育ての大変さを理解できていないため |
| 7. 子どもとどのように接したらよいかわからないため |
| 8. 子育てに関する知識や情報が乏しいため |
| 9. 子育てはどちらか一方が担えばよいと思っているため |
| 10. その他 () |

ここからはすべての方に向かいます。

問18 家庭での子育てや、学校での教育に関する以下の考えについて、あなたはどのように思いますか。

(それぞれの項目について1つに○)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 男の子は男らしく、女の子は女らしく、育てた方がよい	1	2	3	4
② 男の子・女の子にかかわらず、家事等は平等に手伝わせるべきである	1	2	3	4
③ 進路指導は性別に関係なく同じように行われる方がよい	1	2	3	4
④ 性教育は、子どものときから教えた方がよい	1	2	3	4
⑤ 技術・家庭科などを通じて、男女ともに実技的な教育を行うことが必要である	1	2	3	4

問19 家庭において、高齢や障がいなどで介護が必要な人のお世話は、現実には主として女性の役割になりがちですが、そのことに対して、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

1. 女性がする方がよい	2. 女性が中心で男性も手助けするのがよい
3. 男性と女性でともにやるのがよい	4. 男性がする方がよい
5. その他 ()	6. わからない

問20 これからは、男女が協力して共に介護を担うことが求められます。男女が協力して介護を担うためには、どのようなことが必要だと思われますか。(2つまでに○)

1. 男女が共に取りやすい介護休業制度を整備する
2. 男女が共に気軽に参加できる介護講座を開催する
3. 男女が共に理解し、協力し合うための啓発活動を行う
4. 労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイム*の導入などを企業に働きかける
5. 介護サービスを利用しながら、男女が共に介護に関わることのできる環境を整備する
6. その他 ()
7. わからない

*フレックスタイム

始業・終業時間や1日の労働時間の長さを固定的に決めず、総労働時間の範囲で各日の労働時間を決める働き方。

就業について

問 21 あなたの職業は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| 1. 自営業・自由業 | 2. 正社員・正職員 | 3. 契約社員・派遣社員 |
| 4. アルバイト・パート | 5. 非常勤・嘱託 | 6. 家事専業 |
| 7. 学生 | 8. 無職 | 9. その他() |

→ 現在働いている方のみ

問22 あなたが、働いて収入を得ている主な理由は何ですか。(3つまでに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 生計を維持するため | 2. 生活費補助のため |
| 3. 将来に備えて貯蓄するため | 4. 自分で自由になる収入がほしいため |
| 5. 自分の能力、技能、資格を生かすため | 6. 働くことが好きだから |
| 7. 視野を広めたり、友人を得るため | 8. 社会的な信用を得るため |
| 9. 働くのがあたりまえだと思うから | 10. 家業だから |
| 11. 時間に余裕があるから | 12. その他() |

現在働いている方のみ

問23 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. 賃金に男女差がある | 2. 昇進、昇格に男女差がある |
| 3. 能力を正當に評価されていない | 4. 配属場所が限られている |
| 5. 補助的な仕事しかやらせてもらえない | 6. 幹部職員に登用されにくい |
| 7. 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある | 8. 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある |
| 9. 教育・研修を受ける機会が少ない | 10. その他() |
| 11. 特にない | |

現在「契約社員・派遣社員」「アルバイト・パート」「非常勤・嘱託」として働いている方のみ

問 24 現在の形態で働いている主な理由は何ですか。(3つまでに○)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 経験・資格・技能を活かせるから | 2. 希望する仕事内容であったため |
| 3. 時間が自由になるから | 4. 気軽に働けそうだから |
| 5. 自宅近くで働けるから | 6. 他に主な収入があるから |
| 7. 家事・育児・介護との両立のため | 8. 勉強・趣味・ボランティアなどとの両立のため |
| 9. 採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから | 10. 正社員として働ける勤め先が見つからなかったから |
| 11. 家族の理解が得られにくいから | 12. その他() |
| 13. 特にない | |

現在働いていない方のみ

問25 あなたは、働いたこと（パート、自営業、臨時、内職等も含む）がありますか。

(1つに○)

1. 以前は働いていたが、今は働いていない 2. 今まで働いたことはない

問25で「1. 以前は働いていたが、今は働いていない」とお答えの方のみ

問25-1 あなたが仕事をやめた主な理由は何ですか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 仕事が自分に合っていない | 2. 人間関係がうまくいかない |
| 3. 勤務先の都合 | 4. 賃金が低いなどの労働条件 |
| 5. 健康上の理由 | 6. 定年 |
| 7. 配偶者・パートナーの転勤 | 8. 家族の病気による看護や介護 |
| 9. 結婚 | 10. 出産 |
| 11. 家事、育児と仕事の両立が困難 | 12. その他 () |
| 13. 特に理由はない | |

現在働いていない方のみ

問26 現在または将来、あなたは働きたいと思いませんか。ここでは雇われる働き方だけでなく、自分や仲間と新しく事業を始めることも含めてお答えください。(1つに○)

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 働きたい | 2. 働きたいが、働けない |
| 3. 働く必要がない | 4. 働きたくない |

問26で「2. 働きたいが、働けない」とお答えの方のみ

問26-1 その主な理由は何ですか。(2つまでに○)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 希望する仕事が見つからない | 2. 健康上の理由 |
| 3. 高齢であるため | 4. 出産・乳幼児の世話のため |
| 5. 家事のため | 6. 子どもの教育や世話のため |
| 7. 家族の病気による看護や介護のため | 8. 家族の理解が得られない |
| 9. その他 () | 10. 特に理由はない |

すべての方にうかがいます。

問27 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける |
| 2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける |
| 3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続ける |
| 4. 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する |
| 5. 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する |
| 6. 仕事はもたない |
| 7. その他 () |
| 8. わからない |

問28 女性の働き方について、あなたのご家庭での現状は次のどれですか。(1つに○)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(いた)
2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(いた)
3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムなどで仕事を続けている(いた)
4. 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念している(いた)
5. 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している(いた)
6. 仕事を一度もしたことがない
7. その他()
8. 該当しない

問29 働く場で「女性の活躍が推進されている」とは主にどのような状態だと思いますか。

(3つまでに○)

1. 女性の勤続年数が長くなること
2. 出産しても、子育て期間でも仕事を続ける女性が増えること
3. 退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
4. 働く女性の割合が多いこと
5. 女性が従事する職種・職域が増えること
6. 仕事に対するモチベーションが高い女性が増えること
7. 管理職などの役職につく女性が増えること
8. その他()

問30 今の社会全体からみて、女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることがあると感じますか。(1つに○)

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 非常に感じる | 2. やや感じる |
| 3. あまり感じない | 4. 全く感じない |

問30で「1. 非常に感じる」「2. やや感じる」とお答えの方のみ

問30-1 女性が長く働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 育児
2. 高齢者や病人の世話
3. 子どもの教育
4. 家事
5. 配偶者・パートナーの転勤
6. 家族の無理解
7. 職場での結婚・出産退職の慣行
8. 長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分
9. 昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い
10. 女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方
11. その他()

問31 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けたり、一度離職しても再び働くことができるようにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。○は3つまで

1. 配偶者・パートナーの理解や家事・子育てなどへの参加
2. 配偶者・パートナー以外の家族の理解や家事・子育てなどへの参加
3. 保育施設や学童保育の充実
4. 労働時間短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入、職場の理解など就労環境の充実
5. 育児・介護休業や短時間勤務制度を男女がともに利用しやすくなること
6. 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保
7. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実
8. 仕事に必要なスキルなどを身につけるセミナー、講座の実施
9. 技術習得のための支援金支給
10. その他（ ）

現在働いている方のみ

問32 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りたい場合、取りやすい環境にありますか。(それぞれの項目について1つに○)

	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	わからない
①有給休暇	1	2	3	4	5
②育児休業	1	2	3	4	5
③介護休業	1	2	3	4	5

すべての方にうかがいます。

問33 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 給与等の男女間格差をなくすこと
2. 年間労働時間を短縮すること
3. 代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
4. 育児や介護のために退職した人を元の会社で再雇用する制度を導入すること
5. 育児休業・介護休業中の手当てその他の経済的支援を充実すること
6. 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
7. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
8. 職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること
9. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
10. 男性が家事や育児を行う能力を高めること
11. その他（ ）
12. わからない

社会参加について

問34 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。 (1つに○)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 十分反映されている | 2. ある程度反映されている |
| 3. あまり反映されていない | 4. ほとんど反映されていない |
| 5. どちらともいえない | |

問34で「3. あまり反映されていない」「4. ほとんど反映されていない」とお答えの方のみ

問34-1 女性の意見や考え方が社会に反映されにくい理由は何だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 女性議員が少ない | 2. 企業や行政機関の管理職に女性が少ない |
| 3. 審議会や委員会に女性委員が少ない | 4. 地域団体のリーダーに女性が少ない |
| 5. 女性が意欲を発揮しやすい環境が少ない | 6. 女性自身が積極的に行動できない |
| 7. 男性の意識・理解が低い | 8. 女性に不利な社会の仕組みになっている |
| 9. 女性の能力が評価されにくい | 10. その他() |

すべての方にうかがいます。

問35 あなたは、今後どのような分野で、特に女性の参画が進むべきだと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 国会・県議会・市町村議会等の議員 | 2. 国の省庁、県庁、市役所の職員 |
| 3. 弁護士、医師などの専門職 | 4. 自治会、PTAなどの役員 |
| 5. 企業の管理職、労働組合の幹部 | 6. 国連などの国際機関 |
| 7. 建設業などの女性の少ない職場 | 8. 大学等の理工系などの女性の少ない分野への進学 |
| 9. 大学、研究所などの研究者 | 10. 農林業団体などの役職 |
| 11. その他() | |

問36 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」(＝ポジティブ・アクション)という考え方についてどのように思いますか。 (1つに○)

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------------|
| 1. 賛成する | 2. どちらかといえば賛成する | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば反対する | 5. 反対する | |

問37 女性を積極的に活用することによって、社会全体にどのような効果があると思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 女性の視点を取り入れることができる | 2. 人材を有効に活用できる |
| 3. 社会全体の労働意欲が高まる | 4. 社会のニーズに幅広く対応できるようになる |
| 5. 社会の活性化につながる | 6. 優秀な人材が確保できる |
| 7. 人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる | 8. その他() |
| 9. 特にない | |

問38 性別に関わらず性と生殖に関する健康を保持し、性や妊娠・出産に関して自己決定できるよう支援するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 子どもの成長と発育に応じた性教育
2. 性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実
3. 不妊症・不育症についての情報提供・相談体制・治療支援の充実
4. 喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実
5. HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実
6. 女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実
7. 女性専門医療に関する情報提供
8. 更年期についての情報提供・相談体制の充実
9. その他 ()
10. わからない

問39 あなたは性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。(1つに○)

1. 内容を知っている
2. 聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

性的マイノリティとは

Sexual Minority（セクシュアル・マイノリティ）の日本語訳。LGBT（L：女性の同性愛者（Lesbian, レズビアン）G：男性の同性愛者（Gay, ゲイ）B：両性愛者（Bisexual, バイセクシュアル）T：性同一性障害（Transgender, トランスジェンダー）の頭文字をとった総称。）などの人々をいいます。性的指向（恋愛・性愛がどのような対象に向かうのかを示す概念）、性自認などの性のあり方や生物学的なからだの性とこころの性が一致しない性同一性障害等を理由とした差別をなくし、理解を深めることが必要です。

問40 あなたは性的マイノリティ（LGBT等）の人たちが暮らしやすい社会をつくるためにどのような取組みが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 性的マイノリティの人たちに配慮した社会制度の整備
2. 性的マイノリティに関する意識啓発活動
3. 性的マイノリティについての専門の相談機関の整備（電話相談や面接相談など）
4. その他 ()

DV(配偶者等からの暴力)について

問41 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。 (それぞれの項目について1つに○)

	暴力にあたる どんな場合でも	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたる とは思わない
①骨折させる	1	2	3
②打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
③刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
④身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
⑤突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	1	2	3
⑥平手でぶつ、足でける	1	2	3
⑦物を投げつける	1	2	3
⑧なぐるふりをして、おどす	1	2	3
⑨ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	1	2	3
⑩いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
⑪見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑫何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3
⑬交友関係やメール、SNS、電話、郵便物を細かく監視する	1	2	3
⑭人権を否定するような暴言を言う	1	2	3
⑮大声でどなる	1	2	3
⑯生活費を渡さない	1	2	3

問42 DVの被害発見や相談しやすい環境をつくるには、どのようなことが必要だと思いますか。 (あてはまるものはすべてに○)

1. 地域や学校・職場の人が早期に気づき、相談を勧めたり公的窓口等に通報すること
 2. 相談窓口が分かりやすいこと
 3. 手続きが一元化されていること
 4. 加害者や周囲の人に相談したことが気づかれないよう配慮されていること
 5. 電話やメール等で相談ができること
 6. 相談員の対応により嫌な思いをするなど二次被害を受けないこと
 7. その他 ()
 8. 特にない
 9. わからない

すべての方にうかがいます。

問44 夫婦または恋人における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

(あてはまるものはすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1. お互いの人権を大切にする教育の充実 | 2. 経済的な自立に向けた支援 |
| 3. 相談窓口の増設や情報提供の充実 | 4. 家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助 |
| 5. 医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助 | 6. 民間支援グループなどの援助 |
| 7. 身の安全を確保できる場所（シェルター〔避難所〕など）の提供 | 8. 被害者に対する周囲の理解と協力 |
| 9. 加害者への指導やカウンセリング | 10. 暴力防止に向けた広報啓発活動 |
| 11. その他（ | ） |

男女共同参画行政について

問45 今後、女性も男性も、ともに社会のあらゆる分野に積極的に参加していくために、「行政」はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(あてはまるものはすべてに○)

- | | |
|--|---|
| 1. 国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する | |
| 2. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する | |
| 3. 仕事や家事・育児に男女がともに参加する意識の啓発を進める | |
| 4. 保育や介護にかかる施設・サービスを充実する | |
| 5. 女性の就労に関する情報の提供や就労を支援する | |
| 6. 家庭と仕事・地域活動の両立を支援する | |
| 7. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する | |
| 8. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働きかたの見直しをすすめる | |
| 9. 配偶者・恋人からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの暴力の防止と被害者の支援をすすめる | |
| 10. 女性に対する健康づくりの支援をする | |
| 11. 男女共同参画についての理解や協力について広報や啓発活動をする | |
| 12. 法律や制度の面で見直しを行う | |
| 13. その他（ | ） |
| 14. 特にない | |
| 15. わからない | |

最後に、男女共同参画社会についての市の取り組みに対するご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

お忙しいところご協力いただきましてありがとうございました。

ご記入いただいたアンケート用紙は、**2月17日(金)**までに同封の返信用封筒に入れて、お近くの郵便ポストに投函して下さい。切手は不要です。調査結果は後日、広報やホームページなどでお知らせいたします。

ふじみ野市男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

平成29年3月

市民生活部 市民総合相談室

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1

TEL 049-262-9001 (直通)

FAX 049-261-5960
